# 松山市埋蔵文化財調査年報　18

平成17年度

2006

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

# 松山市埋蔵文化財調査年報　18

平成17年度

2006

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

巻頭図版１　樽味四反地遺跡13次調査地完掘状況（北より）

巻頭図版２　来住廃寺32次調査地金堂跡完掘状況（南東より）

# 序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財がありますが、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、松山市教育委員会の指導を得て、開発事業等によって失われようとしている遺跡について、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、平成17年度に埋蔵文化財センターが新たに合併によって松山市に参入した旧北条市を含めた本市において実施した発掘調査報告、並びに松山市考古館が主体となって開催した展示会、講演会などの教育普及活動の概要をまとめたものであります。

当該年度の発掘調査では、弥生時代から近世に至る数多くの遺構・遺物を発見しました。特に樽味四反地遺跡13次調査地では、樽味地区において３例目となる大型掘立柱建物跡がみつかり、注目されました。また、来住廃寺32次調査地では、これまでは塔基壇と考えられていた遺構が金堂跡であったことが判明し、また全国的に類例をみない軒丸瓦が２種類出土するなど大きな成果がありました。

このような資料や成果が得られましたのも、関係各位の皆様の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げる次第です。今後とも、なお一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本書が、松山市民の皆様をはじめ、多くの方々に埋蔵文化財に対するご理解を深めていただける資料として、ご活用いただければ幸いです。

平成18年10月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団

理事長　中　村　時　広

# 例　言

1．本書は、松山市教育委員会と財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成17年４月１日から平成18年３月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業の成果などをまとめた年次報告書である。

2．確認調査については、第Ⅱ章の表にその概要をまとめた。

3．各調査の報告は、発掘調査担当者が執筆し、編集は水本完児が行った。

4．本書に掲載した写真の大半は、大西朋子が撮影した。

5．位置図は、国土地理院発行の２万５千分の１図を使用した。

6．遺構は、以下の略号で記した。

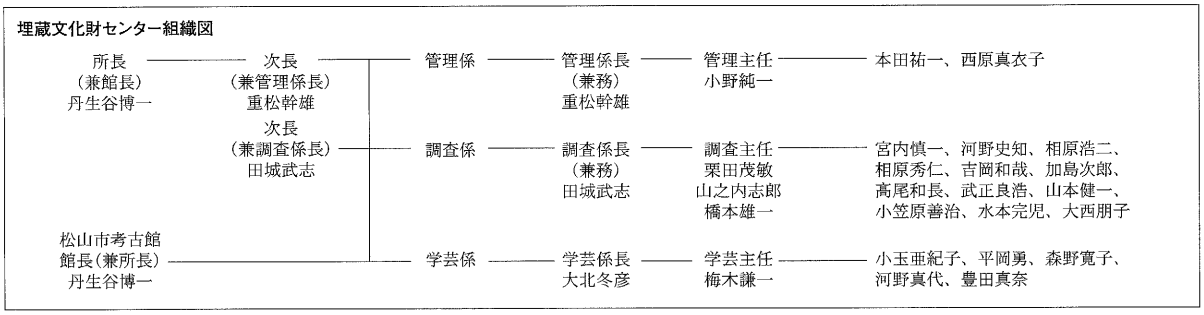
SA：柵、柱列　SB：竪穴式住居跡（建物跡）　掘立：掘立柱建物跡　SR：自然流路
SD：溝　SE：井戸　SK：土坑　SP：柱穴　SX：性格不明遺構

7．各図の方位は、国土座標第４座標系に基づく座標北を基本とする。なお、磁北の場合には方位の上に「磁北」と記入した。

8．刊行組織は、以下のとおりである。（平成18年４月１日現在）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 松山市教育委員会 | 教育長 | | 土居　貴美 |
| 事務局 | 局長 | | 石丸　修 |
| | 企画官 | | 江戸　通敏 |
| | 企画官 | | 仙波　和典 |
| | 企画官 | | 宮内　健二 |
| 文化財課 | 課長 | | 家久　則雄 |
| | 主幹 | | 西尾　幸則 |
| | 主査 | | 栗田　正芳 |
| （財）松山市生涯学習振興財団 | 理事長 | | 中村　時広 |
| | 事務局長 | | 吉岡　一雄 |
| | 事務局次長 | | 丹生谷博一 |
| | 調査監 | | 杉田　久憲 |
| 埋蔵文化財センター | 所長兼考古館館長 | | 丹生谷博一 |
| | 次長兼管理係長 | | 重松　幹雄 |
| | 次長兼調査係長 | | 田城　武志 |
| | 学芸係長 | | 大北　冬彦 |

**埋蔵文化財センター組織図**



整理作業協力者（五十音順）

青野茂子・浅井茂之・池内芳美・石川千代美・石丸由利子・猪野美喜子・岩本美保・江島淳子・大野裕子・岡田弥生・岡本邦栄・越智田美紀・金子育代・川添利恵・菅留美・木下奈緒美・木西嘉子・桐間ゆかり・忽那理恵・國田克彦・佐伯利枝・篠森千里・新保恵美子・末光美恵・鈴鹿八恵子・仙波千秋・仙波ミリ子・髙尾久子・田﨑真理・多知川富美子・玉井順子・戸川安子・中村紫・西川千秋・西本三枝・丹生谷道代・萩野ちよみ・東山里美・平岡直美・福岡志保美・堀眞也・本多智絵・政本和人・松下郁子・松友由美・松本美代子・水口あをい・宮内真弓・村上真由美・森田利恵・矢鋪妙子・矢野久子・山下満佐子・山邊進也・渡部英子・渡辺佐代枝

9．以下の方々より、ご指導・ご協力を賜った。（五十音順・敬称略）

阿部義平（国立歴史民俗博物館）／池川孝文（愛媛県教育委員会事務局文化スポーツ部文化財保護課）／上原真人（京都大学大学院）／内田九州男（愛媛大学）／大本敬久（愛媛県歴史文化博物館）／岡田敏彦（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／岡村道雄（奈良文化財研究所）／片桐京司（文化財建造物保存技術協会）／亀岡佳章（愛媛県生涯学習センター）／木藤たかお（フリーアナウンサー）／清野孝之（文化庁記念物課）／工藤省治（砥部焼春秋窯窯元）／河野正文（民族藝術学会員）／五味盛重（文化財建造物保存技術協会）／坂本信之（高知県文化財団埋蔵文化財センター）／柴田圭子（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／下條信行（愛媛大学）／高瀬哲郎（佐賀県立名護屋城博物館）／田﨑博之（愛媛大学）／田中哲雄（東北芸術工科大学）／冨田尚夫（愛媛県歴史文化博物館）／仲川靖（滋賀県安土城城郭調査研究所）／中野良一（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／長井數秋（日本考古学協会会員）／名本二六雄（日本考古学協会会員）／菱田哲郎（京都府立大学）／藤澤良祐（愛知学院大学）／前園実知雄（奈良芸術短期大学）／松原弘宣（愛媛大学）／真鍋昭文（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／三浦正幸（広島大学）／本中眞（文化庁記念物課）／山中敏史（奈良文化財研究所）／山本忠尚（天理大学）／吉田広（愛媛大学）／渡邊雅子（愛媛県調理製菓専門学校）

10．ご指導・ご協力を賜りました機関は、以下のとおりである。（五十音順・敬称略）

愛知学院大学／愛媛県教育委員会／愛媛県生涯学習センター／愛媛県歴史文化博物館／株式会社京都科学／株式会社古環境研究所／株式会社パレオ・ラボ／株式会社パリノ・サーヴェイ／株式会社吉田生物研究所／国立大学法人京都大学／高知県文化財団埋蔵文化財センター／国立大学法人愛媛大学／国立大学法人広島大学／財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター／財団法人元興寺文化財研究所／財団法人文化財建造物保存技術協会／佐賀県立名護屋城博物館／滋賀県安土城城郭調査研究所／大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館／天理大学／東温市教育委員会／東北芸術工科大学／独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所／砥部焼春秋窯窯元／奈良芸術短期大学／文化庁

11．本書の仕様は以下のとおりである。

製版　カラー写真・写真図版—175線
印刷　オフセット印刷
用紙　カラー写真：マットコート、本文：マットカラーHG
製本　アジロ綴じ

# 本　文　目　次

Ⅰ　平成17年度　松山市埋蔵文化財調査概要
北条片町遺跡 ……2
祝谷畑中遺跡２次調査地 ……4
松山大学構内遺跡６次調査地 ……8
道後湯之町遺跡 ……12
松山城三之丸跡４次調査地 ……14
松山城三之丸跡５次調査地 ……20
松山城槻門跡１・２・３次調査地 ……24
松山城本丸登城４次調査地 ……28
城の内古墳群２・４・５号墳 ……30
松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財試掘調査 ……34
松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財確認調査 ……36
東野古墳群 ……38
東野森ノ木遺跡３次調査地 ……40
東野森ノ木遺跡４次調査地 ……42
樽味高木遺跡11次調査地 ……46
樽味高木遺跡12次調査地 ……48
樽味四反地遺跡11次調査地 ……52
樽味四反地遺跡12次調査地 ……54
樽味四反地遺跡13次調査地 ……56
樽味地区確認調査(Ａ～Ｇ区) ……60
東石井遺跡３次調査地 ……64
葉佐池古墳３次調査 ……66
南梅本長広遺跡２次調査地 ……68
水泥遺跡３次調査地 ……72
南高井遺跡２次調査地 ……74
南高井遺跡３次調査地 ……76
鷹子新畑遺跡４次調査地 ……78
来住町遺跡14次調査地 ……80
久米高畑遺跡65次調査地 ……84
久米高畑遺跡66次調査地 ……88
来住廃寺32次調査地 ……90
Ⅱ　平成17年度　松山市埋蔵文化財調査関係資料 ……98
松山市埋蔵文化財確認調査一覧
松山市埋蔵文化財本格調査一覧
Ⅲ　平成17年度　保存処理及び出土遺物整理 ……125
１．平成17年度出土遺物整理の概要　２．保存処理　３．出土遺物整理　４．東方町採集品
Ⅳ　平成17年度　普及啓発事業 ……137
１．展示活動　２．教育普及活動　３．収集・保管活動　４．広報・出版活動
５．施設の利用　６．資料の貸出・調査　７．職員研修・会議　８．その他

# 挿図・写真目次

巻頭図版１　樽味四反地遺跡13次調査地完掘状況（北より）
巻頭図版２　来住廃寺32次調査地完掘状況（南東より）

Ⅰ　平成17年度　松山市埋蔵文化財調査概要

北条片町遺跡 ……2
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺１：150）

祝谷畑中遺跡２次調査地 ……4
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　調査区位置図（縮尺１：400）
図３　遺構配置図（縮尺１：60）
図４　出土遺物実測図（縮尺１：３・１：２）
写真１　遺構完掘状況（東より）
写真２　ＳＤ１完掘状況（北より）

松山大学構内遺跡６次調査地 ……8
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　弥生～中世遺構配置図（縮尺１：200）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：２・１：３・１：４）
写真１　古代～中世遺構面完掘状況（東より）
写真２　ＳＲ１完掘状況（北より）

道後湯之町遺跡 ……12
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
写真１　調査地全景（北西より）
写真２　3A区石列検出状況（東より）

松山城三之丸跡４次調査地 ……14
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　トレンチ配置図（縮尺１：800）
図３　１トレンチ遺構実測図（縮尺１：150）
図４　３トレンチ遺構実測図（縮尺１：150）
写真１　調査地全景（東より）
写真２　１トレンチ完掘状況（南より）
写真３　３トレンチ完掘状況（南より）
写真４　１トレンチSD01遺物出土状況（南東より）

松山城三之丸跡５次調査地 ……20
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　トレンチ配置図（縮尺１：250）
写真１　調査地全景（北より）
写真２　２トレンチ完掘状況（北東より）
写真３　1-2トレンチ貯水池北東隅（南西より）
写真４　３トレンチ完掘状況（北東より）
写真５　４トレンチ貯水池東岸検出状況（西より）

松山城槻門跡１・２・３次調査地 ……24
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）
写真１　完掘状況（２次調査、北より）
写真２　解体終了状況（３次調査、南より）

松山城本丸登城４次調査地 ……28
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　調査区配置図　（縮尺１：500）

城の内古墳群２・４・５号墳 ……30
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　２号墳石室位置図（縮尺１：200）
図３　４号墳･５号墳石室位置図（縮尺１：200）
写真１　２号墳石室検出状況（南東より）
写真２　４号墳石室完掘状況（南東より）
写真３　５号墳石室内遺物出土状況（東より）

松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財試掘調査 ……34
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　土塀基礎石組検出位置図（縮尺１：1,000）
写真１　土塀基礎石組検出状況（西より）
写真２　土塀基礎石組隅角部検出状況（南より）

松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財確認調査 ……36
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　トレンチ配置図（縮尺１：1,500）

東野古墳群 ……38
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
写真１　９号墳横穴式石室（南より）
写真２　10号墳横穴式石室（南より）

東野森ノ木遺跡３次調査地 ……40
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺１：400）
写真１　遺構完掘状況（北東より）
写真２　北壁土層　（南西より）

東野森ノ木遺跡４次調査地……42
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　調査区測量図（縮尺１：800）
図３　土層柱状模式図（縮尺１：40）
図４　SB401測量図（縮尺１：80）
写真１　Ⅳ区遺構検出状況（西より）
写真２　Ⅳ区遺構完掘状況（西より）
写真３　弥生時代後期後半～終末の住まいSB401（北より）
写真４　SB401完掘状況（北東より）
写真５　Ⅵ区遺構検出状況（東より）
写真６　Ⅵ区西壁深掘り土層（北東より）
写真７　調査作業風景（南東より）

樽味高木遺跡11次調査地 ……46
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
写真１　遺構完掘状況　（西より）
写真２　遺物出土状況　（西より）

樽味高木遺跡12次調査地 ……48
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（北より）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）　写真２　SB17遺物出土状況（北より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：４・１：３・１：２）

樽味四反地遺跡11次調査地 ……52
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構検出状況（北東より）
図２　遺構配置図（縮尺１：300）　写真２　遺構完掘状況（西より）

樽味四反地遺跡12次調査地 ……54
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　西半分完掘状況（東より）
写真２　東半分完掘状況（北より）

樽味四反地遺跡13次調査地 ……56
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　SB９完掘状況（北東より）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）　写真２　南西部完掘状況（北東より）
写真３　SD２遺物出土状況（北東より）

樽味地区確認調査（Ａ～Ｇ区）……60
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　Ｇ区ﾄﾚﾝﾁ14遺構検出状況(東より)
図２　調査区位置と周辺調査地（縮尺１：1,000）　写真２　Ｇ区ﾄﾚﾝﾁ16遺構検出状況（西より）
図３　A～G～E～B区・土層堆積変化図(縮尺１：20)　写真３　Ｇ区ﾄﾚﾝﾁ16大型掘立柱建物址柱穴
図４　Ｇ区トレンチ及び遺構配置図（縮尺１：250）　(SP-g30）検出状況(東より)

東石井遺跡３次調査地 ……64
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（南より）
写真２　SK101遺物出土状況（南より）

葉佐池古墳３次調査 ……66
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　調査区と主要遺構配置図（縮尺１：400）

南梅本長広遺跡２次調査地 ……68
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　Ｂ区遺構完掘状況（北より）
図２　Ａ区遺構配置図（縮尺１：80）　写真２　Ｂ区石列と石敷き遺構検出状況
図３　Ｂ区遺構配置図（縮尺１：80）　（北西より）

水泥遺跡３次調査地 ……72
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　１区遺構完掘状況（北より）
写真２　石室完掘状況（南西より）

南高井遺跡２次調査地 ……74
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
写真１　２区遺構完掘状況（南より）
写真２　土坑203遺物出土状況（南より）
南高井遺跡３次調査地 ……76
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
写真１　２Ｃ区遺構完掘状況（北より）
写真２　土坑201遺物出土状況（東より）
鷹子新畑遺跡４次調査地 ……78
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　土層柱状模式図（縮尺縦１:20・横１:40）
写真１　SD１検出状況（北東より）
写真２　調査区西半部遺構完掘状況（南東より）
写真３　SD１完掘状況（東より）
来住町遺跡14次調査地 ……80
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：３）
写真１　調査地より来住廃寺跡方面を望む（南西より）
写真２　遺構検出状況（東より）
久米高畑遺跡65次調査地 ……84
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）
図３　正倉院（縮尺１：1,000）
図４　SD020断面図（縮尺１：50）
写真１　正倉院南濠（西より）
久米高畑遺跡66次調査地 ……88
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　遺構配置図（縮尺１：100）
来住廃寺32次調査地 ……90
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）
図２　遺構実測図（縮尺１：100）
図３　瓦積出土状況実測図及び土層断面図（縮尺１：30）
図４　土塀土層断面図（縮尺１：60）
写真１　軒丸瓦Ａ種出土状況（北東より）
写真２　軒丸瓦Ｂ種出土状況（南西より）
写真３　礎石配置状況（南より）
写真４　瓦積出土状況（北より）
Ⅱ　平成17年度　松山市埋蔵文化財調査関係資料 ……98
図１　平成17年度　松山市埋蔵文化財確認調査による遺跡検出地点位置図
図２　平成17年度　松山市埋蔵文化財本格調査位置図（縮尺１：75,000）

Ⅲ　平成17年度　保存処理及び出土遺物整理
2．保存処理……127
写真１　乃万の裏遺跡２次調査地出土刀（処理前）
写真２　乃万の裏遺跡２次調査地出土刀（処理後）
写真３　乃万の裏遺跡２次調査地出土器種不明（処理前）
写真４　乃万の裏遺跡２次調査地出土器種不明（処理後）
写真５　久米高畑遺跡43次調査地出土刀（処理前）
写真６　久米高畑遺跡43次調査地出土刀（処理後）
写真７　松山大学構内遺跡６次調査地出土獣歯（処理前）
写真８　松山大学構内遺跡６次調査地出土獣歯（処理後）

3．出土遺物整理……131
図１　石剣実測図（１）　（縮尺１：３）
図２　石剣実測図（２）　（縮尺１：３）
図３　武器形石製品実測図　（縮尺１：３）
図４　磨製石鏃実測図　（縮尺１：２）

4．東方町採集品……136
図１　位置図・遺物実測図　（縮尺１：100,000）（縮尺１：３）

Ⅳ　平成17年度　普及啓発事業
1．展示活動……138
写真１　巡回展「発掘へんろ」風景
写真２　速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」風景
写真３　特別展「祈り」風景
2．教育普及活動……140
写真４　特別展記念講演会風景
写真５　企画展基礎講座第２回風景
写真６　「とことん考古学Ⅴ」第１回風景
写真７　「石を磨いて勾玉を作ろう！」風景
写真８　「ガラス勾玉を作ろうⅤ」風景
写真９　「伊豫のまほろば探訪Ⅴ」風景
写真10　「樽味四反地遺跡12次・13次調査地」見学風景
写真11　博物館学芸員実習「展示」風景
写真12　「出前考古学教室」風景
3．収集・保管活動……148
写真13　「大連古代ハス」開花風景

# 表　目　次

Ⅰ　平成17年度　松山市埋蔵文化財調査概要
表１　基壇計測表 ……90

Ⅱ　平成17年度　松山市埋蔵文化財調査関係資料
表１　平成17年度　松山市埋蔵文化財確認調査一覧 ……101
表２　平成17年度　本格調査一覧 ……122

Ⅲ　平成17年度　保存処理及び出土遺物整理
２．保存処理 ……127
表１　平成17年度金属製品保存処理遺跡名一覧
表２　平成17年度動物遺骸体保存処理遺跡名一覧
表３　平成17年度調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧
３．出土遺物整理 ……131
表１　石剣一覧
表２　武器形石製品一覧
表３　磨製石鏃一覧

Ⅳ　平成17年度　普及啓発事業
１．展示活動 ……138
表１　展示会一覧
２．教育普及活動 ……140
表２　講演会等一覧
表３　体験講座一覧
表４　現地説明会一覧
表５　体験学習一覧（１）～（３）
表６　職場体験一覧
表７　出前考古学教室一覧
４．広報・出版活動 ……149
表８　考古館出版物一覧
表９　調査報告書一覧
５．施設の利用 ……150
表10　施設利用一覧
６．資料の貸出・調査 ……151
表11　資料貸出一覧
表12　資料調査一覧
７．職員研修・会議 ……153
表13　職員研修・会議一覧
８．その他 ……153
表14　平成17年度　考古館月別入館者数調（平成17年４月１日～18年３月31日）

# Ⅰ　平成17年度
# 松山市埋蔵文化財調査概要

ほうじょうかたまち
# 北条片町遺跡

所在地　松山市北条560番１の一部
期　間　平成17年８月１日～同年９月30日
面　積　317.83㎡
担　当　相原浩二・山之内志郎

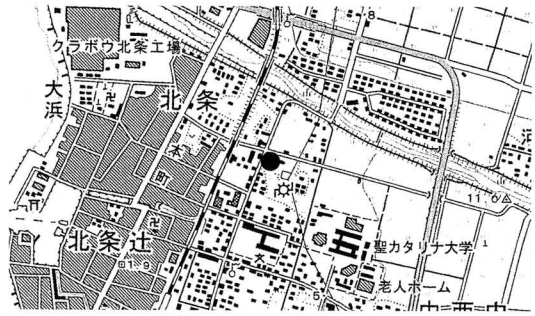


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市道北条鴻之坂線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、風早平野北部の標高約2.1～2.2mの地点に立地する。旧北条市域では、これまでの発掘調査によって丘陵部を中心に縄文時代から中世にかけての遺跡が存在していることが明らかになっているが、平野部では一部において確認されているに過ぎない。このことから、同時代の集落関連遺構の広がりと構造解明を主目的として調査を行った。調査にあたっては、北から１区・２区とし、２区画に分けて調査を実施した。

**遺構・遺物**　調査地の基本層位は、第Ⅰ層灰色土（耕作土）、第Ⅱ層橙色土（床土）、第Ⅲ層灰白色土（旧耕作土）、第Ⅳ層灰橙色土、第Ⅴ層黄灰色土、第Ⅵ層橙色砂質土（地山）、第Ⅶ層灰色砂質土（地山）である。遺構は第Ⅵ層上面で検出し、土坑７基、溝５条、柱穴87基、性格不明遺構３基がある。これらの遺構のうち、明確に時期比定できるものはSK１などがあり、13世紀代の遺構である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土製品、石製品、鉄製品がある。

SK１は１区中央付近に位置する。平面形態は不整形を呈し、断面形態は長軸方向で二段の逆台形状を呈する。規模は長軸1.1m、短軸0.83m、深さ16㎝を測る。埋土は３層に分かれ、第１層灰色砂質土、第２層褐色土、第３層炭混じりの灰褐色土である。土坑内より土師器皿が出土している。時期は出土遺物より13世紀代と考えられる。

SD１は１区中央のＢ２～Ｃ３区に位置する。東西方向に伸び、中央付近で二股に分かれ調査区外へ続く。規模は検出長3.2m、上場幅0.15～0.28m、深さ２～６㎝を測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は灰褐色土の単一層である。遺物は出土していない。時期は、SK１第３層と同埋土のため13世紀代と考えられる。

**小　結**　今回の調査では、風早平野における中世の遺構と弥生時代～中世の遺物を確認することができた。遺構では、狭小な調査区のわりに柱穴を多く検出したにもかかわらず、掘立柱建物を復元できる配置での検出はなかったが、今後周辺地域で確認される可能性は高いといえるであろう。また遺物では、SK３内より土錘１点が出土している。本調査地は標高２m余の低地に立地しており、現海岸線まで約700mの位置にあるため、当該地域に生活した人々の生業の実態を知る上で重要な資料である。今後は周辺域における調査によって更に中世集落の構造とその変遷の解明に努めたい。（山之内）

Y=−66390
Y=−66380
X=108290
X=108270
SD1
SK1
1区
SK3
SK2
SD5
SK4
SD2
SD3
SK7
SK5
2区
SK6
SD4
0
5m
(S=1：150)

図2　遺構配置図

# 祝谷畑中遺跡２次調査地

（いわいだにはたけなか）

所在地　松山市祝谷２丁目263番６
期　間　平成17年11月11日～同年11月18日
面　積　210.11㎡の内61.4㎡
担　当　河野史知・小笠原善治

図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№55・56・57北代・緑台・土居窪遺物包含地』内における個人住宅建設に伴う事前調査である。調査地周辺では、永谷川左岸域に祝谷アイリ遺跡、祝谷丸山遺跡、祝谷大地ヶ田遺跡、祝谷本村遺跡、祝谷畑中遺跡、土居窪遺跡、永谷川右岸域には祝谷六丁場遺跡、祝谷西山遺跡など、これまでに数多くの発掘調査が行われており、主に弥生時代の集落跡が検出されている。特に北西約700ｍの祝谷六丁場遺跡では丘陵部から弥生時代中期の埋納された平形銅剣が出土し、南西約70ｍの祝谷畑中遺跡では弥生時代前期末から中期中葉頃の環濠などが検出されており、松山平野でも注目される重要な地域である。

**遺構・遺物**　調査地は河岸段丘上の標高約47ｍに立地する。調査以前は宅地であった。

基本土層は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層浅黄色砂質土、第Ⅲ層灰褐色～明褐灰色砂質土(土師器・瓦器片を包含)、第Ⅳ層褐色砂質土(土師器・瓦器片を包含)、第Ⅴ層明黄褐色土(地山土)であり、旧地形は東から西へ緩傾斜している。遺構には、溝３条、柱穴６基がある。遺物は、第Ⅳ層内や遺構内から土師器・瓦器・陶磁器・鉄器が出土した。また、第Ⅳ層やSD１から弥生時代や古墳時代の土器などが出土していることから、調査地周辺にこの頃の集落が存在していたことが窺える。

SD１は丘陵でも裾部に近い緩傾斜面を直線的に縦断する断面Ｖ字形の溝であり、検出長12.5m（試掘トレンチまで含む）、上場幅4.62～4.80m、深さ48～155㎝を測る。断面形態はＶ字状を呈し、形状から人為的に掘られた可能性がある。下層からは砂層や、溝床付近には粘土層が堆積しており、この部分は水の作用を受けていたことが判る。遺物は上層から下層にかけて土師器の椀・坏・鍋、瓦器の椀の小片、窯壁の一部、鉄釘などが出土し、下層の粘土層からは炭化材の小片が混入する。出土した遺物の特徴から、12世紀後半頃の短期間に溝が埋没したと考えられる。西側約40m地点に位置する祝谷畑中遺跡では東西方向に延びる古代末から中世頃の溝を数条検出しており、位置関係や出土遺物などから６a区で検出したSR03につながる可能性をもつ。

**小　結**　今回の調査では、古代末から中世にかけての集落を構成する遺構や遺物などを検出し、当時の集落構造を解明する資料が得られた。SD３やSP１・２・５・６などは、埋土からSD１の上層が埋没する頃の集落関連遺構と考えられ、これらの遺構の検出によりSD１と係わりをもつ集落が周辺に存在していたことが窺える。今後は、本調査地の西側に広がる祝谷畑中遺跡への集落の広がりを視野に入れて、SD１の性格や丘陵の緩傾斜面に存在する集落構造を検討する必要がある。（河野）

図２　調査区位置図

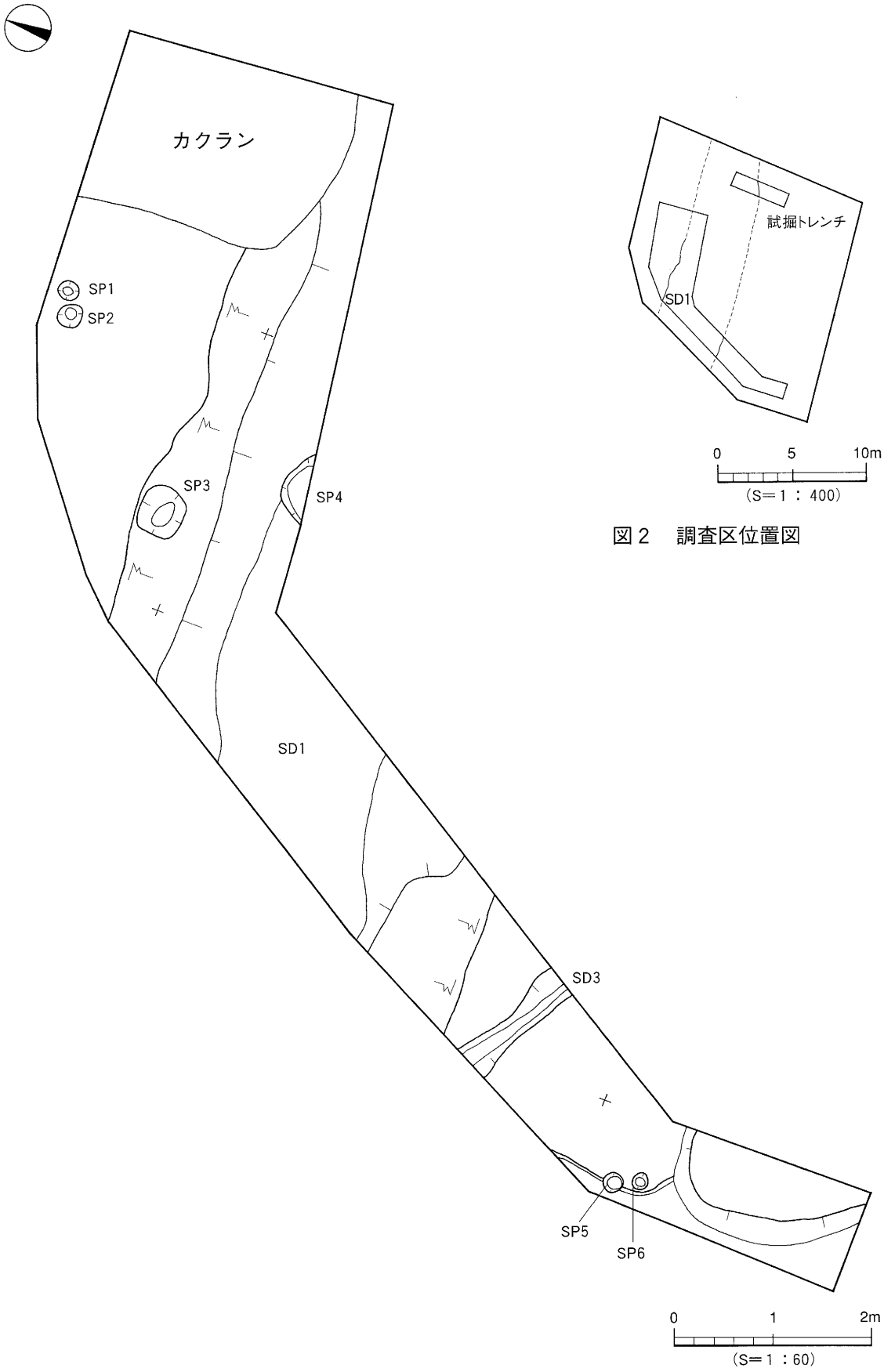



図３　遺構配置図

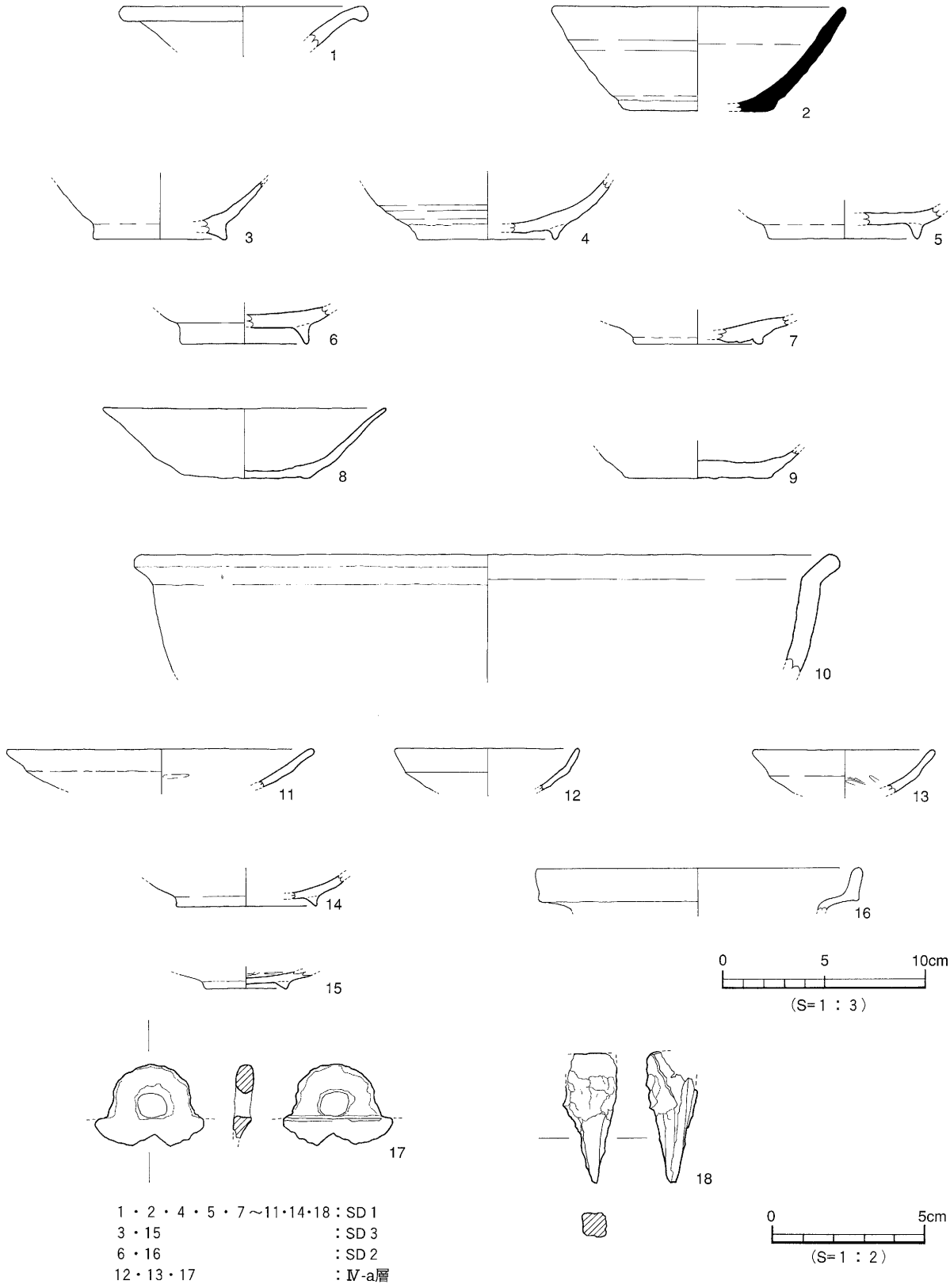

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
16
15
0 5 10cm
(S=1 : 3)
17
18
1・2・4・5・7～11・14・18：SD 1
3・15　：SD 3
6・16　：SD 2
12・13・17　：Ⅳ-a層
0 5cm
(S=1 : 2)

図４　出土遺物実測図

写真１　遺構完掘状況（東より）

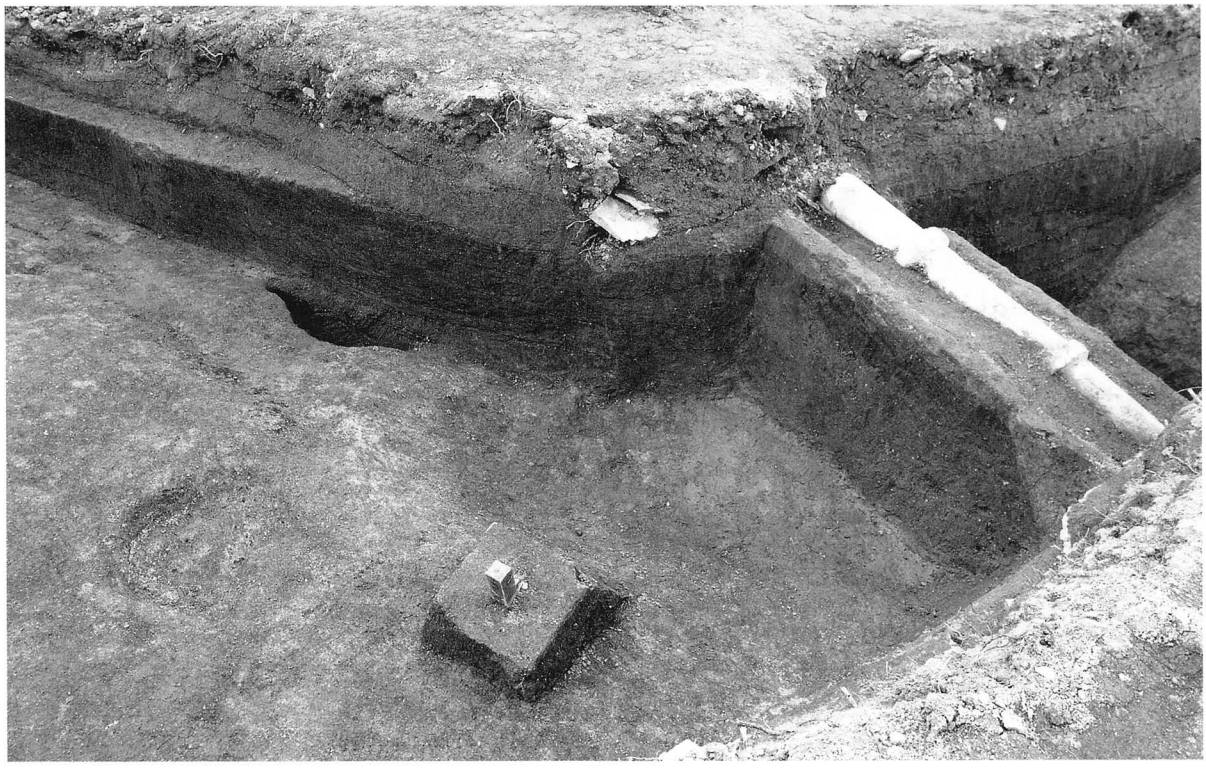


写真２　SD１完掘状況（北より）

まつやまだいがくこうない

# 松山大学構内遺跡６次調査地

所在地　松山市文京町４番地10の一部
期　間　平成17年３月１日～同年６月30日
面　積　1,234.80㎡
担　当　武正良浩・相原浩二・山之内志郎

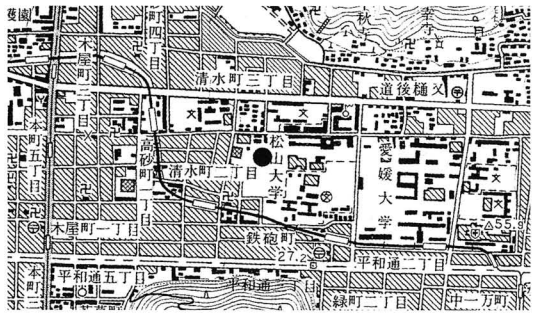


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№67　樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」内における校舎新築に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野の中央部、標高約26.9mの地点に位置している。松山大学構内においては、これまでに５次にわたる発掘調査（試掘調査を含む）が行われ、主に弥生時代から中世における集落関連遺構が確認されている。このことから、同時代における集落関連遺構の広がりと構造解明を主目的として調査を行った。

**遺構・遺物**　調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土（旧耕作土）、第Ⅲ層明褐色土、第Ⅳ～Ⅵ層黄灰色土、第Ⅶ層橙灰色土、第Ⅷ層灰褐色土(遺物包含層)、第Ⅸ層橙灰色土、第Ⅹ層灰褐色土（遺物包含層）、第Ⅺ層黄色微砂質土ほか（地山）である。主な遺構は、掘立柱建物跡１棟、土坑61基、溝５条、自然流路１条、柱穴88基がある。主な出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、石製品、鉄製品などがある。遺構の検出にあたっては、中世以降の遺構から検出を行い、次に古代、最後に弥生時代の遺構面へ順次調査を行った。以下、弥生時代と古代～中世の主な遺構と遺物について概略を記す。

弥生時代遺構面では、自然流路１条、土坑13基、溝２条、柱穴11基、性格不明遺構10基を検出した。SR１は調査区西側を南北方向に流れる。規模は長さ22.40m、幅20.60m、深さ0.96mを測る。出土遺物は縄文土器、弥生土器、土製品、石製品などが大量に出土した。埋没時期は、弥生時代後期末葉と推定される。

古代～中世遺構面では、掘立柱建物跡１棟、土坑31基、溝１条、柱穴15基を検出した。掘立１は調査区西側で検出した。２間×５間の南北棟で、柱穴の規模は直径0.24～0.30m、深さ0.26～0.48mを測り、平面形態は円形または楕円形である。埋土は灰色土の単一層である。遺物は土師器片と種子が出土しており、時期は11～12世紀前後と考えられる。そのほか特筆すべきものとして、SK15から土師器坏とともに皇朝十二銭の「富壽神寶（ふじゅしんぽう）」３点が出土したほか、石帯（せきたい）（丸鞆（まるとも））が包含層から１点、表採で１点出土している。

**小　結**　今回の調査では、主に弥生時代中期後半～後期末と古代末～近世の遺構と遺物を検出した。弥生時代には、大量の遺物が出土しているにもかかわらず今回の調査区では竪穴式住居が確認されなかったため、集落地の縁辺部の可能性が高いといえるであろう。また古代においては、包含層資料ではあるものの石帯が出土していることは、周辺地で役所に関連する遺構が存在する傍証といえるであろう。（山之内）

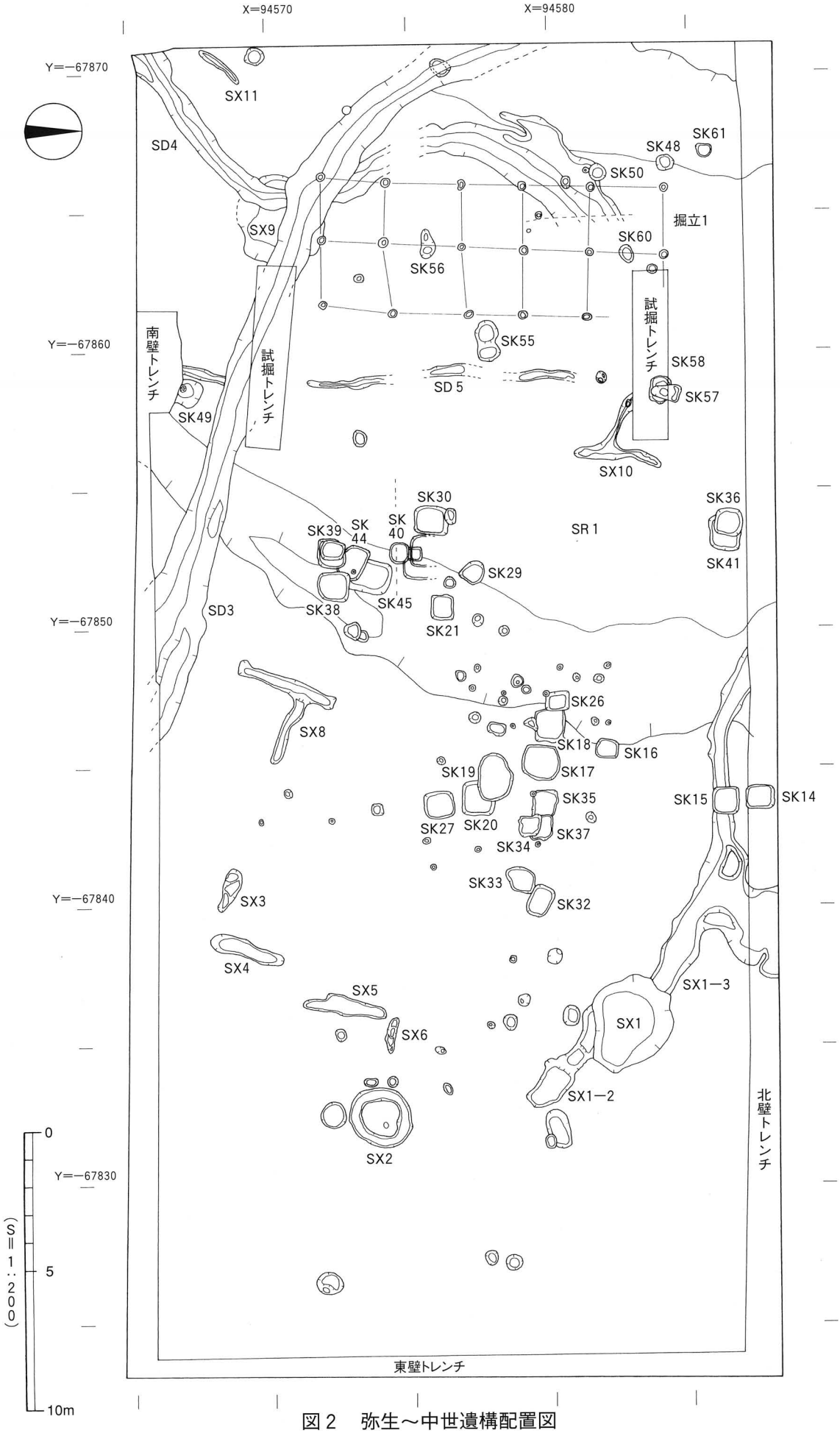
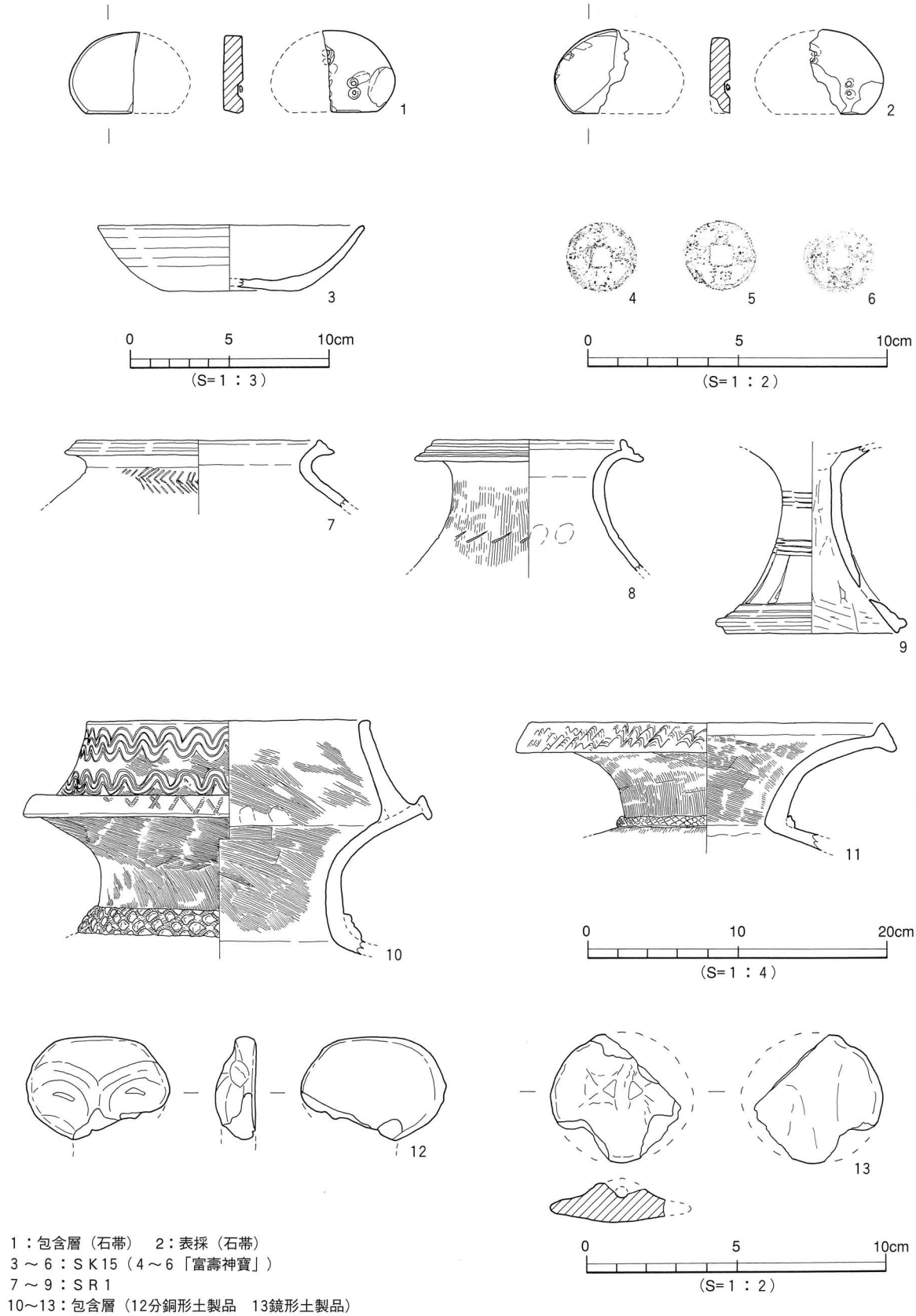



図２　弥生～中世遺構配置図




1：包含層（石帯）　2：表採（石帯）
3～6：ＳＫ15（4～6「富壽神寶」）
7～9：ＳＲ1
10～13：包含層（12分銅形土製品　13鏡形土製品）

図３　出土遺物実測図

写真１　古代～中世遺構面完掘状況（東より）

写真２　SR１完掘状況（北より）

# 道後湯之町遺跡（どうごゆのまち）

所在地　松山市道後湯之町875－９外
期　間　平成17年６月１日～同年７月29日
面　積　193.7㎡
担　当　宮内慎一・相原秀仁

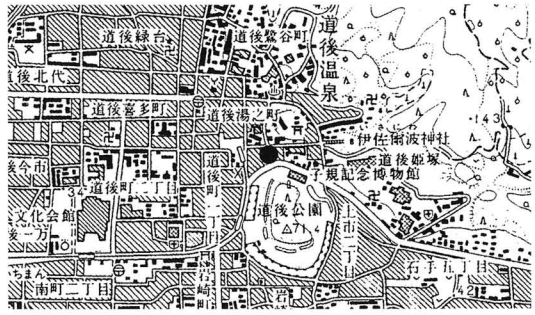


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市道道後42号線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。本調査地は松山平野の北東部、丘陵に挟まれた谷部の標高39.2mに立地し、調査以前はホテル、飲食店、駐車場に利用されていた。周辺では、湯築城址、湯之町廃寺、道後鷺谷遺跡、道後冠山遺跡、道後姫塚遺跡など縄文時代晩期から中世までの遺跡が数多く存在している。また、西側には文京遺跡、松山大学構内遺跡があり、調査地一帯は道後城北遺跡群と称される周知の遺跡地帯である。

**遺構・遺物**　調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層灰褐色土、第Ⅳ層緑灰色土、第Ⅴ層黄褐色土である。第Ⅰ層は近現代の造成に伴う客土で、地表下0.6～1.9mまで開発が行われている。第Ⅰ－１層真砂土、コンクリート、アスファルト、炭、第Ⅰ－２層バラス、第Ⅰ－３層真砂土（黄褐色土混入）、第Ⅰ－４層コンクリート基礎、第Ⅰ－５層黄褐色土、黒褐色土、バラス、第Ⅰ－６層黒褐色土、灰色砂、黄褐色土に分層される。第Ⅱ層は水田耕作に伴う客土で１区、２区に堆積する。第Ⅱ－１層暗青灰色土（層厚10～20㎝）、第Ⅱ－２層青灰色土（層厚10～30㎝）に分層される。第Ⅲ層は灰褐色土（層厚10～30㎝）で３Ｂ区に堆積する。15～16世紀代の須恵器、土師器、陶磁器が出土する。第Ⅳ層は緑灰色土（層厚20～40㎝）で３Ａ区の南西部と３Ｂ区に堆積する。15～16世紀代の須恵器、土師器、陶磁器が出土する。第Ⅴ層は黄褐色土で３Ａ区、３Ｂ区の東部と1区の北部に堆積する。基盤層の岩盤である。本調査で検出した遺構は石列１基、自然流路２条である。遺物は第Ⅲ、Ⅳ層中から須恵器、土師器、陶磁器、石器が出土した。SR２からは縄文土器(晩期)、弥生土器、須恵器が出土し、SR１からは主に15・16世紀代の土師器、陶磁器が出土した。

**小　結**　今回の調査では、縄文時代から中近世の遺構や遺物を確認した。縄文時代から古代の遺構は検出されなかったが、SR２から縄文時代晩期から古代の遺物が出土した。

SR２の埋土は灰色砂や黒色粘質土が堆積しており水流は少なく澱んだ状態であったと考えられる。中近世の遺構はSR１・２と石列がある。SR１・２は埋土に砂や小礫が含まれることから水流があったものと考えられ、その後、15～16世紀に流路が埋まり土壌化が進み、調査地周辺部では地面が形成されたものと考えられる。石列はSR１が埋まった後、構築されており溝の可能性が考えられたが、調査により対面する石列は検出されなかったため、形状や性格は不明である。今回の調査では、湯築城址に関連する遺構は確認されなかった。（相原）

写真１　調査地全景（北西より）

写真２　3A区石列検出状況（東より）

まつやまじょうさん　の　まるあと
# 松山城三之丸跡４次調査地

所在地　松山市堀之内（市営野球場跡地）
期　間　平成16年10月１日～平成17年３月31日
　　平成17年４月25日～同年10月25日
面　積　約540㎡
担　当　岸見泰宏・山中菊乃（文化財課）

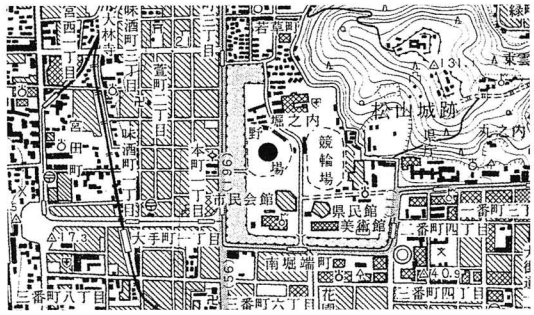


図１　調査地位置図

経　過　本調査は松山市の「城山公園（堀之内地区）整備事業」にともなう確認調査である。松山市では平成13年度より国庫補助を受け、堀之内に遺存する遺構群の範囲・性格・内容を把握することを目的とした「確認調査」を実施している。なお、この調査は松山市教育委員会文化財課が都市整備部公園緑地課の依頼をうけ実施している。

今回の調査では、平成16年度に解体の終了した市営野球場跡地において、①土地区割に関連する遺構を確認すること、②庭球場スタンド及び野球場スタンドの解体終了後、修復が予定されている土塁の構造を解明することの２点を目的とした。

遺物・遺構　【１トレンチ】平成16年度三之丸跡３次調査で確認された南北石組溝および馬場の延長部にあたる。現地表面下約60㎝までは現代の造成土層が続き、直下が近世の遺構面であった。東西道路（石組溝１条）、南北石組溝1条（SD02）、東西石組溝1条（SD03）等が確認された。

東西道路は南側に石組側溝（SD01）を持ち、検出長19.8mを測る。一部で細砂を叩き締めた道路面を確認した。SD01の石組は１段ないし２段が残存しており、高さは最大50㎝を測る。南側石組には、築石がほとんど残されていなかったが、裏込めに使われたと思われる栗石が出土している。埋土からは完形の桟瓦が多数出土しており、屋敷地となる南側には土塀が建っていたと思われる。

SD02は幅60㎝、検出長3.3mを測る。東側石組は根石のみが残存しており、築石は最大でも15㎝角程度と小振りであった。西側石組は幅30㎝程度、高さ15㎝程度の築石で構築されており、面を若干西側に傾斜させている。

SD03はSD02の西側で確認されたもので、検出長は8mを測る。北側にのみ石組が残存していた。溝内部には多量の瓦が堆積しており、これを除去すると石組が検出された。北側石組は30～40㎝角程度の築石で構築されており、１段のみが残存していた。

東西道路の内部では、少なくとも12基以上の土坑が確認された。すべて廃棄土坑と考えられるが、特筆すべき２基について取り上げる。SK01は、東西7.5m南北2.5m深さ55㎝を測る。埋土には大量の瓦と焦土・炭が含まれ、瓦の総量は土よりも多い。瓦のほとんどは表面に雲母を大量に含むことから、19世紀以降のものと考えられる。SK02は東西2.3m南北1.3m深さ57㎝を測る。埋土上層は砂質土と細砂が同心円弧状に堆積しており遺物はほとんど含まれていなかったが、下層は炭、遺物、食物遺体を多量に含む黒色土であった。下層からは、焜炉、焙烙、椀などと共に多量のカワラケが出土しており、「一」「五」等墨書を持つものも多数含まれていた。また、高台内に「与州松山」銘を持つ端反り口縁の鉢が出土しており、これは19世紀に東温市西岡窯で生産されたものと考えられる。

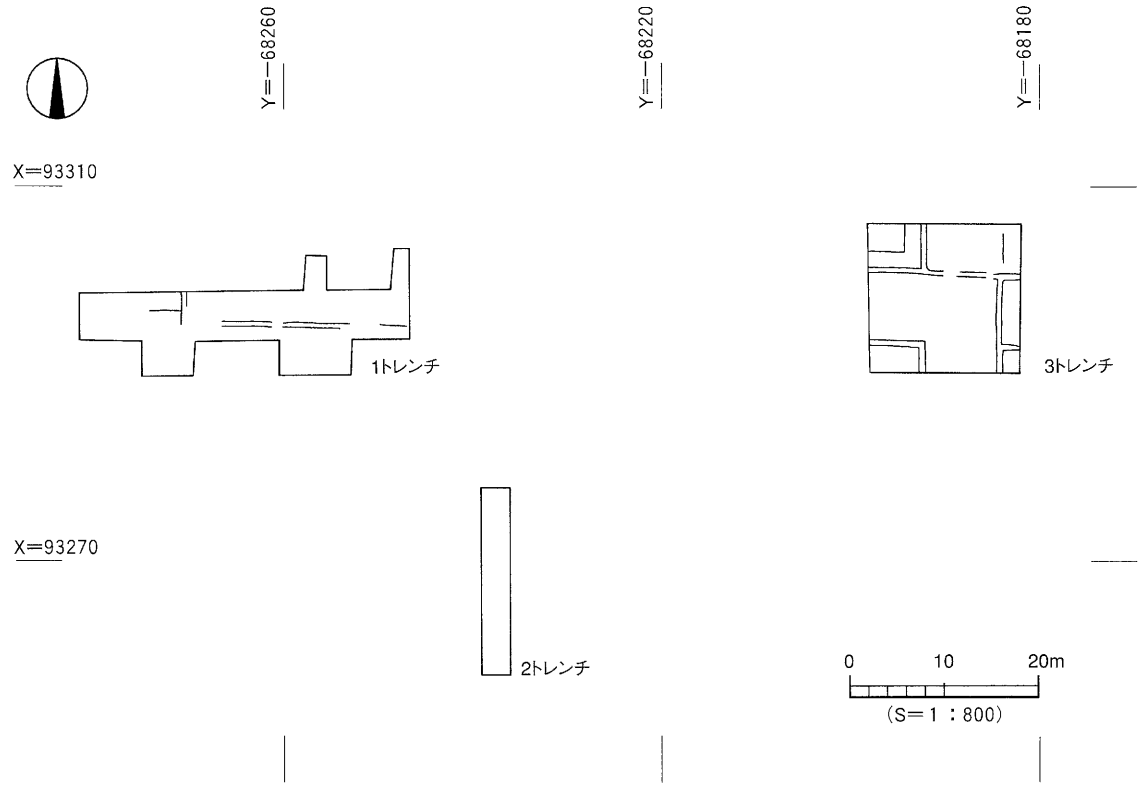



図２　トレンチ配置図

【２トレンチ】　野球場外野中央部に南北に設定した。今回の調査目的である土地区画に関連する遺構が確認されなかったため、遺構検出と図化に留め調査を終了した。溝、土坑等が検出された。

【３トレンチ】　三之丸跡３次調査で確認された南北道路と１トレンチで確認された東西道路の延長部にあたる。現地表下約60㎝まで近現代のかく乱が及んでおり、直下が江戸期の遺構面である。東西道路（石組側溝２条）、南北道路（石組溝２条）、貯水池（SX01）等が確認された。

東西道路は検出長15.5m、幅7.5mを測り、南北に石組側溝（SD01・SD02）を持つ。交差点西部で粒子の細かい淡黄色砂層の広がりを確認しており、これが道路面と考えられる。北側側溝であるSD01は、幅50㎝～60㎝、深さ40㎝を測る。北側の石組は、残存状況が悪く築石は一部しか残されていない。南側石組も北側と同様残存状況が悪く、築石はほとんど残存していなかった。残存している築石は北面よりも小振りで、やや乱雑に組まれている。南側側溝となるSD02は、道路交差部を横断しておらず、南北道路東側と西側に向う部分に分かれる。SD02東側は検出長1.6m、幅60㎝、深さ40㎝を測る。南北共に残存状況は悪く、築石はほとんど残されていなかった。SD02西側については、検出長5.9m、幅60㎝、深さ70㎝を測る。北面は幅30～50㎝、高さ20～40㎝の大型の石と、幅・高さ共に20㎝程度の小振りな石の２種で構築されており、石組の高さは40㎝程度である。南面は、築石が３石しか残されていなかった。

南北道路は、検出長15.5m、幅7.5mを測り、東西に石組側溝を持つ。西側側溝となるSD03は、東西道路を横断しておらず、南北に分かれる。SD03北側は1段のみ残されていた。SD03南側は検出長3.2m、幅60㎝、深さ50㎝を測る。築石は東西面合わせて４石しか残されていない。東側側溝となるSD04は、東西道路を横断しているが、SD01との交差部北側には築石が置かれ、塞がれている。検出長14.8m、幅50㎝を測り、深さは最大60㎝である。SD04東側石組は、幅30～55㎝、高さ20～40㎝の築石が１段組まれた箇所と幅・高さ10～20㎝程度の小さな石で２～３段組まれた

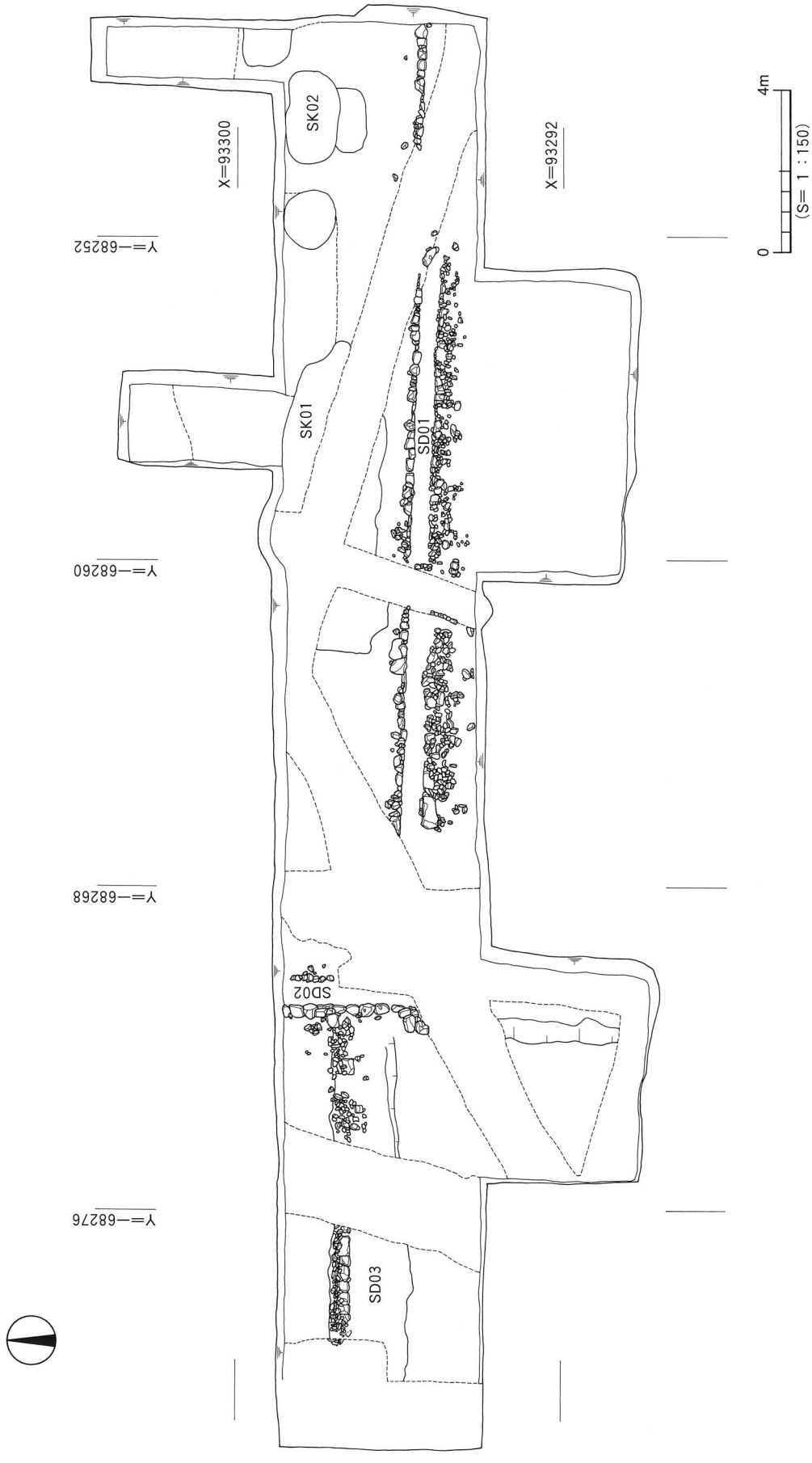



図３　１トレンチ遺構実測図

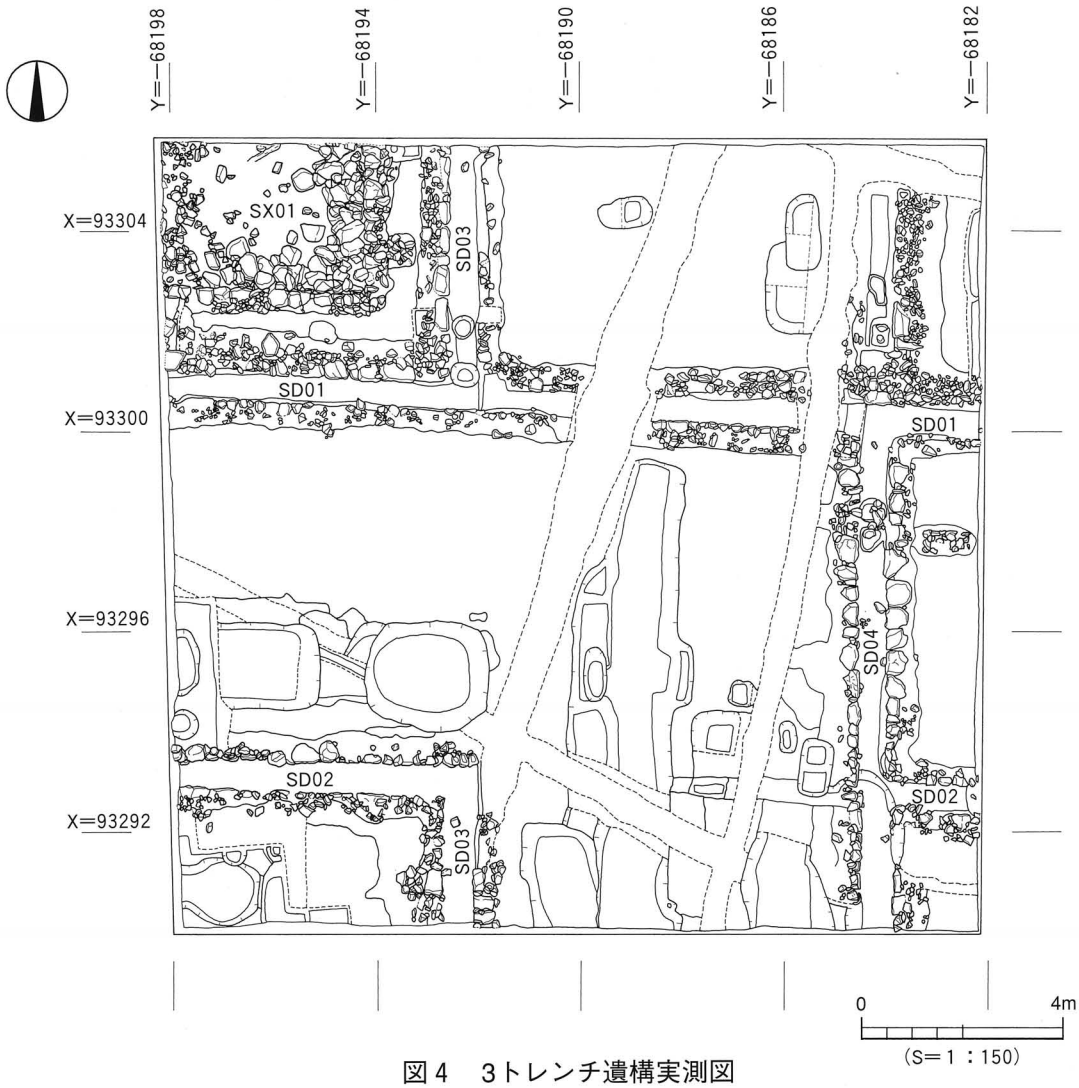



**図４　３トレンチ遺構実測図**

箇所が存在する。西側石組も同様の特徴を持っている。

貯水池は交差点北西の屋敷地内で確認した。東西3.8m、南北2.8mを検出した。岸壁部分は幅・高さ40㎝程度の自然石で組まれており、道路と並行して直角に折れている。池内部からは、岸壁に使用されているものと同様の石が大量に出土しており、その分布は岸壁に近づくほど多くなる。埋土は橙色粘土一層のみであり、短時間で埋め立てられたことがわかる。直下には暗灰色粘土が堆積していたが、この粘土層から貯水池と推定した。

１トレンチと同様３トレンチでも道路内で多数の土坑が検出された。いずれも19世紀半ばの遺物を包含しており、多量の炭を含む。このことから全てが廃棄土坑と考えられる。

まとめ　目的①については、東西道路と南北道路が確認された。これまでの調査成果とあわせ、徐々に三之丸の区割りが明らかになりつつある。今回確認された南北道路はN−0°37′40″−Eを取り、東西道路はN−92°03′16″−Eであることから、東西方向の方が真北からのブレが大きい。今後の調査の中で、さらに検証を進めたい。目的②については、スタンド建設に伴うかく乱が激しく、関連する遺構は見つからなかった。次に、１トレンチSK01やSD03の遺物出土状況は建物撤去時に生じた瓦を一括廃棄したと想像できる。出土した遺物はすべて19世紀半ばまでと比定できるが、明治初期に江戸期の建物を撤去した際の廃棄土坑である可能性がある。（岸見）

写真１　調査地全景（東より）

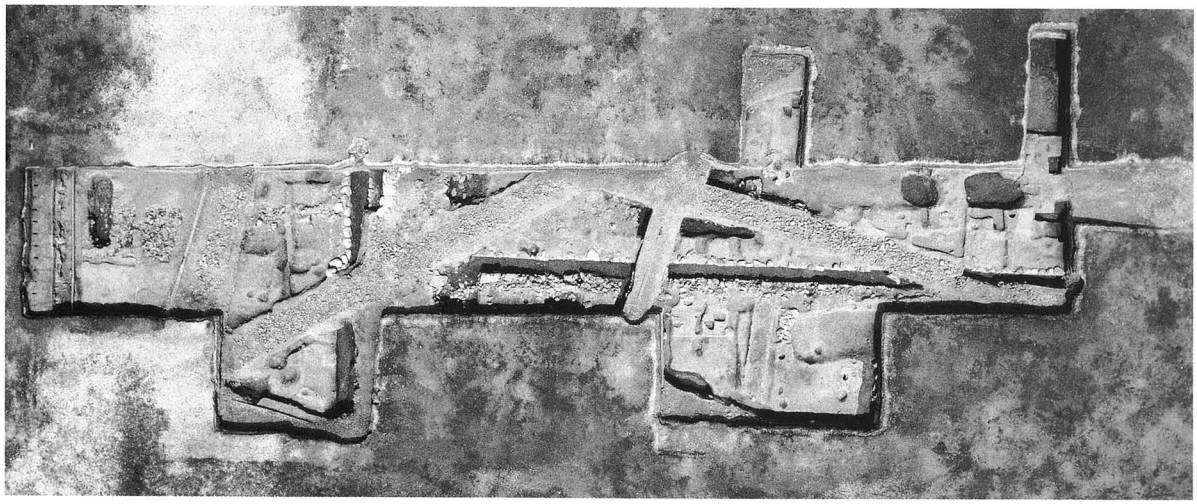


写真２　１トレンチ完掘状況（南より）

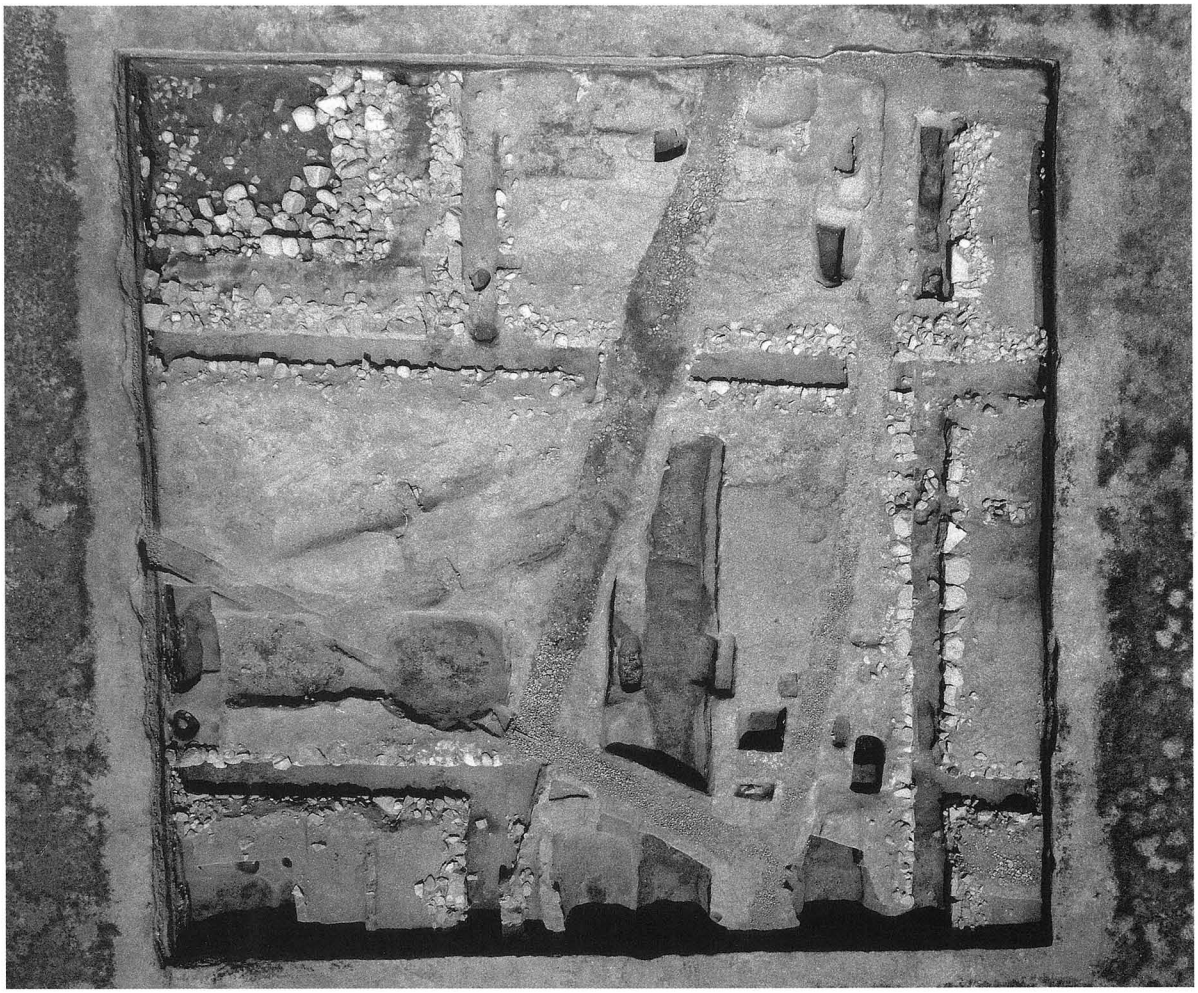


写真３　３トレンチ完掘状況（南より）

写真４　１トレンチSD01遺物出土状況（南東より）

まつやまじょうさん　の　まるあと
# 松山城三之丸跡５次調査地

所在地　　松山市堀之内（弓道場跡地）
期　間　　平成18年１月４日～同年３月29日
面　積　　約185㎡
担　当　　岸見泰宏・大庭美鈴・山中菊乃（文化財課）

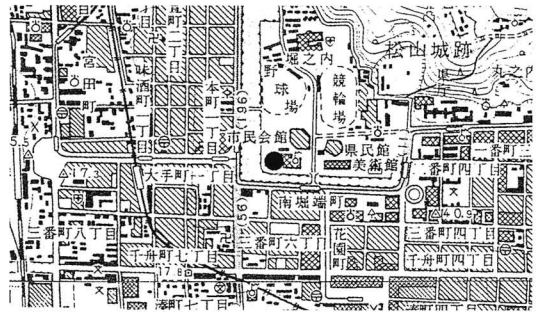


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、４次調査と同様、松山市の「城山公園（堀之内地区）整備事業」にともなう確認調査である。今回の調査では、①土地区割に関連する遺構を確認すること、②庭球場スタンド及び野球場スタンドの解体終了後、修復が予定されている土塁の構造を解明することの２点を目的とした。また、本調査地は絵図資料により貯水池が存在していたことが想定されたため、貯水池の構造解明についても主たる目的としている。

**遺物・遺構**　【貯水池】本調査で確認された貯水池の東岸は石積によって護岸されている。その総延長は44mと考えられる。３トレンチを除くすべての検出箇所で石積の下部に直径10～15㎝の胴木が確認されており、築石も幅50㎝高さ20㎝程度で揃っていることや、積み方に顕著な差が見られないことから、同一構造物でかつ同時期に構築された可能性が高い。一方、３トレンチで確認された南北方向の石積は、他の検出箇所の胴木を結んだ軸線に対し、67㎝東に偏っており、積み方についても比較的築石同士に隙間が開いているため、構築時期が異なる可能性や異なる遺構である可能性もある。胴木を結んだ軸線は、N-1°28′-E方向を向いているが、この軸線の延長上には３次調査２トレンチで検出された「杉馬場」の東限（SD01）があり、４次調査１トレンチSD02の中軸もこの軸線と合致する。文久期の絵図に描かれた貯水池と杉馬場は同じ幅であり、絵図がある程度正確に描かれていることが実証された。北岸は、東岸と異なり石積ではなく、木組による地業で護岸されていた。構造は池内に面する部分に木杭を打って、池の外側に直径８㎝程度の丸木を積み上げて土留めとしている。さらに土留めの北側にはジグザグに杭を打ち、土の流出を防いでいる。地業に利用された杭の直径は６㎝程度であった。文久期の絵図では、貯水池北岸は緑色で描かれており、道路部分とは異なる。貯水池北側には杉馬場が存在するが、その境界は緑地あるいは土塁等で区切られていたため、護岸は石積ではなく土留めであったのだろう。また、３トレンチでは、貯水池内の水を南堀へ排水するための排水口を２基確認した。排水口１は現在も南堀へ貫通しており、排水機能を有している。このため、外側はコンクリートによって囲われており、５本の土管が接続されていた。排水口２については土塁を貫通しておらず、現代のかく乱土と石によって塞がれた状態で検出された。排水口２の内部は矢穴を持つ築石で構築されており、レーザー測距儀で計測したところ約27mまで南に続いていることが確認された。排水口１から南堀までの距離は約28mであることから、排水口２についても江戸期には南堀へと通じていたと考えられる。

【土塁】２トレンチでは、現況の土塁地表下約30㎝から1.5m程度の厚みで版築土が検出された。版築土内からは、19世紀中頃までの遺物が多数出土しており、幕末以降に土塁が盛り直されたことが

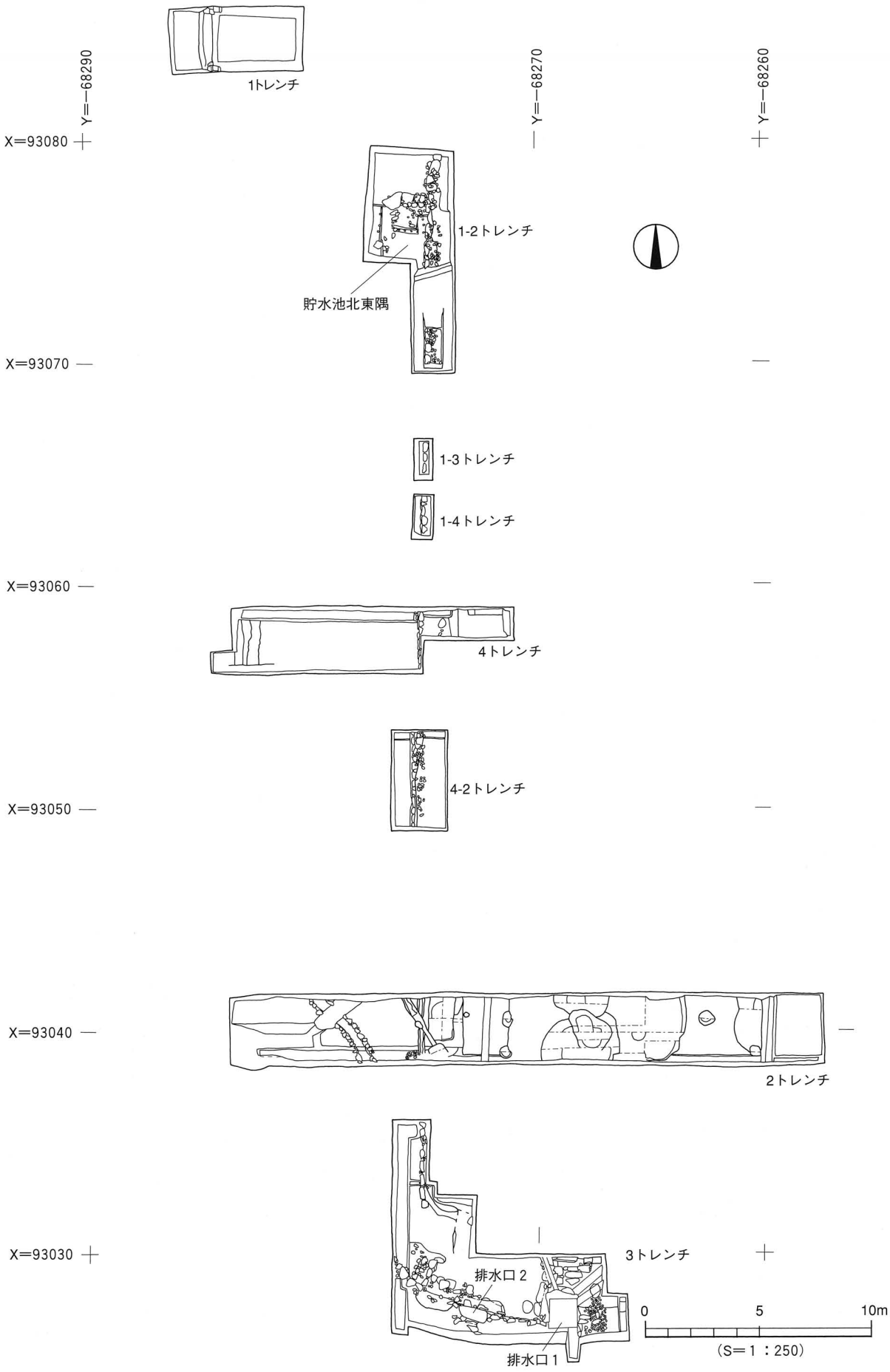

Y=−68290
Y=−68270
Y=−68260
X=93080
X=93070
X=93060
X=93050
X=93040
X=93030
1トレンチ
1-2トレンチ
貯水池北東隅
1-3トレンチ
1-4トレンチ
4トレンチ
4-2トレンチ
2トレンチ
3トレンチ
排水口２
排水口１
0
5
10m
(S=１：250)

図２　トレンチ配置図

わかった。この層の直下には灰色粘土が水平に堆積しており、これは貯水池の沈殿土層と考えられる。このことから、貯水池埋没以後、土塁が東側に延長されたことがわかった。これを二次土塁とする。

二次土塁の西端下層からは、非常にもろい砂礫層が東下がりの斜め方向に堆積していることが確認された。この砂礫層の下層には非常に粒子が細かく堅く締まった灰色シルト層が堆積している。このシルト層が築造当初の土塁（一次土塁）の構築土と考えられる。砂礫層は、この一次土塁の崩落土であろう。２トレンチでは、二次土塁の堆積は確認されず、垂直に削平された一次土塁の端部が確認された。２、４トレンチ双方ともに土塁端部は削平されており、土留め等の地業は確認されなかったものの、貯水池の埋土である灰色粘土は土塁に近づくほど薄くなっており、砂粒の混入が多くなる。ことから、地業が成されていなかった可能性も考えられる。

**まとめ**　前述の通り、今回確認された貯水池東岸から杉馬場東の区画溝の軸線がN-1°28″-Eを採ることが明らかになった。三之丸３・４次調査で確認された、南北道路がN-0°37′40″-Eを採り、東西道路がN-92°03′16″-Eを採る。このようにこれまでに明らかになった区割り軸は不統一で、いずれも真北とはならない。こうしたブレは、基準とした遺構や調査区がほぼ全てかく乱を受けていることや、検出された遺構が19世紀に残存していたものであり、構築年代を明確に出来ないことなどの問題に起因している可能性も捨てきれないが、今後他の地区の調査を続ける中で統一された区割り基準を明確にしたい。（岸見）

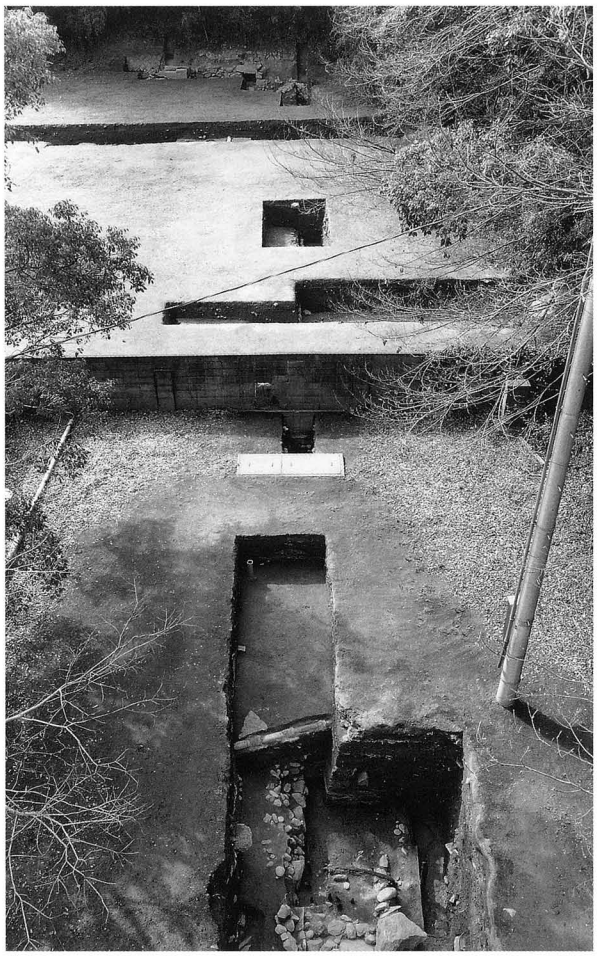


写真１　調査地全景（北より）

写真２　２トレンチ完掘状況（北東より）

写真３
1-2トレンチ貯水池
北東隅（南西より）

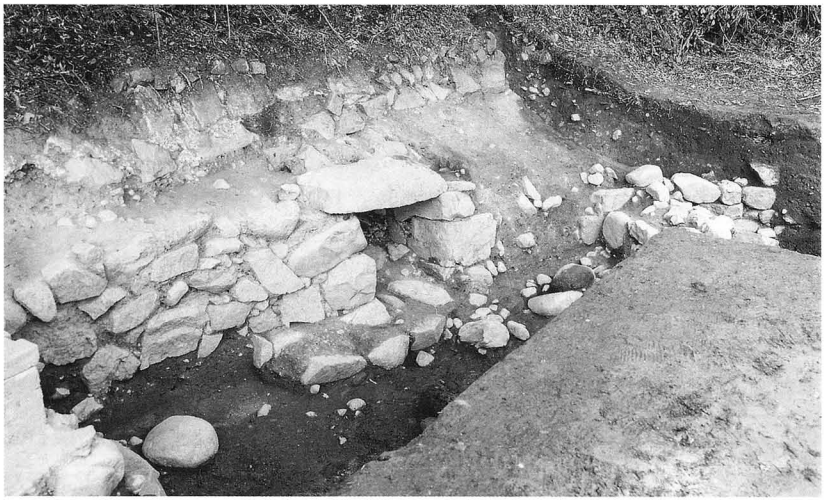


写真４
3トレンチ完掘状況
（北東より）

写真５
4トレンチ貯水池東岸
検出状況（西より）

まつやまじょうけやきもんあと

# 松山城櫓門跡１・２・３次調査地

所在地　松山市丸之内

期　間　１次：平成17年２月21日～同年３月30日
　　２次：平成17年４月25日～同年７月27日
　　３次：平成17年10月２日～同年12月27日

面　積　１次：約220㎡、２次：約120㎡
　　３次：約135㎡

担　当　楠寛輝・山中菊之（文化財課）

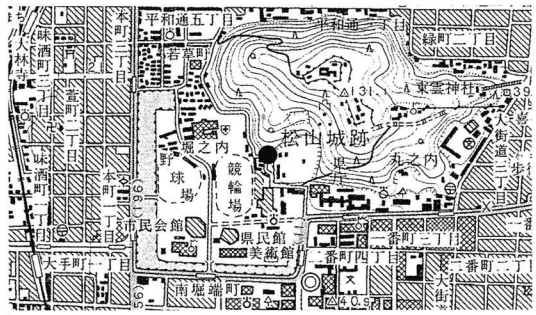


図１　調査地位置図

**経　過**　松山城は、平成13年３月24日に発生した芸予地震や同年６月の大雨により大きな被害を受けた。そのため、松山市では被害の状況把握に努めるとともに、「史跡松山城跡災害復旧検討委員会(現在は「史跡松山城跡整備検討委員会」に改称)」を立ち上げ、その復旧に向けた整備方針を検討し、被害の著しかった二之丸南石垣、巽櫓跡石垣及び櫓門跡北石垣の復旧、並びに本丸周辺で複数発生した陥没の復旧を行うこと等を決めた。それを受けて、平成13年度より国庫補助を受けて二之丸南石垣及び巽櫓跡石垣の復旧工事を４ヶ年かけて実施したが、引き続き平成17年度より２ヶ年をかけて櫓門跡北石垣の復旧工事を実施することに伴い、事前の埋蔵文化財確認調査（１次：平成16年度、２次：平成17年度）と解体に伴う確認調査（３次：平成17年度）を実施した。

櫓門は、大手登城道を黒門から進み、次の枡門を抜けた先に存在する。建物等は残っていないが、北側には上下２段、南側には１段の石垣が現存しており、絵図や明治初期に撮影された写真から櫓門であったことが分かっている。規模も松山城の中で最大のものであり、櫓門が大手登城道と二之丸とを合わせて防御する、非常に重要なものであったことを示している。今まで発掘調査がなされたことはなく、また櫓門の廃絶時期についてははっきりしないが、先述の明治初期の写真が現存していることから、この頃まで存在していたことは確かである。

**遺構・遺物**　１次調査：解体工事により部分的に破壊される北石垣上面における櫓の礎石及び束石等の確認を目的とした平面的な調査と、復旧工事の際の勾配の参考とすることを目的とした石垣根石部分４ヶ所でのトレンチ調査を実施した。その結果、石垣上面の調査では櫓の礎石や束石をほぼ完全な形で確認し、上段では全面に渡って南北７間半×東西２間半、下段では南端から南北３間×東西２間の櫓が存在していたことを確認した。もちろんこれらの櫓は南の門の上にも続いていたと考えられ、南北はこれ以上の規模を持っていた可能性が高い。櫓の内部と外部で床面の構造が全く異なっていたことも分かった。櫓の内部では礎石や束石の上面やや下のレベルで栗石が面的に確認できる状態だが、外部では同じレベルでも三和土（黄褐色粘質土）が厚く堆積している。櫓内部については水が石垣内部へ浸透する心配がなく、また上に床を張る関係で栗石が露出したままでも問題がない一方、櫓の外部については石段を含め当時屋外で、石垣内部への水の浸透を防ぐとともに、石垣上面を地表面として利用する必要があったため、三和土を張って整地したものと考えられる。なお、礎石や束石の上に堆積している櫓の廃絶時に堆積したと考えられる明黄褐色粘質土やその上の腐葉土には、かなりの瓦が含まれていたが、これらは19世紀のものが中心で、陶磁器についても多少は出土しているが、瓦と同時期あるいはそれ以降の近現代のものが中心であった。また、トレンチ調査では、全てのトレン

チにおいて根石を確認した。調整のための少量の小礫を伴う場合もあるが、基本的には全て地山を根切りして直接根石が据えられていた。槻門周辺は近現代のかく乱や造成が著しく、根石の確認された深さはトレンチによって大きく異なり、現在の地表面から75～155㎝下であった。

２次調査：１次調査を受けて、槻門の全容把握を目的として、残る南石垣上面、階段推定地、及び門部分についてトレンチ調査を実施した。その結果、１次調査とは様相が大きく異なり、近代以降のかく乱が著しく、櫓の礎石または束石と考えうる石材は３石しか確認できなかった。最も南で確認された石材は、石材の上面が平滑で大きさも一般的な束石より大きく、北石垣での調査成果から考えても礎石の可能性があるが、これから東に続く礎石や抜き取りを確認することができず、櫓の規模を確定するには至らなかった。なお、この石が櫓南壁の礎石と考えた場合の櫓の規模については、北の門の上も含めて南北８間以上×東西３間半と考えられ、そのまま１次調査で確認された北石垣下段の櫓と繋がっていたものと考えられる。その他の遺構については遺物等から考えて全て近現代のもので、一部の土坑は束石の抜き取りの可能性が十分考えられるものの断定は難しい。ただ、近代以降二之丸が病院として機能していたことを具体的に示すアンプル等の医療廃棄物がまとまって見つかった土坑や、石垣東側の現代の大規模な石垣の改修痕跡（石垣改修痕跡１）は、松山城の近現代の歴史を考える上で興味深い。なお、この石垣改修痕跡１に入っている裏込は割石が主体であり、西側で見られる江戸期の裏込が拳大の円礫（河床礫）が主体であることとは対照的であった。なお階段推定地及び門部分のトレンチ調査では、近現代のかく乱が著しく、それらの痕跡を確認することはできなかった。

３次調査：石垣復旧工事を実施するに当たり、積み上げのための基礎データとして、その内部構造や孕みの原因を把握することを目的に、解体と並行して確認調査を実施した。その結果、石材については、石材同士の接し方が非常に悪く、詰石も化粧として加えられているものがほとんどであった。その控についても全て栗石で介石等はほとんどなかった。石材を据えた後に栗石を敷き詰め、それらの上に次の石材を据えているわけであり、施工をたいへん急いでいたことが分かる。また、孕みの大きい部分の裏込には、水と一緒に流されてきた大量の土砂が堆積していた。石垣内部は、しっかりした地山は最下部だけで、その上に地山の代替としての強度の低い砂岩角礫層（城山の地山に包含）があり、それより上は全て栗石であった。これら調査成果から、地震が致命傷を与えたのは事実だとしても、石垣全体について施工が悪かったところに、石垣上面に存在した櫓が明治以降に撤去され、雨水が石垣内に流入するようになり、石垣内部から外に向けて繰り返し大きな圧力がかかったことが、石垣の孕みの根本的な原因であることが明らかとなった。なお、この施工の悪さは突貫（≒手抜き）工事とも換言できるのかもしれないが、近世城郭の多くは基本的に突貫工事であると言っても過言ではなく、当時は最も多くの近世城郭が築かれた時期であることも考慮すると、その原因が熟練した技術者が不足し、経験の浅い技術者が工事を指揮したことによる可能性も考慮する必要がある。また、北石垣の南東隅角部については、絵図や石積み技法から後世の拡幅の可能性が指摘されていたが、地山東側の砂岩角礫層の存在によりそれが確実となった。遺物は、ノミが１点出土したことが注目されるものの、全体としては非常に少なく、石垣の構築や改修の年代を示すものはなかった。

**小　結**　以上のように、これら３回の確認調査を通じ、不明な点の多かった槻門の具体像に迫る重要な手掛かりを得るとともに、石垣の孕みの原因を把握することもできた。今後は、これらの成果を生かし、「文化財の保存」と「安全の確保」の両立した石垣の積み上げを行うことが課題である。（楠）

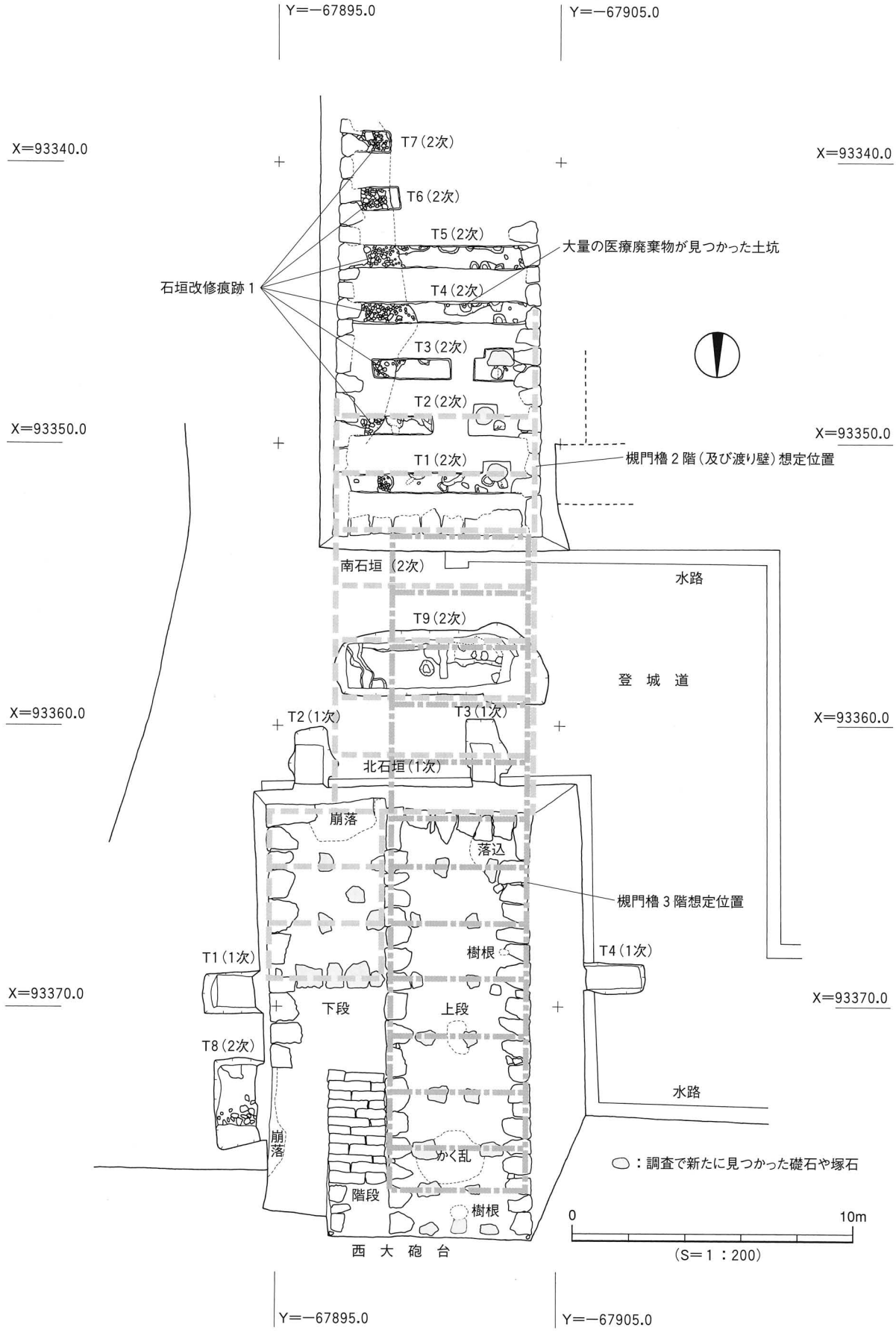

Y=−67895.0
Y=−67905.0
X=93340.0
X=93350.0
X=93360.0
X=93370.0
T7（2次）
T6（2次）
T5（2次）
T4（2次）
T3（2次）
T2（2次）
T1（2次）
大量の医療廃棄物が見つかった土坑
石垣改修痕跡１
櫓門櫓２階（及び渡り壁）想定位置
南石垣（2次）
水路
T9（2次）
登　城　道
T2（1次）
T3（1次）
北石垣（1次）
崩落
落込
櫓門櫓３階想定位置
T1（1次）
樹根
T4（1次）
下段
上段
T8（2次）
水路
崩落
かく乱
階段
樹根
：調査で新たに見つかった礎石や塚石
0
10m
（S＝１：200）
西　大　砲　台

図２　遺構配置図

写真１　完掘状況
（２次調査、北より）

写真２　解体終了状況（３次調査、南より）

まつやまじょうほんまる　と　じょう

# 松山城本丸登城４次調査地

所在地　　松山市丸之内
期　間　　平成17年12月５日～同年12月18日
面　積　　約50㎡
担　当　　武田尊子（文化財課）

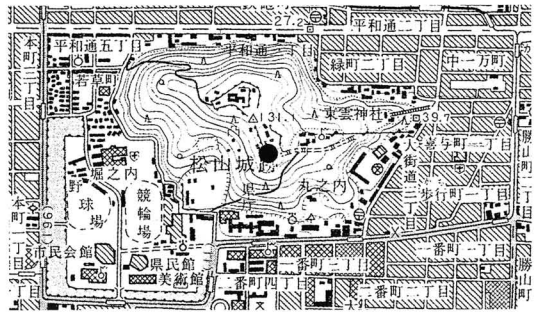


図１　調査地位置図

**経　過**　松山城揚木戸門跡から本丸跡の登城道は、全面コンクリート舗装により史跡の景観が阻害され、その舗装も至るところに亀裂が生じて通行に支障が出ていた。今回登城道の整備工事に伴い、城として機能していた時期の登城道の道幅や排水施設の存在を把握するため確認調査を実施した。調査は、工事範囲にトレンチを６本（①～⑥トレンチ）設定した（図２）。

**遺構・遺物**　①～⑥トレンチのうち、複数のトレンチから共通する斑状の土層を２層確認した。１層は、明黄褐色の砂質シルト層で、白色、黒色、黄褐色の斑と少量の砂岩小礫を含み、もう１層は、にぶい黄橙色の砂質シルト層で黄橙色の斑がある。この２層は上下層で、⑤トレンチの土層断面では、にぶい黄橙色の砂質シルト層を補うように明黄褐色の砂質シルト層が堆積し、この２層によって平坦面が形成されていた。このことから、この２層が登城道の造成土層と考える。

そのほか、①トレンチでは、造成土層は検出できなかったものの、トレンチの南北端で成形された岩盤を検出した。南端は岩盤をU字に掘り、その岸に礫をのせた溝を検出した。現在、これらの岸の礫は揚木戸門跡から大手門跡間の道端に並ぶ石列であるため、この範囲には道の南側に側溝があったことが明らかになった。石垣の裾に位置するトレンチ北端では、岩盤を石垣方向に向かって削り込み、その部分に拳大の礫を充填する。礫間には粗い砂質土が堆積する。この遺構は、石垣からの雨水を排水する機能と、石垣を押さえる機能をもつと考える。

出土遺物は、戦後の改修時の土層から出土しており、おおよそが平瓦片である。また、僅かだが④トレンチより染付片等も出土している。

**小　結**　今回調査した６本のトレンチのうち、往時の道幅、側溝の確認ができたのは、揚木戸門跡から筒井門までに設定した①、②、③トレンチである。筒井門から本丸跡までに設定した④、⑤、⑥トレンチに関しては造成土層を検出したものの、現在の側溝や改修によって攪乱され、道幅や側溝の有無を十分に把握できなかった。（武田）

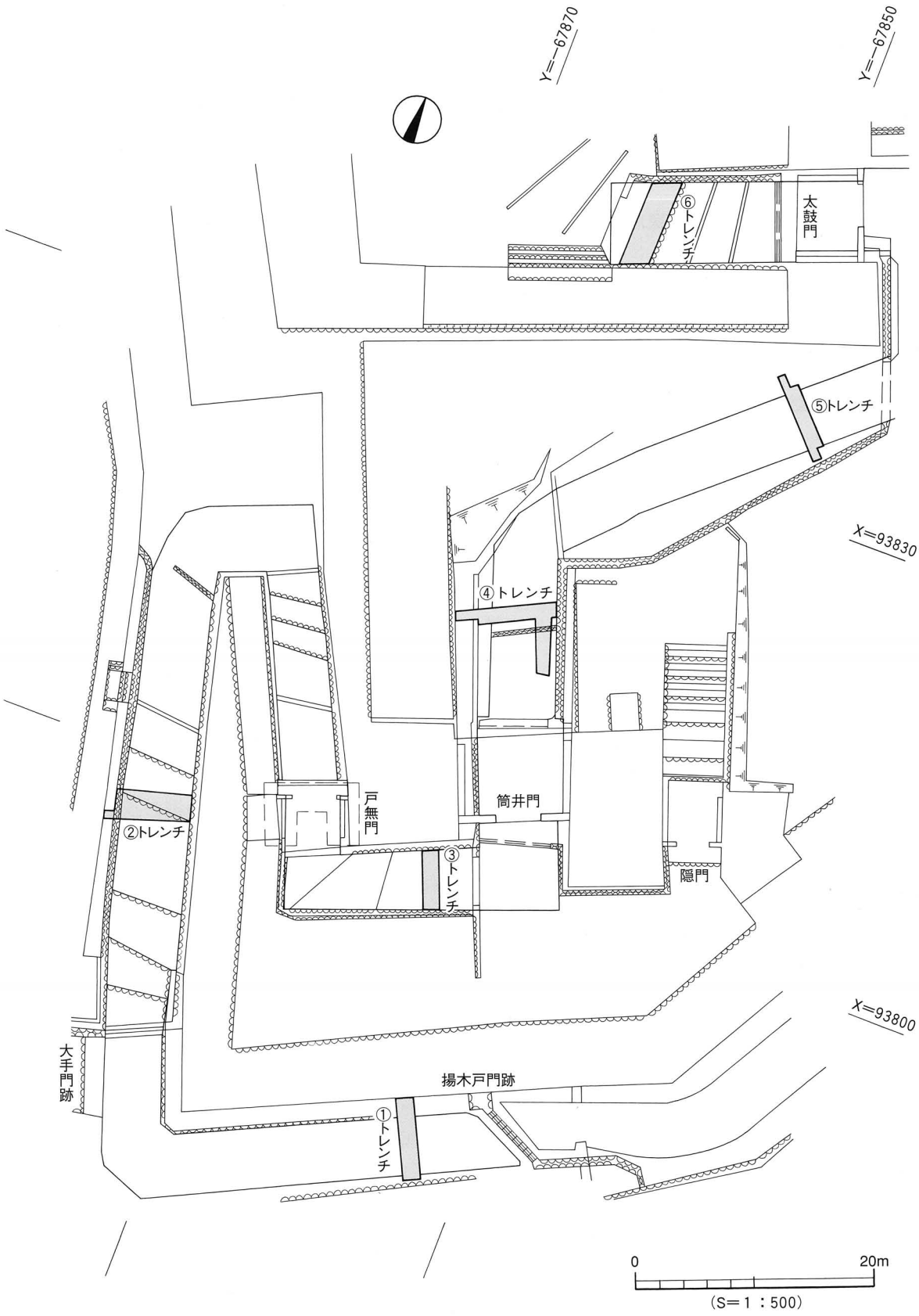

Y=−67870
Y=−67850
⑥トレンチ
太鼓門
⑤トレンチ
X=93830
④トレンチ
戸無門
筒井門
②トレンチ
③トレンチ
隠門
X=93800
大手門跡
揚木戸門跡
①トレンチ
0
20m
(S=１：500)

図２　調査区配置図

# 城の内（しろうち）古墳群２・４・５号墳

所在地　松山市丸之内
期　間　平成17年４月25日～同年９月30日
面　積　約80㎡
担　当　武田尊子（文化財課）

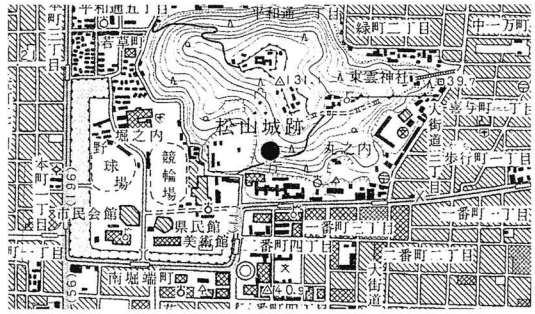


図１　調査地位置図

**経　過**　この調査は史跡松山城跡保存整備事業のうち、県庁裏登城道の整備工事に伴い国庫補助を受けて実施した。調査着手前に整備工事の範囲を踏査した結果、道の斜面数箇所にて古墳の石室らしき石列を確認した。そこで、既に登城道に向かって石室が開口している２号墳と石列を対象に調査を実施した。すると、２号墳のほかに古墳が２基存在することが明らかになった。今回明らかになったものを、城の内古墳群のなかで「４号墳」、「５号墳」と呼ぶ（図２、図３）。

**遺構・遺物**　２号墳の石室は、主軸をN-67°-Wにとり、現状は、長軸1.5m、短軸０.65m、高さ約0.8mである。木根によって石室全体が南西に傾き、天井部の礫はおおよそ原位置を留めていない。天井部には、長さ約１mの結晶片岩や柱状の流紋岩等を石室に架け、その石材間には0.4～0.6m程度の川原石を充填する。壁体はおもに角のとれた川原石を用い、基底部には礫の長側面を並べ、それより上は小口積みで７段程度積んでいる。礫の幅は0.1～0.4m程度である。床面には、貼床層と石室が木根に破壊された際の崩落土層の２層が堆積している。床面直上に礫等は残っていない。２号墳の墳丘には、石室を起点に２本のトレンチを設定した。２本とも樹木の攪乱により墳裾のラインは検出できなかったが、墳丘を切り、登り石垣に並行する排水溝を境に、石室側と石垣側で岩盤の高さや土層がまったく異なることから、排水溝付近に墳裾があると判断した。そうすると、２号墳は直径約6.5mの円墳に復元できる。石室は墳丘に墓壙を掘り込み構築している。遺物は石室内の崩落土層から出土した。須恵器（提瓶、短頸壺、短頸壺の蓋、坏蓋）各１点、刀子１点、ガラス小玉約20点、碧玉製管玉４点である。出土した須恵器の時期はおおよそ６世紀後半である。

４号墳は石室を登城道に切られ、道の斜面に石室の横断面が露出していた。墳丘と考えられる地形の高まりは残っていない。石室は、主軸をN-39°-Wにとり、現状は長軸2.5m、短軸1.1m、高さ約1.2mである。壁体は主に砂岩の角礫を用い、基底には幅約0.3～0.6mの礫の長側面を並べ、それより上は幅約0.1～0.3mの礫を小口積みする。石室の幅（短軸）や壁体の積み方から横穴式石室と考える。石室内の崩落土は５層に分かれる。床面である岩盤上に礫等は残っていない。石室の検出面から上位は、中世の遺物を含む土層に切られ、石室天井部や墳丘は残っていない。墓壙は岩盤を掘り込んで構築している。出土遺物は、石室内の崩落土層から須恵器（台付鉢、坏身）、土師質土器（皿）などの完形品が各１点、鉄釘約36点が出土した。須恵器の時期は７世紀前半、鉄釘は形態から近世以降のものと考える。

５号墳は木根の下にあった石室側壁の一部が登城道の斜面に露出していた。また、斜面には円墳と考えられる地形の高まりが残っていた。石室は、主軸をN-95°-Wにとり、現状は長軸2.35m、短軸

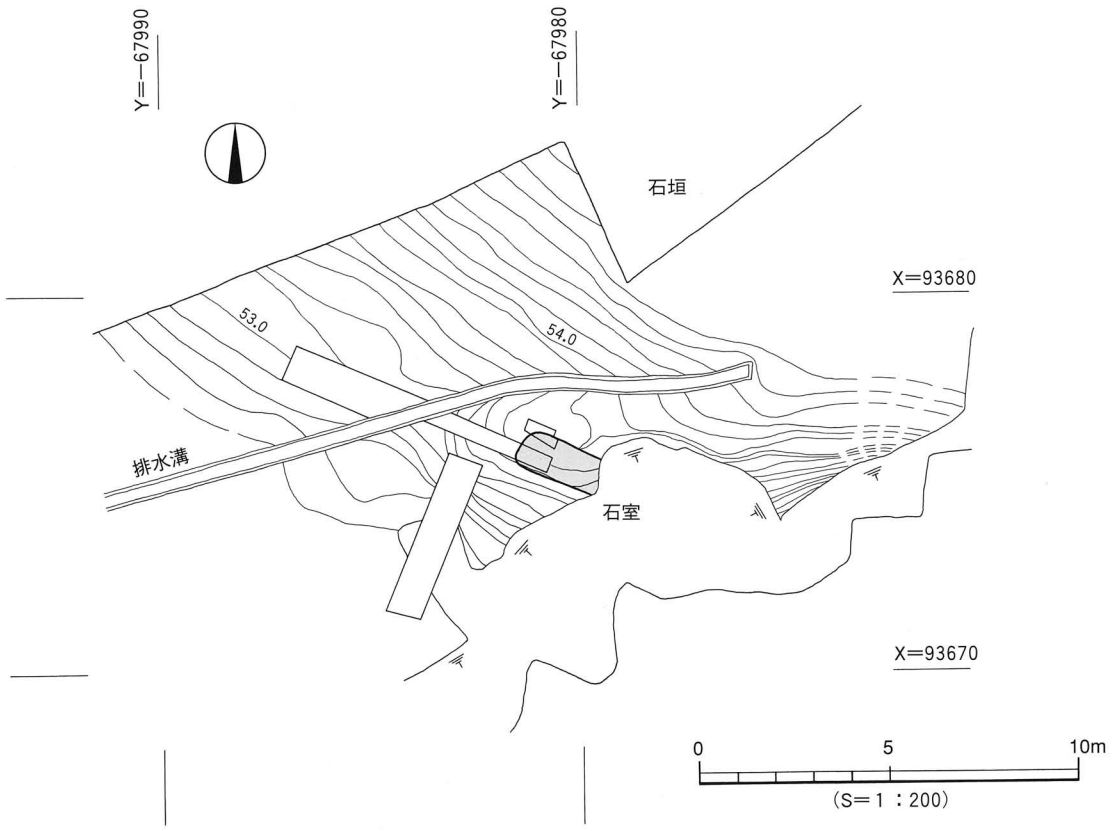



図２　２号墳石室位置図

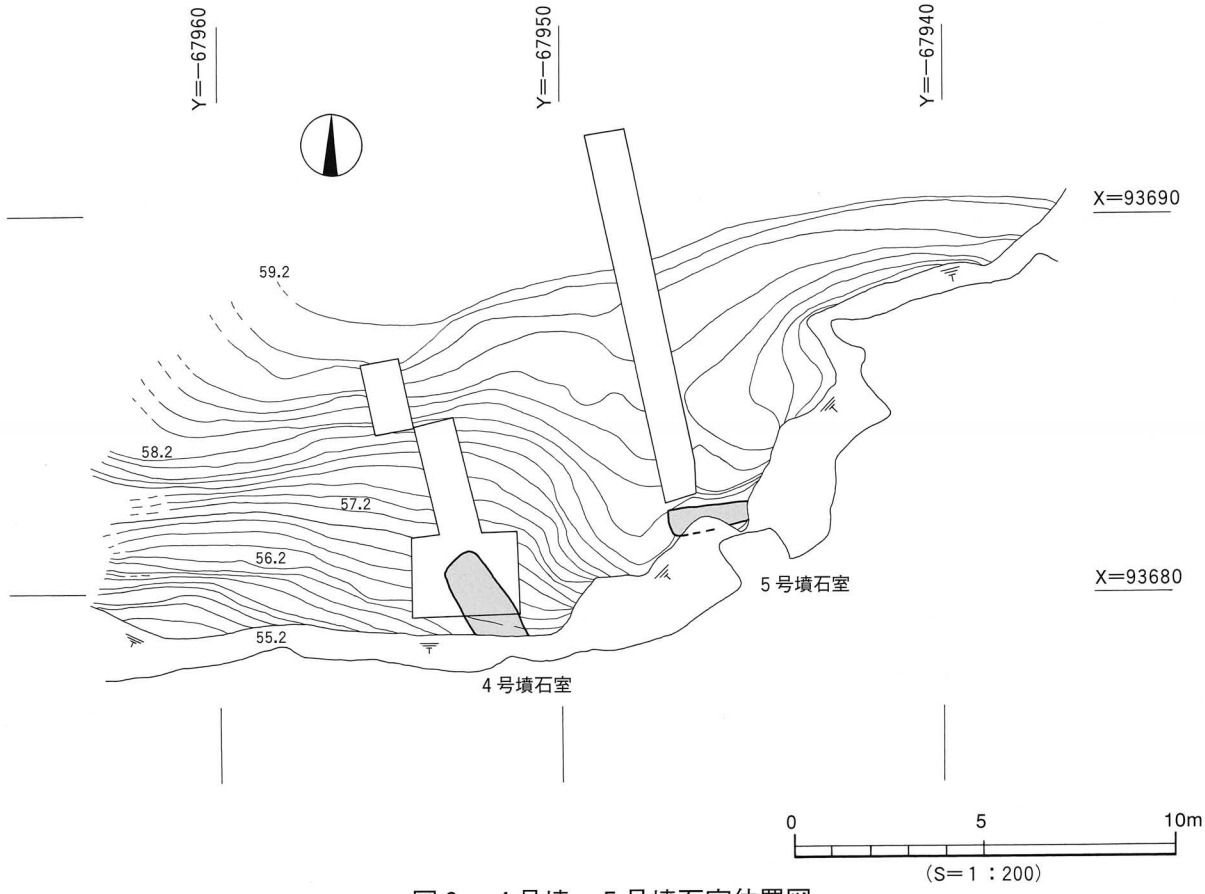



図３　４号墳・５号墳石室位置図

0.62m、高さ0.56mである。石室の形態は不明である。天井部は残っていない。壁体は角のとれた約0.1～0.3m大の川原石をランダムに積む。石室は、墳丘を造る過程のなかで構築されている。床面には棺台と思われる礫が４つ残存する。墳丘は、トレンチの土層観察から墳丘の土層を確認したものの、周溝等の遺構は確認できなかった。土層から５号墳は直径約11.5mの円墳と考える。出土遺物は、石室の奥壁の床面直上から完形の須恵器（広口壺、短頸壺）各１点が出土した。それらの須恵器の時期は６世紀前半と考える。

**小　結**　今回の調査では、県庁裏登城道斜面におおよそ６～７世紀にかけての３基の古墳が存在することを明らかにできた。当初これらの古墳は同時期もしくは近い時期に営まれたのではないかと予想していたが、出土遺物からみると６世紀前半、後半、７世紀前半とそれぞれ時期が異なっており、おおよそ時期的な重なりがない。

石室の形態は３基とも全体形が残っておらず、特に２、５号墳の石室は横穴式石室か竪穴式石室かを断定できない。しかし、２、５号墳は石室短軸が０.65m程度で、人の肩幅が０.4m前後であることを考えると、棺の幅とほぼ同サイズの窮屈な石室であり、また出土須恵器が年代的にまとまっていることから、追葬がおこなわれたとは考えにくい。今後さらに検討したい。（武田）

**写真１　２号墳石室検出状況（南東より）**

写真２　４号墳石室完掘状況（南東より）

写真３　５号墳石室内遺物出土状況（東より）

まつやまじょうしののめぐち　とじょうどう
# 松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財試掘調査

所在地　松山市丸之内外
期　間　平成16年11月18日～同年12月22日
面　積　40㎡
担　当　楠寛輝・山中菊之（文化財課）

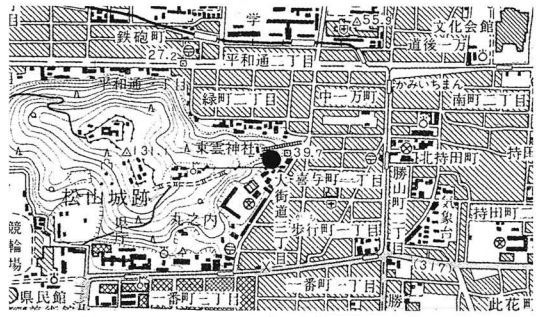


図1　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山城東雲口登城道の整備工事に伴う埋蔵文化財試掘調査である。現在の東雲口登城道は、東側山裾に存在する東雲神社を登り口として中腹の長者ヶ平へと通じているが、当初の登り口は現在のロープウェイ駅舎付近と想定されている。これは、ロープウェイの建設により登城道の一部が通行できなくなったことに伴い、一部を東雲神社所有地へと付け替えられたためと考えられる。なお、整備工事は登城道全体に対して行われるが、本調査はこのうち東雲神社所有地のみを対象としている。調査地の標高は46～56m程度で、調査地には、絵図等から東雲神社が幕末にこの地に建設された際に築かれた土塀の存在が想定され、事前の踏査でも土塀基礎の石組がわずかながら露出していたことから、これらを踏まえた９本のトレンチを設定し試掘調査を実施した。

**遺構・遺物**　基本層位は、第Ⅰ層：腐葉土や現代の整地層、第Ⅱ層：真砂土、第Ⅲ層：灰黄色粘質土（近現代の造成土）、第Ⅳ層：明黄褐色粘質土（近世の造成土）で、石組の上に明黄褐色粘質土の土塀が部分的に遺存していた。土塀基礎の石組は、現存する東雲神社の土塀を北端とし、部分的に後世のかく乱等で破壊されているものの、南北約36m、東西68m以上を確認した。石質は松山城内の石垣等と同様に花崗岩である。積み方は切込ハギで、たいへん精緻に加工されており、この時代の石積技法の特徴をよく示しているものと考えられる。幅は天端で約50㎝、高さは外側：約110㎝、内側：約40㎝で、その標高は、石組の天端（現況地表面）のように表記すると、西端：約54.5ｍ（約55.6ｍ）、隅角部：約46.3m（46.4m）、北端：約46.7m（46.8m）となっており、西に行くにつれて登城道の付け替えに伴い大規模な造成を行ったことがわかる。南北石組を中心に外側に向けてかなりの孕み出しが見受けられるのも、この造成によるところが大きいと考えられる。また、南北石組の隅角部に近接して、排水口（幅：約30㎝、高さ：約22㎝［抉り部　幅：約15㎝、深さ：約12㎝］）が１基確認されたが、この排水口に繋がる水路は近現代のかく乱等もあり確認できなかった。遺物は、第Ⅲ層中から、土塀に葺かれ、土塀の廃絶とともに廃棄されたと考えられる大量の瓦が出土した。大方は19世紀のものであり、この土塀が東雲神社の建設に伴い築かれたとする想定とも矛盾しない。

**小　結**　今回の調査では、当初の想定どおり、東雲神社の建設に伴い築かれた土塀基礎の石組が良好な状態で確認された。これにより、当初の東雲神社の社域を確定するができたとともに、そこに使われた石材への精緻な加工等から、藩財政の逼迫した幕末にもかかわらず、藩祖を祀る東雲神社の建設に対して松山藩が並々ならぬ決意を持って取り組んだことが伺える。なお、今回確認された石組は東雲口登城道の整備に伴い地下に保存される。今後はその活用策が課題である。（楠）

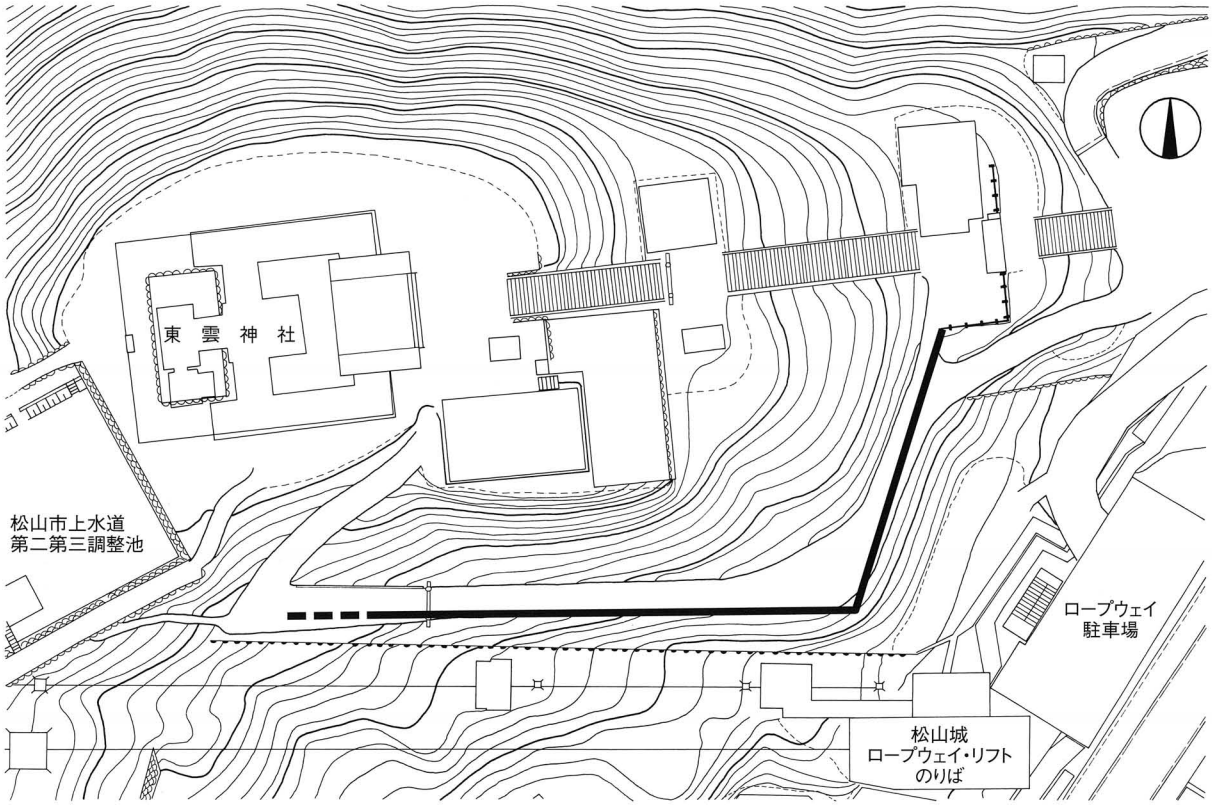



図２　土塀基礎石組検出位置図（Ｓ＝１：1,000）

写真１　土塀基礎石組検出状況（西より）

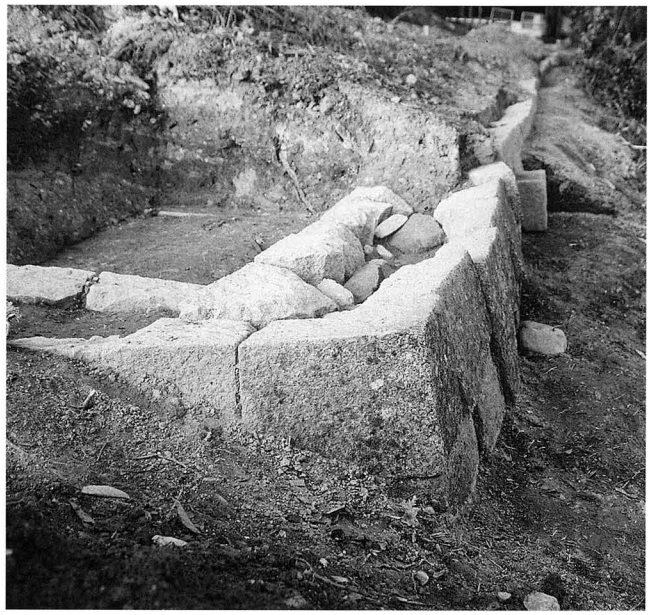


写真２　土塀基礎石組隅角部検出状況（南より）

まつやまじょうしののめぐち　とじょうどう

# 松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地　　松山市丸之内
期　間　　平成16年８月20日～同年10月15日
面　積　　約91㎡
担　当　　岸見泰宏（文化財課）

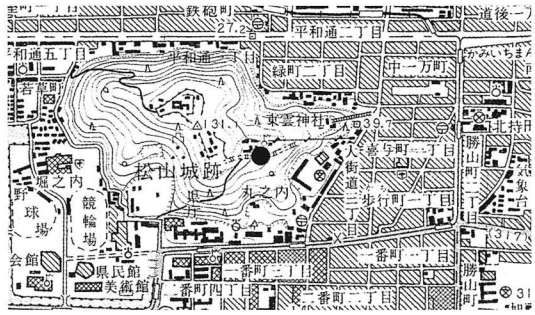


図１　調査地位置図

**経　過**　松山城本丸へ登る車両通行可能な管理道は県庁口１本しかなく、災害時における緊急車両の通行や日常の維持管理に支障を来たしている。このため、史跡松山城跡の永年に渡る保存管理を行うため、複数の管理道路の確保は急務と考えられた。平成13年度より策定中の「史跡松山城跡保全管理計画」の中でも東雲口登城道の整備は最優先課題として挙げられており、平成16年度中の完成を目指し整備工事が行われることとなった。このため、工事に先立ち埋蔵文化財の確認調査を実施した。

なお、工事は基本的に盛土施工であるため、施工範囲全面の調査は行わず、土層による遺構面の確認を基本として調査を行った。

**調査概要**　１～５トレンチについては人力にて掘削し土層を確認した。４トレンチを除く全てのトレンチにおいて近現代の造成土の直下から、弥生土器を含む黒褐色土層が確認された。黒褐色土層には混入物がほとんど含まれず、斜面上方となる道路北側から南側に向けて傾斜して堆積しており、自然堆積と考えられる。弥生土器はいずれも小片であり、近世の遺物は出土しなかった。４トレンチは、調査開始以前より砂岩岩盤が露出しており、検出作業をおこなったが、有意な痕跡は確認されなかった。

６・７トレンチは重機による掘削を行い、６トレンチは登城道から長者ヶ平に向けた傾斜地を断ち割るように設定した。①砂岩砕石による造成土層、②シルト質の造成土層、③弥生土器・須恵器を含む砂岩細粒と橙色土粒が混る黒褐色土層が確認された。①･②については遺物が出土しなかったため、年代決定できない。また、③については混入物が多く見られることから一次堆積とは認定しがたいため、古墳時代以降の造成土層と考えられる。７トレンチは、北側のＮＨＫ城山放送所に向かう擁壁を断ち割る形で設定したが、擁壁構築前の表土が確認されたのみで、有意な堆積は確認できなかった。

**まとめ**　本調査においては、近世の遺構・遺物が全く確認されなかった。現在の東雲口登城道が江戸期のものではない可能性と、江戸期のものがすでに流出、削平されている可能性が挙げられる。絵図によれば、勝山東麓には本丸へと登る登城道が存在していたと考えられるが、現在の東雲口登城道全体において近代以降の削平と改変が激しいことが明らかになったため、現在のものが近世の登城道を反映しているのかを明らかにすることは困難と考えられる。

史跡松山城跡内ではこれまで弥生時代の遺構は確認されていないが、史跡外にあたる東麓の東雲神社遺跡では、弥生時代中期の遺構が確認されている。１～３トレンチで確認された黒褐色土層は、長者ヶ平から南麓に向けた傾斜と平行に堆積しており、長者ヶ平からの流入土と考えてよい。長者ヶ平の平坦地部分にまで弥生時代の遺構分布が広がる可能性が高いと思われる。（岸見）

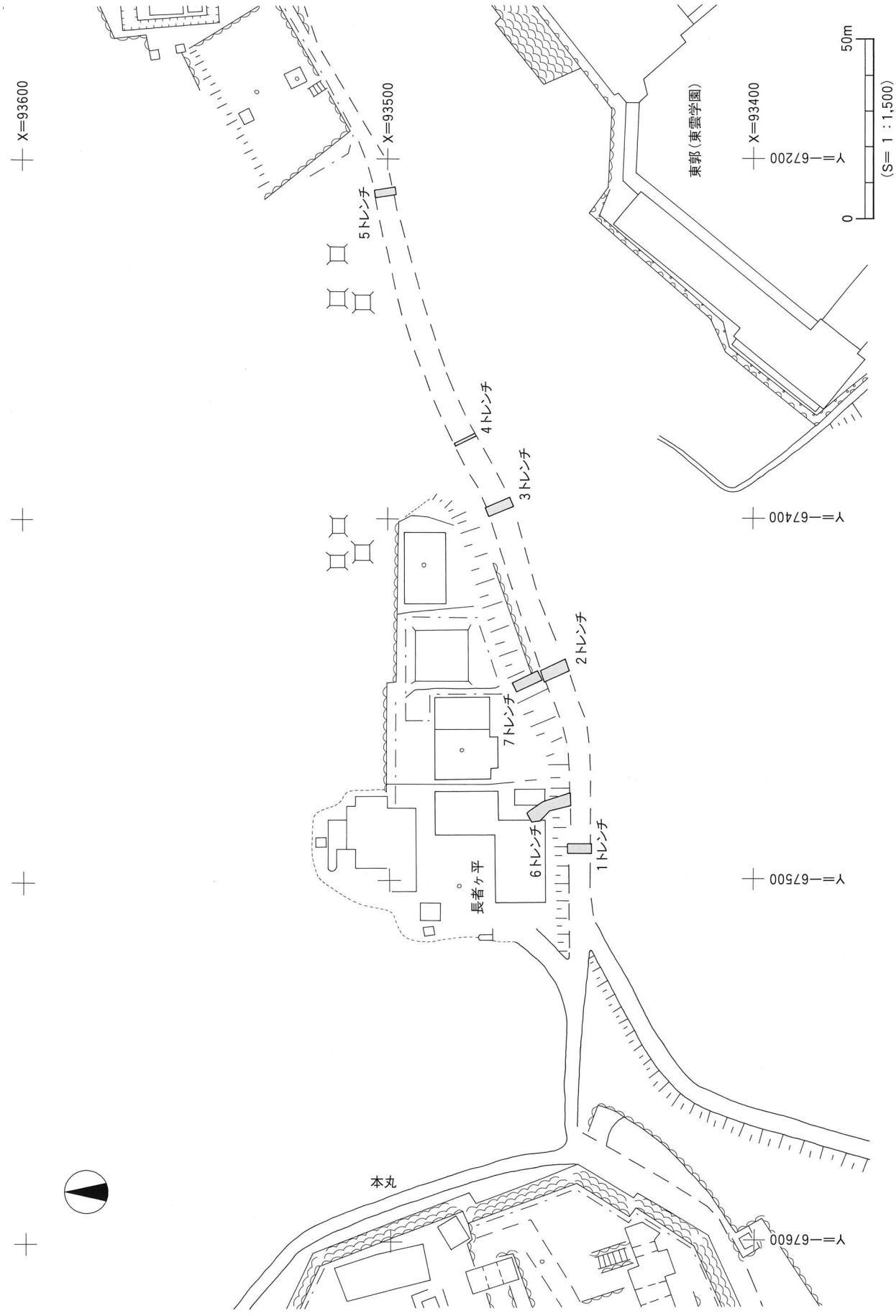

X=93600
X=93500
X=93400
Y=−67200
Y=−67400
Y=−67500
Y=−67600
5トレンチ
4トレンチ
3トレンチ
2トレンチ
1トレンチ
6トレンチ
7トレンチ
東郭(東雲学園)
長者ヶ平
本丸
50m
0
(S= 1 : 1,500)

図2　トレンチ配置図

# 東野（ひがしの）古墳群

所在地　松山市東野３丁目乙１番１～５外
期　間　平成17年２月７日～同年７月６日
面　積　740㎡
担　当　栗田茂敏・吉岡和哉

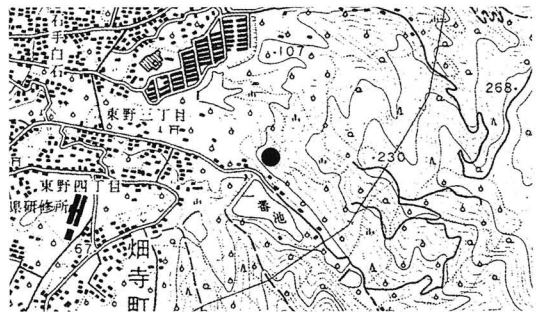


図１　調査地位置図

**経　過**　調査地は、石手川左岸の開析谷出口付近、標高85m～112mの高縄山系南西支脈の麓に位置しており、同丘陵上には東野古墳群として、東野１号墳～８号墳が登録されている。民間の土砂採取を目的とする確認願に基づいた試掘調査の結果、総面積9,000㎡にわたる丘陵南東裾部の２箇所において新たに２基の古墳の検出をみたため、それぞれ９号墳・10号墳として本格調査を実施した。

**遺構・遺物**　９号墳は、地表面での標高96～92mの、北東から南西へ下る斜面で検出された。墳丘全体にわたって削平されており、調査前の観察では墳丘状の盛り上がりを認めることはできなかった。墳丘盛土も、主体部西から南西の地山が下がる部分に僅かに残存しているのみである。地山整形の痕跡は、主体部北から東方にかけての２～４m離れた斜面に浅い溝状、あるいは傾斜の変換点として円弧状に微妙に残っている。このことから、本来は直径８m前後の円墳であったものと考えられる。主体部は南北方向に長軸をとる横穴式石室である。削平されているため、残りのよい奥壁近辺でも基底石から２段分程度の遺存で、加えて調査区斜面上方から下方へ走る排水暗渠の設営時に、東側壁の大部分が抜かれ、また床面の一部も溝状に破壊されていた。そのほか、石室玄門部より手前や前庭部についても、現代の段カットにより破壊され消滅している。現況での石室規模は、残存長3.5m、幅1.2m、残存高0.5mを測る。残存プランから判断すると、無袖型の横穴式石室と考えられる。床面には、拳大からそれよりもやや大きめの川原石を敷きつめている。礫床下面には地山面に粘土を貼ってレベル調整をしており、特に石室中ほどから玄門部側は地山レベルが低いので20㎝以上の貼り床をしている部分がある。墓坑は、石室東側壁、奥壁から西側壁の奥寄りまでは掘削しているが、西側壁の手前部分は地山レベルが本来低いため、墓坑を掘削することなく、地山面に石材を据え、封土を積み上げながらの築造となっている。盛り土のごく一部での残存というのはこの西側壁南西裏の部分にあたる。遺物は、須恵器蓋坏２点のみの出土であった。

10号墳は、標高115～110mの南へ下る斜面、対象地の最も高所に位置する部分で検出された。この調査区においても、調査前の観察では古墳の存在するような墳丘の盛り上がりは認められなかった。竹根による攪乱や果樹園耕作に伴う攪乱と思われる穴が随所にみられたが、古墳に伴う地山整形の痕跡は認められず、墳形、墳丘規模については不詳である。９号墳同様、横穴式石室を主体部としているが、奥壁の一部とこれに組み合う北東側壁の一部、床面奥壁寄りの一部が残存しているのみであった。石室は確認できる範囲で、残存長3.0mを測る。うち玄室長1.5m、幅1.4mとなっている。奥壁最下段のいわゆる腰石は、扁平な砂岩の割石を立てて用いているのが特徴である。玄室には拳大の川原石を床面施設として敷いていたが、攪乱されており、遺物の出土はみられなかった。南西側壁の遺存が悪く、

写真１　9号墳横穴式石室（南より）

また基底石の抜き痕も不明確なので、石室のプランは必ずしも明確ではないが、北東側壁の抜き痕や一石残った基底石からみると、羨道部は玄室よりも約20㎝幅が狭くなっている。プランは両袖型と考えられるので、軸で折り返せば羨道幅約1.0m程度になる。したがって不明確ながら、全長約３.０m、玄室長1.5m、幅1.4m、羨道長1.5m、幅1.0m程度の石室に復元できよう。

小　結　今回の調査では２基の横穴式石室を主体部とする古墳が調査された。９号墳は直径８m内外の小規模な円墳で、無袖、小型の横穴式石室といった石室形態･規模の特徴、および出土した須恵器坏から７世紀前半から中頃の古墳である。10号墳はこれよりもなお遺存状況が悪く、墳丘形態･規模ともに不詳で、石室の破壊も進んでおり、石室に伴う遺物の出土もないので詳細な築造年代は明らかではない。しかし、平面プランが、1.4×1.5mの方形に近い玄室を持つ両袖型の小型石室であると考えられること、腰石に扁平な板状の石材を立てて用いていることなどから判断すると、これも９号墳同様、終末期の古墳と考えて大過なかろう。近隣の東野中畦遺跡で調査された２基も同様の時期の古墳である。周辺の丘陵の麓に近い部分にはこれらのような未知の終末期古墳が相当数存在するものと考えられる。（栗田）

写真２　10号墳横穴式石室（南より）

# 東野森ノ木遺跡３次調査地

（ひがしの もり の き）

所在地　松山市東野１丁目甲43番１外
期　間　平成17年３月１日～同年４月19日
面　積　233.98㎡
担　当　加島次郎

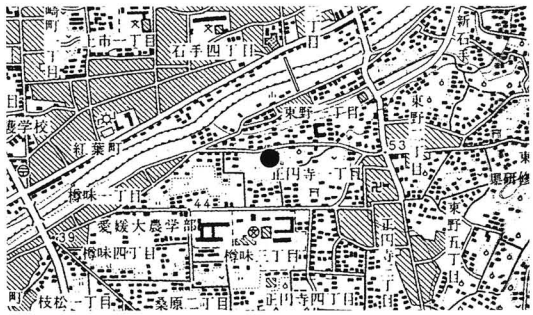


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。対象地は2004（平成16）年６月に松山市都市整備部道路建設課が松山市教育委員会事務局文化財課に対して埋蔵文化財確認調査願いを提出していた箇所に含まれる。さらに、本対象地の北東と南西の隣接地は、平成16年度上半期に東野森ノ木遺跡として本格調査が実施され、弥生時代中・後期、古代、中世の遺構と遺物が確認され、当該期の遺構が対象地に広く分布していることが判明している。これらのことから、本対象地にまで埋蔵文化財は広がっている蓋然性が高いと判断されたことを受けて、本格調査を実施する運びとなった。対象地は松山平野北東部を流れる石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、標高は46mを測り、以前は宅地であった。

**遺構・遺物**　本調査の基本層位はⅠ層造成土･現耕作土（層厚95～105cm）、Ⅱ層褐灰色粘質土（層厚20cm）、である。対象地の南と東は現代坑により遺構面を形成するⅡ層上面は削られ、局部的に遺跡が消失していることが調査により判明している。先述した現代坑や地境塀の構築等によって本来は遺存していた可能性が高い遺物包含層は全て消失しており、確認するには至らなかった。

検出遺構には土坑８基、性格不明遺構１基、柱穴17基があり、遺構の多くはⅡ層上面で確認できたものである。なお、Ⅱ層上面の地形測量を実施したところ標高45.2～45.1mを測るが、これは先述したように、現代坑等の構築に伴う土地開発の影響によるものと考えられ、旧地形を復元する上では留意すべきデータとなる。以下では、主要遺構をとりあげてその概要を述べておきたい。

SK108は調査区の西半部中央に位置する古墳時代前期の土坑である。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸０.９m、短軸０.66m、現存する深さ０.３mを測る。埋土は鉄分の沈着がみられた黒色土(N 1.5／0)である。遺物には甕と壺があり、いずれも大型の破片が折り重なって出土したものである。壺については、接合した結果、縦半分に復元できたことから、本来は完形品を横位に据え置いた状況を復元することも可能である。この場合、本土坑に遺棄する前まで本資料は完形品であったことが前提となろう。この仮定に立脚するならば、少なくとも壺については単なる廃棄ではなく、完形品を横位に据え置く「埋置」の可能性が高いものと推察できる。一方、甕は全体の４／５が遺存することから、その遺存及び出土状況が壺と異なる可能性のあることを指摘しておきたい。

**小　結**　今回の調査では古墳時代前期に構築された土坑を含む生活関連遺構を確認することができた。これにより、当該期には古墳時代前期の遺跡が本調査地に存在していたことが明らかとなった。接合作業を経た遺物の検討を通して、本遺構において土師器を用いて埋置の執行された可能性を指摘した。このことは本遺構の機能と性格を復元する上で重要な指摘のひとつとなる。また、本調査地を

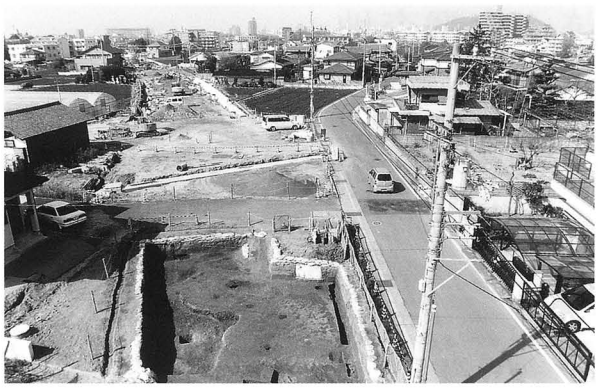


写真１　遺構完掘状況（北東より）

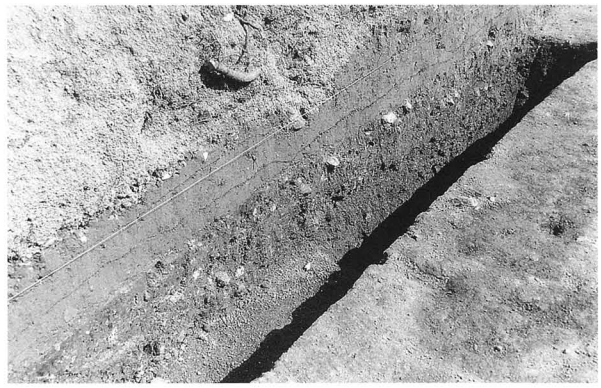


写真２　北壁土層（南西より）

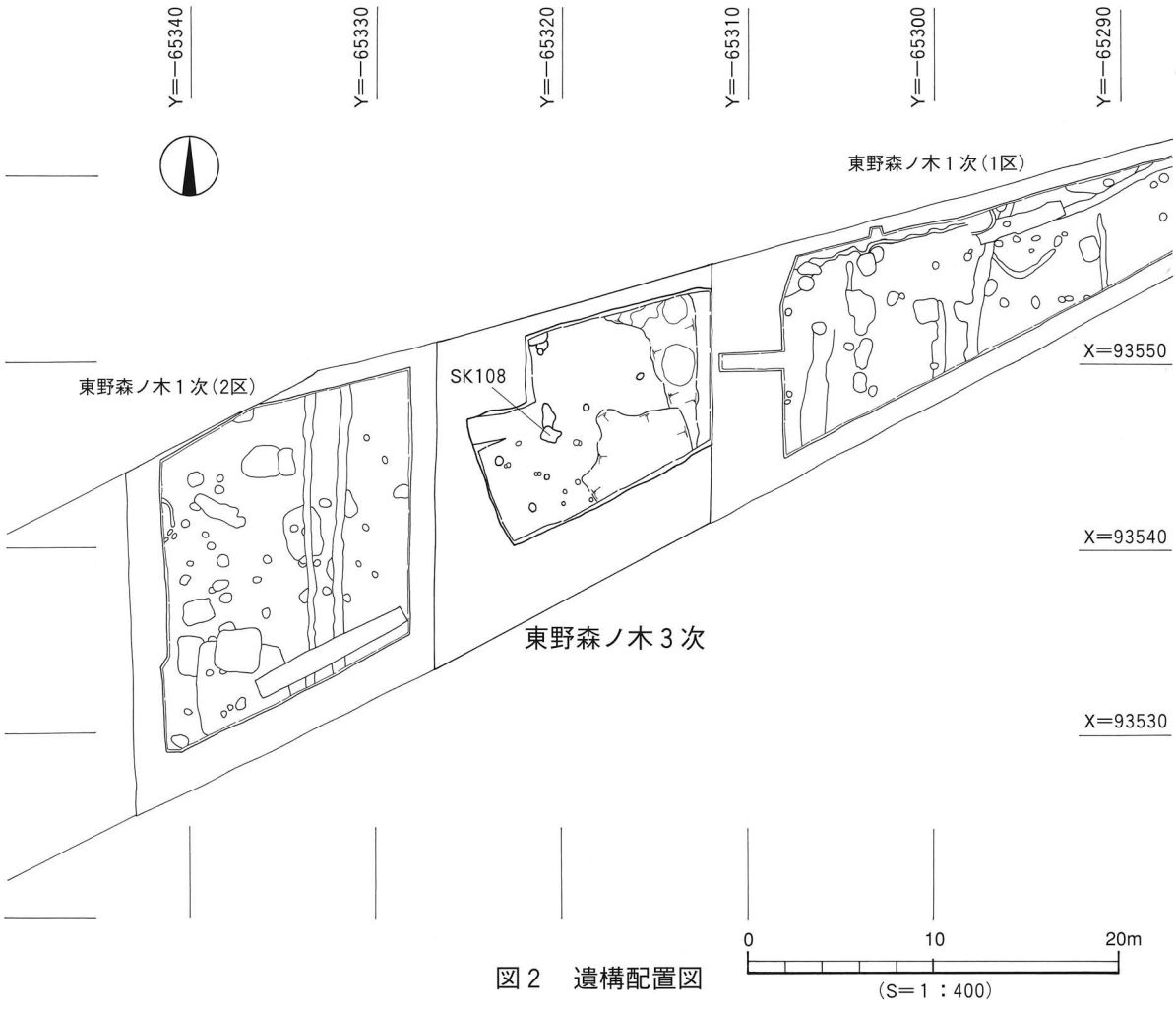



図２　遺構配置図

含む周辺、とくに微高地北東部には生活関連遺構がさらに広がっている可能性が考えられる。過去に実施された東野森ノ木遺跡と同遺跡２次調査地からは当該期の竪穴式住居跡が未検出であったことを考え合わせると、少なくとも当該期の居住域は、道路工事対象地のさらに北側に展開していた可能性が高まったといえよう。これらのことは当時の地形と景観を復元する上で興味深く、現在進行中の室内調査に活用・反映させていく所存である。（加島）

# 東野森ノ木（ひがしのもりのき）遺跡４次調査地

所在地　松山市東野１丁目甲55－６外
期　間　平成17年４月19日～同年11月30日
面　積　1,694㎡
担　当　加島次郎

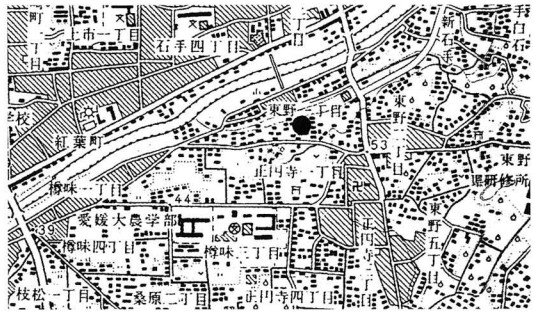


図１　調査地位置図

経　過　本調査は松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。対象地は2004（平成16）年６月に松山市都市整備部道路建設課が松山市教育委員会事務局文化財課に対して埋蔵文化財確認調査願いを提出していた箇所に含まれる。さらに、南西の隣接地は、平成16年度に東野森ノ木遺跡２次調査地として本格調査が実施されており、弥生時代中・後期の遺構と遺物が確認され、当該期の遺構が対象地に分布していることが判明している。平成16年６月下旬に本対象地の一部に対して試掘調査を実施したところ、竪穴式住居跡・土坑・柱穴を検出したことから、埋蔵文化財の存在することが明らかとなり、本格調査を実施する運びとなった。対象地は松山平野北東部を流れる石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、標高は48m前後を測り、以前は宅地ほかであった。なお、本対象地以東は、平成14年度に実施した試掘調査により、旧地形は落ち込み、河川堆積物が厚く堆積し、

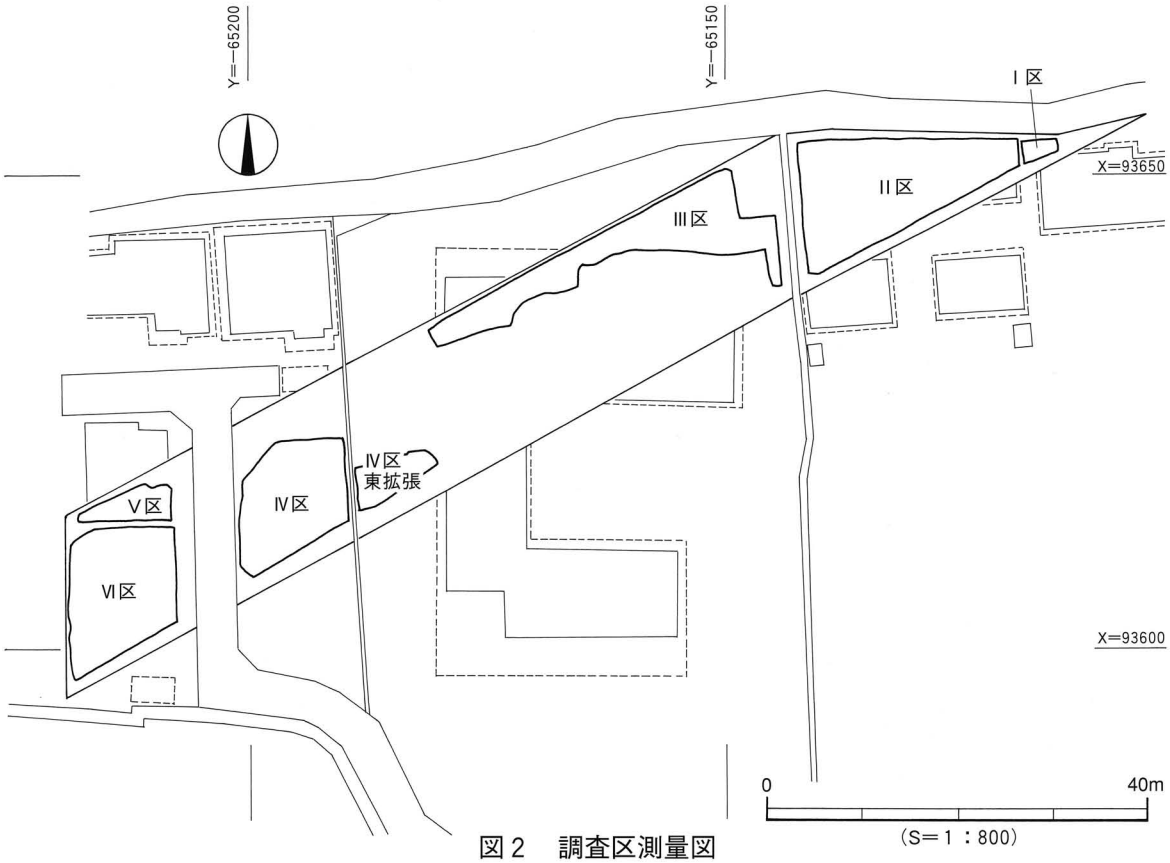


図２　調査区測量図

写真１　Ⅳ区遺構検出状況（西より）

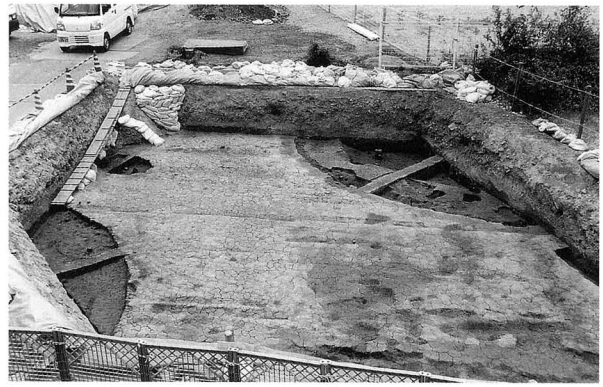


写真２　Ⅳ区遺構完掘状況（西より）

写真３　弥生時代後期後半～終末の住まいSB401（北より）

写真４　SB401完掘状況（北東より）

写真５　Ⅵ区遺構検出状況（東より）

写真６　Ⅵ区西壁深掘り土層（北東より）

写真７　調査作業風景（南東より）

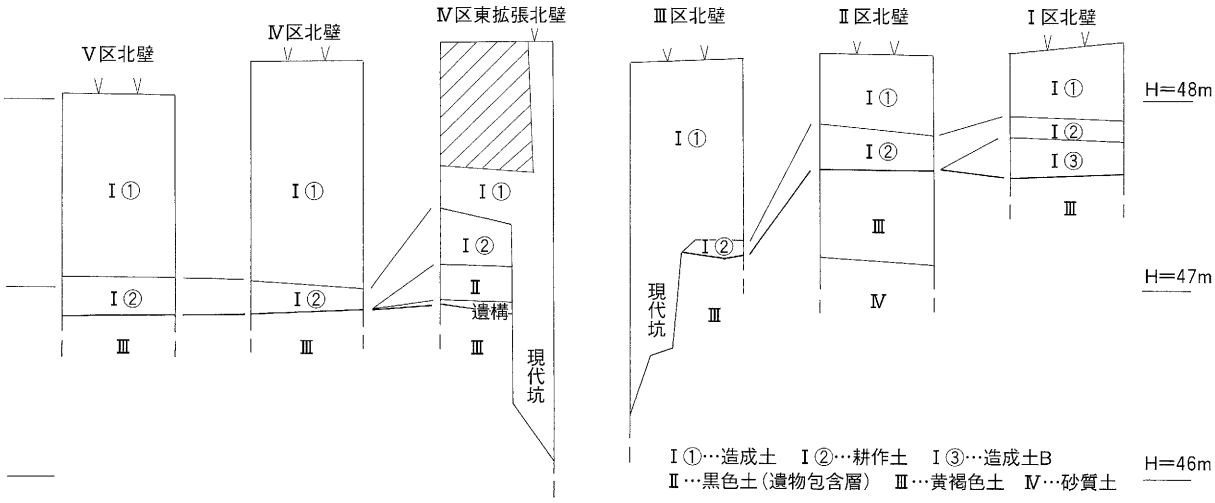



図３　土層柱状模式図（Ｓ＝１：40）

安定した遺構面は形成されておらず、埋蔵文化財が存在しないものと判断されている。したがって、本対象地が本格調査対象地の最北東部に該当することから、石手川中流域南岸の微高地における当時の居住域北東限を確認（確定）することに重点をおきながら今回の調査をおこなった。

対象地は便宜上Ⅰ～Ⅵ区に区分し、調査は最北東部のⅠ区から順に開始した。土地所有者移転に伴う書類上の手続き、既存建物・建物基礎等の解体と撤去等々から、本格調査が一時中断することが余儀なくなり、最終的に調査（野外調査）が完了したのは、平成17年11月末のことである。

**遺構・遺物**　本調査の基本層位はⅠ①層造成土（層厚17～50㎝）、Ⅰ②層現耕作土Ⅱ層（層厚5～15㎝）、Ⅰ③層造成土（層厚10㎝）、Ⅱ層黒色土（層厚10㎝）、Ⅲ層黄褐色土である。このうち、Ⅱ層は弥生土器、土師器、須恵器を含む遺物包含層で、出土遺物より本層は古墳時代後期～古代までに堆積した可能性が高いと考えられる。検出遺構には竪穴式住居跡３棟、溝４条、土坑16基、性格不明９基、柱穴170基があり、これらの遺構はⅢ層上面にて確認した。なお、本層上面は地表下0.3～0.5ｍを測る。Ⅲ区では現代建物の建設に伴って、土地開発が地表下2.5ｍまで及ぶ箇所が広く認められた。ここでは遺跡構築面をなすⅢ層上面が大きく削られており、遺跡は消失していたことが確認されている。以下では、時代別に主要遺構をとりあげてその概要を述べておきたい。

〔縄文時代〕SK401：対象地中央に設けたⅣ区の北東寄りに位置する貯蔵穴である。土坑の平面形態は不整隅丸長方形状を指向し、規模は長軸1.5ｍ、短軸1.1ｍ、確認面からの深さは17㎝を測る。埋土は粘性に欠けてパサパサした質感の黒色土を基調とする。調査時には僅かな色調の違いから四層に細分可能であった。横断面形態は床面が平坦をなす箱形を呈し、遺物は下層と上層から縄文土器が礫とともに数点出土した。縄文土器には深鉢と浅鉢とがあり、浅鉢の遺存は良好である。出土遺物と埋土の知見より、本遺構の帰属時期は縄文時代晩期と考えられる。

〔弥生時代〕SB401：Ⅳ区東半部とⅣ区東拡張に位置する円形に復元される竪穴式住居跡である。規模は復元直径10ｍ、確認面からの深さは48㎝を測る。住居内の周縁部には、地山削り出しと貼床により幅１ｍのいわゆる「ベッド状遺構」が造りつけられる。住居内埋土は四層に大別でき、遺物は埋土下層の③層から出土する傾向がみられた。遺物には弥生土器、礫、管玉、土製品があり、主体は弥生土器で、破片と小片に限られる。接合関係を試みたところ、わずか数点が接合できたに留まり、

完形近くにまで復元できるものはない。このことから、遺物は完形の状態ではなく、破片や砕片の状態で住居内へ投棄されたことが復元できる。Ⅳ区東拡張では住居埋土の精査初期時に、完形品の管玉１点が出土している。この点を積極的に評価して、本住居では廃絶時の遺物投棄過程において、完形品の管玉を用いた儀礼行為の執行された可能性があることを指摘しておきたい。住居埋土が水平堆積であることを考慮し、儀礼の執行に際して住居は人為的に埋め戻されたものと理解しておきたい。住居の廃絶時期は弥生時代後期後半～終末である。

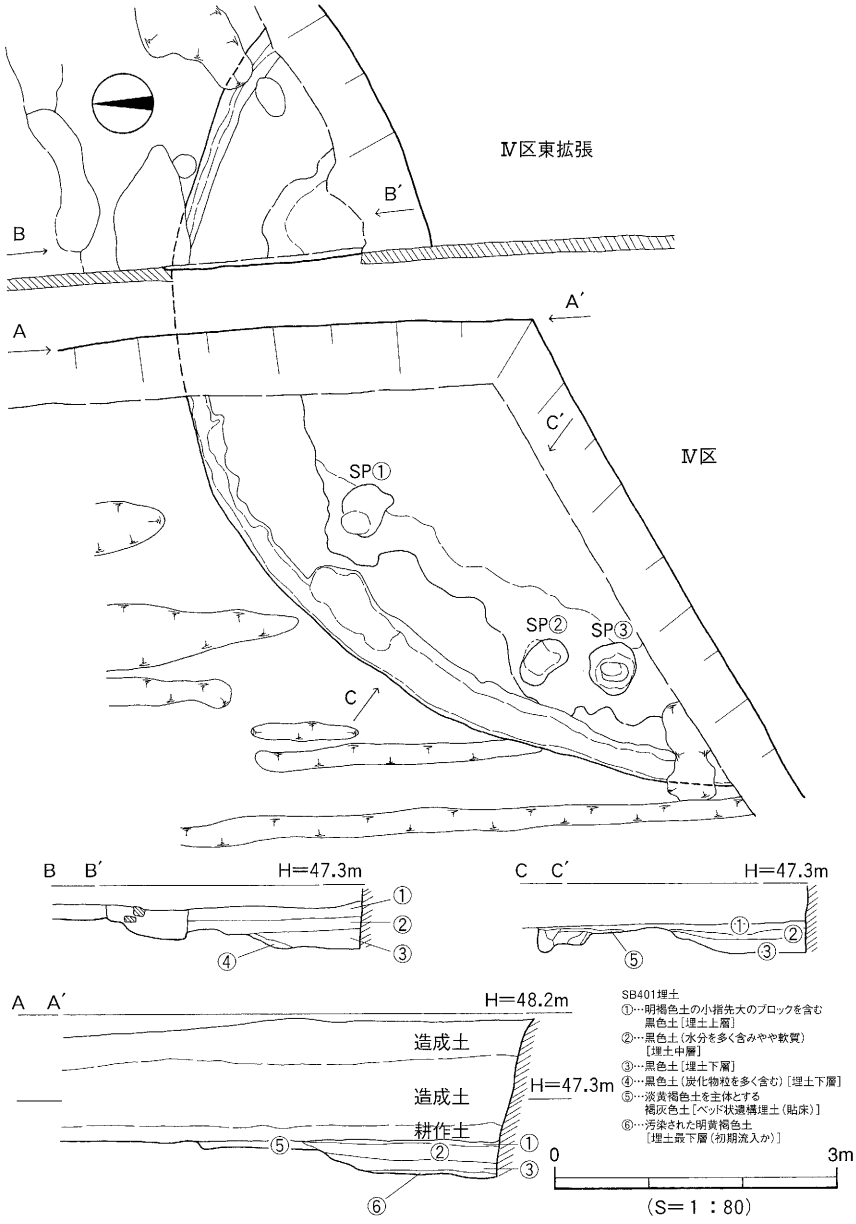



図４　SB401測量図

〔中世〕SK601：対象地南西端に設けたⅣ区で検出された土坑である。平面形態は隅丸方形状を呈し、規模は一辺0.7m、深さは20cmを測り、埋土は灰褐色土の単一である。遺物は埋土の中位から羽釜の小片が出土した。

**小　結**　今回の調査では縄文時代晩期・弥生時代後期後半～終末・中世に構築された生活関連遺構を確認し、対象地には当該期の遺跡、すなわち複合遺跡が広く展開することが明らかとなった。さらにⅣ区とⅣ区東拡張では弥生時代後期後半～終末の竪穴式住居跡３棟が検出されたことから、対象地のやや西寄りで弥生時代の居住域の北東限を確定することができた。

さて、この市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は３年に及び、あらたに５遺跡14地点の調査を通じて、3,000を数える生活関連遺構を検出し、出土遺物はコンテナ200箱以上と膨大な量である。この一連の調査により愛媛大学農学部北東側の微高地には情報量豊かな遺跡が数多く存在することが判明した。一帯は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地外に該当することから、包蔵地の見直しを含む早急かつ適切な対応が埋蔵文化財行政に求められることを指摘しておく。（加島）

# 樽味高木遺跡（たるみたかぎ）11次調査地

所在地　松山市樽味２丁目85番６外
期　間　平成17年２月１日～同年７月29日
面　積　1,278㎡
担　当　髙尾和長・加島次郎

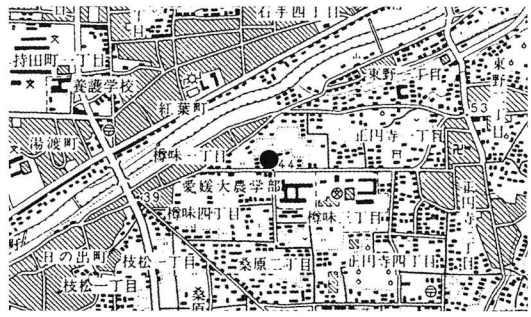


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山平野を西流する石手川中流域の左岸に位置し、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.81樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。試掘調査からは土坑、柱穴などの遺構を検出し、さらに包含層からは遺物が出土したことから、集落関連遺構の広がりと、古環境復元のための基礎データーを得ることを主目的として、本格調査を実施した。

**遺構・遺物**　調査では、４層の土層を確認した。Ⅰ①層は造成土である。調査区全域で検出した。Ⅰ②層は灰褐色土（水田耕作土）調査区全域で検出した。Ⅱ層は黄褐色土（水田床土）調査区全域で検出した。Ⅲ層は４層に分層できる。Ⅲ①層は褐灰色土（10YR4/1）、Ⅲ②層は灰黄褐色土（10YR4/2）、Ⅲ③層は黒褐色土（7.5YR3/2）、Ⅲ④は黒褐色土（7.5YR3/2）に赤褐色土（5YR4/6）粒混じり。Ⅳ層は赤褐色土（2.5YR4/6）であり調査区全域で検出した。Ⅳ層上面が遺構検出面となる。

検出した主な遺構は、竪穴式住居址19棟（SB101～117、201・202）、土坑５基（SK101～104・201）、溝１条（SD201）、性格不明遺構２基（SX101・102）、柱穴535基である。遺物は遺構と包含層から確認されている。その遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、軟質土器、石器がある。遺構の帰属時期は、弥生時代後期～中世に大別でき、古墳時代前半に帰属する遺構が多い。

**小　結**　注目される遺構には、竪穴式住居址、遺物には、軟質土器と出作･市場型土器が上げられる。

遺構：弥生時代後期では、主柱穴間を巡る小溝（SB105）と張り出し部（SB102）を持つ竪穴式住居址、古墳時代前半では、住居址を区切る小溝（SB107）が注目される。

SB105は、平面形態が円形で高床部を持ち、６本の主柱穴間を幅10～38㎝の小溝が巡る。SB102は、平面形態が方形で北側に長方形状の張り出し部を持つ。SB107は、平面形態が長方形で、内部施設に主柱穴２基、炉、小溝を持つ。小溝は主柱穴２本の外側に住居を短軸方向に平行に区切るように２本検出した。

遺物：出土遺物には土師器、須恵器、軟質土器、石製品がある。その中で、SB101からは軟質土器、土師器の甑形土器の完形品が出土し、SB109からは軟質土器、須恵器の出作･市場型土器の壺形土器が出土した。出土した軟質土器と出作・市場型土器は、松山平野の中でも出土例の少ない貴重なものである。これら、検出した遺構と出土遺物からは、調査地周辺が弥生時代後期～古墳時代前半にかけて松山平野の主要な遺跡と考えられ、今後の調査と整理によってより各時代の集落の範囲を明確にしていきたい。（高尾）

写真１　遺構完掘状況（西より）

写真２　遺物出土状況（西より）

# 樽味高木遺跡12次調査地

（たるみたかぎ）

所在地　松山市樽味４丁目247番の一部
期　間　平成17年６月１日～同年９月２日
面　積　1,071㎡の内517㎡
担　当　河野史知・小笠原善治

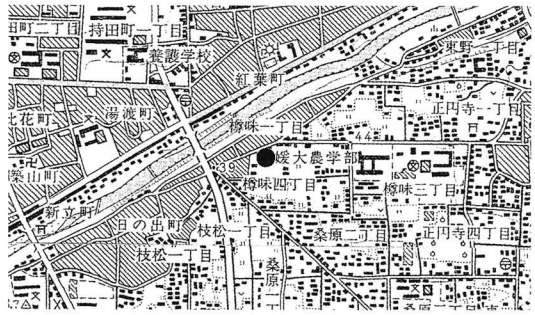



図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№81樽味遺物包含地』内における宅地造成に伴う事前調査である。調査地周辺では、これまでに数多くの発掘調査が行われており、愛媛大学農学部構内の樽味遺跡（１～６次調査）、北東の樽味立添遺跡（１～３次調査）、南の樽味四反地遺跡（１～11次調査）、樽味高木遺跡（１～11次調査）などの調査が実施され、弥生時代から古墳時代にかけての拠点的な集落であることが解明されつつある。特に南約100mには、弥生時代後期末から古墳時代初頭の大型掘立柱建物址２棟を検出した樽味四反地遺跡の６次調査地と８次調査地があり、松山平野でも注目される重要な地域である。調査地は東西に２分し、平成16年度は西側（樽味高木遺跡10次調査地）を調査し、平成17年度は東側（樽味高木遺跡12次調査地）の調査を行った。

**遺構・遺物**　調査地は、松山平野の北東部に位置し、石手川の氾濫により形成された扇状地の扇央付近に立地し、標高は約39mを測る。調査以前は水田であった。

基本層序は、第Ⅰ層灰色土（近現代の耕作層）、第Ⅱ層黄褐色土（近現代の床土）、第Ⅲ層鈍い黄橙色砂質土（土師器・陶磁器・瓦を包含）、第Ⅳ層黒褐色土（古墳時代の遺物を包含）、第Ⅴ層明褐色土（地山土で遺構の検出面）、第Ⅵ層は暗褐色砂礫である。調査では弥生時代～近世の遺構や遺物を検出した。遺構は、弥生時代の竪穴式住居址５棟、周溝１条、土坑２基、古墳時代の竪穴式住居址14棟、掘立柱建物址６棟、溝１条、土坑６基、柱穴、性格不明遺構１基、古代の性格不明遺構１基（ＳＸ１）、中世の土坑１基（ＳＫ７）、近世の掘立柱建物址１棟（掘立３）、溝８条（ＳＤ１～７・９）、土坑２基（ＳＫ５・６）、柱穴を検出した。遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・鉄器・装飾品・銭貨・獣骨・獣歯が出土した。

【弥生時代】ＳＢ17の床面から出土した高坏や甕などは、後世の削平を受け上半が欠失しているが、一括性の高い遺物である。ＳＢ６から出土した磨製石鏃２点は、在地の緑色片岩製の石材であることから、当地にて製作されたことが想定できる。また、サヌカイト製の打製石鏃や石庖丁状の収穫具に加えサヌカイト剥片なども少量ではあるが出土しており、この住居内で製作された可能性をもつ。周溝１は東側半分がＳＢ12やＳＢ15により削平を受け全容は不明であるが、平面形態は楕円形でも隅丸方形に近いものと想定する。周溝内から出土した遺物は、甕や壺など日常用の土器の破片などで一括投棄などの祭祀行為はみとめられなかった。

【古墳時代】全域において竪穴式住居址や掘立柱建物址を検出しており、安定して調査地周辺に該期における集落の展開が窺える。特に微高地がやや高くなる南側に集中しており、ＳＢ10～16・18・19の９棟が切り合って検出された。これらの住居址は古墳時代中期後半から後期にかけてのもので密度

が濃く、この間に継続的に当地やその周辺で居住していたと考える。SB12の北壁で検出した焼土は竈施設の残存で、壁体の外側への張り出しは煙道施設と考える。

【古代】SX１は埋土や出土遺物から、東隣の樽味高木遺跡６次調査地の鍛冶関連遺構を検出した８世紀頃の段落ち遺構のつながりであり、西端部が検出できた。

【中世】SK７からは人頭大の礫のほかに炭や焼土を浮いた状態で検出しているが、遺構内で焼かれた痕跡はなく、別の場所で焼かれてSK７に入れたことが考えられる。骨は未検出であったが、土廣墓の可能性をもち、上位から検出した礫は墓標施設が崩落したことが窺える。

【近世】SD１～４は南北方向に平行して延び、東西方向のSD５～７・９に直角方向であり、溝の形状や位置関係などから農耕に伴う溝と考える。SK５の基底面からは鎹状の鉄製品が出土し、その上層に人頭大の礫を検出する。この鎹は桶棺に使われていたことも考えられ、桶棺墓の可能性をもつ。掘立３の出現により、周辺に近世集落の存在が窺える。

小　結　今回の調査では、弥生時代中期から後期頃、古墳時代中期から後期の竪穴式住居址や掘立柱建物址を主体とした集落を形成する遺構や遺物と、古代から近世頃の集落関連遺構を検出し、当時の集落構造を解明する資料が得られた。今後の整理課題として、当地における古墳時代中期から後期にかけての詳細な集落構造や規模を未整理遺物などの整理作業を進めながら検討する必要がある。（河野）

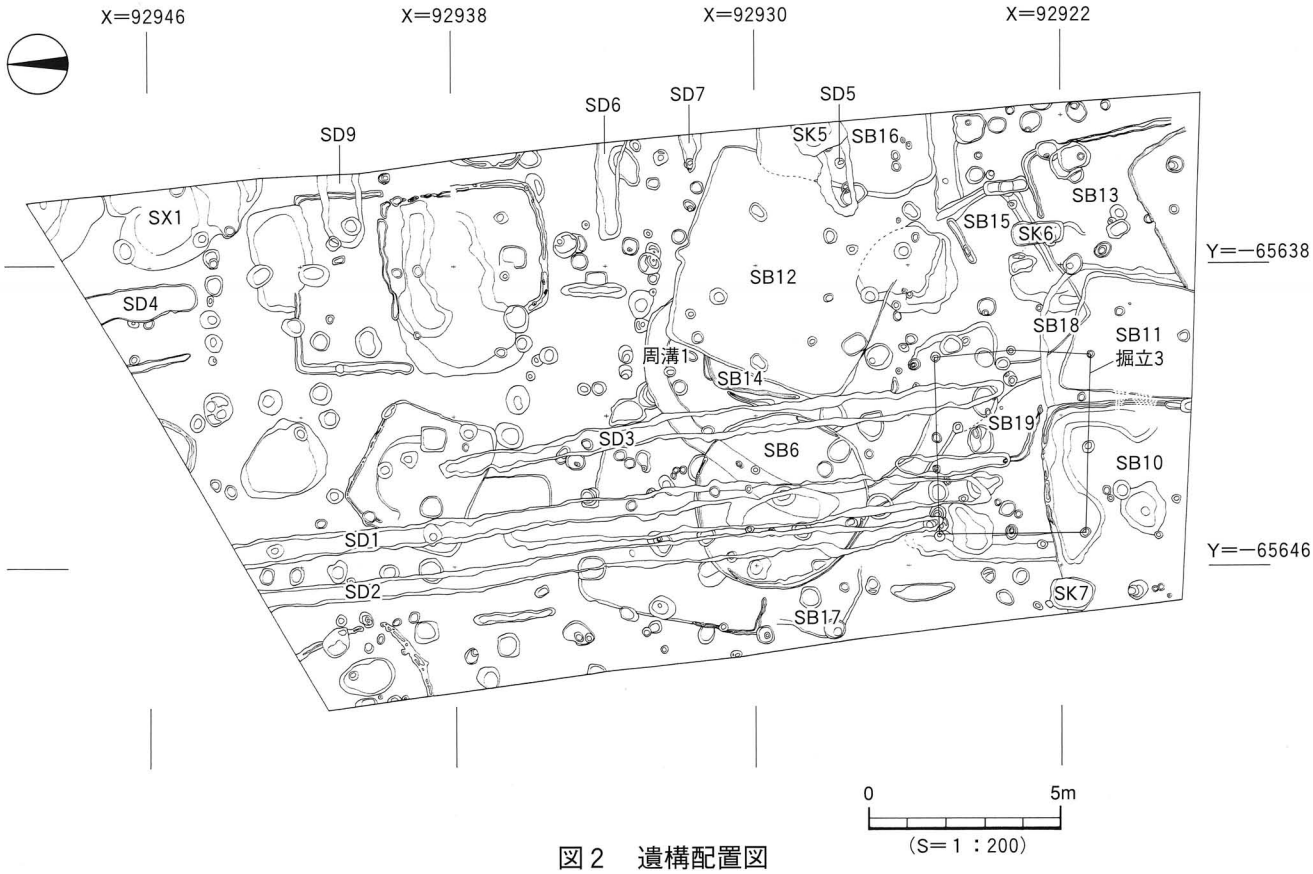
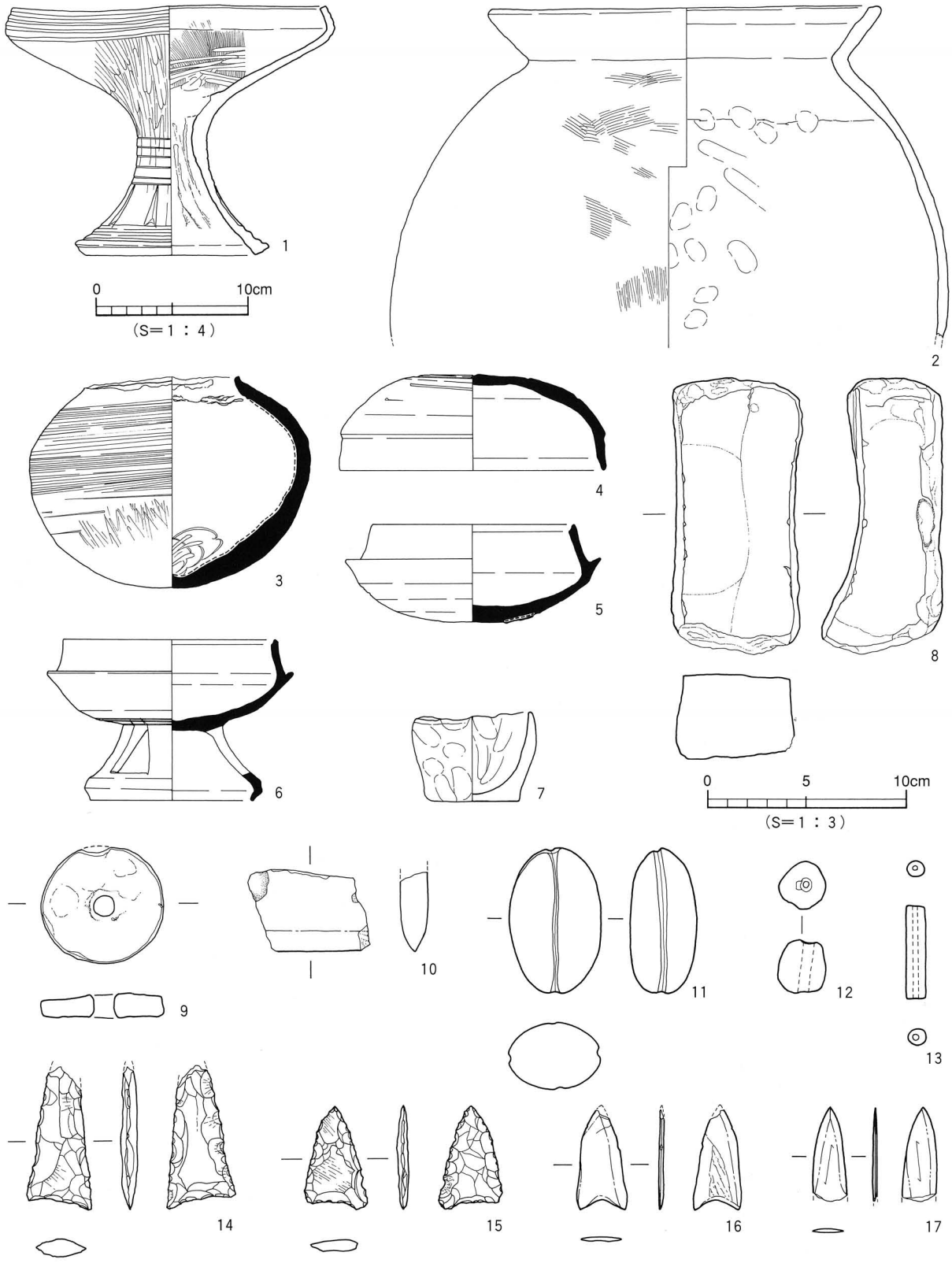



図２　遺構配置図




1　：SB17　　7　：SB 9
2　：SB15　　8・15　：SX 2
3・4・11　：SB12　　9・14　：SX 1
5　：SB 4　　10　：第Ⅳ層
6　：SB11　　12・13・16・17：SB 6

図 3　出土遺物実測図

写真１　遺構完掘状況（北より）

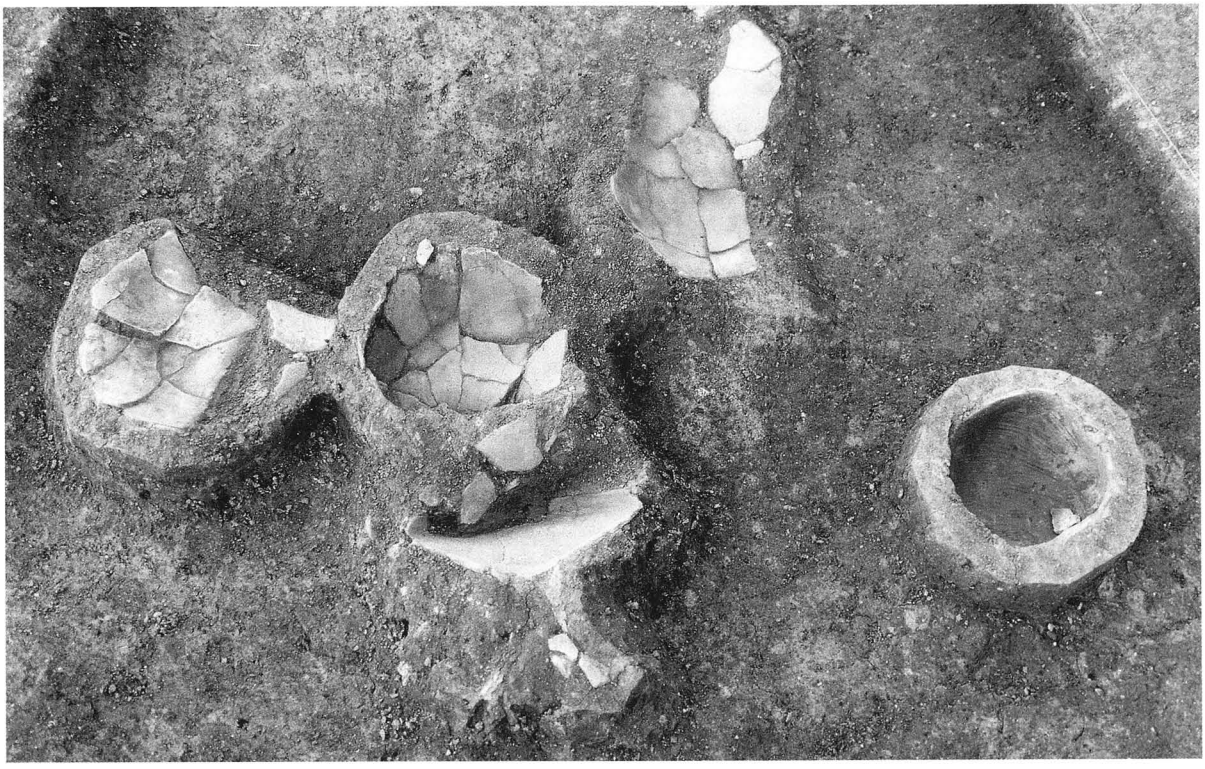


写真２　SB17遺物出土状況（北より）

# 樽味四反地遺跡（たるみしたんじ）11次調査地

所在地　松山市樽味４丁目226番１外
期　間　平成17年３月16日～同年３月31日
面　積　37.25㎡
担　当　加島次郎

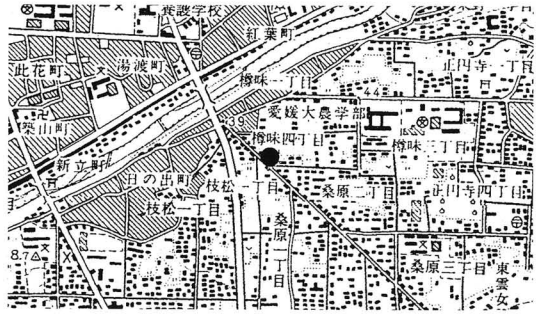


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「№81樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野北東部を流れる石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、以前は宅地であった。周辺における既往の調査では、主に弥生時代前期末・中期後葉～後期中葉・後期終末、古墳時代中期前葉・中期末～後期、古代、中世の生活関連遺構が広く展開することに加えて、古墳時代初頭に当平野を統括していたとみられる大首長の特殊建物群が存在することが新たに確認されるなど、特筆すべき調査知見が相次いで得られている。昨年度には弥生時代中～後期と古墳時代中期前半の竪穴式住居跡の精査過程において、住まいの廃絶時に執行された「うつわ」を用いての埋め戻しを伴う儀礼行為の一端が確認され、野外調査におけるあらたな視点を提示するに至っている。

**遺構・遺物**　本調査の基本層位はⅠ層造成土・現耕作土（層厚37～45㎝）、Ⅱ①層黒色土（層厚８～17㎝）、Ⅱ②層黒色土（炭化物包含。層厚８～10㎝）、Ⅲ層黄褐色土（層厚15㎝以上）である。このうち、Ⅱ層は弥生土器、土師器、須恵器を含む遺物包含層で、出土遺物と近接する既往の調査知見より本層は古墳時代後期～古代までに堆積した可能性が高いと考えられる。検出遺構には溝１条と柱穴７基があり、これらの遺構はⅡ①層上面から構築されていたことを確認している。なお、調査では遺構埋土とⅡ層との識別が平面的には困難であったことからⅡ層の掘り下げを人力にて行ない、Ⅲ層上面にてあらためて精査を試みてから遺構の輪郭を確定した上で調査を進めている。因みに、Ⅲ層上面の地形測量を実施したところ標高37.7～37.6mを測り、本調査地の旧地形が平坦に近いものであったことが判明している。以下では、主要遺構のひとつである古墳時代後期～古代以降に構築された101号溝（SD101）をとりあげてその概要を述べておきたい。

SD101は調査区北半部に位置する円形周溝状の遺構で、遺構の北側は調査区外へ続く。検出面における規模は幅43～35㎝、深さ41㎝を測る。復元すると、直径4.4mを測る円形と想定される。埋土は三層に大別され、上層は炭化物粒を含む黒色土、中層は黒色土、下層は褐色粘質土を含む黒色土である。埋土の断面観察から、この溝は北東方向からの流れ込みによる自然埋没の可能性が高いものと考えられる。なお、溝の断面形は一部で二段掘りを呈するところもあり、溝の機能を考える上で興味深い。出土遺物には弥生土器（甕・壺・高坏）と土師器（高坏）とがあり、いずれも破片資料である。

これらの遺物は、溝が機能した段階に直接伴う可能性は低く、溝の埋没過程で北東方向から流れ込んだ土に包含されていたものとみられ、遺構の帰属時期を特定するには充分な資料ではないと判断される。しがって、溝の帰属時期については構築された面がその判断材料となる。すなわちⅡ①層上面

であることから、溝は少なくとも古墳時代後期～古代以降に帰属する可能性が考えられるのである。

小　結　今回の調査では古墳時代後期～古代以降に構築された生活関連遺構を確認することができた点が最大の成果となり、当該期の遺跡が本調査地まで広がっていたことが明らかとなった。ただし、竪穴式住居跡が未検出であった点は、少なくとも当該期では本調査地が居住域として利用されていないことを示唆するものであり、土地利用を復元する上では興味深い知見となる。検出遺構のうち、SD101については、単に出土遺物だけでなく遺構構築面と総合することにより帰属時期を特定できた。これは現在進行中の室内調査において必要不可欠な視点であり、参考にすべきことである。（加島）

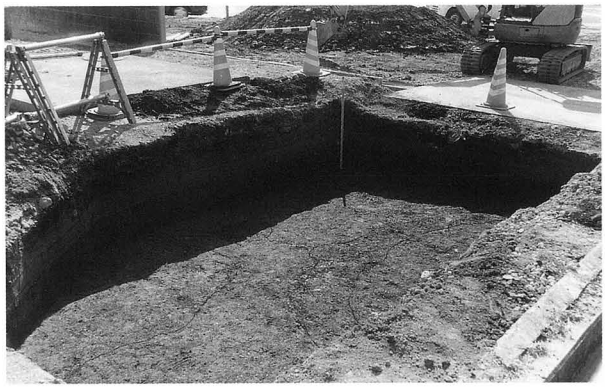


写真１　遺構検出状況（北東より）

写真２　遺構完掘状況（西より）

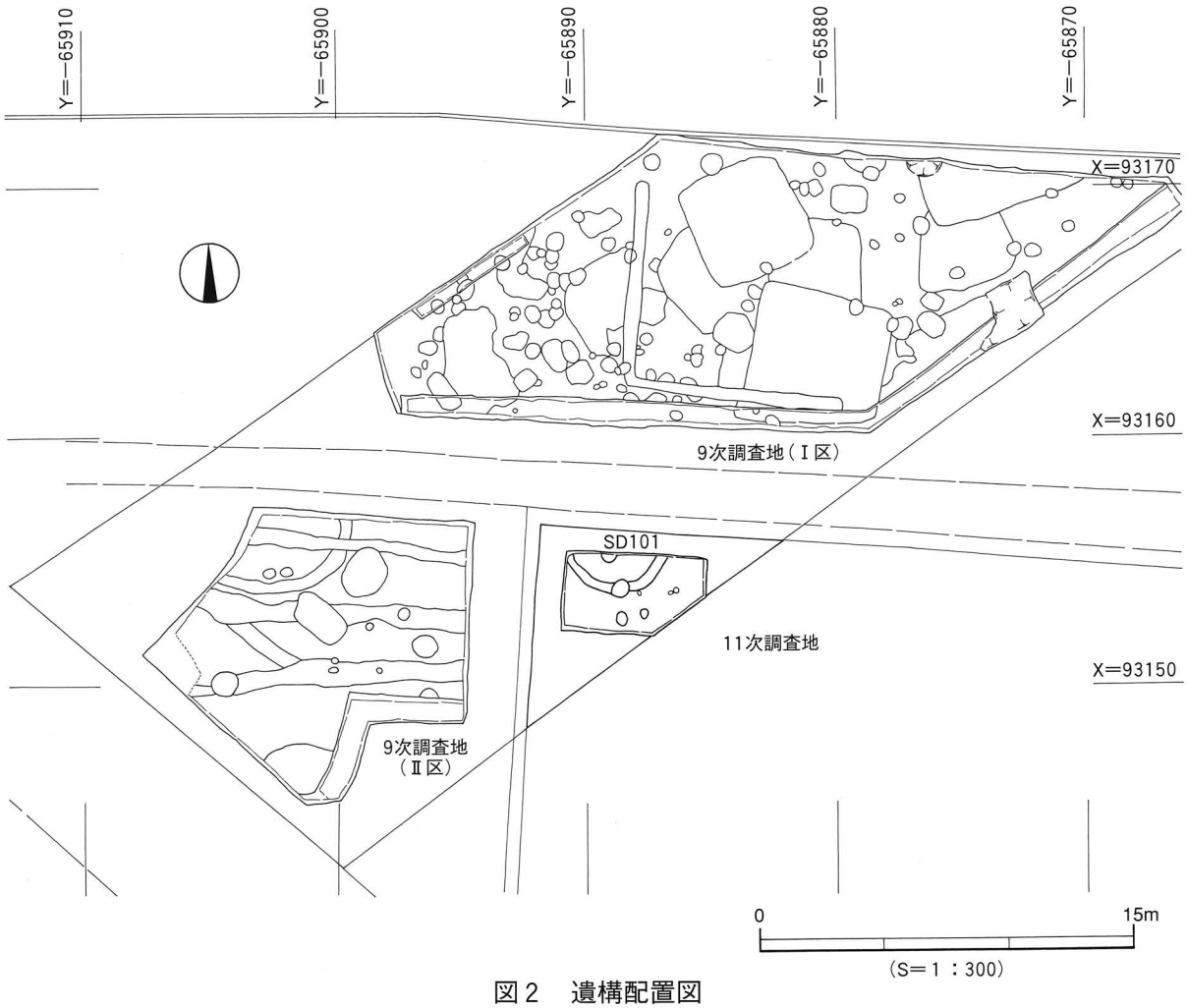



図２　遺構配置図

# 樽味四反地遺跡12次調査地（たるみしたんじ）

所在地　松山市樽味４丁目228番３
期　間　平成17年10月17日～同年12月26日
面　積　201㎡
担　当　宮内慎一・相原秀仁

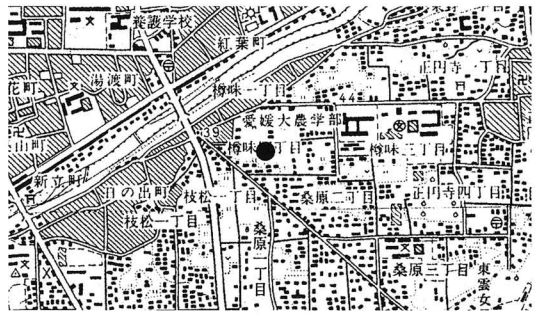


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、樽味地区における重要遺跡確認調査である。調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.81樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上標高39.2mに立地し、調査以前は既存宅地であった。周辺では、樽味四反地遺跡６次調査地（平成10年度調査）と同８次調査地（15年度調査）から弥生時代終末から古墳時代初頭に時期比定される大型建物址をはじめ、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されており、本調査地は８次調査地の南側に隣接する。

**遺構・遺物**　基本層位は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土（層厚５～10㎝）、第Ⅲ層灰褐色土（層厚10～15㎝）、第Ⅳ層暗灰褐色土（層厚10～15㎝）、第Ⅴ層黒褐色土（層厚10～15㎝）、第Ⅵ層黒色土（層厚15～20㎝）、第Ⅶ層黄色土（遺構検出面）である。検出遺構や出土遺物から、第Ⅳ層は古代、第Ⅴ層は古墳時代、第Ⅵ層は弥生時代後期までに堆積したものと考えられる。検出した遺構は、竪穴式住居址１棟、掘立柱建物址1棟、溝１条、土坑２基、ピット49基である。遺構の時期は弥生時代と古墳時代とに大別される。遺物は遺構及び包含層中から弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄器、玉類（臼玉）のほか、分銅形土製品２点、軟質土器片が出土した。以下では、注目すべき遺構をとりあげて概要を説明する。

弥生時代中期：SK１は調査区南西隅で検出した円形土坑で東側は掘立１柱穴に切られ、南側は調査区外に続く。規模は東西長3.4m、南北検出長3.2m、深さ20～25㎝を測る。断面形態は逆台形状を呈するが、西側壁体は比較的緩やかに立ち上がる。遺物は埋土中より、弥生土器、石器のほか分銅形土製品が１点出土した。

古墳時代後期：SB１は調査区東側で検出した方形住居址で西側は掘立１柱穴に切られる。規模は東西長7.80m、南北長6.40m、壁高は26～32㎝を測る。SB１は建替が施された住居址であり、建替前（構築時）の規模は東西長6.80m、南北長5.90m、壁高10～14㎝を測る。住居址内からは土師器、須恵器、石器、鉄器のほか滑石製の臼玉や軟質土器片が出土した。

**小　結**　今回の調査では、弥生時代中期から古代までの遺構、遺物を確認することができた。

弥生時代から古墳時代かけては、調査地周辺において多数の集落関連遺構や遺物が確認されており、今回の調査結果は該期の集落が調査地南方に展開していることを示唆するものとなった。また、包含層中からではあるが、完形に近い土師器坏が出土しており、古代においても当地に集落が経営されていたことを物語る資料である。（相原）

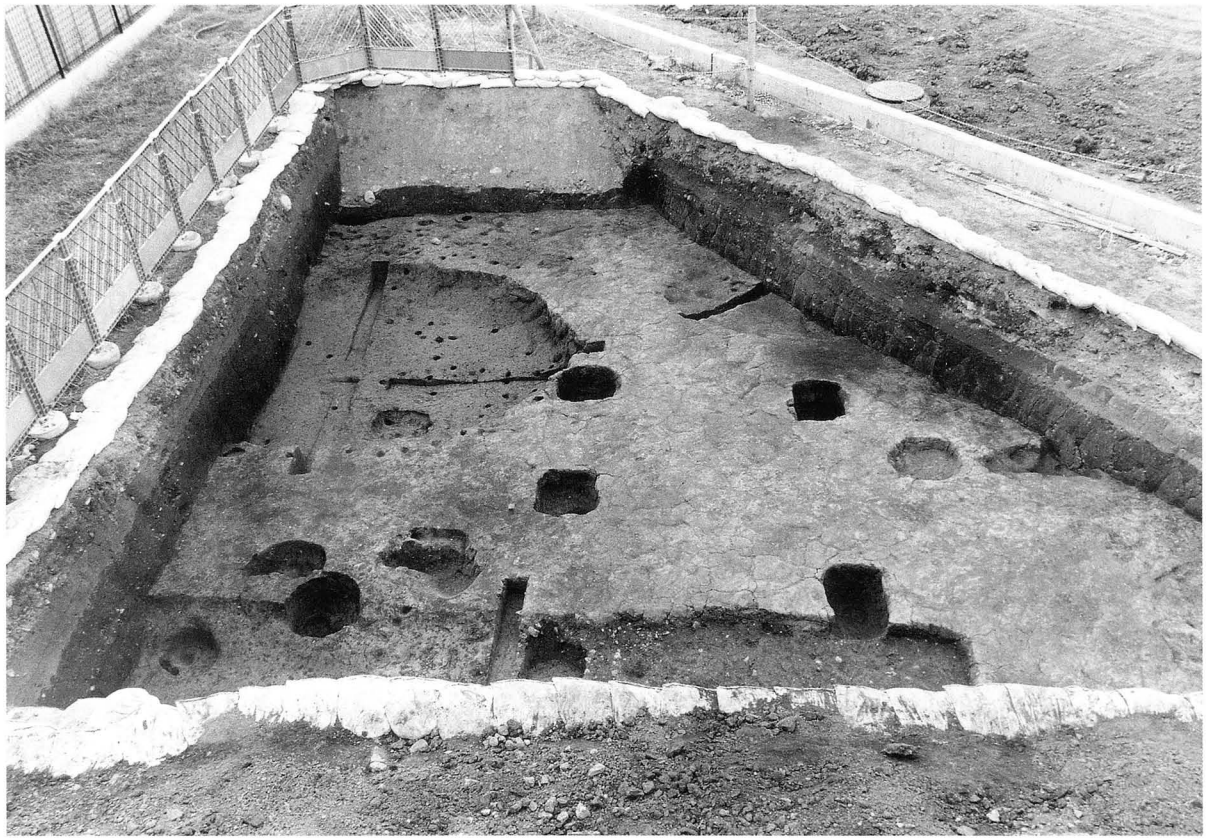


写真１　西半分完掘状況（東より）

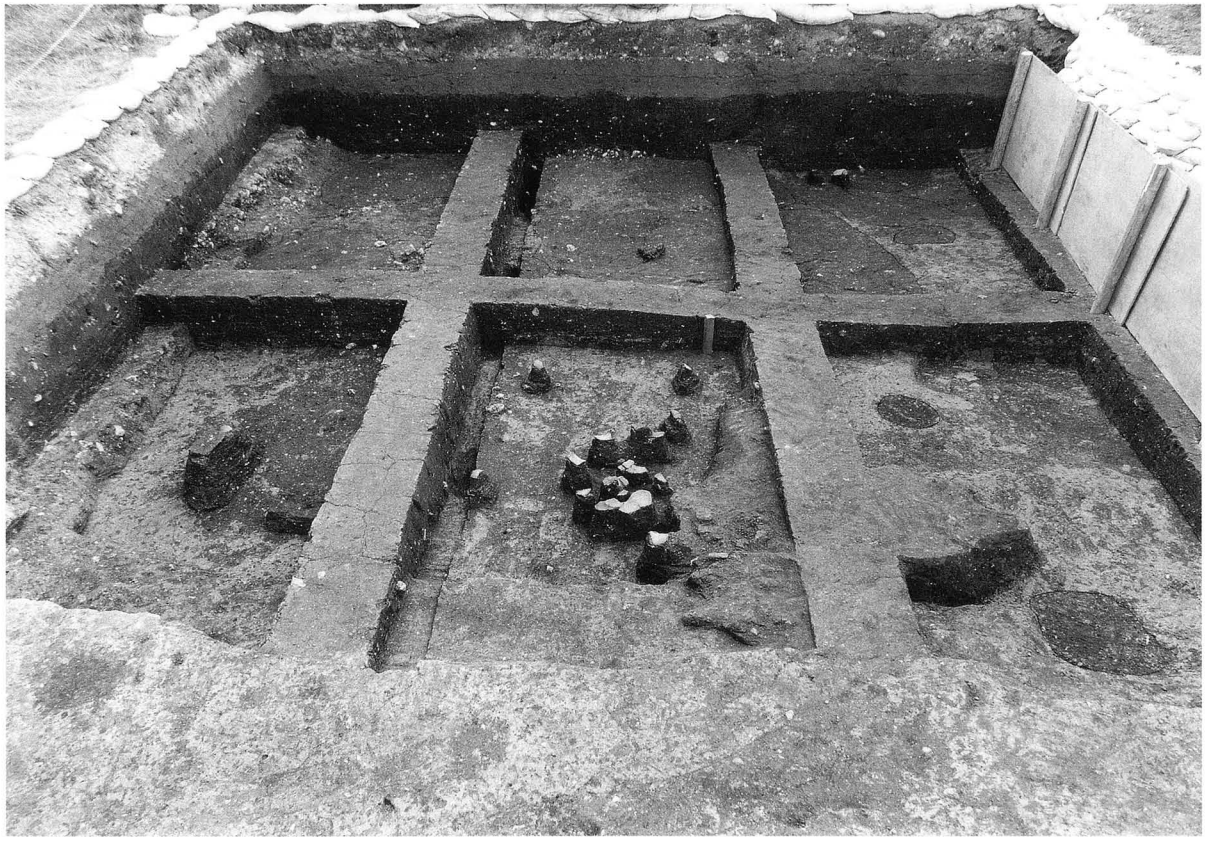


写真２　東半分完掘状況（北より）

# 樽味四反地遺跡（たるみしたんじ）13次調査地

所在地　松山市樽味４丁目231番１
期　間　平成17年11月１日～平成18年３月30日
面　積　820㎡
担　当　宮内慎一・相原秀仁

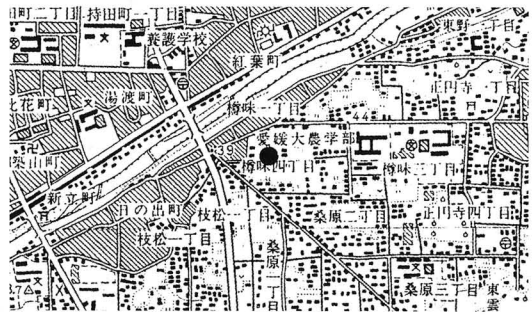


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、樽味地区における重要遺跡確認調査である。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上標高39.2mに立地し、調査以前は水田であった。周辺では、樽味四反地遺跡６次調査地（平成10年度調査）と同８次調査地（15年度調査）から弥生時代終末から古墳時代初頭に時期比定される大型建物址をはじめ、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されており、本調査地は６次調査地の西側に隣接する。

**遺構・遺物**　基本層位は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層灰色土、第Ⅳ層灰褐色土、第Ⅴ層暗灰褐色土、第Ⅵ層黒褐色土、第Ⅶ層黒色土、第Ⅷ層黄色土（遺構検出面）、第Ⅸ層黄褐色土である。検出遺構や出土遺物から、第Ⅳ層は古代、第Ⅴ層は古墳時代から古代、第Ⅵ層は古墳時代、第Ⅶ層は弥生時代後期までに堆積したものと考えられる。検出した遺構は、竪穴式住居址11棟、大型建物址1棟、掘立柱建物址１棟、溝７条、土坑10基、ピット320基である。遺構の時期は弥生時代と古墳時代とに大別される。遺物は遺構及び包含層中から弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦、石器、鉄器、玉類（臼玉）、軟質土器のほか、分銅形土製品１点、絵画（先刻）土器３点、種子、動物依存体（骨）が出土した。

弥生時代前期：SK４は調査区中央部北寄りで検出した方形土坑で、規模は一辺1.0～1.1m、深さ30㎝を測る。断面形態は逆台形状を呈するが、西側壁体は一部袋状となる。埋土は粘性の強い黒色土単層である。遺物は埋土中より弥生土器片と少量の炭化物が出土した。

弥生時代中期：SD２は調査区中央部で検出した北東－南西方向の溝である。SD２は樽味四反地遺跡６次調査（平成10年度調査）検出の溝SD001の延長部分である。溝中央部はSB９（古墳時代中期後半）に切られ、溝東端部及び西端は調査区外に続く。規模は幅0.80～1.50m、深さ５～30㎝を測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は３層に分層され、上層は褐色土、下層は黒色土と黒褐色土（黄色土混入）の２層である。調査区西壁の土層観察により、掘り直し（再掘削）が施された溝であることが判明した。下層からは弥生時代中期後半に時期比定される土器片径10～20㎝大の円礫が出土し、上層からは弥生時代末から古墳時代初頭の土器片が出土した。このうち、下層出土品には分銅形土製品が１点含まれる。これらのことから、SD２は弥生時代中期後半に掘削され、溝が埋没した後、弥生時代末頃に同じ位置で再度、掘削されたものと考えられる。

弥生時代後期：SB２は調査区南東部で検出した方形住居址で東側はSB10（古墳中期前半）に切られ、北側は大型建物址柱穴に切られている。規模は東西長５.00m、南北長４.50m、壁高は20～25㎝を測る。埋土は２層に分層され、上層は黒色土、下層は黒色土（黄色土混入）である。住居址床面中

央部にて炉址を検出した。平面形態は楕円形を呈し、長径1.25m、短径0.90m、深さ20cmを測る。遺物は埋土中より弥生土器片が出土した。

古墳時代前期：大型建物址は調査区南西部で検出した。南北６間（10.6m）、東西５間（9.6m）を測る総柱建物址で、建物方位は真北よりやや西に振っている。建物を構成する柱穴の一部はSB４（弥生時代後期後半）、SB２（弥生時代末）の壁体を切り、SB３（古墳時代中期後半）掘り下げ後の床面にて検出された。建物西側及び南側は調査区外に続く。調査では36基の柱穴を検出した。側柱を構成する柱穴は平面形態が隅丸長方形を呈しており、さらに建物東側と西側の側柱は東西に長い長方形、建物北側と南側の側柱は南北に長い長方形を呈している。規模は径90～120cm、深さ45～55cmを測る。なお、柱穴は建物内側部分がテラス状となっており、柱抜き取りの際の掘り方ではないかと推測される。柱穴の埋土は黒褐色土（黄色土混入）である。２基の柱穴で柱痕を検出した。柱痕規模は径20cm前後である。一方、束柱を構成する柱穴は、平面形態が円形～楕円形を呈しており、規模は径35～45cm、深さ25～45cmを測る。柱穴の埋土は黒色土（黄色土混入）である。１基の柱穴で柱痕を検出した。柱痕規模は径15cmである。遺物は20基の柱穴内から弥生土器片、土師器片が出土した。とりわけ、甕形土器の胴部片（タタキ調整あり）が数多く出土している。

古墳時代中期：SB９は調査区北側で検出した住居址でSB11と重複し、住居址南側は溝SD２を切っている。調査当初は1棟の住居として埋土の掘り下げや遺物の取り上げをおこなっていたが、調査終盤になり建替が施された住居であることが判明した。建替前の平面形態は、東西にやや長い長方形を呈し、規模は東西長8.5m、南北長6.4m、深さ10～20cmを測る。埋土は２層に分層され、上層は黒褐色土、下層は黒褐色土（黄色土混入）である。主柱穴は４本と考えられ、柱穴の平面形態は楕円形を呈し、規模は径50～60cm、深さ30～40cmを測り、柱穴掘り方埋土は黒褐色土（黄色土混入）である。建替は北側への拡張と考えられ、南北長が建替前よりも約１m長くなっている。建替後の住居址埋土は黒褐色土である。住居址床面北西部と南西部にて、幅0.70cm、長さ２m前後、深さ25～30cmの溝状遺構を検出した。溝埋土は黒褐色土である。このほか、床面にて大小10数基のピットを検出した。ピット埋土には黒褐色土と黒褐色土（黄色土混入）の２種類がある。建替前及び建替後の住居址北壁付近には、50×60cmの範囲に焼土塊を検出したが、おそらく竈の残骸ではないかと推測される。遺物は住居址南東部の埋土中位付近から、ほぼ完形の須恵器坏身が２点と埋土中より土師器片や須恵器片、臼玉（滑石製）、紡錘車が出土した。また、埋土中より分銅形土製品が１点出土した。

小　結　今回の調査では、弥生時代から古墳時代までの遺構、遺物を確認することができた。弥生時代では前期の土坑が検出されたことから、前期集落が樽味地区西部域に存在する可能性を示す資料である。中期では、溝SD２があげられる。樽味四反地遺跡６次調査（平成10年度調査）で検出した溝SD001の延長部であるが、今回の調査で、溝が弥生時代中期後半に掘削され、弥生時代末に再掘削されたことが新たに判明した。古墳時代では前期の大型建物址が注目される遺構である。今回検出した大型建物址は、樽味四反地遺跡６次調査地（平成10年度調査）、同８次調査地（平成15年度調査）に続き樽味地区において３例目となる。３棟が同時期に併存していたか、時期を隔てて存在していたかは今後の議論の焦点となる。古墳時代中期では、９棟の竪穴式住居址を検出した。このうち、SB９は一辺８mを超える大型住居址である。本住居址は平野内では最大規模のものである。住居内からは軟質土器片や非陶邑系須恵器片が出土しており、渡来系の人々にかかわる住居の可能性も考えられる。本住居址を含め、古墳時代における渡来人との関係を追及する必要がある。（相原）

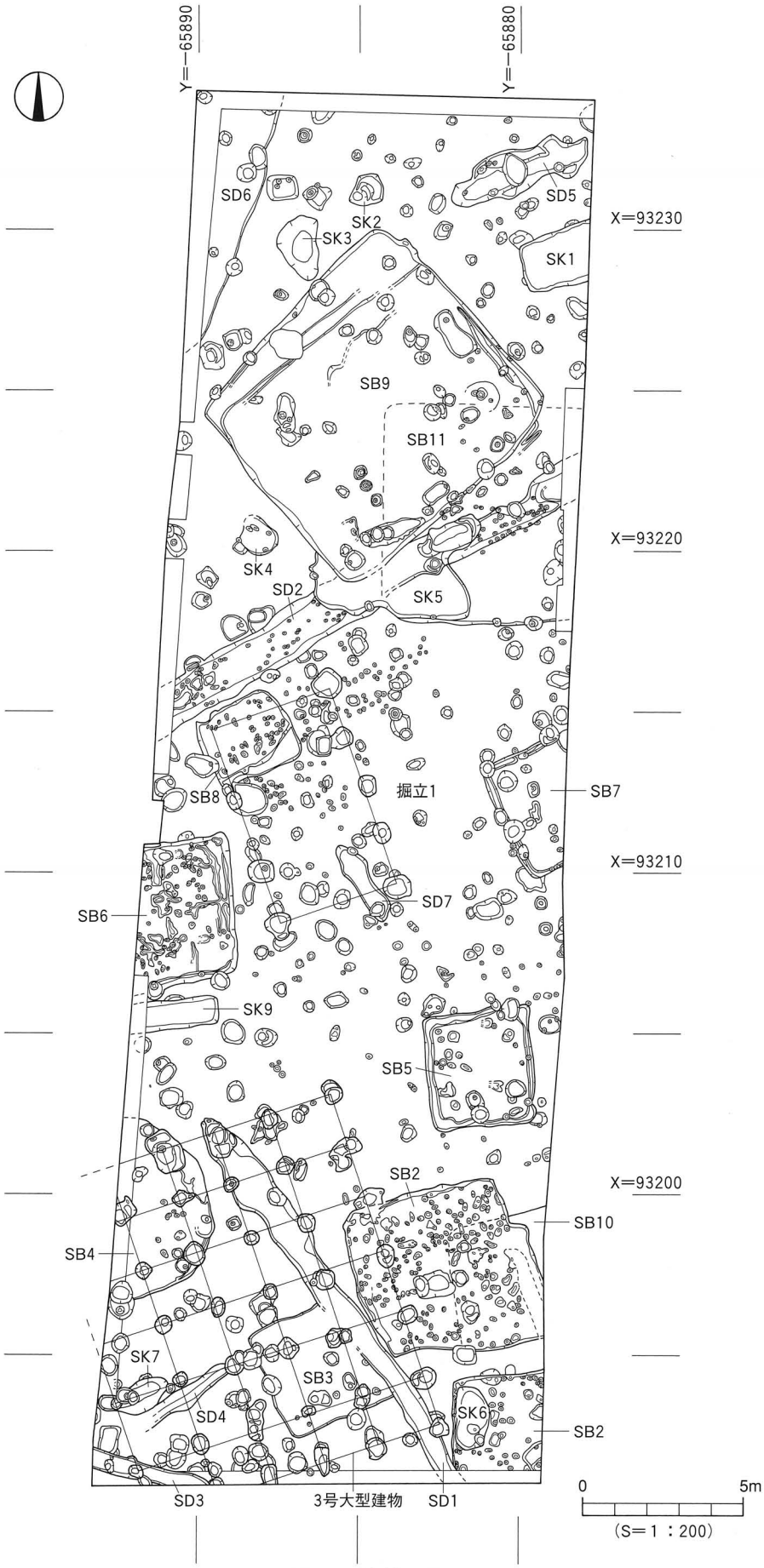

Y=65890
Y=65880
X=93230
X=93220
X=93210
X=93200
SD6
SD5
SK2
SK3
SK1
SB9
SB11
SK4
SD2
SK5
SB8
掘立1
SB7
SB6
SD7
SK9
SB5
SB2
SB10
SB4
SK7
SB3
SD4
SK6
SB2
SD3
3号大型建物
SD1
0
5m
(S=1：200)

図２　遺構配置図

写真１　SB９完掘状況（北東より）

写真２　南西部完掘状況（北東より）

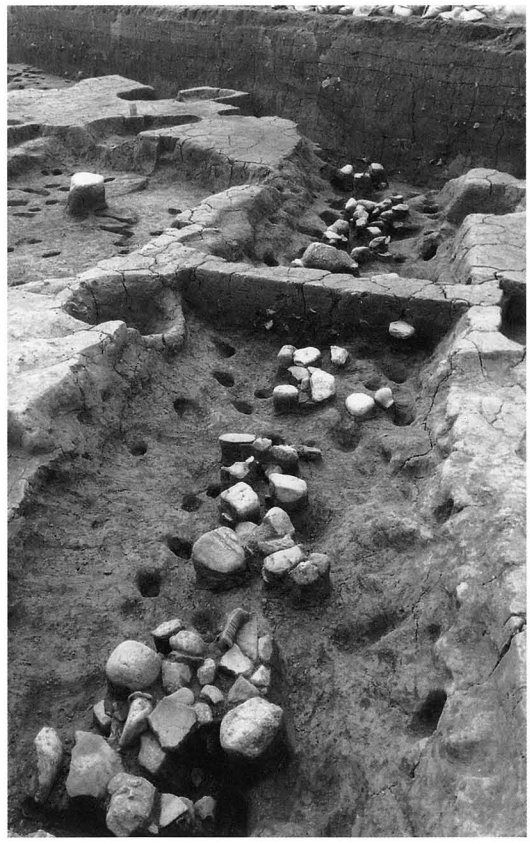


写真３　SD２遺物出土状況（北東より）

# 樽味（たるみ）地区（ち く）確認調査（Ａ～Ｇ区）

所在地　松山市樽味４丁目228－４の一部、外６筆
期　間　平成16年３月１日～平成17年11月14日
（15年度：Ａ～Ｃ区、16年度：Ｄ～Ｆ区、
17年度：Ｇ区）
面　積　約180㎡（全７調査区合計）
担　当　田城武志〈Ａ～Ｄ区〉・西村直人〈Ｅ～Ｇ区〉
（文化財課）

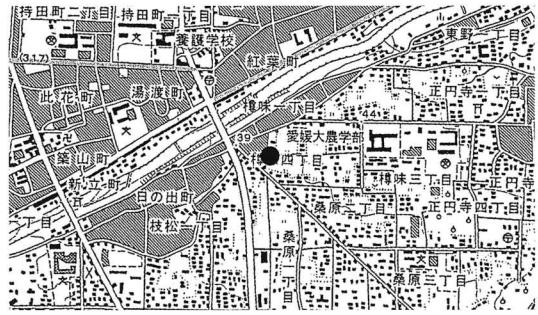


図１　調査地位置図

**経　過**　平成10年及び平成15年、樽味四反地遺跡６次・８次調査地において、弥生時代終末から古墳時代前期初頭にかけての２棟の「大型掘立柱建物跡」が検出された。そこで、この件につき文化庁、愛媛県教育委員会及び有識者に遺跡の学術的評価、及び今後の調査方針について指導を仰いだところ、「極めて重要な遺構であるため、周辺における継続的な調査が必要である」との指摘があった。これを受けて文化財課では、平成15年度より国庫補助を受け、遺跡群の広がり等を明らかにすることを目的とした、「埋蔵文化財取扱いのための事前確認調査（重要遺跡確認調査）」を実施することとなった。なお、調査箇所は全６箇所であり、それぞれ調査時期順にＡ～Ｇの区名を冠し、方法はトレンチ調査に拠った。各トレンチは全区にわたり通し番号を付した。

**遺構・遺物**　調査地は、石手川による扇状地の低位段丘面上に立地し、周辺では主に弥生時代中期後葉から中世にかけての遺跡が数多く確認されている。中でも前述した２棟の「大型掘立柱建物跡」は、当地における求心的な権力の存在を示唆するものとして注目を浴びており、それを裏付けるかのように、韓半島との関連を示す遺物や儀礼及び祭祀的な遺物等も数多く出土している。

基本層序は、少差こそあるものの、全区を通じ、概ね上部より第Ⅰ層：耕作土、第Ⅱ層：床土、第Ⅲ層：灰黄褐色土、第Ⅳ層：黒褐色土、第Ⅴ層：黒色土、第Ⅵ層：にぶい黄橙色～褐色土の６層である。この内、遺物包含層は第Ⅲ～Ⅴ層で、出土遺物より、第Ⅲ層は中世以降、第Ⅳ層は古墳時代後期～古代頃、第Ⅴ層は弥生時代中期後葉～古墳時代後期頃を中心とした堆積層と考えられる。

遺跡群の範囲確認が目的であることから、原則的に遺構検出に止めたため、遺構内の遺物は概ね未検出であるが、包含層との比較から、埋土が灰色の遺構は中世以降の遺構、黒褐色の遺構は古墳時代後期～古代、黒色の遺構は弥生時代～古墳時代中期頃にほぼ比定すると考えられる。

【Ａ区】第Ⅳ層、第Ⅵ層が確認されたものの、いずれの上面においても遺構は検出されなかった。第Ⅴ層は確認されなかった。遺物は第Ⅳ層から僅かに土器小片を数点出土したものの、小片ばかりであったため、詳細な時期の比定は困難であった。

【Ｂ区】第Ⅳ層の上面において遺構は検出されず、僅かに上面から少量の土器小片を出土したのみであった。第Ⅵ層上面において黒褐色土を埋土とする南北に延びる幅130㎝、深さ32㎝の溝状遺構を確認したが、遺物は出土しなかった。また、第Ⅴ層は確認されなかった。

【Ｃ区】第Ⅳ層、第Ⅴ層の上面では遺構は検出されなかったものの、下層の第Ⅵ層において遺構を検出した。Ｔ３東部において溝１条、西部おいて竪穴住居址１棟、Ｔ４北部において真北方向に並ぶ柱穴３基、溝２条を確認した。竪穴住居址のほぼ中央部からは焼土等を検出した。埋土はＴ３の弥生時

図２　調査区位置と周辺調査地

代後期の複合口縁壺が出土した黒色埋土の溝以外は黒褐色であった。

【D区】遺構は第Ⅳ層上面において検出された。Ｔ５において、東西方向の溝１条、土坑１基、柱穴５基、Ｔ６において東西方向の溝２条、柱穴３基、Ｔ７において東西方向の溝１条を確認した。全体として遺構の遺存状況は、西に多く、東に少ない。区内全トレンチにおいて検出された溝は一連のものと考えられ、埋土は黒色を呈し、最大幅150㎝、最深70～80㎝を測る。埋土中より弥生時代後期の土器を出土した。

【E区】遺構は第Ⅳ層上面において検出された。Ｔ８において柱穴を３基、Ｔ９において柱穴を1基、Ｔ10において柱穴を５基、住居址を２基検出した。遺構埋土はＴ10の２基の柱穴（SP-e07、SP-e08）が黒褐色である以外は、黒色ものである。遺物は包含層より弥生土器（中期後葉～）、土師器、須恵器、中世土師器、石製品が出土した。

【F区】遺構は第Ⅵ層上面において検出された。Ｔ11において柱穴を８基、土坑を１基、住居址を２基、溝を１条検出した。また、Ｔ12において柱穴を12基、溝を１条、Ｔ13において柱穴を３基、溝を１条、住居址を１基検出した。中でも、Ｔ11及びＴ12で検出された溝は、樽味四反地遺跡６次調査で検出された溝に連続するものである。遺物包含層は第Ⅲ～Ⅴ層が認められ、遺物は包含層より弥生土器、土師器、須恵器、軟質土器、サヌカイトの未製品等が出土した。詳細については、「樽味四反地遺跡13次調査地」の報告を参照して頂きたい。

【G区】遺構は第Ⅳ層上面及び第Ⅵ層上面において検出された。Ｔ14において、住居址１棟、溝１条、柱穴20基、Ｔ15において、柱穴３基（第Ⅳ層）、柱穴６基（第Ⅵ層）、Ｔ16において、柱穴１基

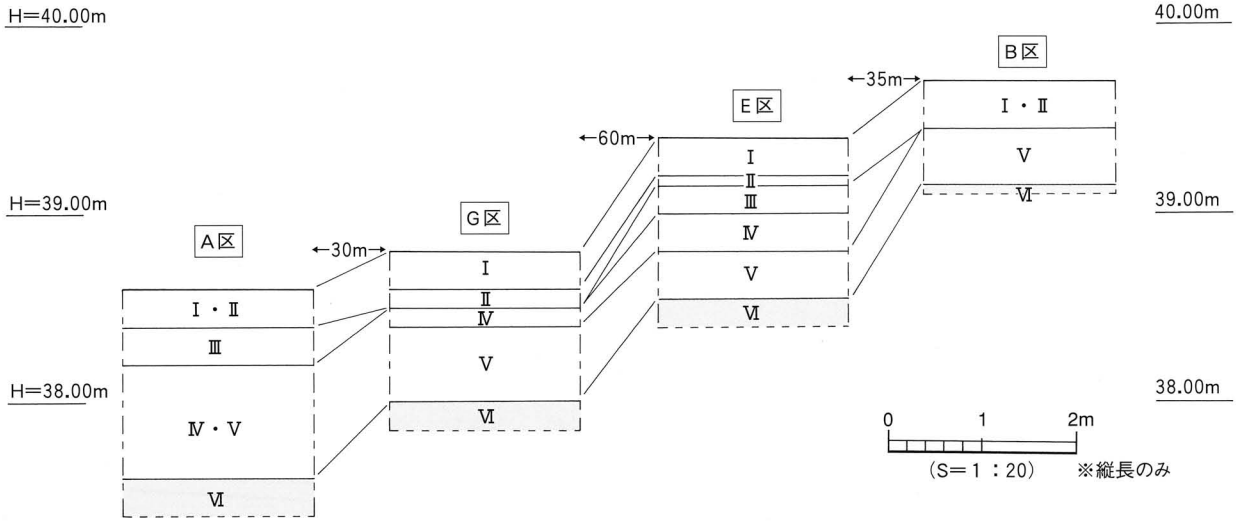



図3　A～G～E～B区　土層堆積変化図

（第Ⅳ層）、柱穴４基、溝２条（第Ⅵ層）を検出した。主な遺構としては、黒褐色埋土のSP-ｇ06・10・17が挙げられ、いずれも径約70～100㎝の平面隅丸方形の大型柱穴である。遺物は、包含層より弥生土器、土師器、須恵器が出土した。また、T16のSP-ｇ30は平面隅丸方形の径約130㎝の大型遺構であるが、恐らくその位置関係から、樽味四反地遺跡８次調査地で確認された「大型掘立柱建物跡」の北西隅の柱穴と考えられる。遺物は、包含層より弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

小　結　３ヶ年にわたる調査により、次のような成果が得られた。第一には、以前から大型掘立柱建物跡の西側では遺構密度が希薄になることが指摘されていたが、A区の調査によって、より明確となったこと。第二には、樽味高木遺跡２次調査及び樽味四反地遺跡６次調査において高密度で検出された住居址がB区及びE区の東側においては検出されなかったことから、この辺りが密集地の東限となる可能性があること。第三には、G区で検出された、ほぼ東西方向に直線状に並ぶ平面隅丸方形の３基の大型柱穴は、別の大型掘立柱建物跡の可能性を示唆するものであること。今後は、周辺において詳細な調査をする機会を得て、更なる検討を進めていく必要がある。（西村）

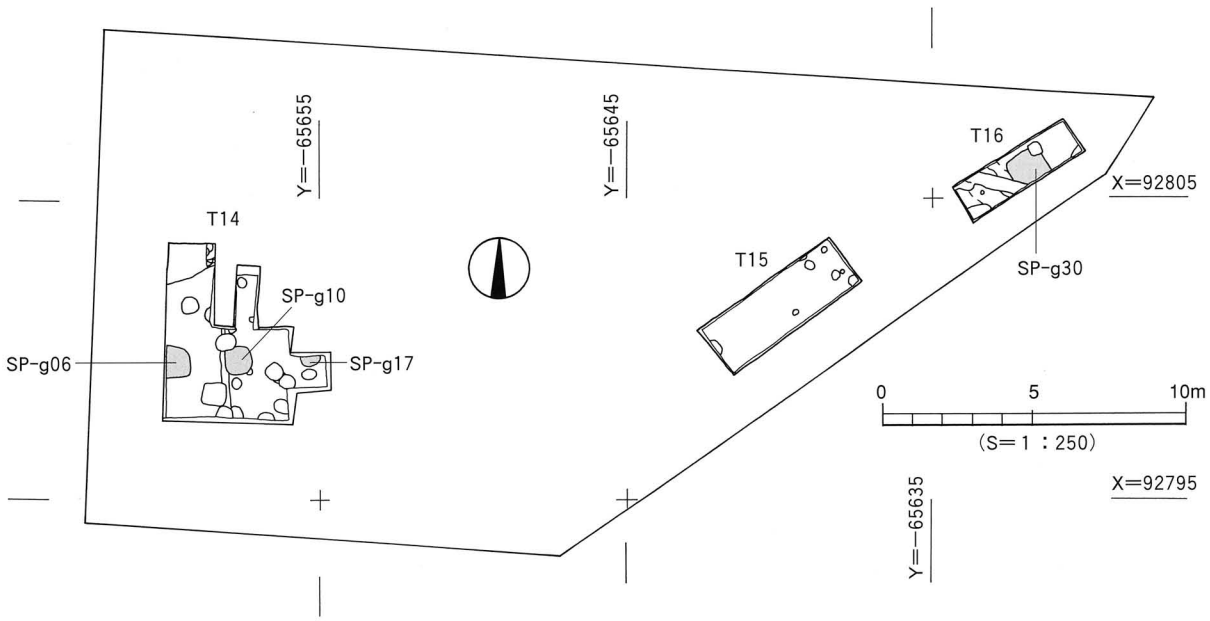



図4　G区トレンチ及び遺構配置図

写真１　G区トレンチ14遺構検出状況（東より）

写真２　G区トレンチ16遺構検出状況（西より）

写真３　G区トレンチ16大型掘立柱建物址柱穴（SP-g30）検出状況（東より）

# 東石井遺跡３次調査地（ひがしいしいい）

所在地　松山市東石井５丁目295番　外
期　間　平成18年１月23日～同年２月９日
（野外調査）
面　積　90.14㎡
担　当　髙尾和長・加島次郎

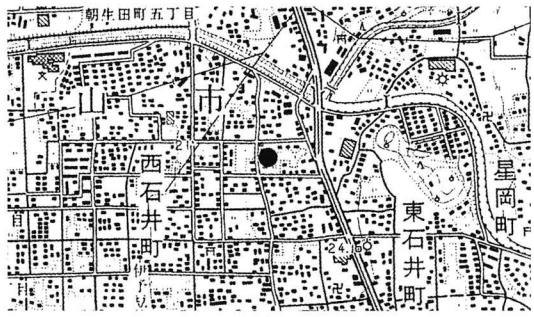


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地「No.119　西石井遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前の発掘調査である。包蔵地内では、西石井荒神堂遺跡１～３次調査地、石井幼稚園遺跡１・２次調査地などがあり、弥生時代から中世にかけての遺構や遺物が多数検出されている。

**遺構･遺物**　調査地は、松山平野南部、石手川の支流である小野川と重信川の支流である内川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、標高は20.90mを測る。調査以前は水田として使用されていた。

基本層位は、７層の土層を確認した。Ⅰ層は灰色土である。調査区全域で検出した。Ⅱ①層は褐灰色土調査区全域で検出した。Ⅱ②層は明赤褐色土に褐灰色土が混じる。調査区全域で検出した。Ⅲ層は明黄褐色土である。Ⅰ区南西からⅡ区、Ⅲ区全域で検出した。Ⅳ層はにぶい黄褐色土に黒褐色土ツブ混じりである。調査区全域で検出した。Ⅳ層上面が遺構検出面となる。Ⅴ層はにぶい黄褐色砂質土Ⅰ区の南壁深堀トレンチとⅡ区北壁トレンチで検出した。Ⅵ①層は黄灰砂質土、Ⅵ②層は黄灰砂質土Ⅵ①層より砂が細かい。Ⅶ層オリーブ黒色砂質土。Ⅵ・Ⅶ層はⅠ区南西トレンチで検出した。

調査では、弥生時代から近世までの遺構と遺物を検出した。検出した遺構には、弥生時代後期の土坑（SK101）と、中世の溝（SD101･102･103）、柱穴（SP）がある。遺物では、高坏形土器、石包丁、支石、鉄滓がある。

**小　結**　旧地形：遺構検出面の測量と南側トレンチの土層堆積状況から、東から西に緩やかに傾斜し、西側は砂層が隆起しており不安定な堆積状況である。調査区の東側が安定した地形であり遺跡が広がっている可能性が高いと思われる。

遺構：弥生時代では、SK101からは弥生時代後期の土器が出土し、土坑と同じ黒褐色土の埋土を持つ柱穴をⅠ区東部から20基検出した。中世では、Ⅰ区から溝３条、Ⅱ区から溝１条、Ⅲ区から柱穴11基を検出した。

遺物：弥生時代の遺物では、高坏形土器があげられる。高坏形土器は、SK101内から７個体分が出土し１つの土坑としては出土量が多い。

中世の遺物では、SP310から出土した石には、受熱による破損、変色、炭化物の付着がみられる。これは、土鍋や三足がつかない羽釜を使用する際に、支石として用いられていた可能性を示唆するものである。このような出土例は、松山市樽味に所在する樽味遺跡２次調査地がある。

今回の調査により、東石井遺跡３次調査地が弥生時代後期から中・近世にかけての複合遺跡であることが判明した。また、弥生時代後期から中世の遺跡が西石井遺跡から荒神堂遺跡、東石井遺跡３次調査地までの北側に800m、大きく広がることが明らかになった。（髙尾）

写真１　遺構完掘状況（南より）

写真２　SK101遺物出土状況（南より）

# 葉佐池（はざいけ）古墳３次調査

所在地　松山市北梅本町甲2455番地
期　間　平成18年２月１日～同年２月28日
面　積　40㎡
担　当　栗田茂敏

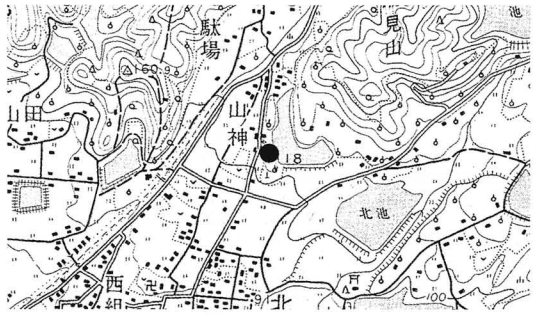


図１　調査地位置図

**経　過**　葉佐池古墳では、平成４年の不時の発見以来、平成５年から平成６年にかけて実施した１次調査、また平成８年から平成９年の間実施された２次調査により多大な成果が上がっている。１次調査では、発見の契機となった１号石室の調査とともに墳丘の調査を、２次調査では同一墳丘内に存在する２号石室の調査を行った。その成果については、平成14年度刊行の報告書に詳しいので割愛するが、墳丘形態・規模については全長50mを越える前方後円形と推定されることが報告されている。この古墳は標高約120mの独立丘陵上に築かれているが、果樹園として造成された際、あるいはそれ以前に盛土がかなり流失したものと考えられ、また、丘陵南半に存在する墓地によっても旧地形がかなり改変されているのが現況である。盛土の遺存状況や地山整形痕から、墳形は北に後円部、南に前方部を持つ前方後円形であり、前方部の一部が、松山市有地の範囲を越え、墓地にまでひろがっていると推定された。しかしながら、報告されたように、丘陵上に築かれたという立地上の制約もあって、墳丘は精美な形態の前方後円形にはならず、全長も推定の域を出ていない。数々の貴重な情報を持つ２基の横穴式石室をはじめとする埋葬施設や祭祀痕を内包していながら、不確定要素の強い墳丘の規模や形態の現状では、古墳としての総合的な評価が下しにくいというのが現在の葉佐池古墳の置かれた状況である。したがって、墳形・規模をより確度の高いものにすることを目的に、再度、墳丘確認調査を実施することとなった。

**遺構・遺物**　１次調査において、墳丘が松山市有地内だけではおさまらず、さらに南の墓地にまで延びると判断したことにはいくつかの理由があるが、市有地内の最南端に設けたトレンチ、T28において盛土と考えられる土層が確認されたこと、さらに東側くびれ部に設けたＺ調査区の南端においてこれも盛土と判断される土層がさらに南へ続く様相が確認されたことが大きな理由のひとつであった。そこで、今年度はT28の土層を再確認し、必要に応じて、未掘であったこのトレンチ周辺に調査区を設定し、また地区の許可を得て、市有地外の墓地内で掘削可能な部分にもトレンチを設定して掘削することとした。

T28の土層を確認した結果、墳丘の各所で盛土として用いられる明橙色微粒土など、１次調査で盛土と判断した土層を再確認した。しかし、５m東の墳丘長軸ラインのT17では表土直下で地山の岩盤が検出されており、このT28検出の土層のひろがりと地山との関係を明らかにしておく必要があると判断し、T28とT17との間のエリア、１次調査でＳ４Ｗ１としたグリッドとＳ４Ｗ２グリッドの一部を掘削することとした。この掘削の結果、この調査区には東西幅４m程度の地山の窪みがあり、この窪みに局所的に上述の層が存在していることがわかった。深さは最深で0.6mを測る窪みである。さらにT28を墓側に4.5m延長して掘削したが、延長部分ではこの表土・流土の直下で地山が検出され、上述の土層は検出されなかった。

**小　結**　今回のこの調査区において得られた結果によると、１次調査で盛土と判断された土層は地山の窪みに局部的に存在するものであり、上方墳丘からの流土の可能性もある。仮に人為的に形成された土層であるとしても、窪みを整地した層であり、この部分の所見ひとつをもって墳丘が南側の墓地にまで及んでいると明言することは難しいことがわかった。次年度は継続して、くびれ部Ｚ区の再精査、あるいは拡張による追試、さらに必要であれば新たなトレンチ掘削も行っていく予定である。（栗田）

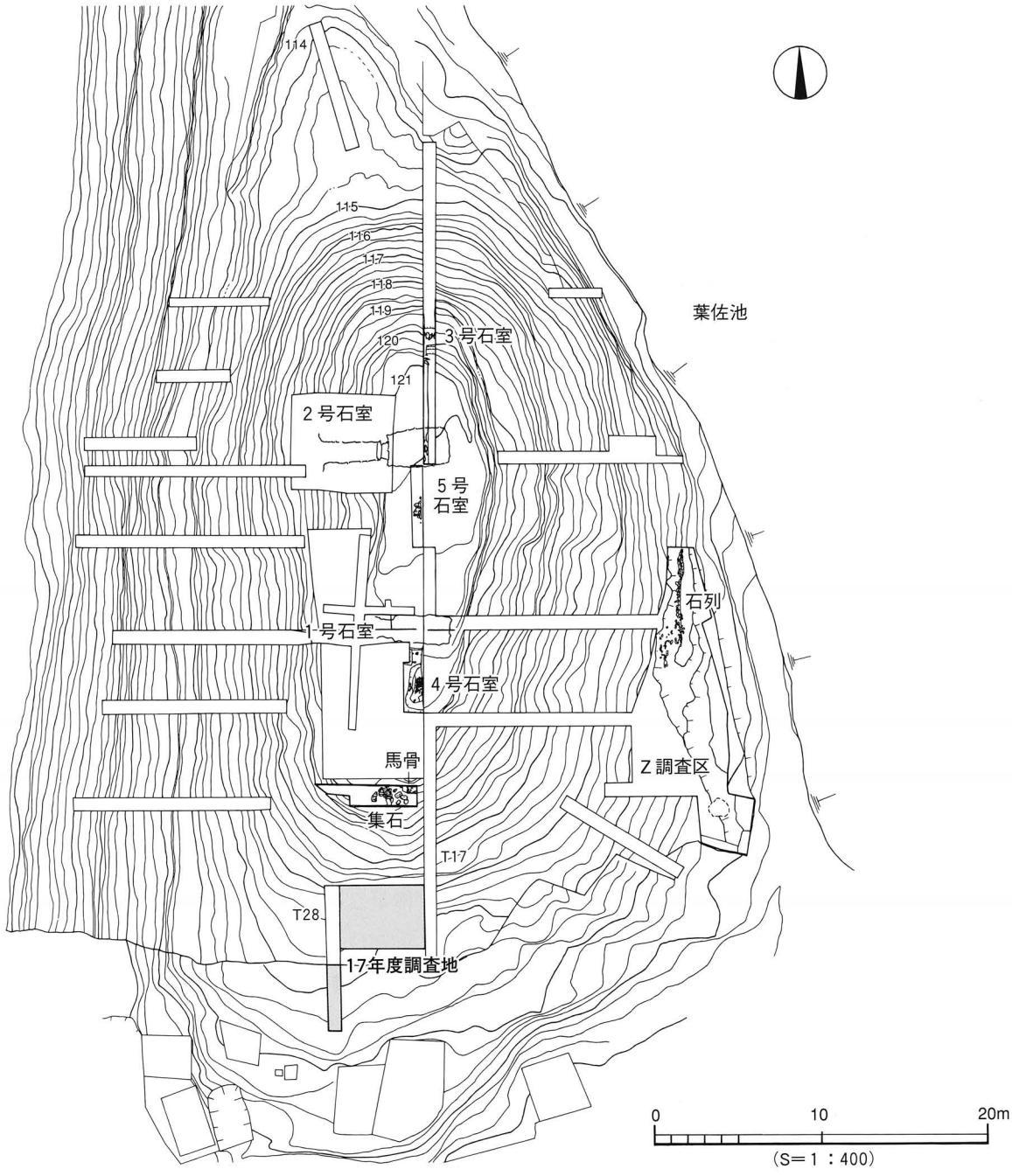



図２　調査区と主要遺構配置図

みなみ うめ もと なが ひろ
# 南梅本長広遺跡２次調査地

所在地　松山市南梅本町甲527－２外
期　間　平成17年８月１日～同年９月30日
面　積　370.15㎡
担　当　小笠原善治・河野史知

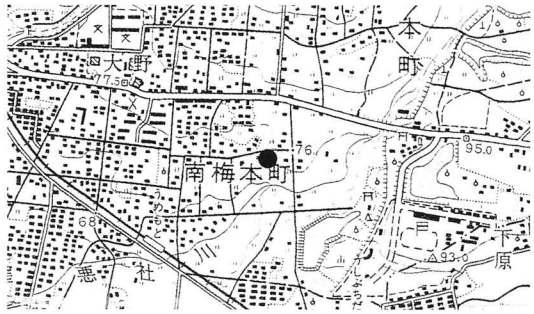


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市指定の埋蔵文化財包蔵地『№107播磨塚古墳群』と『№142水泥遺物包含地』に挟まれる埋蔵文化財包蔵未指定地での「市道南北梅本線道路改良工事」に伴う事前調査である。申請地の小野地区は、重信川の支流である小野川、悪社川及び内川によって形成された扇状地が広く分布する地域である。調査地は昨年に調査された「南梅本長広遺跡」が南に隣接する。また、悪社川を挟んで南に14～15世紀代の中世集落関連遺跡である「南梅本上方遺跡」、「南梅本上方遺跡２次調査地」が所在し、近年一連の本格調査により悪社川流域の中世～近世集落関連遺跡が見つかり、その集落構造が明らかにされつつある。本遺跡では、調査の都合上調査区をＡ区・Ｂ区に分けている。

**遺構・遺物**　基本層序は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層灰黄褐色土（明黄褐色土粒含む）、第Ⅲ層灰黄褐色土（明黄褐色土粒を多く含む）、第Ⅳ層黒褐色土（小礫含む）、第Ⅴ層明黄褐色砂質土（小～中礫混含む）である。遺構は、Ａ区では土坑（SK）１基、溝（SD）４条、性格不明遺構（SX）１基、建物を構成しない柱穴が10基、そして石列１条が検出された。Ｂ区では、土坑（SK）４基、建物を構成しない柱穴が32基、石列２条、石敷遺構１条を検出した。以下、主な遺構について概略を述べる。

Ａ区：SD１は東西に走り、規模は検出長7.82m、幅2.28m、深さ約17㎝、土師質土器の口縁部が出土している。埋土は黒褐色土と灰黄褐色土に明褐色粒が混じる。その他の溝は浅く、深さ５～６㎝内外を測る。また、SD１に切り込む形で近世の暗渠を検出。規模は、検出長5.2m、幅約0.38m、深さ22㎝を測る。暗渠の石列内に備前焼の甕形土器胴部片が１点出土している。Ｂ区：惰円形のSK3からは、弥生土器小片数点の他、縄文土器片が多数出土した。円形を呈するSK４からは弥生土器片数点が出土。集石遺構の規模は0.95m×0.64mで拳大～人頭大の円礫をほぼ円形に配置されている。高さ22㎝を測る。床面での遺構検出はなく、付近より弥生土器底部片他が数点出土している。その他、石列２条・石敷２条を検出した。石敷遺構は石列とセットで構築されたと考えられ、層位的に新旧関係が見られる。また両石列ともに並行して東西に走る。出土遺物は「開元通宝」、縄文土器片と弥生土器片、須恵器片、土師皿片、および陶磁器片が出土している。遺構の時期は中世～近世に比定される。

**小　結**　今回の調査では、縄文、弥生・中世～近世の遺構遺物を主に検出した。Ｂ区検出の縄文時代の土坑は、当地周辺では検出例が少ないことからも貴重な成果である。また、南に隣接する「南梅本長広遺跡」に引き続き、石材使用遺構関連の検出は、当地の中世～近世における土地利用に関して興味深いデータとなる。石敷は調査区外南部に展開するが、南に隣接する「南梅本長広遺跡」では石敷延長部分は未検出である事からも小規模なものと思われる。遺構の性格は土層観察より２組の遺構が若干の時期差を伴うことから境界的なものと考えられ、今後の周辺での調査が期待される。（小笠原）

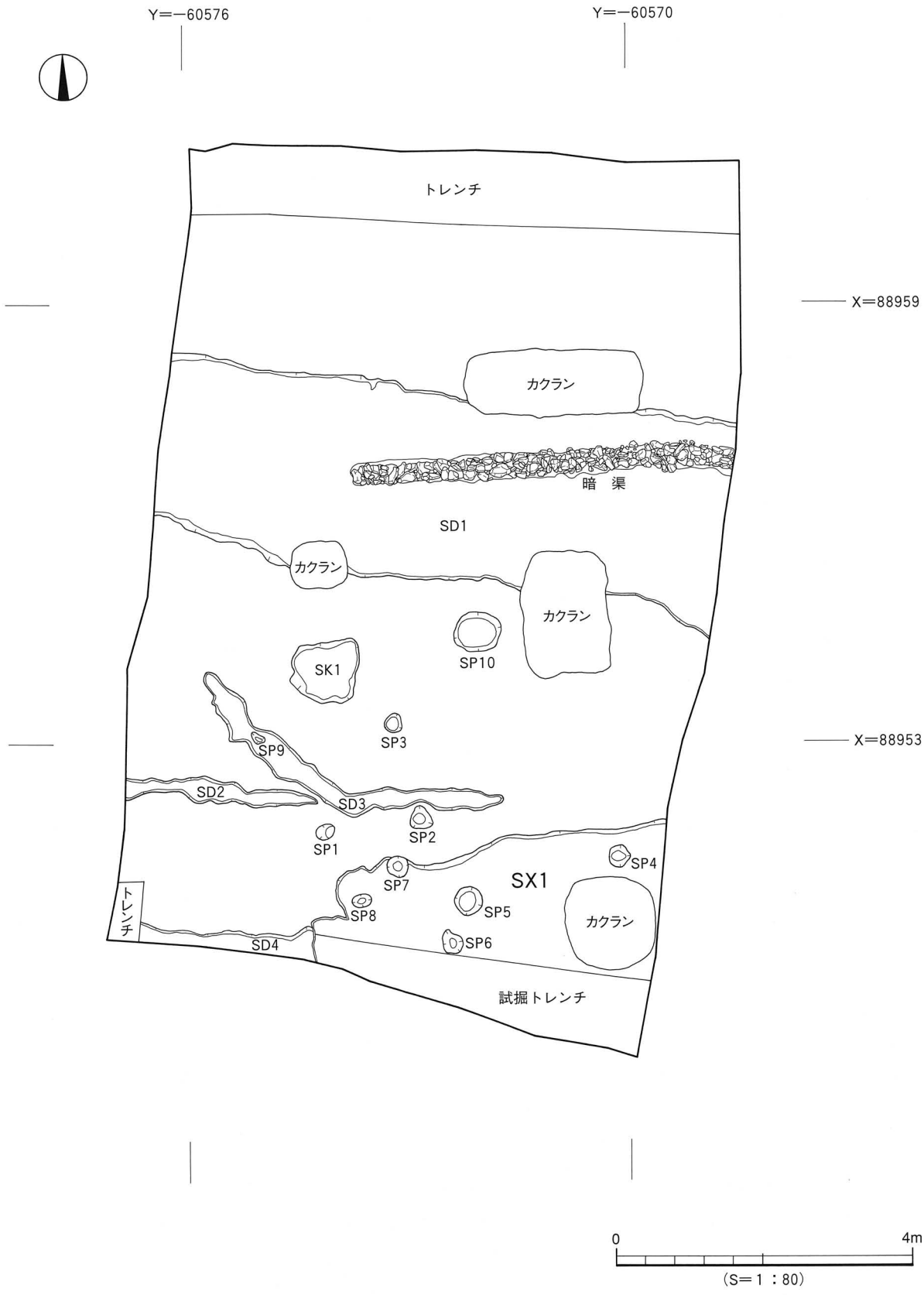

Y=−60576
Y=−60570
X=88959
X=88953
トレンチ
カクラン
暗　渠
SD1
カクラン
カクラン
SK1
SP10
SP3
SP9
SD2
SD3
SP2
SP1
SP4
SP7
SX1
SP8
SP5
カクラン
トレンチ
SD4
SP6
試掘トレンチ
0
4m
(S＝１：80)

図２　Ａ区遺構配置図

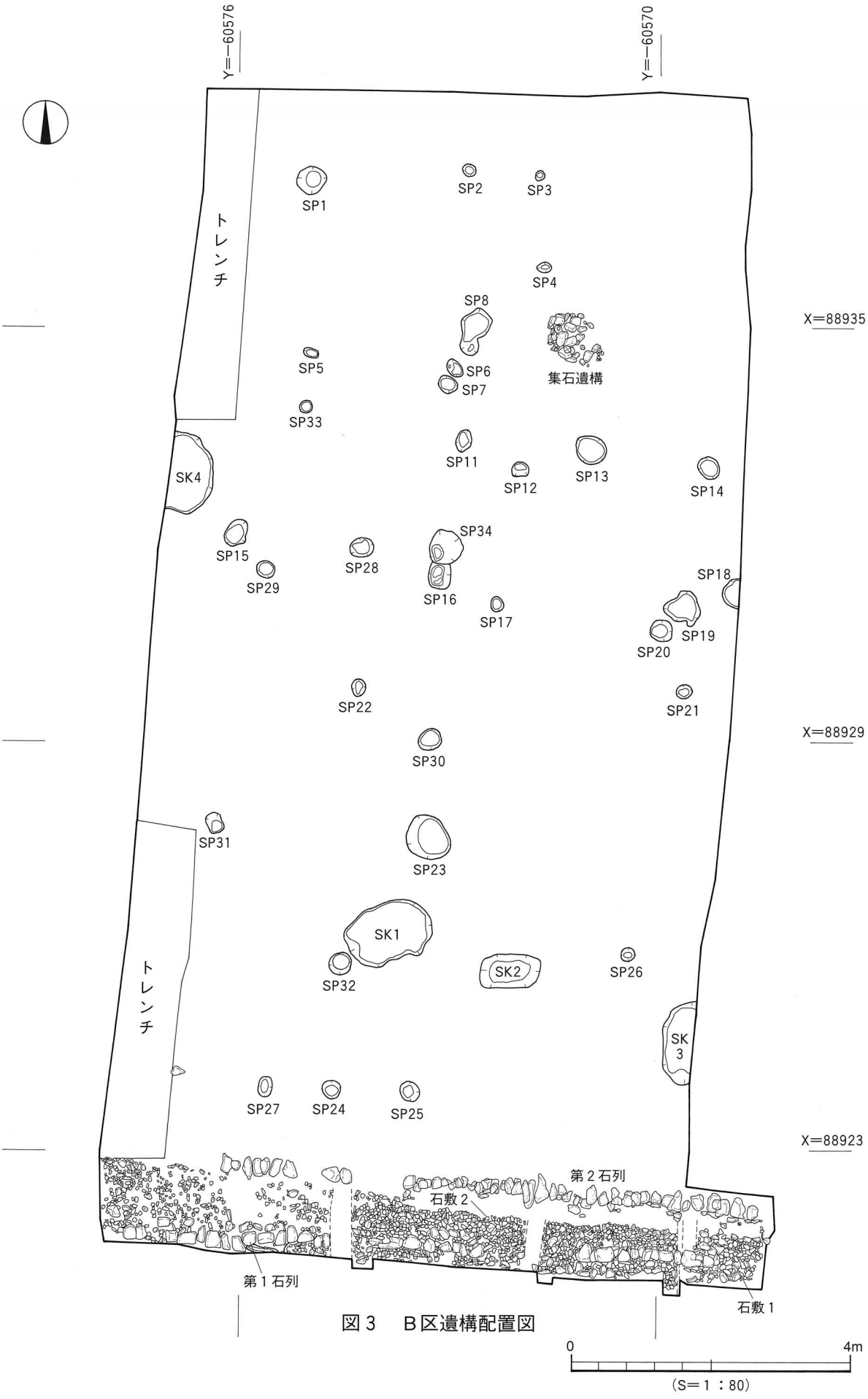

Y=−60576
Y=−60570
X=88935
X=88929
X=88923
トレンチ
トレンチ
SP1
SP2
SP3
SP4
SP5
SP6
SP7
SP8
SP11
SP12
SP13
SP14
SP15
SP16
SP17
SP18
SP19
SP20
SP21
SP22
SP23
SP24
SP25
SP26
SP27
SP28
SP29
SP30
SP31
SP32
SP33
SP34
SK1
SK2
SK3
SK4
集石遺構
第１石列
第２石列
石敷１
石敷２
0
4m
(S=１：80)

図３　Ｂ区遺構配置図

写真１　Ｂ区遺構完掘状況（北より）

写真２　Ｂ区石列と石敷き遺構検出状況（北西より）

# 水泥（みどろ）遺跡３次調査地

所在地　　松山市水泥町405外
期　間　　平成17年1月20日～同年８月12日
面　積　　1,275.20㎡
担　当　　水本完児・宮内慎一

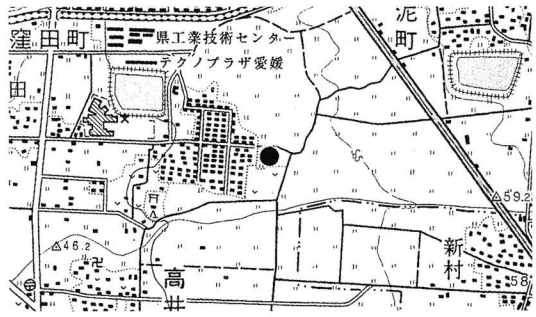


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市道水泥南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南東部、標高50.0～51.6mに立地する。調査地の北側には水泥遺跡１・２次調査地と平井遺跡１・２次調査地、南側には高井遺跡があり、弥生時代から中世までの集落関連遺構や、縄文時代晩期から中世までの遺物が確認されている。

**遺構・遺物**　調査地の基本層位は第Ⅰ層表土（造成土･耕作土）、第Ⅱ層水田床土、第Ⅲ層灰黄褐色土、第Ⅳ層鈍い黄橙色土、第Ⅴ層灰白色土、第Ⅵ層暗褐色土、第Ⅶ層淡黄色土、第Ⅷ層暗褐色砂質土、第Ⅸ層淡黄色砂質土、第Ⅹ層淡黄色土である。第Ⅲ層と第Ⅳ層上面で中世の遺構と遺物を確認し、第Ⅶ層と第Ⅹ層上面で古代の遺構と遺物を確認した。検出した遺構は、経塚１基、溝（SD）３条、畝状遺構７条、鋤跡状遺構19条、柱穴（SP）５基、性格不明遺構（SX）１基である。

経塚は、調査前の現状では中央部に木が１本植わっており、南部には祠と湯呑みが１点づつ祭られていた。平面形態は円形を呈し、規模は南北長3.6m、東西長4.5m、地表面より上に１m露出し、地表面より下に20㎝の掘り込みを測る。露出した南東部には５～20㎝大の礫を並べて、周りを囲んでいる。床面には土を５㎝の厚みで敷いている。遺物は、須恵器片と骨が１点出土した。時期は出土遺物より中世とする。

SD203は調査区南東部で検出した東西方向の溝で、規模は検出長3.6m、幅0.8～1.4m、深さ5.5～25.5㎝を測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は暗褐色土に灰色砂が混じるものである。遺物は、土師器片と須恵器片とが出土した。時期は出土遺物より古代とする。

**小　結**　今回の調査では、古代から中世までの集落や生産地の存在を推測される資料が得られた。今後は、調査地周辺の遺跡との関係を検討し、古代から中世までの集落範囲や構造、生産域の範囲を究明しなければならない。（水本）

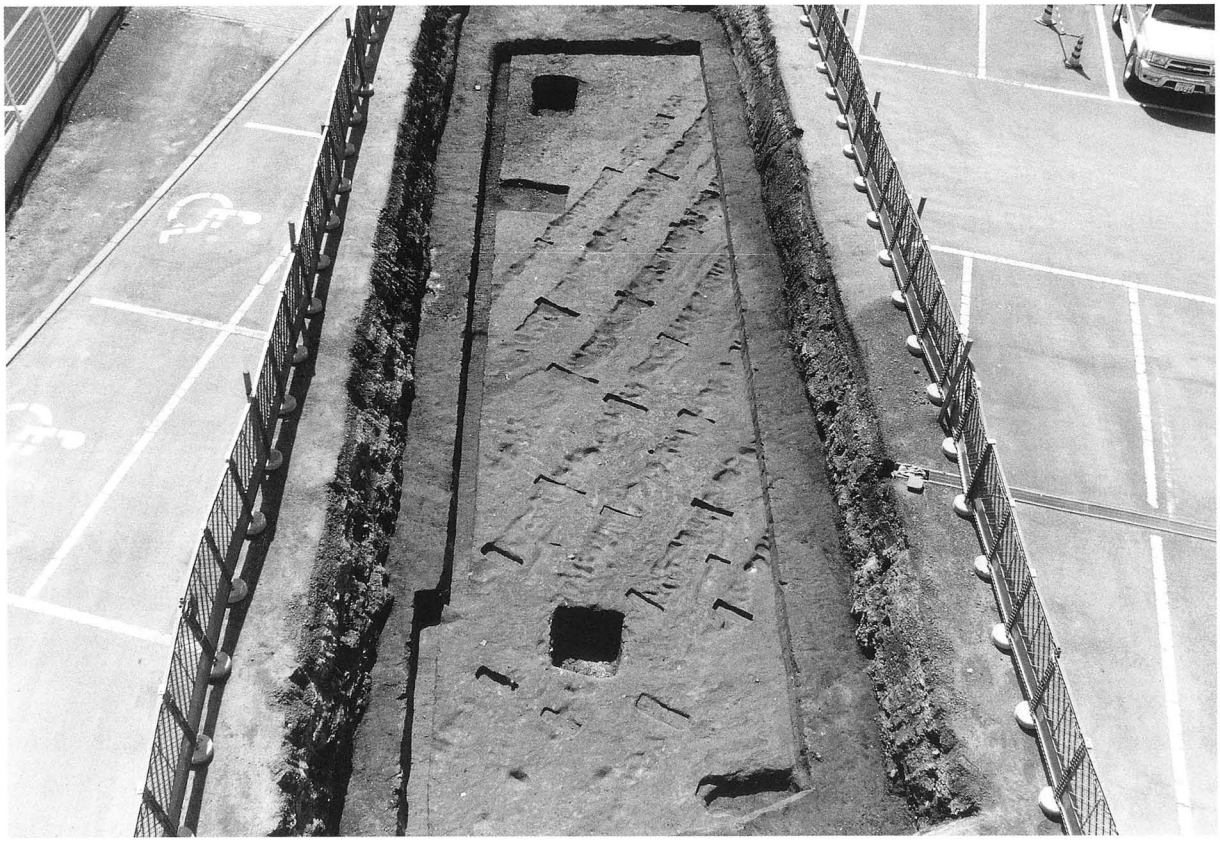


写真１　１区遺構完掘状況（北より）

写真２　石室完掘状況（南西より）

# 南高井遺跡（みなみたかい）２次調査地

所在地　　松山市南高井町116外
期　間　　平成17年８月１日～同年11月30日
面　積　　1,638.04㎡
担　当　　水本完児・宮内慎一

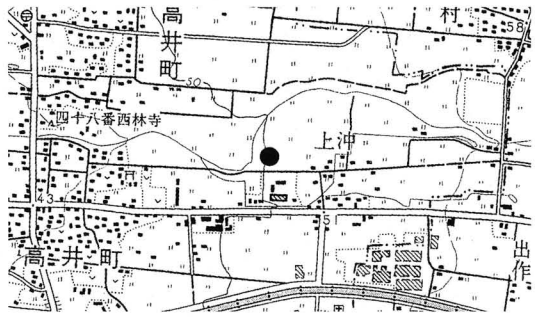


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市道水泥南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南東部、標高48.0～49.2mに立地する。調査地の北には高井遺跡、水泥遺跡１次～３次調査地、平井遺跡１・２次調査地があり、弥生時代から中世までの集落関連遺構や、縄文時代晩期から中世までの遺物が確認されている。また、西には南高井遺跡１次調査地があり、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されている。

**遺構・遺物**　調査地の基本層位は第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層水田床土、第Ⅲ層鈍い黄褐色土、第Ⅳ層灰黄褐色土、第Ⅴ層灰褐色粘質土、第Ⅵ層黒褐色粘質土、第Ⅶ層褐灰色砂質土である。第Ⅳ①層、第Ⅳ②層、第Ⅴ層、第Ⅵ層上面で中世の遺構と遺物を確認し、第Ⅶ層上面で古代の遺構と遺物を確認した。検出した遺構は、竪穴式住居址１棟、溝８条、自然流路１条、土坑７基、鋤跡状遺構54条、柱穴53基、性格不明遺構２基である。

SK202は調査区北部中央に位置する楕円形土坑で、規模は検出長90㎝、幅80㎝、深さ3.0㎝を測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は暗灰黄色砂質土である。遺物は土師器、炭、焼土が出土した。時期は出土遺物より中世、12世紀以前に比定される。

SK203は調査区北東部東側に位置する楕円形土坑で、規模は検出長90㎝、幅70㎝、深さ13.0㎝を測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は黒褐色土である。遺物は土師器が出土した。時期は出土遺物より古代、７世紀代に比定される。

SB601は調査区中央部で検出した方形住居址で、規模は検出長6.2m、検出幅1.0m、壁高9.7㎝を測る。埋土は濃灰黄褐色砂質土である。遺物は埋土中より須恵器と土師器とが出土した。時期は出土遺物より古代、７世紀代に比定される。

**小　結**　今回の調査では、古代から中世までの集落や生産地の存在を推測される資料が得られた。とりわけ、竪穴式住居址の検出は、調査地近隣地域に古代集落が展開している可能性が高く、今後、調査地周辺は集落構造や範囲など慎重な調査研究が必要とされる地域である。（水本）

写真１　２区遺構完掘状況（南より）

写真２　土坑203遺物出土状況（南より）

# 南高井遺跡（みなみたかい）３次調査地

所在地　松山市南高井町173－４外
期　間　平成17年12月１日～平成18年３月31日
面　積　1,646㎡
担　当　水本完児・宮内慎一

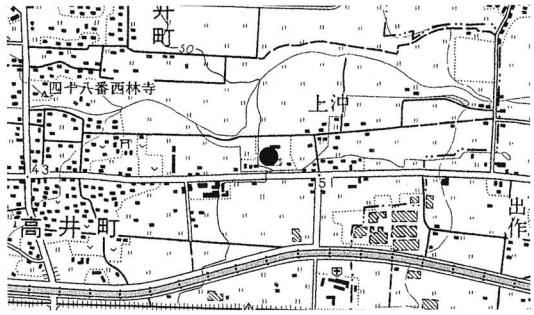


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は、松山市道水泥南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南東部、標高50.10～50.32mに立地する。調査地北側180mの地点には２級河川の内川が東西方向に流れていて、調査地周辺では、南高井遺跡２次調査地、高井遺跡、水泥遺跡１・２・３次調査地、平井遺跡１・２次調査地があり、弥生時代から中世までの集落関連遺構や縄文時代晩期から中世までの遺物が確認されている。また、西には南高井遺跡１次調査地があり、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されている。

**遺構・遺物**　調査地の基本層位は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層水田耕作土、第Ⅲ層水田床土、第Ⅳ層明灰黄褐色土、第Ⅴ層鈍い黄橙色土、第Ⅵ層灰黄褐色土、第Ⅶ層砂礫層である。第Ⅴ層上面にて古墳時代の遺物と中世の遺構と遺物を確認し、第Ⅵ層及び第Ⅶ層上面にて古代の遺構と遺物を検出した。検出した遺構は自然流路４条、土坑２基、鋤跡状遺構75条、柱穴13基、性格不明遺構１基である。

SK201は調査区北部に位置する楕円形土坑で、規模は東西検出長75㎝、南北長120㎝、深さ17.7㎝を測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は灰黄褐色砂質土である。遺物は土師器と須恵器とが出土した。時期は出土遺物より古代、７世紀代とする。

SK202は調査区南東部に位置する楕円形土坑で、規模は東西長80㎝、南北長70㎝、深さ24.1㎝を測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は灰黄褐色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、石器が出土した。時期は出土遺物より古代、７世紀代とする。

**小　結**　今回の調査では、古代から中世までの集落関連遺構や生産遺構を確認した。飛鳥期に比定される土坑の検出は、近隣地域に古代集落の存在を示唆するものであり、内川から南側の地域には古代集落が営まれている可能性が高いものと考えられる。（水本）

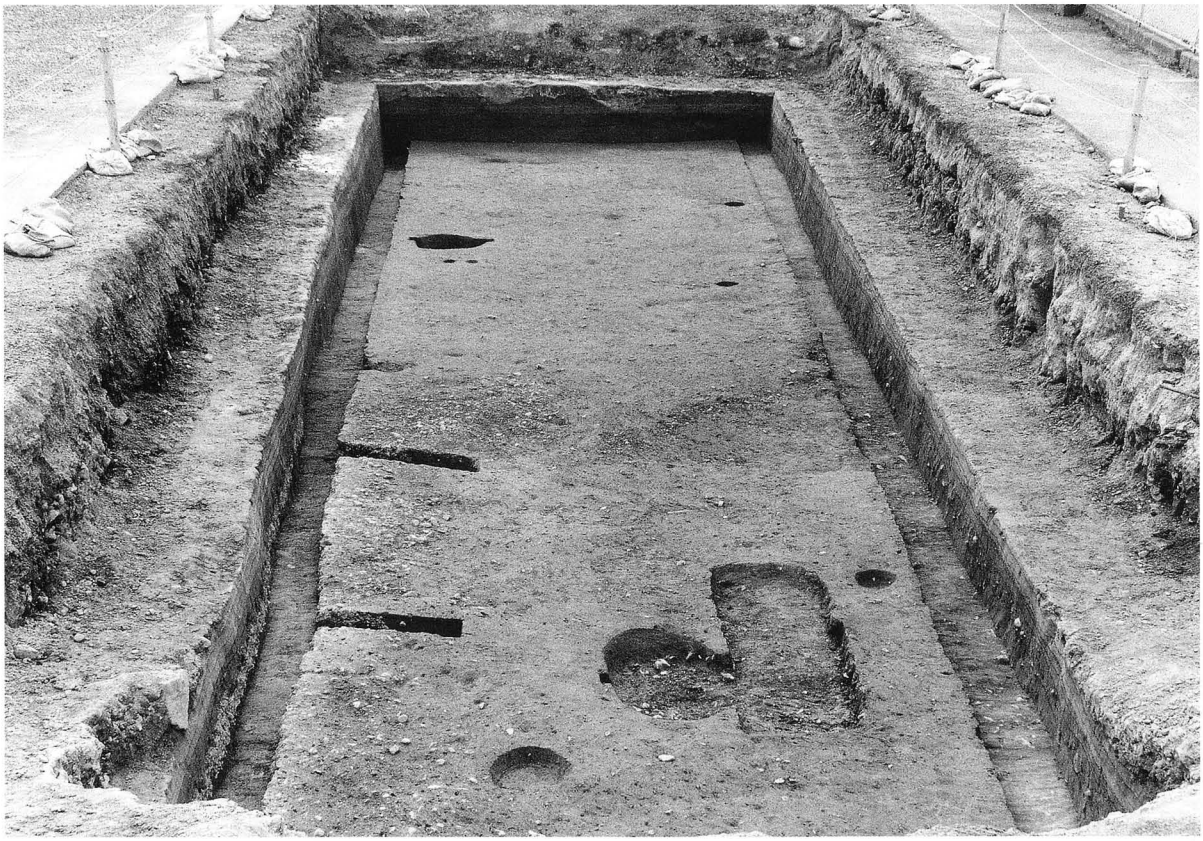


写真１　２Ｃ区遺構完掘状況（北より）

写真２　土坑201遺物出土状況（東より）

# 鷹子新畑遺跡４次調査地

（たかのこ　しんばた）

所在地　松山市鷹子町577番１の一部、582番１、582番６の一部、582番10
期　間　平成18年３月１日～同年３月17日
面　積　155㎡
担　当　加島次郎

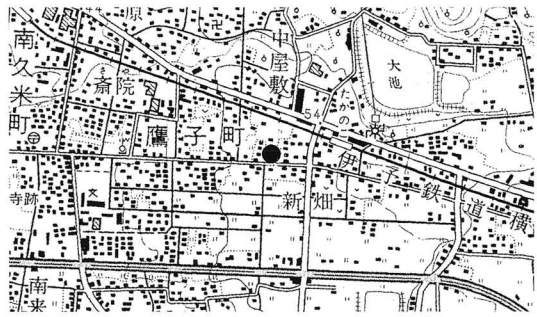


図１　調査地位置図

**経　過**　本調査は分譲宅地造成を目的とした土木工事等に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「№129 鷹ノ子遺物包含地２」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野東部を流れる堀越川と小野川よって形成された洪積台地上に立地し、標高49.4mを測る。調査以前は水田であった。周辺における既往の調査では、縄文時代後期の久米窪田森元遺跡、縄文時代晩期の久米高畑遺跡36次調査地、弥生時代前期末～中期初頭の大溝が検出された久米高畑遺跡22・23・28次調査地、来住廃寺20次、弥生時代中期後葉～後期の円形竪穴式住居跡が検出された久米高畑遺跡35次調査地などがある。さらに古墳時代では後期の群集墳・五郎兵衛谷古墳群、古代には白鳳期の創建として知られる国指定史跡の来住廃寺、久米官衙遺跡群がある。また、久米窪田遺跡からは木簡の出土をみており、古代においては久米地域が松山平野の政治的・歴史的な中心を占めていたことが継続的な調査・研究により次第に明らかになりつつある。

今回、土木工事対象地に対して試掘調査を実施した結果、対象地の西半部で埋蔵文化財の存在が確認されるに至り、原因者の多大なご理解とご協力を得て、本格調査を実施する運びとなった。調査は工事対象予定地の西に敷設する進入路部分で、対象地は長さ35m、幅4.3mの細長いものとなった。

**遺構・遺物**　本調査の基本層位はⅠ層造成土・現耕作土（層厚40～60㎝）、Ⅱ層黒色土、Ⅲ層明黄褐色土（層厚25～30㎝）である。このうち、Ⅱ層は調査区の北東部と西端部に分布が限られ、黄色土ブロックの有無を基準として①と②とに細分でき、②には黄色土ブロックを含むとともに、わずかに遺物を包含する傾向にある。遺物には弥生土器、土師器、須恵器の小片がある。弥生土器には前期末～中期初頭の連鎖状刻目の突帯をもつ壺や後期の壺小片、須恵器には6世紀後半～８世紀代に帰属するものがあることから、Ⅱ②層は少なくとも古代までに堆積した遺物包含層と理解することができよう。

検出遺構には溝２条、竪穴式住居跡２棟、土坑１基、柱穴11基がある。これらは北東から南西にかけての緩斜面に構築されている。遺構確認面にはⅡ②層上面とⅢ層上面とがあるものの、確認面の相違が帰属時期の先後関係を必ずしも反映するものではない。調査区西端部における遺構の重複関係からは、SB２（古）→SD１・SD２（新）の先後関係があることを確認している。以下では、主要遺構をとりあげてその概要を述べておきたい。

SD１：調査区を縦断する形で検出したほぼ東西方向に延びる溝である。検出時は幅1.1～1.6mを測り、埋土は黒色土（N1.5/0）で、遺物は認められなかった。精査の結果、横断面形態は逆台形を呈し、検出面からの深さは48㎝を測る。埋土は４層に大別でき、初期埋土は南方向から流入しており、径２～３㎝大の礫をわずかに含むものであった。遺物はわずかな量であるものの、須恵器の皿と壺の小片

が認められた。なお、SD１は西端付近で幅1.1ｍを測る溝（SD２）がほぼ直交して取り付く。交点における溝底のレベル測量値に大差はなく、埋土は類似し、平断面観察において溝には重複関係が確認できなかったこと等から、両遺構は同時併存と判断され、一連の施設の可能性が高いものと考えられる。

小　結　今回の調査では古代に構築された生活関連遺構を多数確認することのできた点が最大の成果となる。これにより当該期の遺跡は本調査地にまで広がっていたことが明らかとなった。さらに、古代に帰属する遺構を検出するとともに、これらの先後関係を確定することができたことで、土地利用の実態を知る手がかりを得られた点は興味深い。

すなわち、主要遺構が方形（あるいは長方形）の竪穴式住居跡から区画の機能を有した溝へと変遷すること、この溝への転換が８世紀あるいは７世紀代に溯る可能性の高いことが調査により判明した。この溝は当地一帯に展開する大規模な区画施設である可能性が高く、近接地で確認・調査される蓋然性は高いものとみられる。今後の試掘と本格調査の際には、留意すべき課題のひとつとして指摘しておきたい。なお、包含層から弥生時代前期末～中期初頭と後期に帰属する土器片が出土したことから、当該期の生活関連遺構が当地周辺、すなわち北あるいは北東方向の微高地上にも存在する可能性が高いものとみられる。既往の調査成果からは当該期の生活関連遺構は大溝や土坑（貯蔵穴）で構成されることが判明しているものの、配置や変遷、当該期の居住域さらに居住に関わる遺構については未だ不明な部分がある。これらについては、今後実施される試掘と本格調査、さらに本格調査後の整理と分析の際にも留意すべき事項であることを指摘しておきたい。（加島）

写真１　SD１検出状況（北東より）

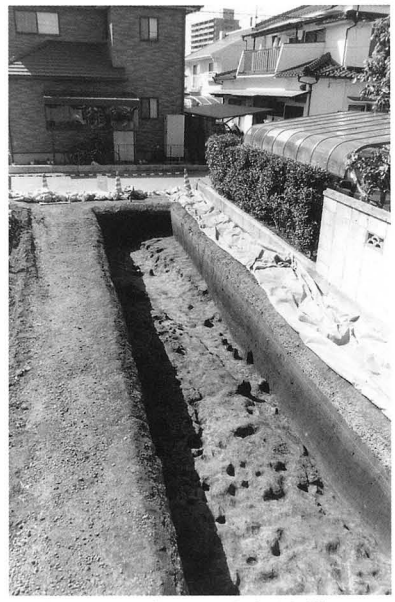


写真２　調査区西半部遺構完掘状況（南東より）

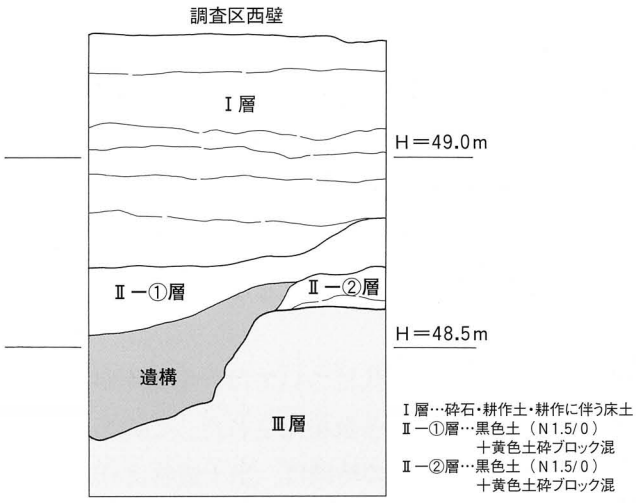



図２　土層柱状模式図（縦Ｓ＝１：20、横Ｓ＝１：40）

写真３　SD１完掘状況（東より）

# 来住町（きしまち）遺跡14次調査地

所在地　松山市来住町953番、954番
期　間　平成17年10月１日～同年11月30日
面　積　1,297.56㎡のうち240㎡
担　当　相原浩二・山之内志郎

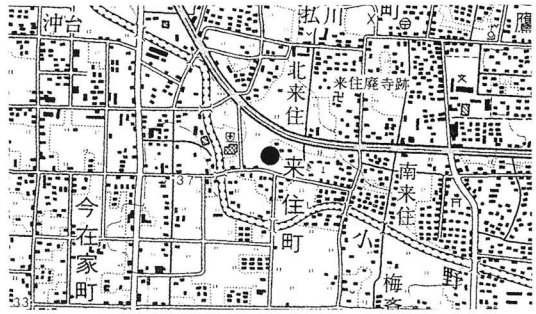


図１　調査地位置図

**経　過**　調査は、個人住宅建設に伴い国庫補助により実施した。調査地は、久米官衙遺跡群や来住廃寺跡の所在する来住台地の南側縁辺部、標高34mに立地する。調査地の北方約200mには、国指定の史跡である来住廃寺跡があり、同跡や周辺地においては精力的に調査が行われている。

今回の調査地は、これら遺跡の展開する来住台地南側の低地部にあたる。調査地周辺についてはこれまでに調査例が少なく、遺跡の情報が不足している地帯となっている。試掘調査によって、弥生時代の遺物と中世～近世の遺構・遺物が確認されたため本格調査を行う事ととなった。調査は、試掘調査の成果をふまえ弥生時代～中世の集落構造の解明を主目的として行った。なお、調査区については宅地予定地をＡ区、浄化槽の設置予定地をＢ区とし二区に分けて調査を行った。

**遺構・遺物**　調査前の現況は、水田耕作地で南側と北側に分かれる２枚の棚田である。地形は、北西方向に低くなっている。このため南側の田が高く、北側の田との比高差は約30㎝を測る。

基本層位は、第Ⅰ層灰色土（現代耕作土）～、第Ⅱ層橙灰色土（床土）～、第Ⅲ層灰色土、第Ⅳ層明黄灰色土、第Ⅴ層黒褐色土、第Ⅵ層黄色粘質土（砂礫混じり）である。第Ⅲ層は、調査区東側の北部に遺存する。この層は、近世以降に一段低い水田を現在の水田面まで地上げした時の造成土と考えられる。第Ⅳ層は、調査区の東側に遺存し弥生時代～近世の遺物が出土する。第Ⅴ層は、中世の遺物包含層で調査区の北側にわずかに遺存する。第Ⅵ層は、地山と呼ばれる層である。遺構の検出は、第Ⅵ層上面で行った。調査の結果、中世と近世の遺構・遺物を検出した。検出した遺構はＡ区とＢ区を合わせ土坑12基、溝６条、柱穴126基である。

中世の主な遺構は土坑SK３，５，８，12、溝SD３，４，５，６、柱穴SP18，19，24，59などがある。遺構の埋土は、黒褐色土と茶褐色土の２種類に分けられる。主な出土遺物にはSK３より土師器皿、坏、用途不明鉄製品、SK８からは土師器のほか青磁碗の破片、SP24からは黒色土器などが出土している。このほか、遺構中や表採品として布目瓦の破片が多く出土している。

近世の遺構は土坑SK１，２、溝SD１，２がある。遺構の埋土は、黄灰色土である。主な出土遺物にはSD１より砥部焼きと思われる碗の破片、SK１からは肥前系陶磁器片、瓦などが出土している。その他の出土遺物として、SK11よりガラス小玉が一点出土している。

**小　結**　今回の調査では、中世と近世の遺構・遺物を検出した。弥生時代については、土器片が少量出土したものの遺構は検出しなかった。中世の遺構は土坑、溝、柱穴が多数検出された。この事は、調査地内において集落域の一画を形成していたものと推察される。遺構の時期は、出土遺物より13世紀代と考えている。このほか、中世遺構の埋土色は、黒褐色土と茶褐色土の２種類に分けられたが、

出土した土器に形態差はみられなかった。また、中世の遺構内と包含層中からの出土遺物には、布目瓦片が比較的多く出土しており、近隣に瓦を使用した建物の存在を示すものとして注目される。近世遺構の時期は、出土遺物より18世紀以降に時期比定できるものであった。（相原）

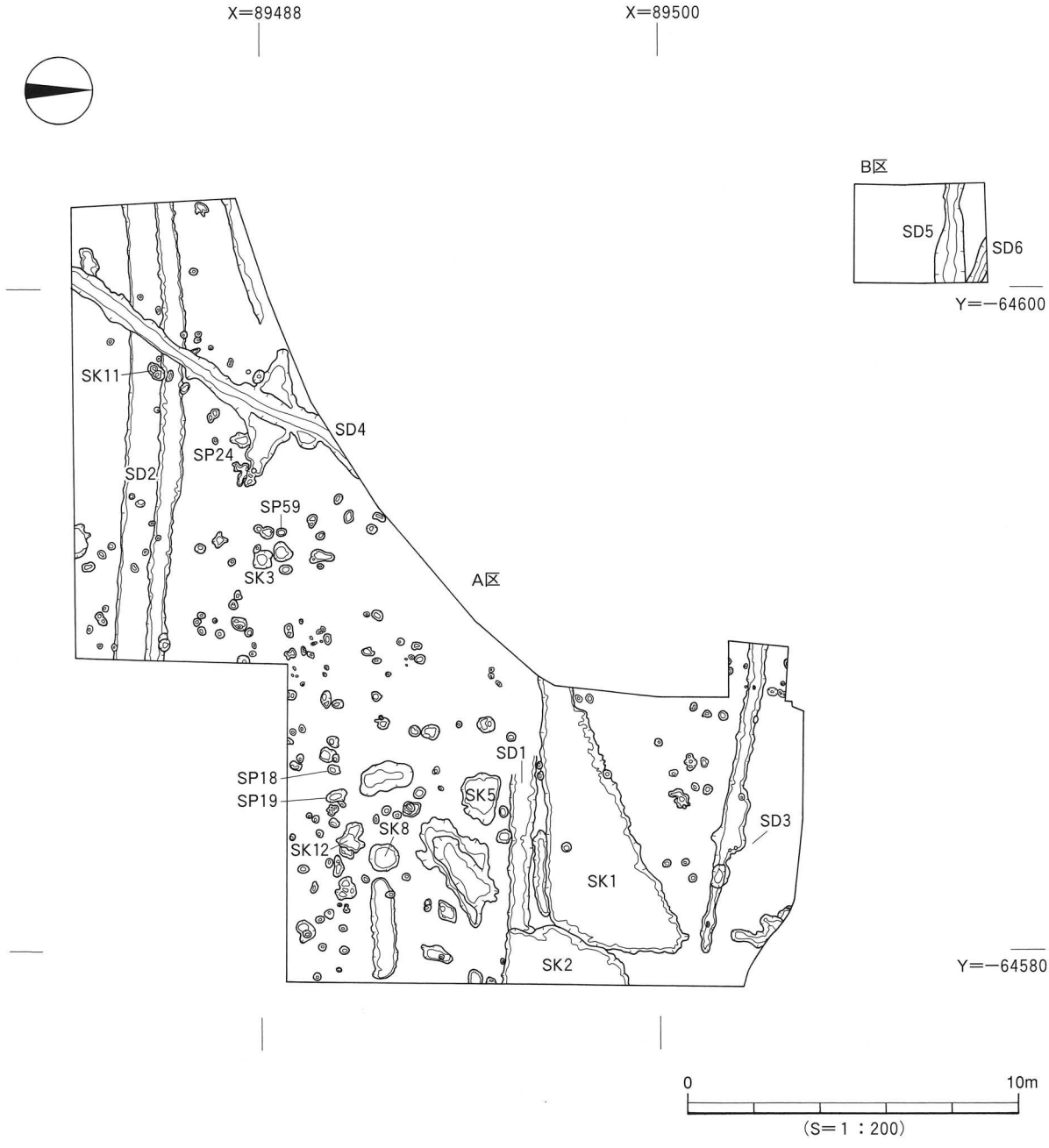
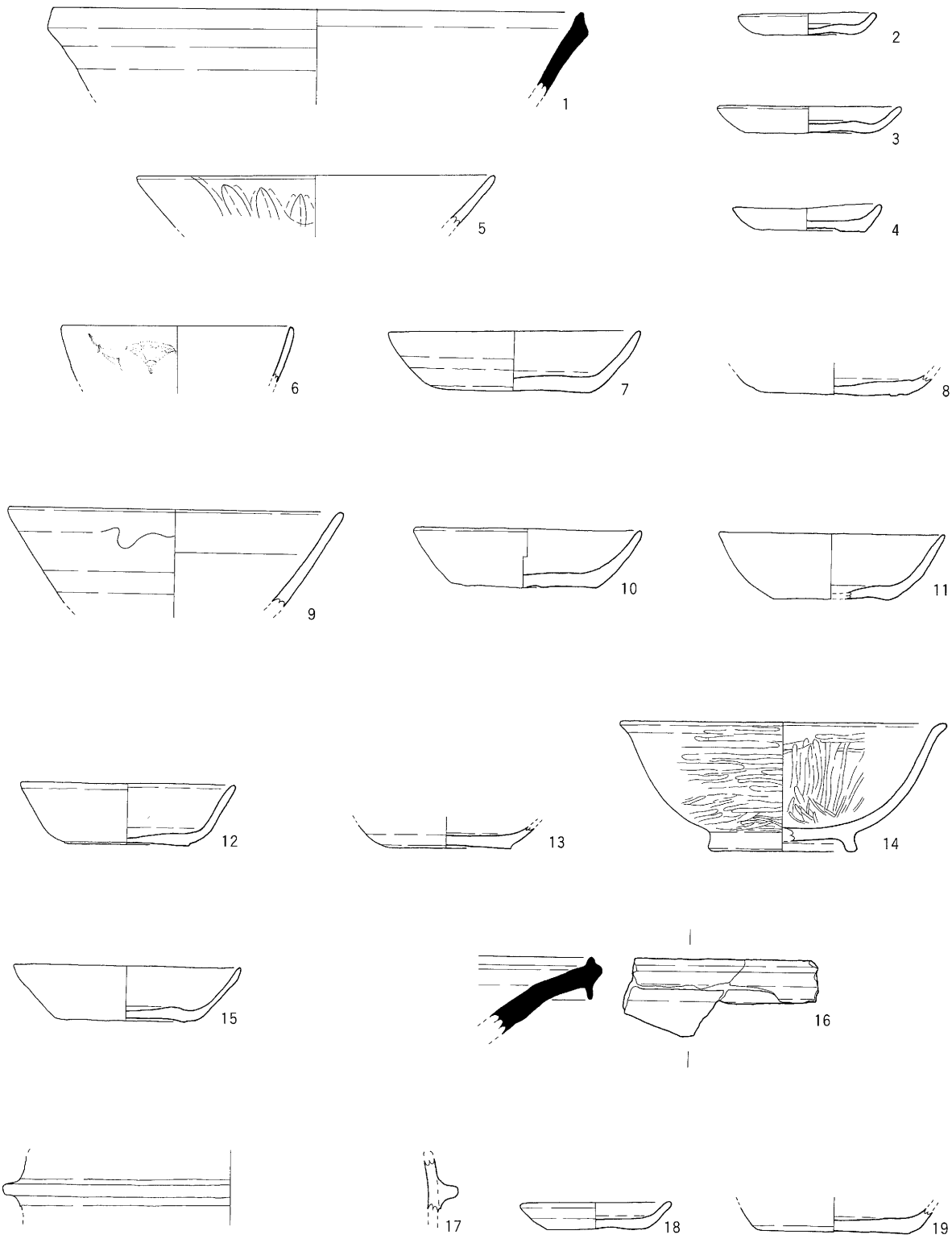



図2　遺構配置図




1：SK1　2：SK3　3：SK5　4：SK12　5：SK8　6：SD1
7～9：SD5　10：SP18　11～13：SP19　14：SP24　15：SP59
16，17：A区　18，19：B区

0　5　10cm
（S＝1：3）

図3　出土遺物実測図

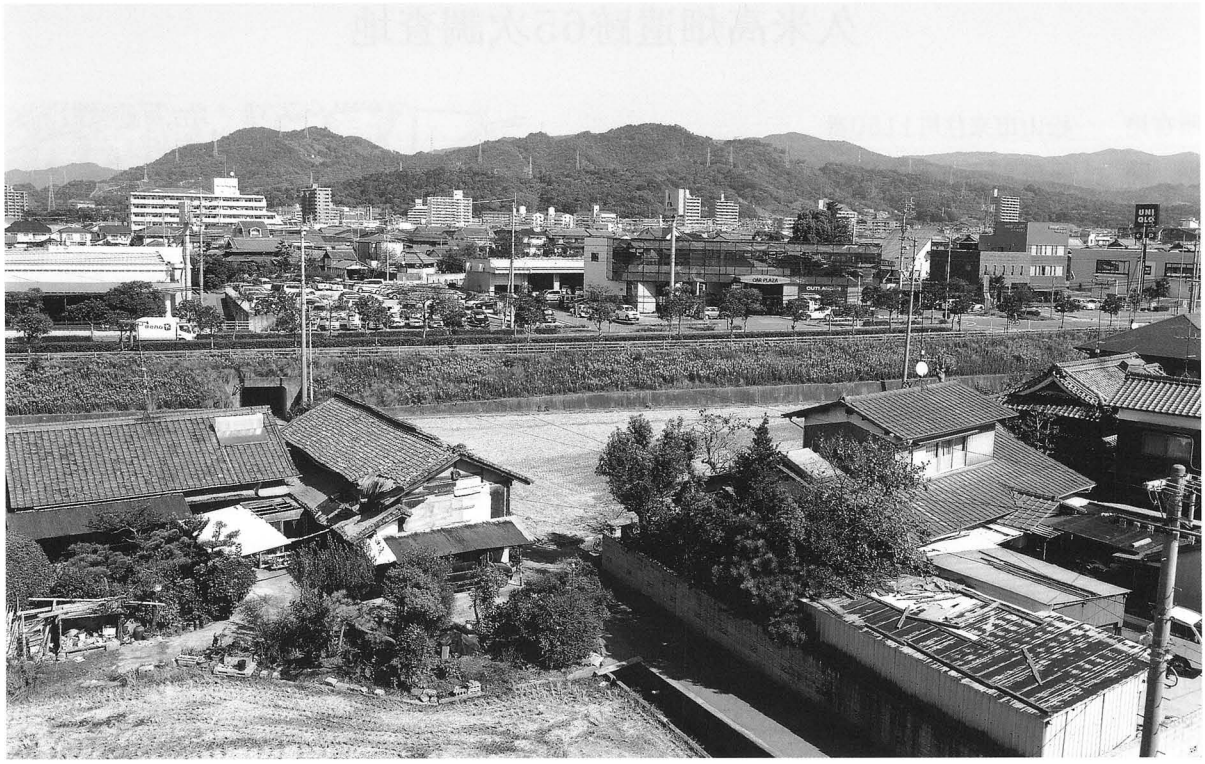


写真１　調査地より来住廃寺跡方面を望む（南西より）

写真２　遺構検出状況（東より）

# 久米高畑（くめたかばたけ）遺跡65次調査地

所在地　松山市来住町1150番
期　間　平成17年６月１日～同年９月30日
面　積　約900㎡
担　当　橋本雄一・栗田茂敏

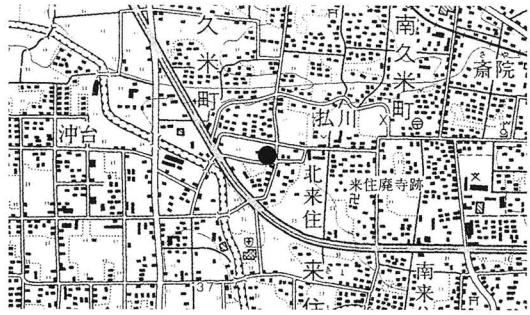


図１　調査地位置図

**経　過**　久米官衙遺跡群を構成する官衙施設である正倉院の南面において、重要遺跡の確認調査として、国からの補助を受けて発掘調査を実施した。調査地の北辺においては、正倉院南濠の一部が検出されるものと予想されていた。

**遺構・遺物**　正倉院南濠（SD020）のほか、官衙関連施設である可能性のある遺構として、調査地中央部においてSD021と022、また、南部において掘立001を検出した。これら以外の遺構は、大半が弥生時代前期末から古墳時代後期にかけての集落に関するものが主体を成している。

大半の土坑は、弥生前期末から中期初め頃の貯蔵のための土坑である。SK003は、古墳時代以降の土坑であると考えられるが、住居址との関係も含めて詳細は不明である。

SB002・003は、古墳時代初頭以降の竪穴式住居址である。SB001は、東西と北壁の３方にベッド状の段が造り付けられた弥生時代後期の住居址である。ベットの幅は0.7～0.8m程度で、厚さは数㎝～10㎝ほどが遺存。住居址中央部の床面には、焼土と炭化物の分布が認められた。火災によって焼失したものか、あるいは、住居廃絶時の片付けもしくは、それに伴う祭祀行為として火が放たれたことを示すものと考えられる。

掘立001は、官衙関連の施設である可能性も想定している。桁行２間（4.15m）、梁行２間（3.30m）。方位はN-95.5°-Eで、７世紀代の官衙施設と共通である。

１区北西角で検出されたSD009からSD019の各溝は、底に砂利状の小礫と須恵器を含む土器片が敷きつめられている点において共通の特徴を示す。付近の調査の中で関連性が指摘できる遺構としては、平成16年に調査が行なわれた同62次調査地のSD001をあげることができる。小礫が敷きつめられた状況が共通であることから、SD009、010、011の３条は、62次SD001の東への延長にあたるものと考えられる。

正倉院南濠については、その南辺を東西約15mに渡って検出した。北壁を拡張した箇所において、濠幅を確認している。幅は検出面で約2.7m、深さ約1.1m、断面逆台形に掘られた底の幅は約0.9mを測る。なお、南濠における過去の調査成果によると、東部と西部の敷地内側に、幅１m程度の浅い段が付くことが知られている（久米高畑31次・32次、『年報Ⅸ』）。今回検出された濠幅の北辺を示す掘り込みの縁の高さが、南辺の掘り込み位置に比べておよそ25㎝低い点は、この段差と関係があると考えられる。土層の堆積状況は大きく３つに区分される。下部には、敷地の外側からの流れ込みの要素が大きい比較的黒色の度合いが強い土層が堆積している。中程は、敷地内側から流れ込んだ、部分的に黄色地山や礫を多く含む細かな堆積層によって構成される。この土層の存在が土塁等の存在を示

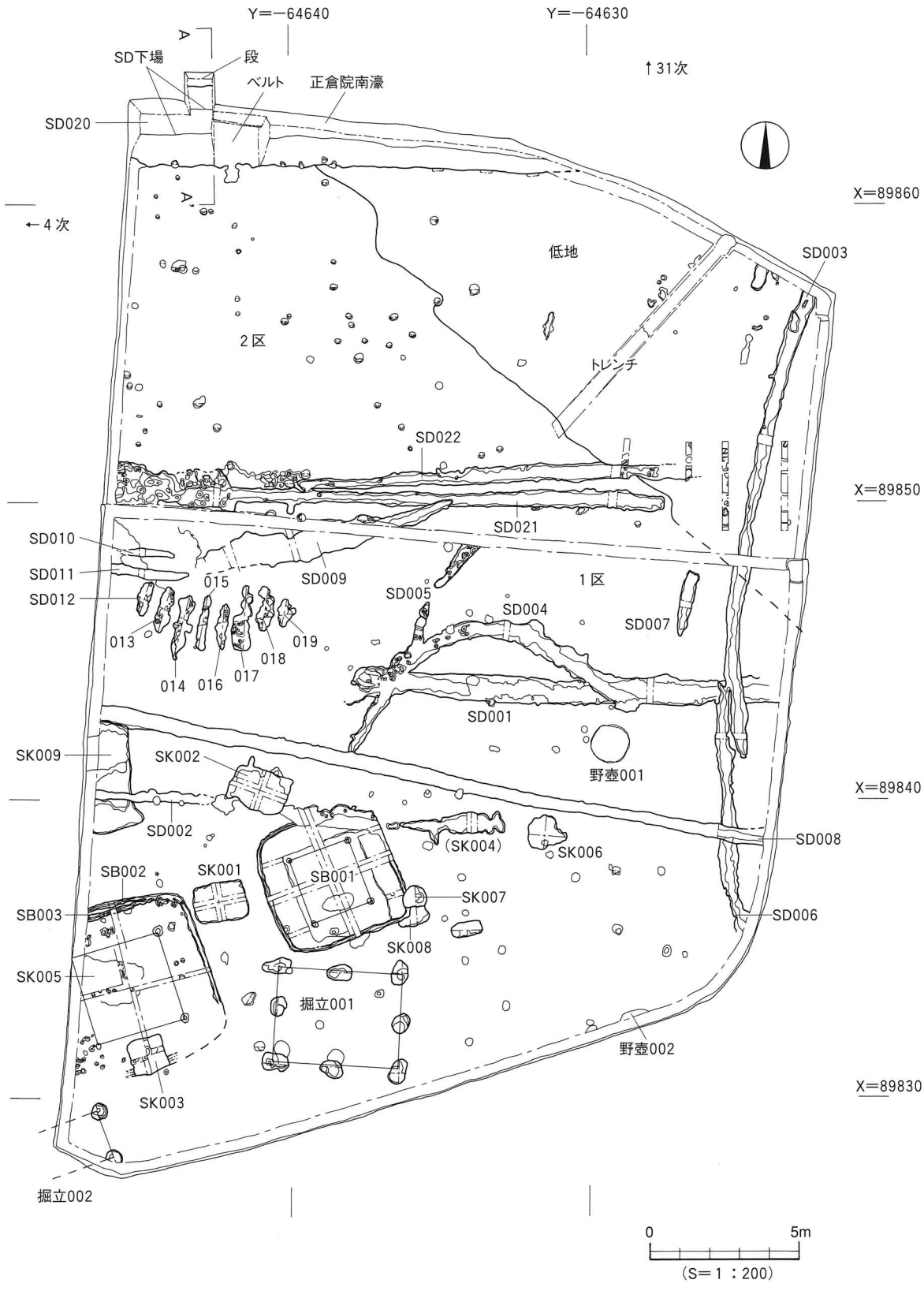
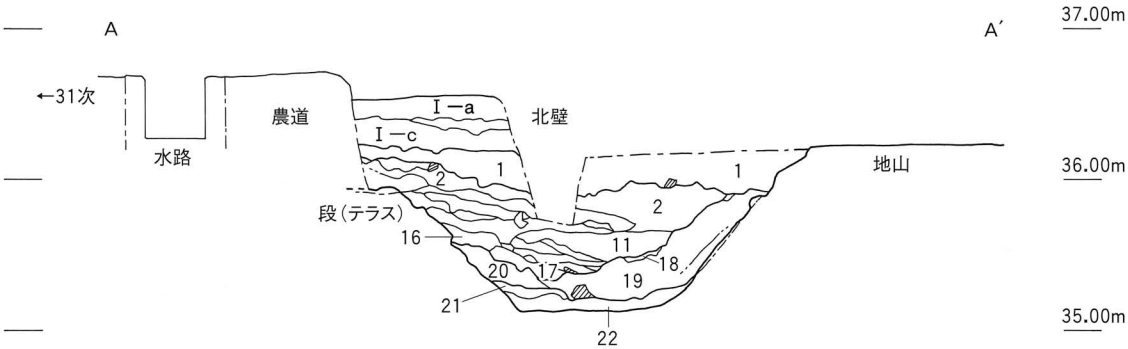

Y=−64640
Y=−64630
A
A'
SD下場
段
ベルト
正倉院南濠
↑31次
SD020
X=89860
←4次
低地
SD003
2区
トレンチ
SD022
X=89850
SD021
SD010
SD011
SD012
015
SD009
SD005
1区
SD004
SD007
013
019
018
017
014
016
SD001
野壺001
SK009
SK002
X=89840
SD002
(SK004)
SK006
SD008
SB002
SK001
SB001
SK007
SB003
SD006
SK008
SK005
掘立001
野壺002
SK003
X=89830
掘立002
0
5m
(S=1：200)

図2　遺構配置図

Y=−64700
Y=−64650
真北
X=90000
X=89950
X=89900
X=89850
10次
39次
6次
38次
46次
20次
43次
12次
32次
31次
35次
62次
65次
59次
27次
4次
66次
H11−172
0
30m
(S=1：1,000)

図3　正倉院

すものであるのか明らかにはなっていない。一方、上部は、拳大の礫と弥生土器を多く含む灰褐色土で埋まっている。濠からは、従来の他の地点と同様、９世紀末から10世紀前半ころの土師器の坏が少量出土している。（橋本）




Ⅰ−a層：灰色粘質土　水田耕作土
Ⅰ−c層：明褐灰色土　あい土
1　　：灰褐色土　風化礫少量、土器片多量、濠の上層
2 ～17：灰褐色土　風化礫と地山粒を含む、濠の中層
18～20：灰褐色土　地山粒少量、下層上部
21・22：灰褐色土　地山粒を含む、下層下部

0　2m
（S＝1：50）

図４　SD020断面図

写真１　正倉院南濠（西より）

# 久米高畑遺跡66次調査地

（くめたかばたけ）

所在地　松山市来住町1147番２
期　間　平成17年10月17日～同年12月28日
面　積　約300㎡
担　当　田城武志・栗田茂敏・吉岡和哉

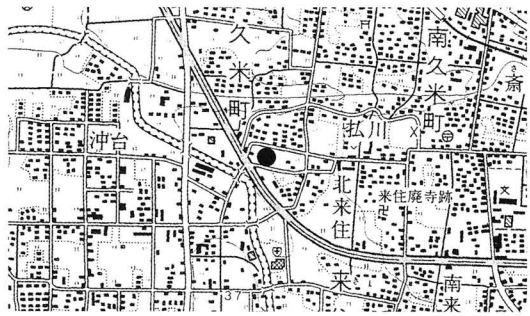


図１　調査地位置図

**経　過**　調査地は「史跡久米官衙遺跡群」を構成する役所施設のひとつである正倉院の南側、約20m離れた場所に位置している。調査地の周辺には史跡やそれに関連する遺跡および、弥生時代から古墳時代にかけての土坑及び竪穴式住居址等が多く分布する。松山市教育委員会は史跡の近隣における重要遺跡を確認するために発掘調査を計画し、また調査を効率的に遂行するために財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターと委託契約を交わした。調査は当初、平成17年10月中旬から２ヶ月間の予定で行ったが、現地説明会を開催する日程等の都合より12月末まで実施する結果となった。

**遺構・遺物**　今回の調査で確認した遺構は、竪穴式住居址（SB）３基、掘立柱建物跡（掘立）１棟、土坑（SK）32基、溝状遺構（SD）４条、柱穴（SP）121基、性格不明遺構（SX）２基である。古墳時代後期の遺構にはSB２および一部の柱穴、古墳時代末～古代に属する遺構には掘立１、SD１・２、一部の柱穴などがあり、その他大半の遺構は弥生時代前期末～中期あるいは弥生時代後期に属すると考えられる。以下、主な遺構について記述する。

【SB１】床面に周壁溝を有する方形の竪穴式住居址で、SB２よりも旧くまたSK８よりも新しい時期の建物であることが判明している。出土遺物には弥生時代中期～後期の土器片がある。

【SB２】規模は南北方向の長さが7.4m以上で、検出面からの深さが10～20㎝を測る。出土遺物には弥生土器、須恵器、石器などがあり、特に砥石の出土が多い。

【SB３】方形の竪穴式住居址で、住居址の規模は一辺約3.7～4.2mを測る。周壁溝の状況や土層の堆積状況等より、旧い住居址の柱穴（柱）を引き続いて利用しながら居住域の改変が行われた可能性が高い。また改変後の住居址床面より焼土と共に、強い熱を受けた粘土塊および少量の炭化物が出土した。出土遺物には弥生土器、石庖丁、土製紡錘車などがある。

【掘立１】久米高畑遺跡62次調査地で確認した掘立002と一連の遺構であり、３間×３間（東西棟）の建物であることが確定した。出土遺物には弥生土器の小片がある。

【SD１・SD２】SK21の表層に混入する須恵器やSK17上面を覆う埋土、須恵器の存在より、本来は東西方向にのびていたと考えられる。その方向から考えて官衙と関連をもった遺構である可能性が高い。

【SK21】床面のレベルが安定しない不整形の土坑で、内部より多くの弥生土器の破片および石器片が出土していることから廃棄土坑である可能性が高い。

**小　結**　史跡の近隣における重要遺跡の確認調査を実施した結果、弥生時代前期末～中期の土坑群及び弥生時代後期の住居址を検出し、また古墳時代後期の住居址や古代以前の掘立柱建物跡、古代の溝状遺構などを部分的に確認することができた。（吉岡）

X=89830
X=89840
Y=−64690
Y=−64700
SK9
SK14
SK24
SK23
SK3
SK4
SK22
SK6
SB3
SK19
SK5
SK21
SK32
SK18
SD1
SK15
SK1
SK2
SK10
SK11
SK25
SK7
掘立1
SD2
SB1
SK12
SK8
SK27
SB2
SK17
0
5m
(S=1:100)

図2　遺構配置図

# 来住廃寺（きしはいじ）32次調査地

所在地　松山市来住町850の一部
期　間　平成17年10月３日～同年12月27日
面　積　約200㎡
担　当　岸見泰宏・大庭美鈴（文化財課）

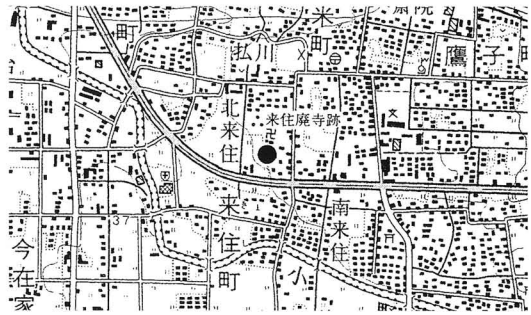


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、史跡久米官衙遺跡群の整備・公開・活用に向けた計画策定にあたっての基礎資料を得るため実施した。調査地は来住廃寺塔基壇跡と呼ばれている箇所で、これまで２度の確認調査が行われたが、礎石配置、基壇規模等が不確定であった。そこで、本調査では基壇本体の全面を検出し、これらの問題の解決を図ることとした。

遺　構　【基壇】基壇は、目の粗い黄色土（地山由来）と黒色土（弥生～古墳時代の包含層由来）を５～６層積み重ねた版築によって構築されており、弥生～古墳時代の包含層上面に直接構築されている。版築の厚さは最大90㎝程度であった。礎石はこれまでの調査で確認されている８石のうち７石を再確認した。礎石はNo.14を除き全て現位置を保っている。また、３箇所で根石の配置を確認し、２箇所で抜取り痕を検出した。また、３箇所で根石の一部と考えられる川原石を検出した。これらの成果から礎石配置は身舎２間×３間、庇４間×５間の建物に復元できる（表１参照）。

基壇北西部では端部を北方向にそろえて重なった状態で瓦が出土した。これらの埋土は基壇とは異なり、上下の瓦同士に隙間が開くことから、瓦積基壇外装の崩落したものと考えられる。また、瓦積の下部には川原石が並んで出土しており、瓦積の基礎である可能性もある。この北側約90㎝の箇所では、基壇東西軸と並行する溝（SD01）を確認した。幅は50～80㎝で、深さは５㎝程度しか残存していない。埋土には粒状になった土器や磨耗した瓦の小片が大量に含まれている。雨落ち溝である可能性があるが、断定することは困難である。瓦積及びSD01の出土状況から、表１の通りの基壇規模が復元できる。

| | 実測数値 | 高麗尺(35.6) | 唐尺(29.7) |
|---|---|---|---|
| 柱間（身舎） | 193 | 5.4 | 6.5 |
| 柱間（庇） | 252.5 | 7.1 | 8.5 |
| 梁行 | 891 | 25 | 30 |
| 桁行 | 1084 | 30.4 | 36.5 |
| 高さ | 90 | 2.55 | 3 |
| 基壇規模（東西） | 1304 | 36.6 | 43.9 |
| 基壇規模（南北） | 1111 | 31.2 | 37.4 |
| 軒の出（雨落中軸） | 84 | 2.4 | 2.8 |

表１　基壇計測表（単位はcm、尺）

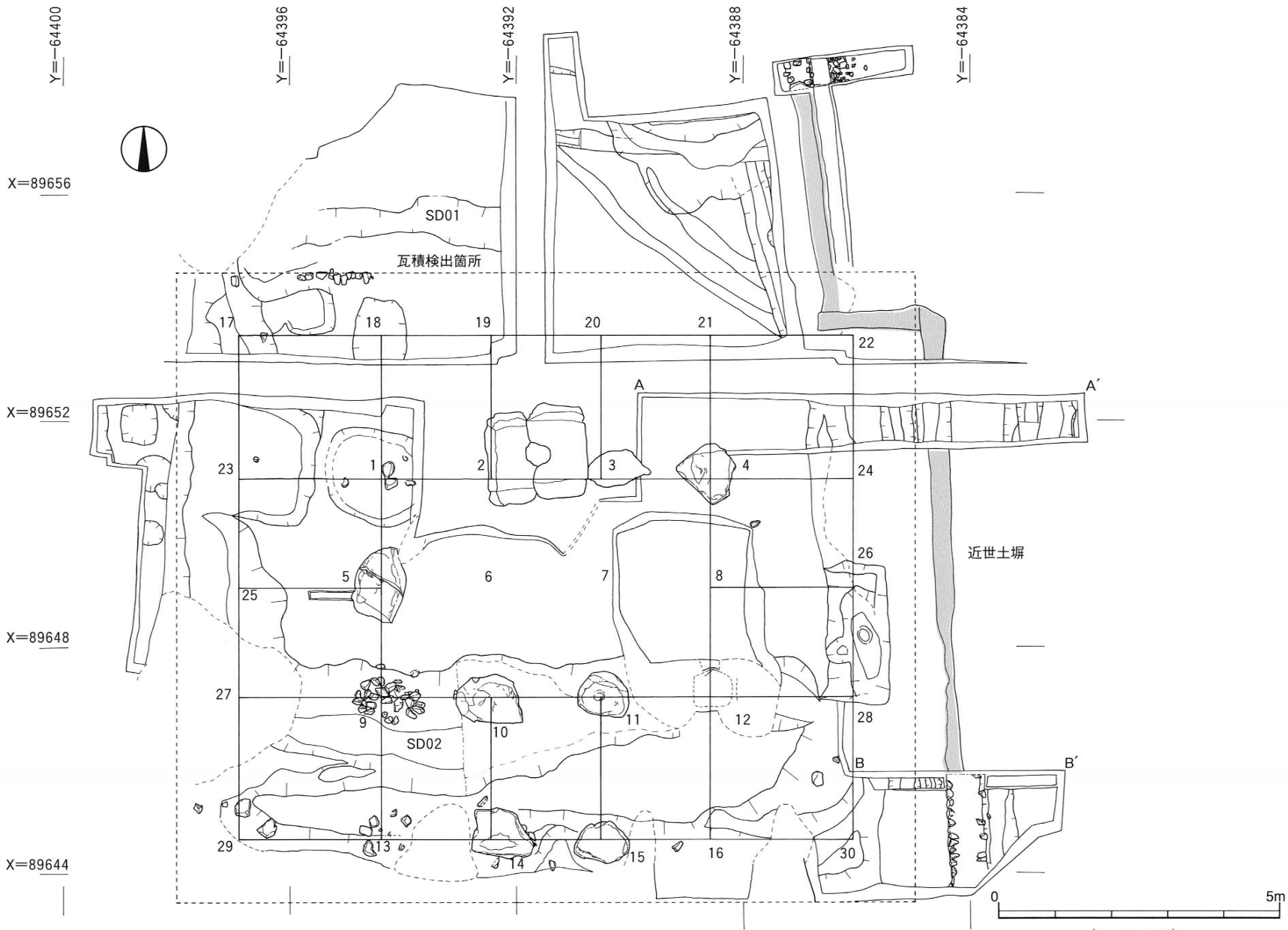

Y=−64400
Y=−64396
Y=−64392
Y=−64388
Y=−64384
X=89656
X=89652
X=89648
X=89644
SD01
瓦積検出箇所
SD02
近世土塀
A
A′
B
B′
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
0
5m
(S=1：100)

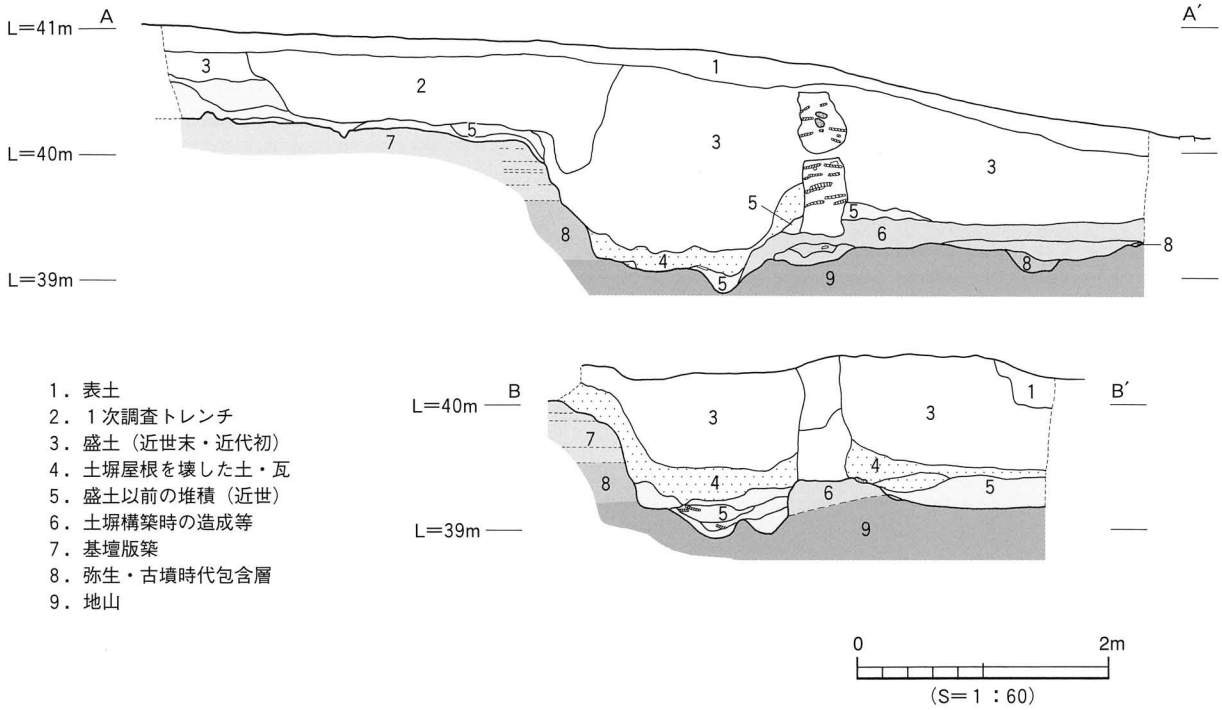
図2　遺構実測図

図３　瓦積出土状況実測図及び土層断面図

【溝状遺構SD02】身舎南面の礎石配置に並行するように東西方向に掘削されている。溝は基壇を東西に貫いており、検出長は10.5mを測る。幅は最大で2.4m、深さは53㎝である。埋土からは近世の遺物が出土しないことや、中世の銅銭（永楽通宝など）が出土していることから、中世に掘削されたと考えられる。

【近世土塀・造成土】

基壇北半と東半には、砂岩塊を含む黄褐色土が厚く堆積しており、厚さは最大1.5mを測る。黄褐色土の直下からは19世紀中頃までの陶磁器が多量に出土しており、江戸末期以降に盛られたことがわかる。基壇東部では、この黄褐色土によって埋められた状態で、土塀本体と基礎が出土した。土塀内部には、近世瓦と古代の瓦が多数埋め込まれており、高さ約1.2mが残存していた。この土塀の雨落ち溝は基壇東面から約20㎝東側に位置しており、地山に達する深さまで掘削されている。なお塔露盤石はこの造成土の上に載っており、基壇に伴うものではないことが改めて確認された。




1．表土
2．１次調査トレンチ
3．盛土（近世末・近代初）
4．土塀屋根を壊した土・瓦
5．盛土以前の堆積（近世）
6．土塀構築時の造成等
7．基壇版築
8．弥生・古墳時代包含層
9．地山

図４　土塀土層断面図

【軒丸瓦Ａ種】調査区全体から多量の近世瓦と古代瓦が出土した。また、弥生土器、石器、須恵器、土師器、近世陶磁器等が出土している。特筆すべき遺物として、新形式の軒丸瓦が２種類出土した。軒丸瓦Ａ種は、有子葉単弁八葉蓮華紋を内区に配し、「×」と「｜」を交互に組み合わせた紋様帯を外区に配する。紋様はすべて凸線で表現される。丸瓦は外縁から約２㎝の位置に取り付けられ、瓦当裏面外縁を周堤状に突出させる個体もある。瓦当面径は17㎝とやや小振りである。

【軒丸瓦Ｂ種】複弁七葉蓮華紋を内区に配し、外区紋様は持たない。蓮弁、間弁は立体感に富み、弁端が強く反転する。双方共に細長く先端は丸くなる。技法上では、瓦当裏面の丸瓦取り付け位置に棒状工具によって溝を彫ったのち丸瓦を取り付けるものや、瓦当裏面中央部が凸レンズ状に膨らむ個体が確認されている。丸瓦取り付け位置は高く、丸瓦凹面の補充粘土が薄い。瓦当面径は19.5㎝と大振りである。

【まとめ】今回確認された建物の礎石配置は、２間×３間で四面庇を持つ建物であり、金堂と考えられる。基壇外装は瓦積基壇である可能性が高い。中･近世にかく乱を受け、端部はごく一部しか残存していないとはいえ、検出された礎石のほぼ全てが現位置を保っており、建物方位は真北方向を採る。遺物については、２種の軒丸瓦が新たに出土した。Ａ種は類似する瓦当紋様を持つ瓦が他で確認されていないことから慎重な判断が必要であるが、周堤造りを呈することから川原寺造営以降で藤原宮期以前までの時期に納まる可能性がある。Ｂ種についても、断面形状が凸レンズ状を呈する個体があることや丸瓦取り付け位置が高い点から、藤原宮期以降に位置づけることは難しい。Ｂ種は今回の調査では法隆寺式軒丸瓦よりも多く出土していることから、創建瓦の一部である可能性が高い。

今回の調査で塔ではなく金堂跡であることが確認されたことによって、伽藍配置や中心伽藍の規模等を再検討する必要が生まれた。今後の調査の中で検討していきたい。（岸見）

写真１　軒丸瓦Ａ種出土状況（北東より）

写真２　軒丸瓦Ｂ種出土状況（南西より）

写真３　礎石配置状況（南より）

写真４　瓦積出土状況（北より）

# Ⅱ　平成17年度
# 松山市埋蔵文化財調査関係資料

# 松山市埋蔵文化財調査関係資料

例言

1．本編は、松山市教育委員会文化財課・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査及び本発掘調査資料である。

2．埋蔵文化財確認調査は平成17年度（申請番号１～292号）、平成17年４月１日～平成18年３月31日受付迄の資料を取り扱う。なお、平成16年度以前の資料については、『埋蔵文化財調査年報Ⅰ～Ⅹ（昭和60～平成９年度）、同年報11～17（平成10～16年度）』を参照されたい。

3．資料作成（一覧表・付録図）は、高尾和長、武正良浩、國田克彦、大庭美鈴、堀眞也、戸川安子、山口由浩、浅井茂之が行った。

4．表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本発掘調査については、平成17年度に行った調査を取り扱う。

5．付録図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図（三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用し、７万５千分の１の縮尺で記載した。

6．一覧の略記について

①標高：地表面、（　）は調査地内平均値。②調査目的：公＝施主公共団体、私＝施主一般。

③調査方法：空白は未調査等。　④緊急：記録保存を目的とした調査。国補：国庫補助事業調査。

### 埋蔵文化財の保護について

文化財は、わが国の歴史・文化等を正しく理解するために欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の向上、発展の基礎をなすものです。それら文化財の保存・活用による国民の文化的向上を目的として昭和25年に制定された文化財保護法には、国民の心構えとして、「政府及び地方公共団体がこの目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない」こと、「文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、その文化的活用に努めなければならない」ことが記されています。また同時に政府及び地方公共団体は、関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならないこととなっています。

### ●周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出および確認調査について

埋蔵文化財包蔵地とは、貝塚、古墳、城跡等はもとより、土器片等の地表面での散布が認められる場所（散布地）、並びに土中での包含が認められる場所（包含地）をいいます。

埋蔵文化財は、建造物等の他の文化財と違って主に地下に存在するため、土木工事等による破壊を免れない場合があります。そのため、地図註１に示された「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で土木工事等を行なう場合は、60日前までに愛媛県教育委員会への届出が義務付けられています。また、その届出に伴い埋蔵文化財の有無を確認するための調査（踏査、試掘等）を行いますので、土木工事等の計画がある場合は事前に松山市教育委員会文化財課へご相談ください。

註１．地図（松山市埋蔵文化財包蔵地図）は、文化財課にて配布しております。

### 松山市域包蔵地

1 お稲荷さん古墳　2 天の神様古墳　3 じんうわ古墳　4 大池古墳
5 御手洗遺跡　6 赤子谷山古墳　7 坂波古墳　8 せいじ坊古墳
9 のぼりを山古墳　10 片廻遺跡　太山寺古墳群　片廻古墳群　素鷲神社
11 石風呂町遺物包含地・古墳群　岩木山古墳群　12 和気支所遺物包含地　13 高山遺跡
14 梅津寺古墳群　15 三光団地遺跡　16 船ヶ谷古墳群　北山古墳群　17 東山町古墳群
18 久万ノ台古墳群・遺物包含地　19 衣山遺跡　衣山古墳群Ｂ　東仙寺古墳群
20 永塚古墳　21 衣山古墳群　うまや古墳・遺物包含地　22 山西遺物包含地
23 忽那山古墳群　24 弁天山古墳群　鯛崎遺物包含地　25 生石八幡神社古墳群
26 南斎院遺跡　27 津田古墳群　遺物包含地　28 八反地遺跡　29 北斎院遺物包含地
30 -①御産所古墳群①　30 -②御産所古墳群②　31 岩子山遺跡・古墳群

32 大峰ヶ台遺跡A、大峰ヶ台古墳群A
33 大峰ヶ台遺跡B、大峰ヶ台古墳群B
34 朝美町遺跡
35 古照遺跡
36 正水遺跡
37 南江戸町遺跡
38 北谷・権現山遺物包含地・古墳群
39 ろうそく山古墳
40 堂ヶ谷古墳
41 潮見古墳群・遺物包含地
42 大久保山古墳
43 池ノ谷古墳
44 みのこし遺跡
45 姫原古墳群
46 長建寺古墳
47 横谷丸塚古墳
48 御幸寺山古墳
49 長谷遺跡
50 祝谷古墳群
51 山田池(祝谷)遺物包含地
52 瀬戸風峠古墳群
53 土居の段遺物包含地
54 常信寺山古墳群
55 北代遺物包含地
56 緑台遺物包含地
57 土居窪遺物包含地
58 桜谷古墳群
59 桜谷本尊古墳
60 冠山遺跡
61 義安寺遺物包含地
62 石手寺古墳群
63 石手寺古墳第１号
64 石手寺古墳第２号
65 氷室谷古墳群
66 溝辺古墳群
67 文京遺跡(樋又遺跡・元練兵場遺物包含地)
68 今市遺物包含地
69 水口遺跡
70 通町遺物包含地
71 土器堀(ｶﾜﾗｹﾎﾞﾘ)遺物包含地
72 持田町遺物包含地
73 堀之内遺物包含地
74 松山城跡、城ノ内古墳群
75 寺山古墳
76 勝山古墳
77 鎧塚古墳
78 東野古墳群
79 お茶屋台古墳群
80 東野池古墳群
81 樽味遺物包含地
82 東本遺物包含地
83 枝松遺物包含地
84 経石山古墳
85 三島神社古墳跡
86 赤坂古墳
87 畑寺古墳群
88 桑原古墳群
89 芝ヶ峠古墳群
90 権現山古墳群
91 久米山田池遺物包含地・古墳群
92 たんち山古墳
93 鷹ノ子古墳・五郎兵衛谷古墳
94 大池古墳群
95 大門遺物包含地・古墳群
96 桧山峠古墳群
97 今吉古墳群
98 かいなご古墳群
99 平井谷古墳群
100 牛馬塚古墳
101 観音山古墳群、観音山遺物包含地、廃寺跡
102 駄馬窯跡群
103 鳥越古墳
104 土居溜池古墳群
105 潮見山古墳群、愛宕山古墳、山越古墳
106 明神ヶ鼻古墳群
107 播磨塚古墳群
108 中村町遺跡
109 朝生田遺物包含地
110 釜ノ口遺跡
111 小坂五丁目遺物包含地
112 天山町遺物包含地
113 枝松五丁目遺物包含地
114 松末遺物包含地
115 土亀山墳墓群
116 川付遺物包含地
117 天山古墳群　遺物包含地
118 東山古墳群・遺物包含地
119 西石井遺物包含地
120 居相遺物包含地
121 井門遺物包含地
122 星ノ岡古墳群　遺物包含地
123 武勇神社古墳
124 北久米遺物包含地
125 今在家遺物包含地
126 高畑遺物包含地
127 来住廃寺跡
128 鷹ノ子遺物包含地①
129 鷹ノ子遺物包含地②
130 軍ヶ森千人塚古墳
131 久米窪田遺物包含地
132 中ノ子廃寺遺物包含地
133 波賀部古墳
134 浮穴小学校遺物包含地
135 高尾田古墳群　遺物包含地
136 ドンダ原坂古墳群　遺物包含地
137 南ヶ丘遺跡　古墳群
138 八塚古墳群
139 西野古墳群　遺物包含地
140 松ヶ谷古墳群　遺物包含地
141 荏原城跡
142 水泥遺物包含地
143 町組遺物包含地
144 矢谷古墳群　遺物包含地
145 長生池の上遺物包含地
146 夫婦池の上遺物包含地
147 津吉遺物包含地
148 津吉古墳群
149 津吉上古墳群
150 北谷窯跡
151 北谷遺物包含地
152 平井遺物包含地
153 道後公園遺物包含地
154 久枝遺物包含地
155 安城寺遺物包含地
156 北斎院遺物包含地
157 桑原遺物包含地
158 北土居墳墓
159 宮田町遺物包含地
160 山越遺物包含地
161 中村二丁目遺物包含地
162 素鷲神社遺物包含地
163 南中学校遺物包含地
164 土用部池の上遺物包含地・新張池の上遺物包含地
165 関屋遺物包含地
166 北梅本遺物包含地
167 久万ノ台遺物包含地
168 姫原遺物包含地
169 大畑遺跡
170 -①権現遺物包含地①
170 -②権現遺物包含地②
170 -③ 権現遺物包含地③
171 上関屋遺物包含地
172 竹が谷遺跡
173 大渕遺跡
174 明沢城跡
175 葛籠葛城跡
176 土居城跡
177 花見山(福角)城跡
178 湊山(港山)城跡
179 医座山(白山)城跡
180 大友(大砥)城跡
181 奥の城(城山さん)
182 形山城跡
183 勝山(片山)城跡
184 菊ヶ森城跡
185 葛掛城跡(城ヶ台)
186 重松城跡
187 勝賀山(梅子山)城跡
188 新(真)城跡
189 高井城跡
190 高山城跡
191 縦渕(立渕)城跡
192 尉の(除の)城跡
193 新張(縫針)城跡
194 西之谷城跡
195 福角城跡
196 松船城跡
197 森の城(吉野森城)跡
198 義安寺砦跡
199 鳥津木城跡
200 鏡山城跡
201 観音山
202 松末館跡
203 二之森(ふたつ森)城跡
204 賀生(加名山)城跡
205 仙波館跡
206 横山城跡

## 北条地区包蔵地

1 名石古墳　2 丸山古墳　3 高山古墳　4 家の谷古墳　5 打越A古墳　6 打越B古墳
7 難波奥谷古墳〈県指定文化財〉　8 小坂古墳　9 小原古墳　10 岡の上古墳　11 萩尾古墳群
12 宮内馬場古墳　13 辻の内古墳群　14 才の谷古墳　15 櫛玉比売命神社古墳　16 新城古墳群
17 龍徳寺山古墳群　18 稗佐古遺跡　19 女夫池遺跡　20 柳が内遺跡　21 夏狩遺跡　22 池の奥遺跡
23 安養寺遺跡　24 垣の内遺跡　25 常竹大谷古墳群　26 蓮台寺経塚　27 天狗谷古墳群
28 南宮の戸貝塚〈市指定文化財〉　29 大遊寺古墳群　30 波田神田古墳群　31 地蔵堂古墳群　32 別府遺物包蔵地
33 夏目古墳群　34 椋之原古墳群　35 明見神社古墳群　36 センボ山古墳群　37 宇佐八幡神社古墳
38 上難波古墳群　39 上難波箱式石棺墓　40 下難波古墳群　41 小山田古墳群　42 小山田遺跡
43 波田箱式石棺群　44 波田(烏谷池)遺跡　45 善応寺経塚　46 日浦経塚　47 マス池遺跡　48 前田池遺跡
49 恵良山遺跡　50 菖蒲谷遺跡　51 椋之原山遺跡　52 高山遺跡　53 片山池遺跡　54 常竹遺跡
55 老僧奥遺跡　56 西久保遺跡　57 平山池遺跡　58 三島ヶ谷遺跡　59 大成遺跡　60 陣屋遺跡
61 平原遺跡　62 土居遺跡　63 観音堂遺跡　64 上竹遺跡　65 神田遺跡　66 八竹山遺跡
67 善応寺遺跡　68 東禅寺遺跡　69 河野館跡　70 来島一族宝篋印塔　71 福性寺跡　72 ～77 「欠」
78 山の神古戦場跡〈市指定文化財〉　79 鎌大師境内(十八人塚)〈市指定文化財〉　80「欠」
81 茶臼権現遺跡〈市指定文化財〉　82 河原池遺跡　83 和田池遺跡　84 サオ池遺跡　85 阿部ヶ谷池遺跡
86 萩原遺跡　87 鹿島遺跡　88 腰折山東遺跡　89 上難波奥遺跡　90 上難波奥弥生墳墓
91 安養寺谷(辻新池)遺跡　92「欠」　93 恵良城跡〈県指定文化財〉　94 鹿島城跡
95 十二台(神途)城跡　96 高穴城跡　97 宅並城跡　98 日高山城跡　99 横山城跡〈県指定文化財〉
100 浅海城跡　101 雄甲城跡　102 勝根山城跡　103 須保木城跡　104 十九地山城跡　105 萩尾城跡
106 雌甲城跡　107 丸山城跡　108 長正寺遺跡　109 新日高城跡　110 高手山城跡　111 能楽遺跡
112 高縄城跡　113 腰折山城跡　114 新城山城跡　115 神途城跡　116 新高手山城跡　117 萩ノ森城跡
118 名石城跡　119 柴尾城跡　120 兎ヶ城跡　121 波妻城跡　122 小新城砦跡　123 八竹山城跡
124 栗井坂遺跡　125 古日高城跡　126 鹿島神社前遺跡　127 俵原池遺跡　128 エギ谷古墳　129 善応寺畦地遺跡

## 中島地区包蔵地

1 城の台砦跡　2 河野様積石遺構　3 野忽那立場墳墓群　4 丸山古墳〈市指定文化財〉
5 梅の子島砦跡〈市指定文化財〉　6 梅の子遺跡　7 梅の子本城跡〈市指定文化財〉　8 中島粟井坂遺跡
9 吉木遺跡　10 神浦神社遺跡　11 宮野神社遺跡　12 宮野権現山古墳　13 小長師古墳　14 大串遺跡
15 大浦油田遺跡　16 大浦さこの奥遺跡　17 泰山堂山遺跡　18 泰山城跡〈市指定文化財〉　19 むかい山遺跡
20 泊古墳跡　21 熊田城の山遺跡　22 大串古墳群　23 瀬木戸古墳　24 かがり山１号墳　25 かがり山２号墳
26 中山古墳〈市指定文化財〉　27 五本松遺跡　28 宮浦西遺跡　29 宮浦遺跡　30 竹の浦遺跡
31 竹の浦西遺跡　32 泊遺跡　33 二神家墓地遺跡　34 二神城の山砦跡　35 由利島遺跡　36 由利島大谷遺跡
37 由利島長者屋敷遺跡　38 御場ヶ嶽城跡　39 長師遺跡　40 九多児城跡〈市指定文化財〉
41 本山城跡〈市指定文化財〉　42 竹の上城跡　43 黒岩城跡　44 高木佐渡守館跡　45 旗山城跡
46 泊城跡　47 能磯砦跡　48 元怒和寺の下遺跡

## 表1　平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　（1）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 衣山２丁目 | 452.89 | 24.9 | No.20 | 私 | 試掘 | | | |
| 2 | 北斎院町 | 765.65 | 8.6 | No.29 | 私 | 試掘 | | | |
| 3 | 道後北代 | 1,272.48 | 32.9 | No.55･56･57 | 私 | 試掘 | | | |
| 4 | 古三津３丁目 | 133.66 | 10.1 | No.19 | 私 | 試掘 | | | |
| 5 | 朝日ヶ丘２丁目 | 336.41 | 38.6 | No.33 | 私 | 試掘 | | | |
| 6 | 姫原２丁目 | 310.83 | 21.6 | No.168 | 私 | 試掘 | | | |
| 7 | 北斎院町 | 974.88 | 80 | No.29 | 私 | 試掘 | | | |
| 8 | 来住町 | 330.00 | 40.3 | No.127 | 私 | 試掘 | | | |
| 9 | 平井町甲 | 173.39 | 57.3 | No.152 | 私 | 試掘 | | | |
| 10 | 西石井５丁目 | 995.07 | 20.5 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 11 | 祝谷４丁目 | 635.68 | 40.3 | No.55･56･57 | 私 | 試掘 | | | |
| 12 | 桑原６丁目 | 766.45 | 31.7 | No.83 | 私 | 試掘 | | | |
| 13 | 桑原５丁目 | 550.29 | 34.5 | No.82 | 私 | 試掘 | | | |
| 14 | 小坂２丁目 | 173.21 | 29.2 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 15 | 畑寺４丁目10番1　外9筆 | 8,253.00 | | No.88 | 公 | | | | |
| 16 | 平井町 | 862.57 | 69.7 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 17 | 樽味２丁目 | 185.12 | 42.7 | No.81 | 私 | 試掘 | | | |
| 18 | 樽味２丁目 | 138.00 | 40.3 | No.81 | 私 | 試掘 | | | |
| 19 | 谷町 | 231.92 | 14.6 | No.41 | 私 | 試掘 | | | |
| 20 | 木屋町 | 198.34 | 22.3 | No.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 21 | 北条560番1の一部　外 | 1,416.86 | 22.1 | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 22 | 北久米町 | 255.61 | 35.5 | No.126 | 私 | 試掘 | | | |
| 23 | 西石井６丁目 | 138.07 | 21.1 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 24 | 姫原１丁目 | 188.41 | 27.6 | No.168 | 私 | 試掘 | | | |
| 25 | 南久米町 | 239.01 | 36.9 | No.126 | 私 | | | | H15-172　試掘済<br>未調査部分意見書 |
| 26 | 鷹子町 | 348.70 | 45.9 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 27 | 道後湯月町甲1651番地　外 | 300.00 | 45.8 | 包蔵地外 | 公 | 試掘 | | | |
| 28 | 南久米町 | 189.28 | 39.9 | No.127 | 私 | 試掘 | | | |
| 29 | 鷹子町 | 652.07 | 44.5 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 30 | 北久米町 | 122.67 | 31.9 | No.124 | 私 | 試掘 | | | |
| 31 | 久万ノ台 | 380.52 | 19.6 | No.20 | 私 | 試掘 | | | |
| 32 | 平井町甲 | 165.39 | 59.5 | No.152 | 私 | 試掘 | | | |
| 33 | 土手内16番9　外 | 4,900.00 | 2.5 | 包蔵地外 | 公 | 試掘 | | | |
| 34-① | 小坂２丁目210番1　外 | 3,000.00 | 29.6 | No.110 | 公 | 試掘 | | | |
| 34-② | 小坂２丁目210番1　外 | | 30 | No.110 | 公 | 試掘 | | | |
| 35 | 平井町甲 | 195.10 | 47.7 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |

## 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　（2）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 36 | 北土居町 | 4.83 | 28.2 | No.120 | 私 | 既済 | | | H11-303・H13-155・H16-234 試掘済 |
| 37 | 祝谷２丁目 | 131.77 | 35.6 | No.55・56・57 | 私 | 試掘 | | | |
| 38 | 鷹子町乙 | 5,065.00 | | No.94 | 私 | 踏査 | | | |
| 39 | 平井町甲 | 136.00 | 21.8 | No.152 | 私 | 試掘 | | | |
| 40 | 北斎院町 | 662.00 | 11.1 | No.35 | 私 | 試掘 | | | |
| 41 | 平井町甲 | 994.28 | 63.5 | No.152 | 私 | | | | H16-202 試掘済<br>未調査部分意見書 |
| 42 | 桑原２丁目 | 139.15 | 37.9 | No.82 | 私 | 試掘 | | | |
| 43 | 北斎院町 | 266.15 | 9.9 | No.156 | 私 | 既済 | | | H16-147 試掘済 |
| 44 | 道後一万 | 149.04 | 33.4 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 45 | 来住町 | 284.00 | 40.9 | No.127 | 私 | 試掘 | | | |
| 46 | 北井門町 | 2,154.00 | 23.5 | No.120 | 私 | 試掘 | | | |
| 47 | 道後今市 | 1,547.33 | 32.2 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 48 | 祝谷２丁目 | 138.84 | 34.7 | No.55・56・57 | 私 | 試掘 | | | |
| 49 | 桑原７丁目 | 319.11 | 31.2 | No.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 50 | 道後喜多町 | 112.39 | 35 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 51 | 山西町 | 2,490.00 | 10.7 | No.21 | 私 | 試掘 | | | |
| 52 | 祝谷５丁目 | 239.03 | 49.9 | No.55・56・57 | 私 | 試掘 | | | |
| 53 | 道後一万 | 186.33 | 33 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 54 | 桑原７丁目 | 123.01 | 32.4 | No.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 55 | 北梅本町 | 568.39 | 115.9 | No.166 | 私 | 試掘 | | | |
| 56 | 小坂２丁目 | 192.71 | 29.8 | No.110 | 私 | 既済 | | | H10-107 試掘済 |
| 57 | 小坂２丁目 | 259.59 | 29.9 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 58 | 西石井６丁目 | 956.00 | 21.4 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 59 | 愛光町 | 116.58 | 14.8 | No.34 | 私 | 試掘 | | | |
| 60 | 福音寺町 | 1,464.93 | 23.5 | No.116 | 私 | 既済 | | | H16-44 試掘済 |
| 61 | 平井町甲 | 243.03 | 47.7 | No.131 | 私 | 試掘 | | | |
| 62 | 小坂４丁目 | 258.58 | 25.3 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 63 | 朝生田町３丁目 | 204.15 | 18.5 | No.109 | 私 | 試掘 | | | |
| 64 | 小坂４丁目 | 245.95 | 26.2 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 65 | 桑原２丁目 | 456.38 | 38.3 | No.157 | 私 | 試掘 | | | |
| 66 | 松山市長師817番地 | 6,814.20 | 5.5 | 包蔵地外 | 公 | 試掘 | | | |
| 67 | 枝松４丁目 | 291.29 | 30.8 | No.83 | 私 | 試掘 | | | |
| 68 | 来住町895番地・895番地先 | 1.70 | 37.8 | No.127 | 公 | 既済 | | | H16-251 試掘済 |
| 69 | 平井町甲 | 750.95 | 63.3 | No.152 | 私 | 試掘 | | | |
| 70 | 南久米町352番地先～<br>北久米町329番地先 | 160.50 | | No.126 | 公 | | | | 申請取り下げ |
| 71 | 西石井５丁目 | 4.00 | 59.1 | 包蔵地外 | 私 | 既済 | | | H15-296　試掘済 |

## 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

（3）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 72 | 道後一万 | 174.28 | 33.4 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 73 | 畑寺町 | 133.29 | 161.4 | No.88 | 私 | 試掘 | | | |
| 74 | 桑原４丁目 | 182.96 | 38.7 | No.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 75 | 北斎院町 | 206.72 | 8 | No.27 | 私 | 試掘 | | | |
| 76 | 鷹子町 | 527.82 | 44.7 | No.91 | 私 | 試掘 | | | |
| 77 | 道後喜多町 | 339.04 | 34.6 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 78 | 鷹子町 | 1,578.00 | 48.4 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 79 | 道後今市 | 167.76 | 31.8 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 80 | 山西町 | 1,049.00 | 2.5 | No.22 | 私 | 試掘 | | | |
| 81 | 小坂５丁目 | 605.51 | 22.83 | No.111 | 私 | | | | H14-88 試掘済<br>未調査部分意見書 |
| 82 | 鷹子町 | 566.09 | 48.2 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 83 | 南土居町 | 836.22 | 36.6 | No.132 | 私 | 試掘 | | | |
| 84 | 水泥町 | 454.48 | 67.4 | No.142 | 私 | 試掘 | | | |
| 85 | 南土居町 | 935.04 | 40.4 | No.132 | 私 | 試掘 | | | |
| 86 | 祝谷６丁目 | 260.41 | 50.4 | No.55･56･57 | 私 | 試掘 | | | |
| 87 | 道後町２丁目 | 259.20 | 34 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 88 | 清水町２丁目 | 141.54 | 23.6 | No.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 89 | 辻町 | 62.80 | 14.4 | No.34 | 私 | 試掘 | | | |
| 90 | 太山寺町甲 | 490.00 | 3.7 | No.173 | 私 | 試掘 | | | |
| 91 | 東野５丁目甲 | 708.00 | 57.9 | No.79 | 私 | 試掘 | | | |
| 92 | 山越２丁目甲 | 132.26 | 49.9 | No.160 | 私 | 試掘 | | | |
| 93 | 小坂２丁目 | 278.00 | 27.4 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 94 | 高砂町１丁目 | 49.59 | 22.75 | No.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 95 | 小坂４丁目 | 768.22 | 25 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 96 | 天山１丁目 | 112.02 | 21.6 | No.117 | 私 | 試掘 | | | |
| 97 | 鷹子町 | 359.52 | 48.4 | No.129 | 私 | 既済 | | | H17-78･82 試掘済 |
| 98 | 久米窪田町 | 341.76 | 45.6 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 99 | 東石井６丁目 | 744.99 | 22.1 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 100 | 鷹子町 | 579.20 | 45.7 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 101 | 天山２丁目 | 188.84 | 27 | No.117 | 私 | 試掘 | | | |
| 102 | 別府町 | 445.16 | 4.6 | No.30-1 | 私 | 試掘 | | | |
| 103 | 衣山 | 478.55 | 24.4 | No.20 | 私 | 試掘 | | | |
| 104 | 山越１丁目 | 208.31 | 18.4 | No.160 | 私 | 試掘 | | | |
| 105 | 祝谷２丁目 | 357.00 | 35 | No.55･56･57 | 私 | 試掘 | | | |
| 106 | 鷹子町 | 841.84 | 44.4 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 107 | 辻町 | 214.91 | 15.6 | No.34 | 私 | 試掘 | | | |

## 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

（4）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 108 | 山西町 | 1,024.00 | 3.7 | No.22 | 私 | 試掘 | | | |
| 109 | 天山町 | 613.86 | 22.9 | No.112<br>No.117 | 私 | 試掘 | | | |
| 110 | 樽味４丁目 | 120.30 | 42.7 | No.81 | 私 | 既済 | | | H16-25 試掘済 |
| 111 | 祝谷４丁目 | 1,500.00 | 48.95 | No.55・56・57 | 私 | 試掘 | | | |
| 112 | 中村２丁目 | 198.60 | 26.4 | No.162 | 私 | 既済 | | | H16-348 試掘済 |
| 113 | 善応寺甲107番1地先　外 | 496.50 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 114 | 善応寺甲62番地先　外 | 671.50 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 115 | 善応寺甲425番地先　外 | 470.80 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 116 | 善応寺甲1180番3地先　外 | 547.00 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 117 | 善応寺甲1228番4地先　外 | 417.70 | | (北条地区)<br>No.31 | 公 | | | | |
| 118 | 西石井２丁目 | 923.00 | 19.7 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 119 | 来住町 | 1,297.56 | 35.3 | No.127 | 私 | 試掘 | | | |
| 120 | 佐古甲408番1地先　外 | 637.50 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 121 | 佐古 | 665.90 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 122 | 佐古乙60番5地先　外 | 648.00 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 123 | 佐古乙61番1地先　外 | 655.80 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 124 | 佐古 | 59.30 | | 包蔵地外 | 公 | | | | |
| 125 | 祝谷５丁目 | 154.87 | 45.68 | No.55・56・57 | 私 | 試掘 | | | |
| 126 | 南梅本町甲773番・774番1・774番2・776番2・801番・802番・803番・804番 | 2,817.00 | 69.4 | 包蔵地外 | 公 | 試掘 | | | |
| 127 | 来住町 | 581.74 | 41.1 | No.127 | 私 | 試掘 | | | |
| 128 | 平井町甲 | 459.84 | 85.7 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 129 | 畑寺３丁目 | 1,476.00 | 32.7 | No.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 130 | 小坂３丁目 | 697.10 | 27.4 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 131 | 西石井６丁目 | 703.27 | 21.4 | No.119 | 私 | 既済 | | | H17-58 試掘済 |
| 132 | 水泥町 | 172.55 | 49.5 | No.131 | 私 | 試掘 | | | |
| 133 | 来住町 | 134.16 | 37.6 | No.127 | 私 | 試掘 | | | |
| 134 | 枝松３丁目 | 1,540.00 | 32.6 | No.83 | 私 | 試掘 | | | |
| 135 | 枝松３丁目 | 917.82 | 32.7 | No.83 | 私 | 試掘 | | | |
| 136 | 船ヶ谷町 | 186.88 | 21.5 | No.17 | 私 | 試掘 | | | |
| 137 | 道後今市 | 227.90 | 32.3 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 138 | 吉藤５丁目 | 609.79 | 40.2 | No.41 | 私 | 試掘 | | | |
| 139 | 小坂５丁目 | 1,160.70 | 23.4 | No.111 | 私 | 試掘 | | | |
| 140 | 鷹子町 | 180.77 | 48.5 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 141 | 久米窪田町 | 508.03 | 46.7 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 142 | 南久米町 | 98.28 | 39.9 | No.127 | 私 | 既済 | | | H17-28 試掘済 |
| 143 | 祝谷６丁目 | 1,696.24 | 68.2 | No.49<br>No.51 | 私 | 試掘 | | | |

## 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

（5）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 144 | 星岡町 | 353.00 | 28.1 | No.116 | 私 | 試掘 | | | |
| 145 | 南土居町 | 991.00 | 37.8 | No.132 | 私 | 試掘 | | | |
| 146 | 緑町１丁目 | 121.51 | 28.4 | No.74 | 私 | 試掘 | | | |
| 147 | 北久米町 | 535.47 | 31.9 | No.126 | 私 | 試掘 | | | |
| 148 | 鷹子町 | 290.47 | 45.21 | No.129 | 私 | | | | H15-331 試掘済<br>未調査部分意見書 |
| 149 | 道後今市 | 284.28 | 32 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 150 | 平井町甲 | 558.42 | 76.4 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 151 | 鷹子町 | 104.36 | 42.9 | No.128 | 私 | 既済 | | | H16-342 試掘済 |
| 152 | 山西町903番4番地～<br>山西町983番地先 | 301.40 | | No.22 | 公 | | | | 意見書 |
| 153 | 南久米町<br>南久米町乙 | 942.06 | 52 | No.91 | 私 | 既済 | | | H元-16 試掘済 |
| 154 | 平井町甲 | 1,088.69 | 68.7 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 155 | 小坂５丁目 | 1,321.50 | 25.4 | No.111 | 私 | 試掘 | | | |
| 156 | 西石井６丁目 | 233.95 | | No.119 | 私 | | | | H16-219 一部調査済 |
| 157 | 若草町3番6先 | 58.20 | | 包蔵地外 | 公 | | | | 意見書 |
| 158 | 南江戸５丁目 | 197.03 | 13.4 | No.35 | 私 | 試掘 | | | |
| 159 | 西石井６丁目 | 823.51 | 22.1 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 160 | 南江戸５丁目 | 690.74 | 14.1 | No.34 | 私 | 試掘 | | | |
| 161 | 道後樋又 | 331.02 | 29.7 | No.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 162 | 今在家２丁目 | 311.92 | 31.3 | No.125 | 私 | 試掘 | | | |
| 163 | 山西町 | 1,701.13 | 2.3 | No.22 | 私 | 既済 | | | H13-85・H14-242・<br>H16-300 試掘済 |
| 164 | 来住町 | 550.65 | 40.9 | No.127 | 私 | 既済 | | | H17-127 試掘済 |
| 165 | 祝谷町１丁目乙 | 347.54 | 61.3 | No.53 | 私 | 試掘 | | | |
| 166 | 桑原７丁目 | 343.00 | 32.3 | No.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 167 | 樽味４丁目 | 2,238.00 | 40.4 | No.81 | 私 | 試掘 | | | |
| 168 | 道後喜多町 | 339.04 | 34.4 | No.68 | 私 | 既済 | | | H17-77 試掘済 |
| 169 | 畑寺町824番地先～<br>畑寺町238一134番地先 | 646.00 | 56.3 | 包蔵地外 | 公 | 立会 | | | |
| 170 | 畑寺町238一134番地先～<br>8番地先 | 612.00 | 56.3 | 包蔵地外 | 公 | 立会 | | | |
| 171 | 畑寺町235番地～<br>畑寺町826番地 | 273.40 | 56.3 | 包蔵地外 | 公 | 立会 | | | |
| 172 | 北梅本町甲 | 232.73 | 76.4 | No.107 | 私 | 試掘 | | | |
| 173 | 新浜町 | 412.30 | 5.5 | No.11 | 私 | 試掘 | | | |
| 174 | 久米窪田町 | 137.62 | 45.7 | No.129 | 私 | 試掘 | | | |
| 175 | 久谷町甲 | 316.74 | | No.71 | 私 | | | | |
| 176 | 祝谷２丁目 | 210.11 | 47.6 | No.55・56・57 | 私 | 試掘 | | | |
| 177 | 桑原４丁目 | 156.05 | 36.7 | No.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 178 | 東石井５丁目 | 223.37 | 22.1 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 179 | 北斎院町 | 156.71 | 7.9 | No.27 | 私 | 試掘 | | | |

## 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

（6）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 180 | 東石井６丁目 | 744.99 | 22.1 | No.119 | 私 | 既済 | | | H17-99　試掘済 |
| 181 | 平井町甲 | 315.79 | 69.7 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 182 | 小坂２丁目 | 255.26 | 29.7 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 183 | 北斎院町 | 430.55 | 8.6 | No.29 | 私 | 試掘 | | | |
| 184 | 小坂３丁目 | 278.53 | 27.4 | No.110 | 私 | 既済 | | | H17-93　試掘済 |
| 185 | 桑原２丁目 | 268.31 | 39.1 | No.157 | 私 | 既済 | | | H16-233　試掘済 |
| 186 | 南久米町 | 98.24 | 39.7 | No.127 | 私 | 既済 | | | H17-28　試掘済 |
| 187 | 平井町甲 | 14.61 | 60.9 | No.95 | 私 | 試掘 | | | |
| 188 | 鷹子町 | 896.24 | 44.2 | No.129 | 私 | | | | H17-106　試掘済<br>未調査部分意見書 |
| 189 | 南久米町701番5地先 | 26.40 | | No.127 | 公 | 既済 | | | H13-296　試掘済 |
| 190 | 姫原１丁目乙 | 25.00 | 70.2 | No.45 | 私 | 試掘 | | | |
| 191 | 小川乙 | 25.00 | 77.3 | 包蔵地外 | 私 | 試掘 | | | |
| 192 | 久米窪田町 | 1,033.00 | 44.7 | No.131 | 私 | 試掘 | | | |
| 193 | 東石井５丁目 | 2,516.00 | 21.3 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 194 | 樽味４丁目 | 62.68 | 49.8 | No.81 | 私 | | | | |
| 195 | 畑寺２丁目 | 1,895.33 | 39.8 | No.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 196 | 北土居町 | 280.09 | 23.8 | No.120 | 私 | 試掘 | | | |
| 197 | 鷹子町乙 | 330.58 | 78.1 | No.94 | 私 | 試掘 | | | |
| 198 | 南江戸６丁目 | 154.00 | 45 | No.32 | 私 | 試掘 | | | |
| 199 | 来住町 | 1,499.07 | 38.6 | No.127 | 私 | 試掘 | | | |
| 200 | 南江戸町５丁目 | 227.88 | 24 | No.33 | 私 | 試掘 | | | |
| 201 | 祝谷２丁目 | 216.08 | 37.2 | No.55･56･57 | 私 | 試掘 | | | |
| 202 | 北斎院町 | 165.84 | 9.1 | No.29 | 私 | 試掘 | | | |
| 203 | 平井町甲 | 52.80 | 82.6 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 204 | 朝生田町２丁目 | 165.51 | 19.1 | No.109 | 私 | 試掘 | | | |
| 205 | 南久米町 | 194.73 | 38.8 | No.127 | 私 | 既済 | | | H16-363　調査済 |
| 206 | 南久米町 | 148.79 | 38.8 | No.127 | 私 | 既済 | | | H16-363　調査済 |
| 207 | 平井町乙185番4 | 2,952.00 | | No.97 | 公 | 踏査 | | | |
| 208 | 樽味２丁目86番2地先から<br>正円寺１丁目341番1地先迄 | 378.10 | | No.81 | 公 | | | | |
| 209 | 南斎院町乙 | 333.83 | | No.30-2 | 私 | 踏査 | | | |
| 210 | 太山寺町甲 | 1,039.96 | 4 | No.173 | 私 | 試掘 | | | |
| 211 | 樽味４丁目 | 0.29 | | No.81 | 私 | | | | |
| 212 | 久米窪田町1130番5地先　外 | 86.50 | | No.128 | 公 | | | | |
| 213 | 桑原４丁目 | 156.05 | 36.5 | No.85 | 私 | 既済 | | | H17-177　試掘済 |
| 214 | 道後喜多町 | 100.83 | 34.8 | No.68 | 私 | 既済 | | | H17-50　試掘済 |
| 215 | 南久米町442番1・372番1<br>南久米町375番2・633番4先 | 350.00 | | No.126<br>No.127 | 公 | | | | 意見書 |

## 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

（7）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 216 | 東石井５丁目 | 768.92 | 21 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 217 | 桑原２丁目 | 37.90 | 38.9 | No.157 | 私 | 試掘 | | | |
| 218 | 南江戸５丁目1463番 | 1,380.87 | 24.2 | No.33 | 公 | 試掘 | | | |
| 219 | 大街道３丁目 | 4,140.00 | 37.8 | No.74 | 私 | 試掘 | | | |
| 220 | 桑原２丁目 | 266.21 | 39.1 | No.157 | 私 | 既済 | | | H16-233　試掘済 |
| 221 | 小坂２丁目 | 1,030.27 | 29.1 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 222 | 道後樋又 | 115.66 | 27 | No.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 223 | 善応寺甲 | 2,734.00 | | (北条地区)<br>No.108 | 私 | 踏査 | | | |
| 224 | 道後一万9番11地先②<br>道後町２丁目3番18地先① | 63.20 | | ②工区・No.68<br>①工区・包蔵地外 | 公 | | | | 意見書 |
| 225 | 久米窪田町 | 357.98 | 46.3 | No.131 | 私 | 試掘 | | | |
| 226 | 北斎院町 | 76.04 | 10 | No.156 | 私 | 試掘 | | | |
| 227 | 平井町 | 38.47 | 72.2 | No.90 | 私 | 試掘 | | | |
| 228 | 東石井５丁目 | 468.10 | 21.7 | No.119 | 私 | 試掘 | | | |
| 229 | 猿川原甲295番１<br>猿川原甲296番の各一部 | 500.00 | | (北条地区)<br>No.29 | 公 | | | | |
| 230 | 平井町甲 | 237.93 | | No.131 | 私 | | | | 意見書 |
| 231 | 久米窪田町 | 657.00 | 43.1 | No.128 | 私 | 試掘 | | | |
| 232 | 山越３丁目 | 137.31 | 22.2 | No.168 | 私 | 試掘 | | | |
| 233 | 鷹子町 | 1,483.27 | 48.2 | No.129 | 私 | 既済 | | | H17-78・82　試掘済 |
| 234 | 祝谷５丁目 | 683.66 | 36.4 | No.55・56・57 | 私 | 試掘 | | | |
| 235 | 久万ノ台1749番1<br>久万ノ台公園 | 47.00 | | No.167<br>一部包蔵地外 | 公 | 踏査 | | | |
| 236 | 久米窪田町 | 298.70 | | No.128 | 公 | | | | H13-246・H14-136<br>試掘済 |
| 237 | 北斎院町 | 151.25 | 9.6 | No.156 | 私 | 試掘 | | | |
| 238 | 道後樋又 | 833.00 | 27 | No.67 | 私 | 試掘 | | | |
| 239 | 平井町甲2349番1　外 | 7274 | 57.8 | 包蔵地外 | 公 | 試掘 | | | |
| 240 | 東野５丁目甲 | 432.28 | 59.2 | No.79 | 私 | 試掘 | | | |
| 241 | 南土居町 | 330.59 | 38.4 | No.132 | 私 | 試掘 | | | |
| 242 | 桑原７丁目 | 348.74 | 32 | No.85 | 私 | | | | H17-166　試掘済<br>未調査部分意見書 |
| 243 | 北斎院町 | 135.50 | 8.9 | No.29 | 私 | 試掘 | | | |
| 244 | 衣山２丁目 | 158.00 | 27.6 | No.20 | 私 | 試掘 | | | |
| 245 | 安城寺町 | 326.00 | 2.8 | No.12 | 私 | 試掘 | | | |
| 246 | 久米窪田町 | 1,038.88 | 44.7 | No.131 | 私 | | | | H17-192　試掘済<br>未調査部分意見書 |
| 247 | 道後今市 | 563.95 | 31.5 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 248 | 山越１丁目甲 | 198.80 | | No.160 | 私 | | | | |
| 249 | 樽味４丁目 | 829.00 | | No.81 | 私 | | | | |
| 250 | 桑原４丁目 | 170.37 | 38.2 | No.85 | 私 | 試掘 | | | |
| 251 | 小坂４丁目 | 329.38 | 25.4 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |

## 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

（8）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 252 | 来住町237番・530番地先<br>南久米町631番地先 | 19.40 | | No.127 | 公 | | | | 意見書 |
| 253 | 桑原４丁目 | 236.79 | 38.6 | No.82 | 私 | 試掘 | | | |
| 254 | 小坂２丁目 | 224.73 | 28.9 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 255 | 森松町 | 204.78 | 34.8 | No.134 | 私 | 試掘 | | | |
| 256 | 恵原町甲 | 803.00 | 57.3 | No.138 | 私 | 試掘 | | | |
| 257 | 由良町 | 102.70 | 31 | No.2 | 私 | 試掘 | | | |
| 258 | 久万ノ台乙 | 5,229.39 | 11.5 | No.18 | 私 | 試掘 | | | |
| 259 | 来住町 | 13.81 | | No.127 | 私 | | | | 意見書 |
| 260 | 北久米町 | 965.56 | | No.124 | 私 | | | | 申請取り下げ<br>平成18年4月7日再申請 |
| 261 | 南江戸町４丁目 | 1,192.00 | 10.7 | No.35 | 私 | 試掘 | | | |
| 262 | 畑寺３丁目 | 427.42 | 49.7 | No.87 | 私 | 試掘 | | | |
| 263 | 枝松３丁目 | 1,698.69 | 32.4 | No.83 | 私 | 既済 | | | H17-134　試掘済 |
| 264 | 北久米町 | 303.32 | 29.5 | No.124 | 私 | 試掘 | | | |
| 265 | 小坂４丁目 | 300.00 | 49.7 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 266 | 衣山５丁目 | 433.30 | 30 | No.32 | 私 | 試掘 | | | |
| 267 | 樽味２丁目 | 75.67 | 42.8 | No.81 | 私 | 試掘 | | | |
| 268 | 権現町甲 | 214.94 | 26.5 | No.170-3 | 私 | 試掘 | | | |
| 269 | 小坂４丁目 | 1,678.00 | 27.5 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 270 | 鷹子町 | 147.76 | 44.3 | No.128 | 私 | 試掘 | | | |
| 271 | 桜ヶ丘 | 571.88 | 18.1 | No.17 | 私 | 試掘 | | | |
| 272 | 北条辻 | 1,933.00 | 2.4 | 包蔵地外 | 私 | 試掘 | | | |
| 273 | 今在家 | 572.38 | 30 | No.125 | 私 | 試掘 | | | |
| 274 | 道後喜多町 | 631.88 | 34 | No.68 | 私 | 試掘 | | | |
| 275 | 萱町６丁目100番 | 2,738.62 | 18.5 | 包蔵地外 | 公 | 試掘 | | | |
| 276 | 和田甲 | 515.80 | 11.6 | (北条地区)<br>No.83 | 私 | 試掘 | | | |
| 277 | 東石井２丁目乙 | 216.99 | 25.8 | No.118 | 私 | | | | 意見書 |
| 278 | 来住町 | 844.24 | | No.127 | 私 | | | | 意見書 |
| 279 | 今在家２丁目 | 503.00 | | No.125 | 私 | | | | |
| 280 | 小坂２丁目 | 90.84 | 29.2 | No.110 | 私 | 試掘 | | | |
| 281 | 南久米町 | 1,061.00 | | No.126 | 私 | 試掘 | | | |
| 282 | 北久米町573番4地先～<br>北久米町538番2地先 | 14.60 | 31.7 | No.126 | 公 | 既済 | | | H17-147　試掘済 |
| 283 | 清水町２丁目 | 737.58 | | No.67 | 私 | | | | |
| 284 | 今在家３丁目 | 312.35 | | No.125 | 私 | | | | |
| 285 | 東石井５丁目 | 864.76 | 20.9 | No.119 | 私 | 既済 | | | H17-193　試掘済 |
| 286 | 立花６丁目 | 353.91 | 20.8 | No.109 | 私 | 試掘 | | | |
| 287 | 朝美２丁目 | 145.04 | | No.34 | 私 | 試掘 | | | |

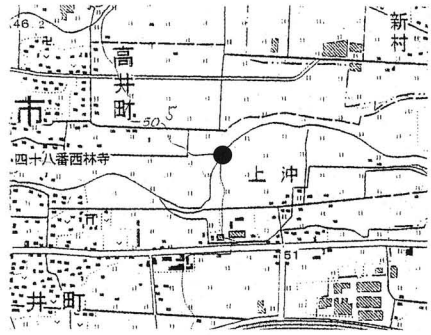
## 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

（9）

| No. | 所在地 | 面積(㎡) | 標高(m) | 包蔵地名 | 調査目的 | 調査方法 | 包含層・遺構 | 遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 288 | 中村３丁目 | 149.64 | 25.9 | 161 | 私 | 試掘 | | | |
| 289 | 辻町 | 976.00 | | 34 | 私 | 試掘 | | | |
| 290 | 高岡町乙 | 24.00 | | 26 | 私 | | | | |
| 291 | 清水町２丁目 | 141.54 | 23.4 | 67 | 私 | 既済 | | | H17-88　試掘済 |
| 292 | 鷹子町 | 517.47 | 44.5 | 91 | 私 | 既済 | | | H17-76　試掘済 |

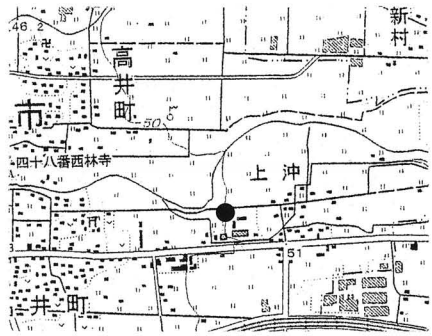
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（１）

申請番号　H15−39
所在地　南高井町160−２　外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成17年６月１～７日
開発面積　17,200.00㎡の内2,732.00㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器
遺跡の時代　中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（南高井遺跡２次調査）
担当者　水本　完児・宮内　慎一
最寄の遺跡　―



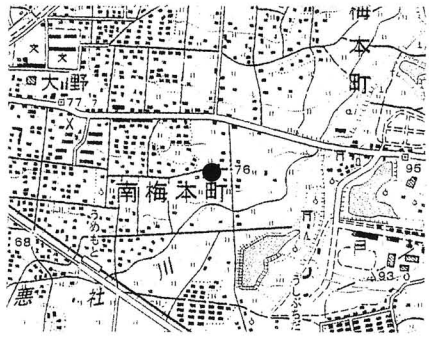
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H15−39
所在地　南高井町160−２　外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成17年11月７～11日
開発面積　17,200.00㎡の内3,254.20㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器・陶磁器（15世紀）
遺跡の時代　古代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（南高井遺跡３次調査）
担当者　水本　完児・宮内　慎一
最寄の遺跡　―



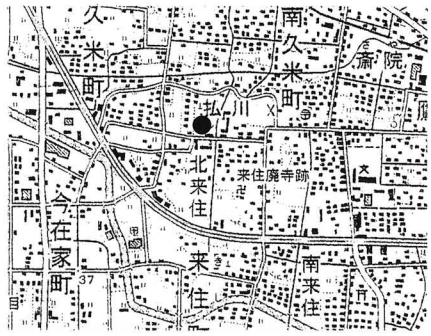
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H15−41
所在地　南梅本町甲527−２　外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成17年６月１・３日
開発面積　14,044㎡の内699.85㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・須恵器
遺跡の時代　古墳時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（南梅本長広遺跡２次調査）
担当者　小笠原　善治
最寄の遺跡　南梅本長広遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

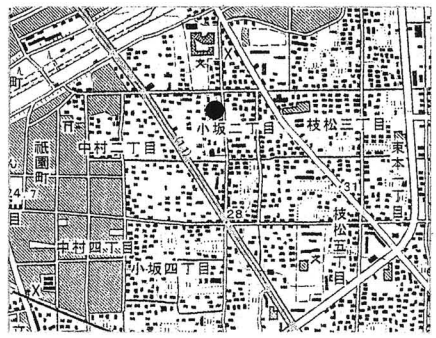
申請番号　H16−363
所在地　来住町
包蔵地名　No.127　来住廃寺跡
調査日　平成17年４月11日
開発面積　283.97㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺構保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　来住廃寺



遺跡位置図（S=1/25,000）

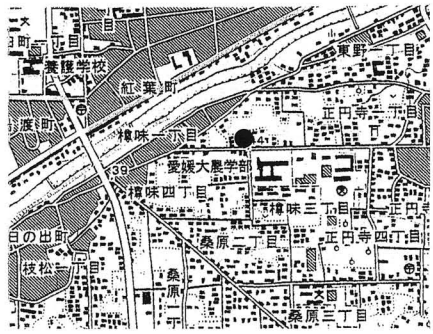
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（２）

申請番号　H17−14
所在地　小坂２丁目
包蔵地名　No.110　釜ノ口遺跡
調査日　平成17年４月25日
開発面積　173.21㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　釜ノ口遺跡７次調査



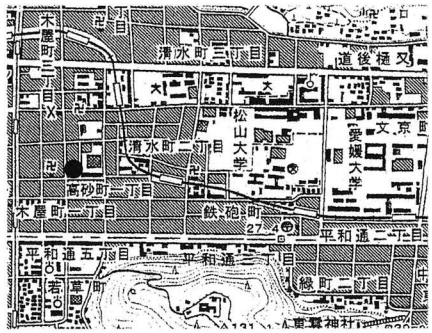
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−17
所在地　樽味２丁目
包蔵地名　No.81　樽味遺物包含地
調査日　平成17年５月６日
開発面積　185.12㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代・古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味四反地遺跡８次調査



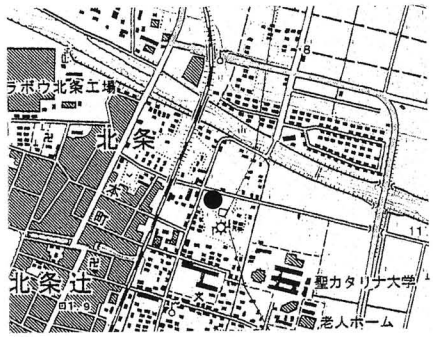
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−20
所在地　木屋町２丁目
包蔵地名　No.67　文京遺跡（樋又遺跡元練兵場遺物包含地）
調査日　平成17年５月10日
開発面積　198.34㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　―
出土遺物　縄文土器
遺跡の時代　縄文時代晩期以降
遺跡の種類　遺物包含層
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　文京遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

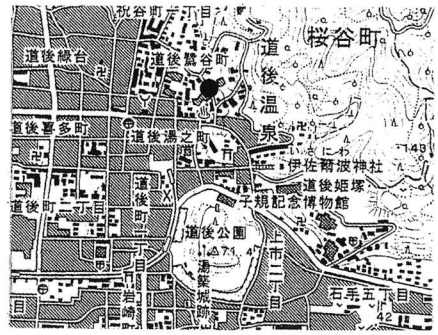
申請番号　H17−21
所在地　北条560番１の一部　外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成17年６月13～14日
開発面積　1,416.86㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　土坑・柱穴・溝
出土遺物　土師器・須恵器
遺跡の時代　中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（北条片町遺跡）
担当者　吉岡　和哉
最寄の遺跡　―



遺跡位置図（S=1/25,000）

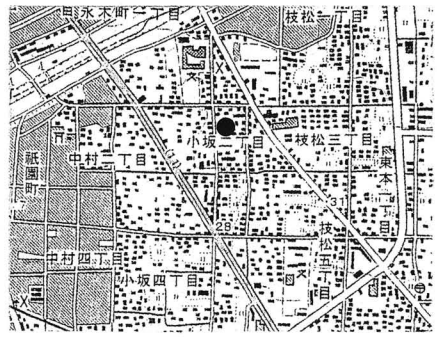
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（３）

申請番号　H17−27
所在地　道後湯月町甲1651番地　外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成17年５月６日
開発面積　約300.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　池跡
出土遺物　土師器・木片
遺跡の時代　古代～中世
遺跡の種類　古代庭園
処置　遺跡保護中
担当者　相原　秀仁
最寄の遺跡　湯築城跡

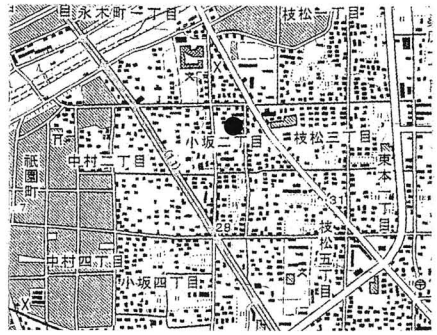


遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−34
所在地　小坂２丁目210番１　外
包蔵地名　No.110　釜ノ口遺跡
調査日　平成17年12月８～９日
開発面積　3,000.00㎡の内約600㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器・青磁
遺跡の時代　古代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（小坂遺跡）
担当者　相原　浩二
最寄の遺跡　釜ノ口遺跡７次調査


遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−34
所在地　小坂２丁目210番１　外
包蔵地名　No.110　釜ノ口遺跡
調査日　平成18年３月14～15日
開発面積　3,000.00㎡の内約600㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　竪穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器・青磁
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査予定
担当者　相原　浩二
最寄の遺跡　釜ノ口遺跡７次調査

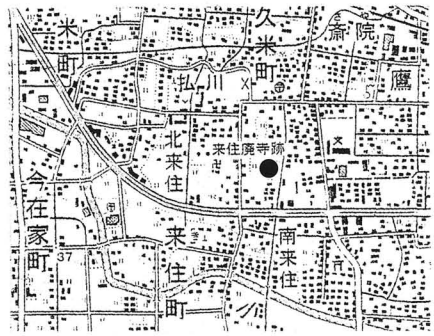

遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−42
所在地　桑原２丁目
包蔵地名　No.82　東本遺物包含地
調査日　平成17年６月６日
開発面積　139.15㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址
出土遺物　弥生土器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　桑原遺跡５次調査

遺跡位置図（S=1/25,000）

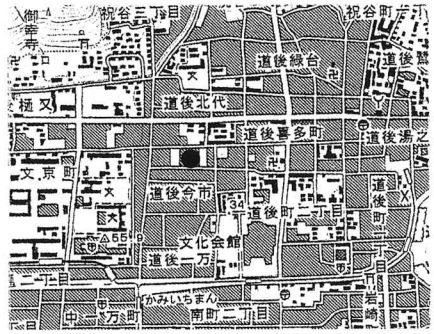
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（４）

申請番号　H17−45
所在地　来住町
包蔵地名　No.127　来住廃寺跡
調査日　平成17年６月10日
開発面積　284.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴
出土遺物　土師器
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　来住廃寺



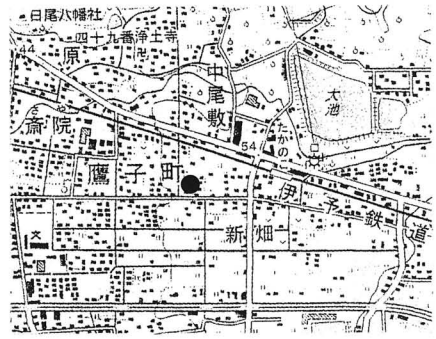
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−47
所在地　道後今市
包蔵地名　No.68　今市遺物包含地
調査日　平成17年６月13日
開発面積　1,547.33㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴
出土遺物　土師器（中世）
遺跡の時代　古墳時代〜中世
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　道後今市遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−78
所在地　鷹子町
包蔵地名　No.129　鷹ノ子遺物包含地2
調査日　平成17年７月19日
開発面積　1,578.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴・溝
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落
処置　一部発掘調査（鷹子新畑遺跡４次調査）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　鷹子新畑遺跡２次調査



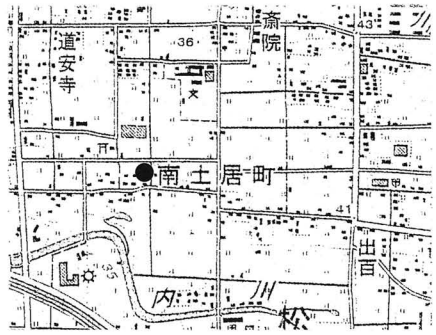
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−82
所在地　鷹子町
包蔵地名　No.129　鷹ノ子遺物包含地2
調査日　平成17年７月19日
開発面積　566.09㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴・溝
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落
処置　一部発掘調査（鷹子新畑遺跡４次調査）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　鷹子新畑遺跡２次調査

遺跡位置図（S=1/25,000）

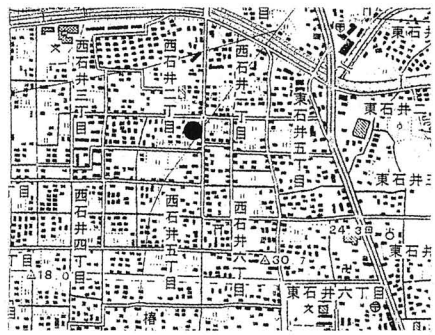
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（５）

申請番号　H17−83
所在地　南土居町
包蔵地名　No.132　中ノ子廃寺遺物包含地
調査日　平成17年７月21日
開発面積　836.22㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代・古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　開遺跡



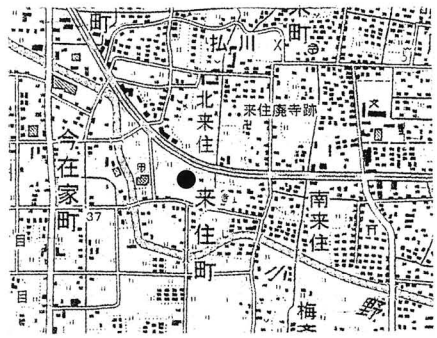
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−118
所在地　西石井２丁目
包蔵地名　No.119　西石井遺物包含地
調査日　平成17年10月３日
開発面積　923.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代・古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　石井幼稚園遺跡



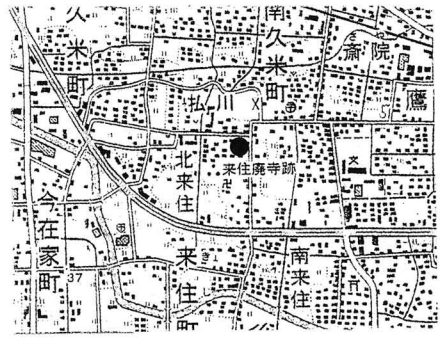
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−119
所在地　来住町
包蔵地名　No.127　来住廃寺跡
調査日　平成17年９月７日
開発面積　1,297.56㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・土坑・柱穴・溝
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器・瓦
遺跡の時代　弥生時代・古代
遺跡の種類　集落関連
処置　一部発掘調査（来住町遺跡14次調査）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　来住廃寺



遺跡位置図（S=1/25,000）

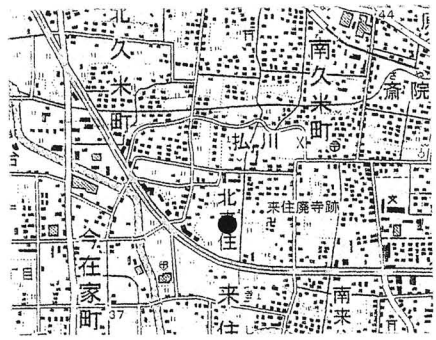
申請番号　H17−127
所在地　来住町
包蔵地名　No.127　来住廃寺跡
調査日　平成17年９月８日
開発面積　581.74㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代・古代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　来住廃寺



遺跡位置図（S=1/25,000）

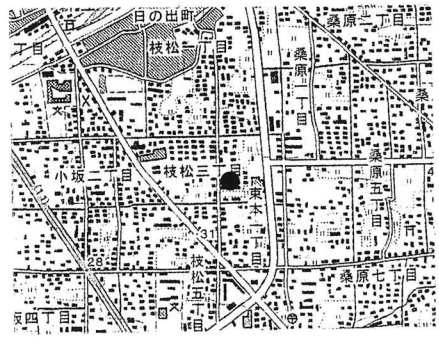
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（６）

| | |
|---|---|
| 申請番号 | H17−133 |
| 所在地 | 来住町 |
| 包蔵地名 | No.127　来住廃寺跡 |
| 調査日 | 平成17年９月14日 |
| 開発面積 | 134.16㎡ |
| 調査費 | 国庫補助 |
| 検出遺構 | 柱穴 |
| 出土遺物 | 土師器 |
| 遺跡の時代 | 古墳時代以降 |
| 遺跡の種類 | 集落関連 |
| 処置 | 遺跡保護中 |
| 担当者 | 武正　良浩 |
| 最寄の遺跡 | 来住廃寺 |



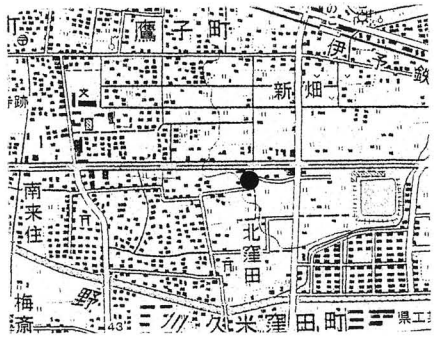
遺跡位置図（S=1/25,000）

| | |
|---|---|
| 申請番号 | H17−135 |
| 所在地 | 枝松３丁目 |
| 包蔵地名 | No.83　枝松遺物包含地 |
| 調査日 | 平成17年９月26日 |
| 開発面積 | 917.82㎡ |
| 調査費 | 国庫補助 |
| 検出遺構 | 竪穴住居址・土坑・柱穴 |
| 出土遺物 | 弥生土器 |
| 遺跡の時代 | 弥生時代以降 |
| 遺跡の種類 | 集落関連 |
| 処置 | 遺跡保護中 |
| 担当者 | 武正　良浩 |
| 最寄の遺跡 | 枝松遺跡８次調査 |



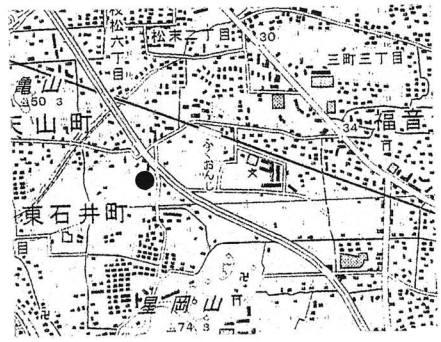
遺跡位置図（S=1/25,000）

| | |
|---|---|
| 申請番号 | H17−141 |
| 所在地 | 久米窪田町 |
| 包蔵地名 | No.129　鷹ノ子遺物包含地２ |
| 調査日 | 平成17年９月27日 |
| 開発面積 | 508.03㎡ |
| 調査費 | 国庫補助 |
| 検出遺構 | 土坑・性格不明遺構 |
| 出土遺物 | 弥生土器・土師器・須恵器・木片 |
| 遺跡の時代 | 弥生時代以降 |
| 遺跡の種類 | 集落関連 |
| 処置 | 遺跡保護中 |
| 担当者 | 武正　良浩 |
| 最寄の遺跡 | 久米窪田遺跡 |



遺跡位置図（S=1/25,000）

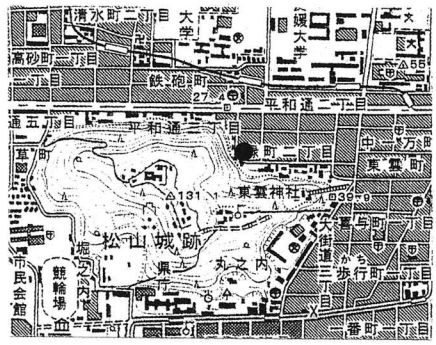
| | |
|---|---|
| 申請番号 | H17−144 |
| 所在地 | 星岡町 |
| 包蔵地名 | No.116　川附遺物包含地 |
| 調査日 | 平成17年10月５日 |
| 開発面積 | 353.00㎡ |
| 調査費 | 国庫補助 |
| 検出遺構 | 土坑・柱穴 |
| 出土遺物 | 土師器 |
| 遺跡の時代 | 古墳時代以降 |
| 遺跡の種類 | 集落関連 |
| 処置 | 遺跡保護中 |
| 担当者 | 武正　良浩 |
| 最寄の遺跡 | 福音小学校構内遺跡 |



遺跡位置図（S=1/25,000）

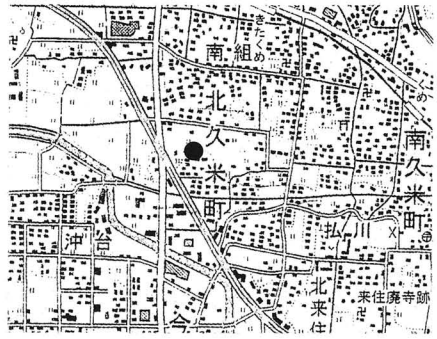
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（７）

申請番号　H17−146
所在地　緑町１丁目
包蔵地名　No.74　松山城跡・城ノ内古墳群
調査日　平成17年10月７日
開発面積　121.51㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑
出土遺物　土師器・須恵器（中世）
遺跡の時代　中世以前
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　松山城跡



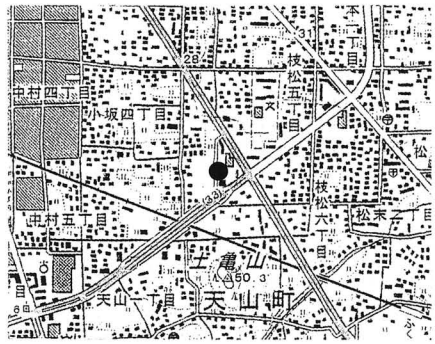
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−147
所在地　北久米町
包蔵地名　No.126　高畑遺物包含地
調査日　平成17年10月６日
開発面積　535.47㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器（中世）
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　南久米才歩行遺跡



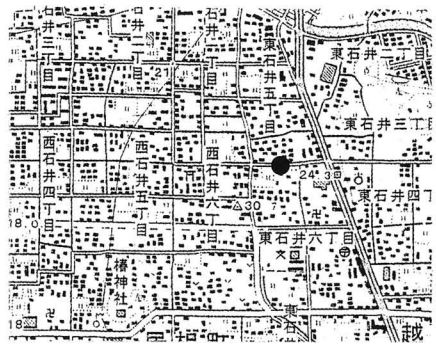
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−155
所在地　小坂５丁目
包蔵地名　No.111　小坂５丁目遺物包含地
調査日　平成17年10月11日
開発面積　1,321.50㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・溝
出土遺物　弥生土器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　釜ノ口遺跡８次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

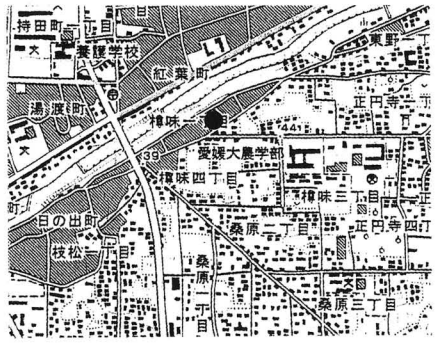
申請番号　H17−159
所在地　西石井６丁目
包蔵地名　No.119　西石井遺物包含地
調査日　平成17年10月18日
開発面積　823.51㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器（中世）
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　石井幼稚園遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

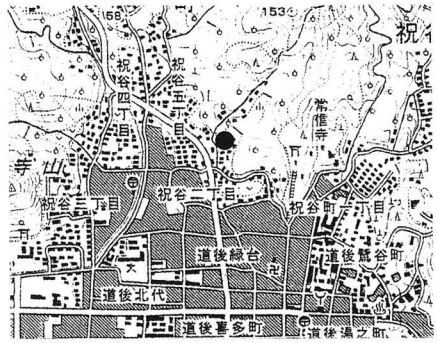
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（８）

| | |
|---|---|
| 申請番号 | H17−167 |
| 所在地 | 樽味４丁目 |
| 包蔵地名 | No.81　樽味遺物包含地 |
| 調査日 | 平成17年10月27日 |
| 開発面積 | 2,238.00㎡ |
| 調査費 | 国庫補助 |
| 検出遺構 | 竪穴住居址・土坑・柱穴 |
| 出土遺物 | 弥生土器・土師器・須恵器 |
| 遺跡の時代 | 弥生時代・古墳時代以降 |
| 遺跡の種類 | 集落関連 |
| 処置 | 遺跡保護中 |
| 担当者 | 武正　良浩 |
| 最寄の遺跡 | 樽味四反地遺跡８次調査 |



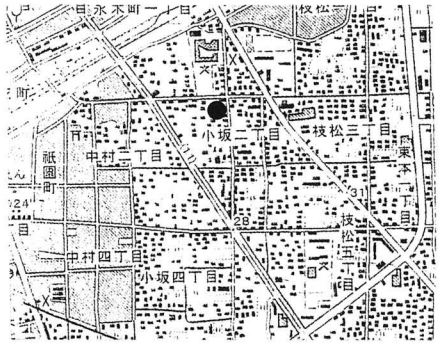
遺跡位置図（S=1/25,000）

| | |
|---|---|
| 申請番号 | H17−176 |
| 所在地 | 祝谷２丁目 |
| 包蔵地名 | No.55･56･57　北代･緑台･土居窪遺物包含地 |
| 調査日 | 平成17年11月２日 |
| 開発面積 | 210.11㎡ |
| 調査費 | 国庫補助 |
| 検出遺構 | 土坑・柱穴・自然流路 |
| 出土遺物 | 弥生土器 |
| 遺跡の時代 | 弥生時代以降 |
| 遺跡の種類 | 集落関連 |
| 処置 | 祝谷畑中遺跡２次調査 |
| 担当者 | 武正　良浩 |
| 最寄の遺跡 | 祝谷畑中遺跡 |



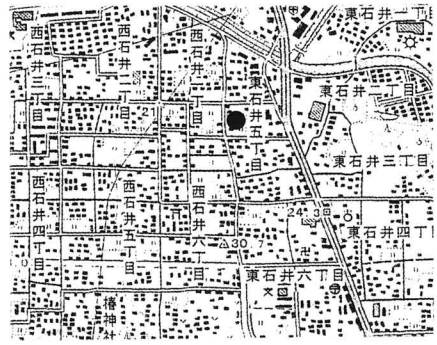
遺跡位置図（S=1/25,000）

| | |
|---|---|
| 申請番号 | H17−182 |
| 所在地 | 小坂２丁目 |
| 包蔵地名 | No.110　釜ノ口遺跡 |
| 調査日 | 平成17年11月24日 |
| 開発面積 | 255.26㎡ |
| 調査費 | 国庫補助 |
| 検出遺構 | 柱穴 |
| 出土遺物 | 弥生土器・土師器・須恵器 |
| 遺跡の時代 | 弥生時代以降 |
| 遺跡の種類 | 集落関連 |
| 処置 | 遺跡保護中 |
| 担当者 | 武正　良浩 |
| 最寄の遺跡 | 釜ノ口７次調査 |



遺跡位置図（S=1/25,000）

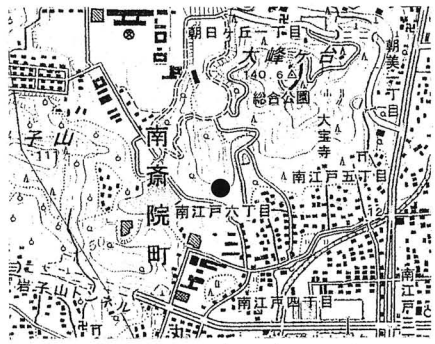
| | |
|---|---|
| 申請番号 | H17−193 |
| 所在地 | 東石井５丁目 |
| 包蔵地名 | No.119　西石井遺物包含地 |
| 調査日 | 平成17年11月28日 |
| 開発面積 | 2,516.00㎡ |
| 調査費 | 国庫補助 |
| 検出遺構 | 土坑・柱穴 |
| 出土遺物 | 土師器 |
| 遺跡の時代 | 古墳時代～古代 |
| 遺跡の種類 | 集落関連 |
| 処置 | 東石井遺跡３次調査 |
| 担当者 | 武正　良浩 |
| 最寄の遺跡 | 石井幼稚園遺跡 |



遺跡位置図（S=1/25,000）

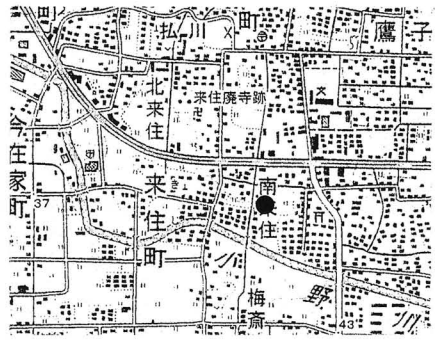
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（９）

申請番号　H17−198
所在地　南江戸６丁目
包蔵地名　No.32　大峰ヶ台弥生遺跡Ａ・古墳群Ａ
調査日　平成17年12月12～16日
開発面積　154.00㎡
調査費　原因者負担（一部国庫補助）
検出遺構　古墳
出土遺物　須恵器・鉄鏃
遺跡の時代　古墳時代後期
遺跡の種類　古墳
処置　遺構保護中
担当者　山之内　志郎
最寄の遺跡　大峰ヶ台遺跡



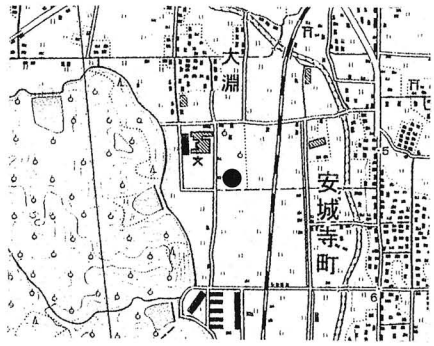
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−199
所在地　来住町
包蔵地名　No.127　来住廃寺跡
調査日　平成17年12月２日
開発面積　1,499.07㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　—
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生地代～古代
遺跡の種類　遺物包含層
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　来住廃寺



遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−210
所在地　太山寺町甲
包蔵地名　No.173　大渕遺跡
調査日　平成17年12月14日
開発面積　1,039.96㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　—
出土遺物　縄文土器（晩期）
遺跡の時代　縄文時代以降
遺跡の種類　遺物包含層
処置　遺構保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　大渕遺跡



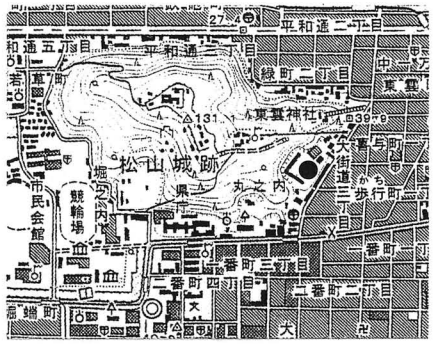
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−218
所在地　南江戸５丁目1463番
包蔵地名　No.33　大峰ヶ台遺跡B・大峰ヶ台古墳群B
調査日　平成18年１月10日
開発面積　1,380.87㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　大峰ヶ台遺跡10次調査
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　大峰ヶ台遺跡

遺跡位置図（S=1/25,000）

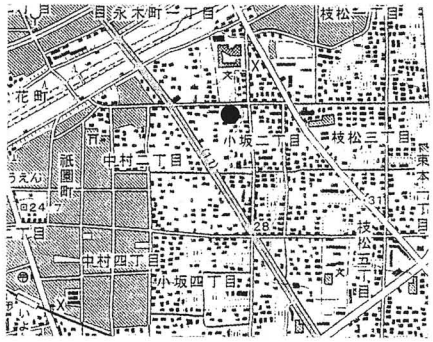
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（10）

申請番号　H17−219
所在地　大街道３丁目
包蔵地名　No.74　松山城跡・城ノ内古墳群
調査日　平成18年１月16日～23日
開発面積　29,790.96㎡の内4,140.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴・礎石・溝
出土遺物　土師器・瓦・陶磁器
遺跡の時代　近世
遺跡の種類　武家屋敷
処置　発掘調査（東雲遺跡）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　松山城跡



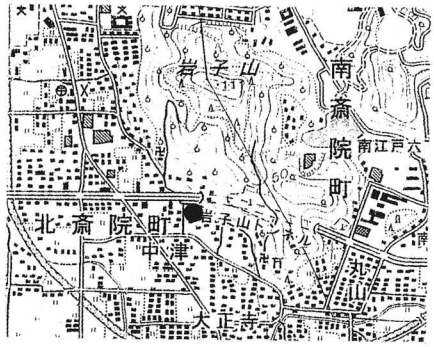
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−221
所在地　小坂２丁目
包蔵地名　No.110　釜ノ口遺跡
調査日　平成18年１月６日
開発面積　1,030.27㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　—
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代・古代以降
遺跡の種類　遺物包含層
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　釜ノ口７次調査



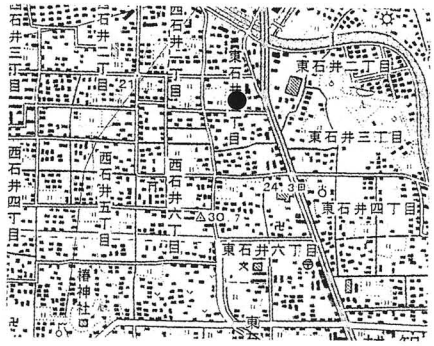
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−226
所在地　北斎院町
包蔵地名　No.156　北斎院遺物包含地
調査日　平成18年１月19日
開発面積　76.40㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　—
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代～古墳時代以降
遺跡の種類　遺物包含層
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　斎院茶臼山古墳



遺跡位置図（S=1/25,000）

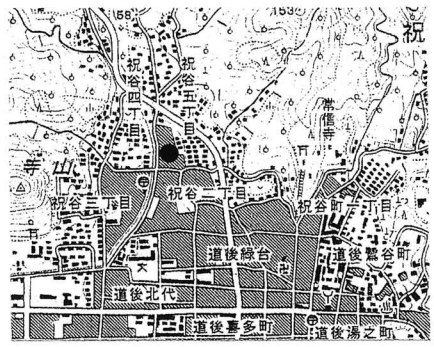
申請番号　H17−228
所在地　東石井５丁目
包蔵地名　No.119　西石井遺物包含地
調査日　平成18年１月23日
開発面積　468.10㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　石井幼稚園遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

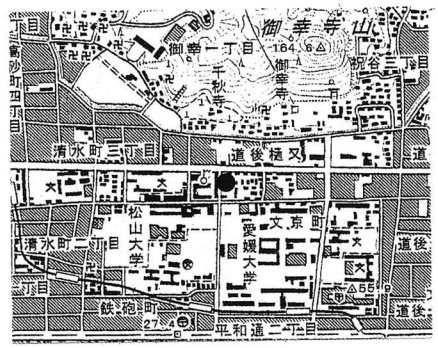
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（11）

申請番号　H17−234
所在地　祝谷５丁目
包蔵地名　No.55･56･57　北代･緑台･土居窪遺物包含地
調査日　平成18年１月26日
開発面積　683.66㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　―
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　遺物包含層
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　祝谷畑中遺跡



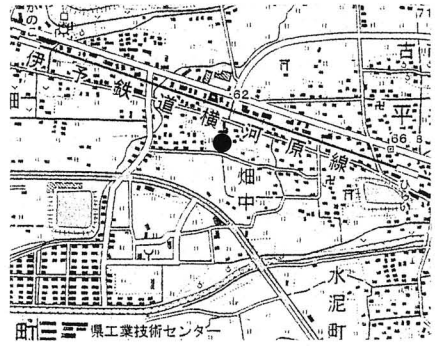
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−238
所在地　道後樋又
包蔵地名　No.67　文京遺跡（樋又遺跡元練兵場遺物包含地）
調査日　平成18年１月30日
開発面積　833.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・石器
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　道後城北ＲＮＢ遺跡



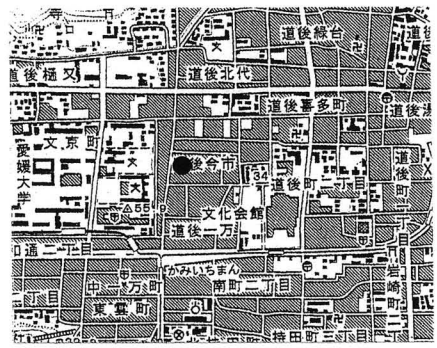
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−239
所在地　平井町甲2349番１　外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成18年２月８～９日
開発面積　7,274.00㎡の内549.94㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　竪穴住居址・土坑・柱穴・溝
出土遺物　土師器・須恵器・石器
遺跡の時代　古墳時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　平井遺跡３次調査
担当者　河野　史知
最寄の遺跡　平井遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

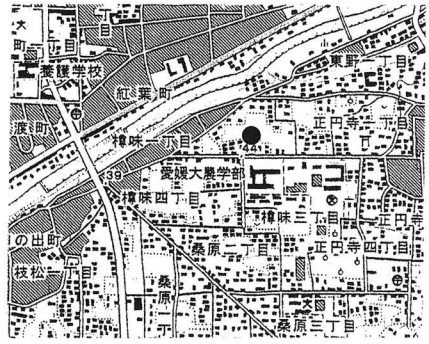
申請番号　H17−247
所在地　道後今市
包蔵地名　No.68　今市遺物包含地
調査日　平成18年２月８日
開発面積　563.95㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・土坑
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器・瓦
遺跡の時代　弥生時代～古代
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　道後今市遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

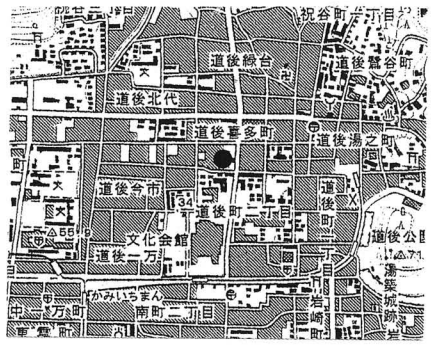
## 埋蔵文化財が存在した確認調査地（12）

申請番号　H17−267
所在地　樽味２丁目
包蔵地名　No.81　樽味遺物包含地
調査日　平成18年３月16日
開発面積　75.67㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代・古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味四反地遺跡８次調査



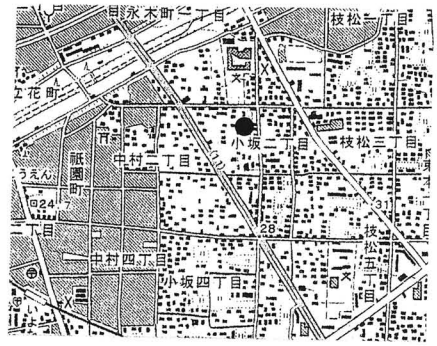
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−274
所在地　道後喜多町
包蔵地名　No.68　今市遺物包含地
調査日　平成18年３月17・27日
開発面積　631.88㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴・溝
出土遺物　土師器（中世）
遺跡の時代　中世以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　道後今市遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17−280
所在地　小坂２丁目
包蔵地名　No.110　釜ノ口遺跡
調査日　平成18年３月16日
開発面積　90.84㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　一部発掘調査（小坂七ノ坪遺跡４次調査）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　釜ノ口７次調査

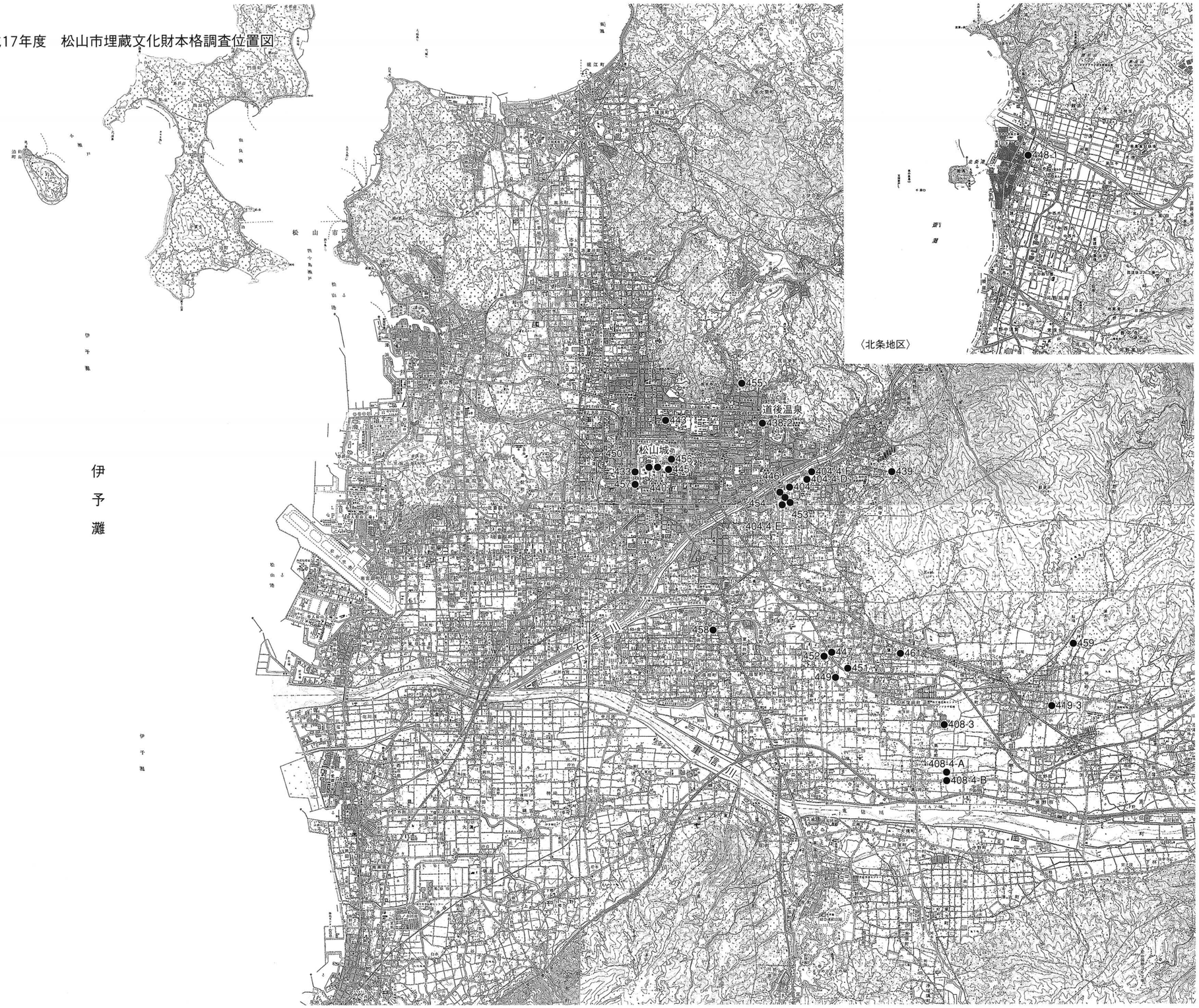


遺跡位置図（S=1/25,000）

## 表２　平成17年度本格調査一覧

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 所在地 | 調査目的 | 時代 | 主な遺構・遺物等 | 本格対象面(㎡) | 野外 | 遺跡番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 「松山市道樽味溝辺線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 404−4−C | 樽味高木遺跡11次調査地 | 樽味２丁目85番６外 | 緊急 | 弥生～古墳 | 竪穴式住居址／弥生土器・土師器・須恵器 | 1,278 | H17. 2. 1～H17. 7.29 | ４０４－４－C |
| | 「松山市道樽味溝辺線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 404−4−D | 東野森ノ木遺跡３次調査地 | 東野１丁目甲43番１外 | 緊急 | 古墳 | 土坑・柱穴／弥生土器・土師器 | 233.98 | H17. 3. 1～H17. 4.19 | ４０４－４－D |
| | 「松山市道樽味溝辺線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 404−4−E | 樽味四反地遺跡11次調査地 | 樽味４丁目226番１外 | 緊急 | 古墳 | 溝・柱穴／弥生土器・土師器・須恵器 | 37.25 | H17. 3.16～H17. 3.31 | ４０４－４－E |
| | 「松山市道樽味溝辺線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 404−4−F | 東野森ノ木遺跡４次調査地 | 東野１丁目甲55－６外 | 緊急 | 縄文・弥生・中世 | 竪穴式住居址・溝・土坑・柱穴／縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器 | 1,694 | H17. 4.19～H17.11.30 | ４０４－４－F |
| | 「松山市道中村桑原線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 405−4 | 小坂遺跡 | 小坂二丁目210番１ | 緊急 | 中世～近世 | 畠遺構・土坑・溝・柱穴／土師器・須恵器・陶磁器・将棋の駒 | 549 | H18. 2. 1～H18. 4.28 | ４０５－１ |
| | 「松山市道水泥南高井線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 408−3 | 水泥遺跡３次調査地 | 水泥町405外 | 緊急 | 古代～中世 | 畝状遺構・鋤跡・経塚・溝／土師器・須恵器・陶磁器・陶器 | 1,275.20 | H17. 1.20～H17. 8.12 | ４０８－３ |
| | 「松山市道水泥南高井線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 408−4−A | 南高井遺跡２次調査地 | 南高井町116 外 | 緊急 | 古代～中世 | 竪穴式住居址・溝・自然流路・土坑・鋤跡・柱穴／弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器 | 1,638.04 | H17. 8. 1～H17.11.30 | ４０８－４－A |
| | 「松山市道水泥南高井線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 408−4−B | 南高井遺跡３次調査地 | 南高井町173－４外 | 緊急 | 古代～中世 | 自然流路・土坑・鋤跡／弥生土器・須恵器・陶磁器・管玉 | 1,646 | H17.12. 1～H18. 3.31 | ４０８－４－B |
| | 「松山市道南北梅本線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 419−3 | 南梅本長広遺跡２次調査地 | 南梅本町甲527－２外 | 緊急 | 縄文・中世～近世 | 溝・土坑・石列・柱穴等 | 370.15 | H17. 8. 1～H17. 9.30 | ４１９－３ |
| 433 | 松山城三之丸跡4次調査地 | 堀之内(市営野球場跡地) | 国補 | 近世 | 道路（石組溝） | 約540 | H16.10. 1～H17. 3.31<br>H17. 4.25～H17. 10.25 | ４３３ |
| | 「松山市道道後線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 438−2 | 道後湯之町遺跡 | 道後湯之町875－９外 | 緊急 | 縄文～中世 | 自然流路・石列／縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器 | 193.76 | H17. 6. 1～H17. 7.29 | ４３８－２ |
| 439 | 東野古墳群 | 東野３丁目乙１番１外 | 緊急 | 古墳 | 古墳2基（横穴式石室2基）／須恵器・土師器 | 740 | H17. 2. 7～H17. 7. 6 | ４３９ |
| 443 | 松山大学構内遺跡６次調査地 | 文京町４番10の一部 | 緊急 | 弥生・古代 | 掘立柱建物跡・土坑・溝・自然流路／土師器・石帯・古銭・分銅形土製品・鏡形土製品 | 1,234.80 | H17. 3. 1～H17. 6.30 | ４４３ |
| 444 | 松山城櫓門跡２次調査地 | 丸之内 | 国補 | 近世 | 礎石・束石・抜き取り・土坑／瓦 | 約120 | H17. 4.25～H17. 7.27 | ４４４ |
| 445 | 城の内古墳群（２・４・５号墳） | 丸之内 | 国補 | 古墳 | 古墳／須恵器・玉 | 約80 | H17. 4.25～H17. 9.30 | ４４５ |
| 446 | 樽味高木遺跡12次調査地 | 樽味４丁目247番地の一部 | 国補 | 弥生～古墳 | 竪穴式住居址・掘立柱建物址・溝・土坑／弥生土器・土師器・須恵器 | 517 | H17. 6. 1～H17. 8.31 | ４４６ |
| 447 | 久米高畑遺跡65次調査地 | 来住町1150番1 | 国補 | 弥生・古墳・古代 | 正倉院南濠・区画溝・掘立柱建物跡・竪穴式住居址 | 900 | H17. 6. 1～H17. 9.30 | ４４７ |
| | 「松山市道北条鴻之坂線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 448−1 | 北条片町遺跡 | 北条560番１の一部 | 緊急 | 中世 | 土坑・溝・柱穴／弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器 | 317.83 | H17. 8. 1～H17. 9.30 | ４４８－１ |
| 449 | 来住町遺跡14次調査地 | 来住町953番、954番 | 国補 | 中世 | 溝・土坑・柱穴／土師器・須恵器・陶磁器・瓦・ガラス小玉 | 1,297.56 | H17.10. 1～H17.11.30 | ４４９ |
| 450 | 松山城櫓門跡3次調査地<br>（石垣解体に伴う確認調査） | 丸之内 | 国補 | 近世 | 石垣・浦込／ノミ・古銭・瓦 | 約135 | H17.10. 2～H17.12.27 | ４５０ |
| 451 | 来住廃寺32次調査地 | 松山市来住町849番 外 | 国補 | 古代 | 基壇 | 250 | H17.10. 3～H17.12.27 | ４５１ |
| 452 | 久米高畑遺跡66次調査地 | 来住町1147番２ | 国補 | 弥生～古代 | 竪穴式住居址・掘立柱建物跡・土坑・溝/弥生土器・須恵器・紡錘車・石庖丁・砥石 | 300 | H17.10.17～H17.12.28 | ４５２ |
| 453 | 樽味四反地遺跡12次調査地 | 樽味４丁目228番３ | 国補 | 弥生～平安 | 竪穴式住居址・掘立柱建物址・溝・土坑・柱穴/弥生土器・土師器<br>・須恵器・軟質土器・石器・鉄器・玉類 | 201 | H17.10.17～H17.12.26 | ４５３ |
| 454 | 樽味四反地遺跡13次調査地 | 樽味４丁目231番1 | 国補 | 弥生～平安 | 竪穴式住居址・大型建物址・掘立柱建物跡・溝・土坑・柱穴/弥生土器・土師器・軟質<br>土器・陶磁器・瓦・石器・鉄器・玉類（臼玉）・分銅形土器・絵画（線刻）・種子 | 820 | H17.11. 1～H18. 3.30 | ４５４ |
| 455 | 祝谷畑中遺跡２次調査地 | 祝谷２丁目26番6 | 国補 | 古代末～中世 | 溝・柱穴/土師器 | 210.11 | H17.11.11～H17.11.17 | ４５５ |
| 456 | 松山城本丸跡４次調査地（登城道） | 丸之内 | 国補 | 近世 | | 50 | H17.12. 5～H17.12.18 | ４５６ |
| 457 | 松山城三之丸跡５次調査地 | 堀之内（弓道場） | 国補 | 近世 | 土塁・池 | 約227 | H18. 1.10～H18. 3.31 | ４５７ |
| 458 | 東石井遺跡３次調査地 | 東石井５丁目295番 | 緊急 | 弥生・近世 | 土坑・溝/弥生土器・須恵器・石器 | 90.14 | H18. 1.29～H18. 2. 9 | ４５８ |
| 459 | 葉佐池古墳３次調査地 | 北梅本町甲2455番の一部 | 国補 | 古墳 | 墳丘 | 110 | H18. 2. 1～H18. 2.28 | ４５９ |
| | 「松山市道小野160号線関連遺跡」 | | | | | | | |
| 460−1 | 平井遺跡３次調査地 | 平井町甲3071－１の一部 | 緊急 | 古墳中世 | 土坑・柱穴 | 903 | H18. 3. 1～H18.5.31 | ４６０－１ |
| 461 | 鷹子新畑遺跡４次調査地 | 鷹子町577番１の一部 外 | 緊急 | 古墳～古代 | 溝・柱穴/須恵器・土師器 | 155 | H18. 3. 1～H18.3.17 | ４６１ |
| 462 | 大峰ヶ台遺跡10次調査地 | 南江戸５丁目1463 | 緊急 | 弥生～近世 | 弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器 | 243 | H18. 3. 1～H18.4.14 | ４６２ |
| 463 | 松山城東郭跡（東雲学園） | 大街道３丁目２－24 | 緊急 | 江戸 | 江戸時代の礎石建物等 | 263 | H18. 3. 9～H18.4.28 | ４６３ |

# 平成17年度　松山市埋蔵文化財本格調査位置図




（S＝1：75,000）

# Ⅲ　平成17年度<br>保存処理及び出土遺物整理

# １．平成17年度出土遺物整理の概要

当埋蔵文化財センターでは、近年の発掘調査の整理作業と並行して、20年間の調査資料の整理作業をも行なっている。今年度は昨年度に引き続き、膨大になってきた収蔵品の再整理と、保存処理を必要とする資料への対応を重点項目とした。

## １．遺　物

青銅製品：保存処理および復元・科学分析を外部委託しているが、本年度は該当資料がない。

鉄 製 品：収蔵品目録の作成を重点的に行なう。保存処理は基本的に当センターで行なうが、特殊な資料やＸ線撮影は外部委託している。今年度の重要資料の外部委託は鉄刀２点を株式会社吉田生物研究所、鉄刀１点を財団法人元興寺文化財研究所に依頼した。

植物遺体：木製品や種実は品種同定を外部委託し、保存処理は当センターで行っている。今年度の木製品の保存処理及び品種同定の外部委託は桶１点を株式会社京都科学に依頼した。

動物遺体：洗浄や保護の作業を行なう。今年度は、人骨２点（２遺構分）の鑑定と保存処理を土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム人類学研究室に委託した。

土器･石器：収蔵庫整理では、報告書の刊行された遺跡資料を主体に選別作業をし、収納を行なう。特に、展示や類例調査等で使用頻度の高い資料については、収蔵一覧を作成し、特別収蔵庫に一括保存した。今年度は磨製石剣・磨製石鏃・武器形石製品の整理を進め、台帳作成後に、特別収蔵庫等に保管をした。

## ２．写　真

ネ　　ガ：35mm判と６×７判は、注記や台帳作成作業が終わり次第、写真整理室の所定の場所に収納する。４×５判は写真担当者が整理をする。

プリント：報告書刊行後に、ファイルをコンテナに収納し、収蔵庫で保管する。

## ３．実測図・日誌・報告書原図

遺構測量図、遺物実測図、日誌、報告書原図は収蔵庫の所定の場所に保管する。

（山本・梅木）

# 2．保存処理

保存処理室では主に木製品の保存処理（ＰＥＧ含浸処理）、金属製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺構・遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り作業も行っている。（山本）

## １．木製品の保存処理

当センターでは、木製品の保存処理はＰＥＧ（ポリエチレングリコール）含浸処理を行っている。このＰＥＧ含浸法は、木製品中の水分をＰＥＧに置き換える方法で、20％の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では100％濃度のＰＥＧ溶液をしみこませることになる。この処理は１～１.５年位を要する。平成17年度は木製品の保管数が少なく保存処理は行っていない。

## ２．金属製品の保存処理（写真１～６）

前処理（脱水・脱塩・安定化処理）を行っていた金属製品は、順次クリーニング（付着しているゴミ・土壌・サビ等の除去）、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した遺物は、収納システム（三菱ガス科学・ＲＰシステム）により収納後、特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表1　平成17年度金属製品保存処理遺跡名一覧　(1)

| No | 遺跡名 | 点数 | 作業工程 | 刊行物 |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 久万ノ台古墳 | 2 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第９集 |
| 14 | 北久米遺跡常堰Ｂ地区 | 1 | 処理済・処理室保管 | 松山市文化財調査報告書第17集 |
| 14 | 福音寺遺跡筋違Ｂ地区 | 4 | 処理済・処理室保管 | 松山市文化財調査報告書第17集 |
| 59 | 東山古墳群１次調査地 | 5 | 含浸処理中 | 松山市文化財調査報告書第15集 |
| 60 | 東山古墳群２次調査地 | 14 | 含浸処理中 | 松山市文化財調査報告書第15集 |
| 72 | 畑寺竹ヶ谷遺跡 | 5 | 脱塩中 | 未報告 |
| 156 | 筋違Ｇ遺跡 | 2 | 処理済・処理室保管 | 松山市文化財調査報告書第52集 |
| 263 | 葉佐池古墳 | 23 | 処理済・処理室保管 | 松山市文化財調査報告書第92集 |
| 288 | 乃万の裏遺跡２次調査地 | 79 | 処理済・処理室保管 | 松山市文化財調査報告書第72集 |
| 294 | 来住町遺跡２次調査地 | 7 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報Ⅷ) |
| 306 | 岩崎遺跡 | 4 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第71集 |
| 310-① | 五楽遺跡A地区 | 2 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第103集 |
| 313 | 葉佐池古墳２次調査地 | 2 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第92集 |
| 354 | 来住町遺跡９次調査地 | 4 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報12) |
| 359 | 久米高畑遺跡43次調査地 | 16 | 処理済・処理室保管 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報12) |
| 368 | 束本遺跡６次調査地 | 10 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第105集 |
| 370 | 船ヶ谷遺跡４次調査地 | 5 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第88集・第95集 |
| 372 | 来住町遺跡10次調査地 | 7 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報13) |

平成17年度金属製品保存処理遺跡名一覧 (2)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 376 1-A | 桑原遺跡４次調査地（２区） | 7 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第105集 |
| 376 1-C | 桑原遺跡４次調査地（４区） | 1 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第105集 |
| 380 | 久米高畑遺跡49次調査地 | 1 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報13) |
| 381 | 来住町遺跡11次調査地 | 1 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報13) |
| 393 | 南久米町遺跡４次調査地 | 6 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報14) |
| 401 -1 | 上苅屋遺跡３次調査地 | 14 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報15) |
| 404 3-A | 樽味高木遺跡８次調査地 | 1 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報16) |
| 404 3-D | 東野森ノ木遺跡 | 21 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報17) |
| 404 4-A | 東野森ノ木遺跡２次調査地 | 2 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報17) |
| 405 2-B | 枝松遺跡９次調査地 | 1 | 含浸処理中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報17) |
| 408 2-B | 高井遺跡 | 5 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報17) |
| 413 | 来住廃寺29次調査地 | 1 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報16) |
| 416 | 来住廃寺30次調査地 | 3 | 脱塩中 | 未報告(松山市埋蔵文化財調査年報16) |
| 417 | 番町遺跡 | 2 | 脱塩中 | 松山市文化財調査報告書第109集 |
| 443 | 松山大学構内遺跡６次調査地 | 30 | 脱塩中 | 報告書作成中 |
| 445 | 城の内古墳群 | 42 | 脱塩中 | 未報告 |
| 453 | 樽味高木遺跡12次調査地 | 12 | 脱塩中 | 報告書作成中 |
| | 試掘(大峰ヶ台) | 1 | 脱塩中 | ※H17−198 |
| | 寄贈品(7) | 12 | 含浸処理中 | ※東山古墳群内出土 |
| | 寄贈品(8) | 31 | 脱塩中 | ※山西町出土 |
| | 寄贈品(13) | 18 | 脱塩中 | ※南ヶ丘出土 |
| | 寄贈品(14) | 1 | 脱塩中 | ※岩子山1号墳の可能性有り |
| | 寄贈品(15) | 1 | 脱塩中 | ※御産所出土 |
| | 出土地不明 | 3 | 脱塩中 | ※出土地不明 預No.17 |
| | 出土地不明 | 5 | 脱塩中 | ※出土地不明 預No.20 |

### ３．人骨・獣骨（動物遺骸体）の保存処理（写真７・８）

処理室へは人骨、獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で搬入される。処理室ではこの余分な土を、竹べら・竹串・針先・ピンセットなどを用いて、徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。脆い状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し漬けして全体（内部まで）を強化し保護する。また、収蔵遺物の再整理を行い収蔵台帳の作成も行っている。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表（表２）に記す。

### ４．遺構・遺物の取り上げ

発掘調査で検出される遺物には、腐食したり脆弱化しているため、そのまま取り上げることが困難なものがある。また、ほとんどの調査の場合、発掘した遺構を現場で保存できない。このような場合

表2　平成17年度動物遺骸体保存処理遺跡名一覧

| No | 遺 跡 名 | 種 類 | 点 数 | 刊 行 物 |
|---|---|---|---|---|
| 404 4-C | 樽味高木遺跡11次調査地 | 獣骨 | 5 | 未報告(報告書作成中) |
| 443 | 松山大学構内遺跡６次調査地 | 獣骨 | 3 | 未報告(報告書作成中) |
| 453 | 樽味高木遺跡12次調査地 | 獣骨 | 14 | 未報告(報告書作成中) |

に遺構・遺物の取り上げをおこなう。遺物が小さい場合は簡易な方法で行い（骨を土ごと取り上げること、年報11，保存処理事業Ⅰ－３参照)、遺物が大きく重量が増す場合は発泡ウレタン樹脂を用いて対象物全体を固めて取り上げる（年報X,保存処理事業Ⅰ－３参照）。この発泡ウレタン樹脂での梱包は従来使用していた石膏やコンクリートでの梱包より軽く仕上がり、搬出、運搬の作業が軽減される。また、室内に搬入した後、時間をかけて精査することによって、発掘期間中に屋外で調査する以上の成果を期待できることも多い。平成17年度は遺構、遺物の取り上げは行なっていない。

## ５．土層の剥ぎ取り転写

土層の剥ぎ取り転写は、転写面にエポキシ系樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い、樹脂が硬化後転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層はパネル仕上げにして展示、保管する。また、この土層の剥ぎ取りは、発掘後も室内で実物をあらゆる角度から精査できる効果的な記録保存法ともなる。平成17年度は土層の剥ぎ取り作業は行っていない。

参考文献　１～５　奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター『埋蔵文化財ニュース16・24・28・31』

## ６．出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

以下の表に平成17年度調査により出土した遺物種類、点数、遺跡名を記す。

表３　平成17年度調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

| No | 遺 跡 名 | 種 類 | 点 数 | 内 訳 |
|---|---|---|---|---|
| 438-2 | 道後湯之町遺跡 | 金属製品 | 1 | 銅製銭貨 |
| | | 木製遺物 | 3 | 杭など |
| 445 | 城の内古墳群(2･4･5号墳) | 金属製品 | 42 | 鉄製釘など |
| 446 | 樽味高木遺跡12次調査地 | 動物遺骸体 | 14 | 獣骨(歯など) |
| | | 金属製品 | 20 | 鉄製鏃･釘･銅製銭貨など |
| 448-1 | 北条片町遺跡 | 金属製品 | 4 | 鉄製釘など |
| 452 | 久米高畑遺跡66次調査地 | 木製遺物 | 1 | 炭化材 |
| | | 金属製品 | 3 | 鉄片 |
| 453 | 樽味四反地遺跡12次調査地 | 金属製品 | 2 | 鉄製鑿･刀子 |
| 454 | 樽味四反地遺跡13次調査地 | 金属製品 | 9 | 鉄製鏃･滓など |
| 455 | 祝谷畑中遺跡２次調査地 | 金属製品 | 1 | 鉄製鍋 |
| 458 | 東石井遺跡３次調査地 | 金属製品 | 1 | 鉄滓 |
| | 試掘(H17−198) | 金属製品 | 1 | 鉄製鏃? |

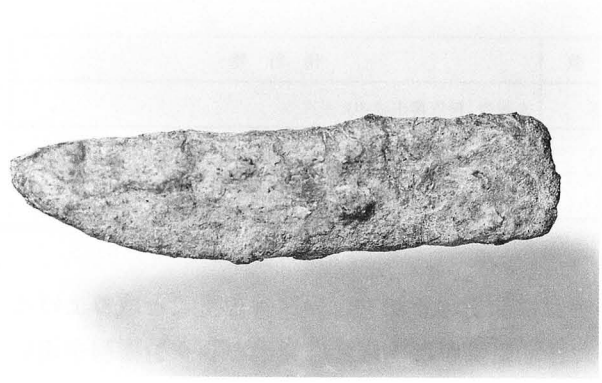


写真１　乃万の裏遺跡２次調査地出土刀（処理前）

写真２　乃万の裏遺跡２次調査地出土刀（処理後）

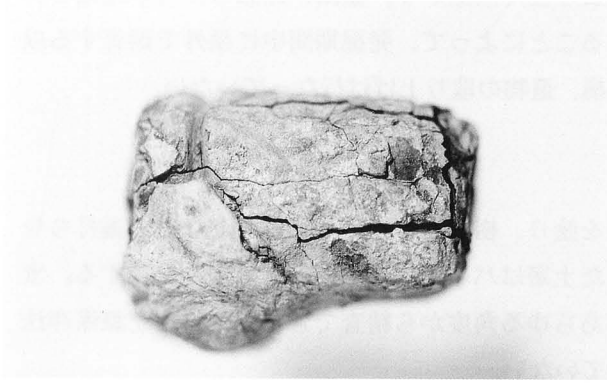


写真３　乃万の裏遺跡2次調査地出土器種不明（処理前）

写真４　乃万の裏遺跡2次調査地出土器種不明（処理後）

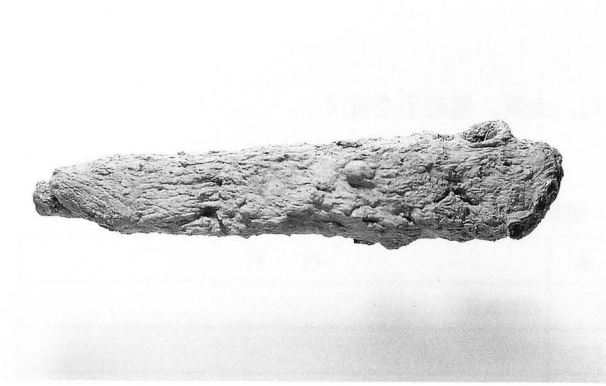


写真５　久米高畑遺跡43次調査地出土刀（処理前）

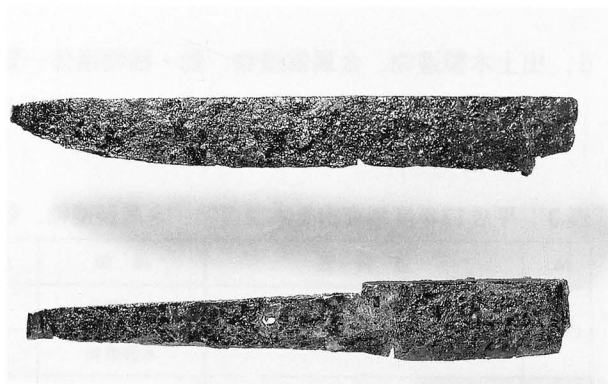


写真６　久米高畑遺跡43次調査地出土刀（処理後）

写真７　松山大学構内遺跡6次調査地出土獣歯（処理前）

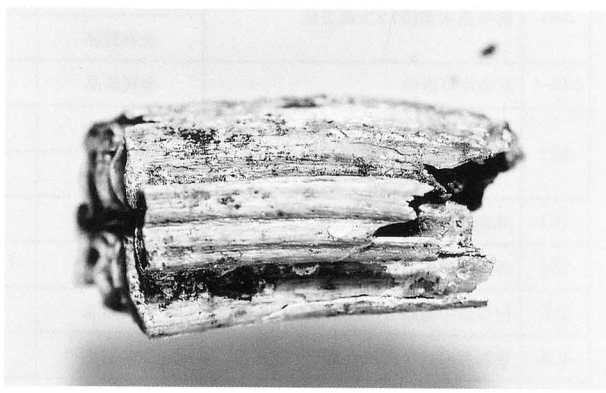


写真８　松山大学構内遺跡6次調査地出土獣歯（処理後）

# 3．出土遺物整理

## 磨製石剣・磨製石鏃・武器形石製品一覧

### 1．調査の概要

当センターでは、借用や資料調査の希望が多い出土品を年次毎に整理し、迅速に対応可能なように特別収蔵庫で保管している。今年度は、磨製石剣・磨製石鏃・武器形石製品を対象資料とした。

調査は、まず報告書や文献で調べ、つぎに各調査員に対象資料の有無や所属時期の確認等をした。つづいて資料と実測図を一括管理し、未実測品は極力実測を作成し、法量の数量化に努めた。

なお掲載資料は、報告書に掲載している遺物を基本にし、現在整理中の遺物も許される限り取り上げ、未整理の遺跡出土資料は除外した。（梅木）

### 2．掲載文献


森　光晴　1984　『国道11号バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書』松山市文化財調査報告書第17集

宮崎泰好　1991　『祝谷六丁場遺跡』松山市文化財調査報告書　第24集

梅木謙一　1992　『桑原地区の遺跡』松山市文化財調査報告書　第26集

梅木謙一・宮内慎一　1993『山越･久万ノ台の遺跡』松山市文化財調査報告書　第32集

栗田茂敏　1994　『上野遺跡』松山市文化財調査報告書　第39集

梅木謙一・宮内慎一　1994　『桑原地区の遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書　第46集

栗田茂敏　1995　『大峰ヶ台遺跡－第４次調査－』松山市文化財調査報告書　第48集

宮内慎一　1995　『松山大学構内遺跡Ⅱ－第３次調査－』松山市文化財調査報告書　第49集

梅木謙一　1996　『福音寺地区の遺跡』松山市文化財調査報告書　第52集

河野史知　1997　『桑原地区の遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書　第58集

宮内慎一　1999　『岩崎遺跡』松山市文化財調査報告書　第71集

梅木謙一　2002　『桑原地区の遺跡Ⅳ』松山市文化財調査報告書　第86集

高尾和長　2002　『船ヶ谷遺跡－４次調査－』松山市文化財調査報告書　第88集

高尾和長　2003　『船ヶ谷遺跡４次調査Ⅱ･福音小学校構内遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書　第95集

梅木謙一　2004　『来住･久米地区の遺跡Ⅴ』松山市文化財調査報告書　第101集

宮内慎一　2005　『古市遺跡－２次調査－・五楽遺跡－１・３次調査－』松山市文化財調査報告書　第103集

宮内慎一　2005　『東石井遺跡・西石井遺跡－１・２・３次調査地－』松山市文化財調査報告書　第112集

森　光晴　1979　『溝辺遺跡埋蔵文化財調査報告書』愛媛県教育委員会

西尾幸則　1989　『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』

栗田茂敏　1991　『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ』

田城武志・小玉亜紀子　1998　『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅹ』

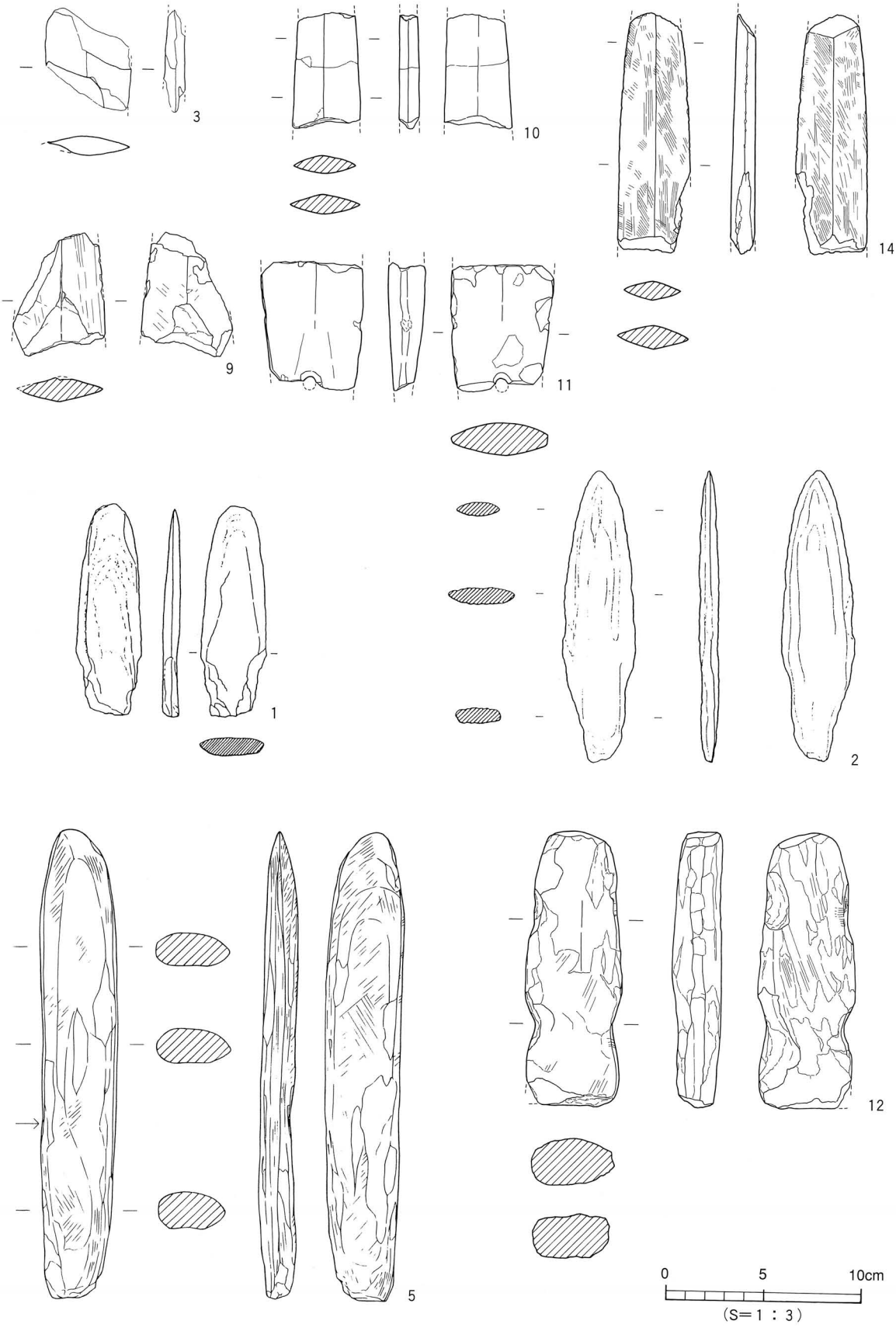



図1　石剣実測図（1）

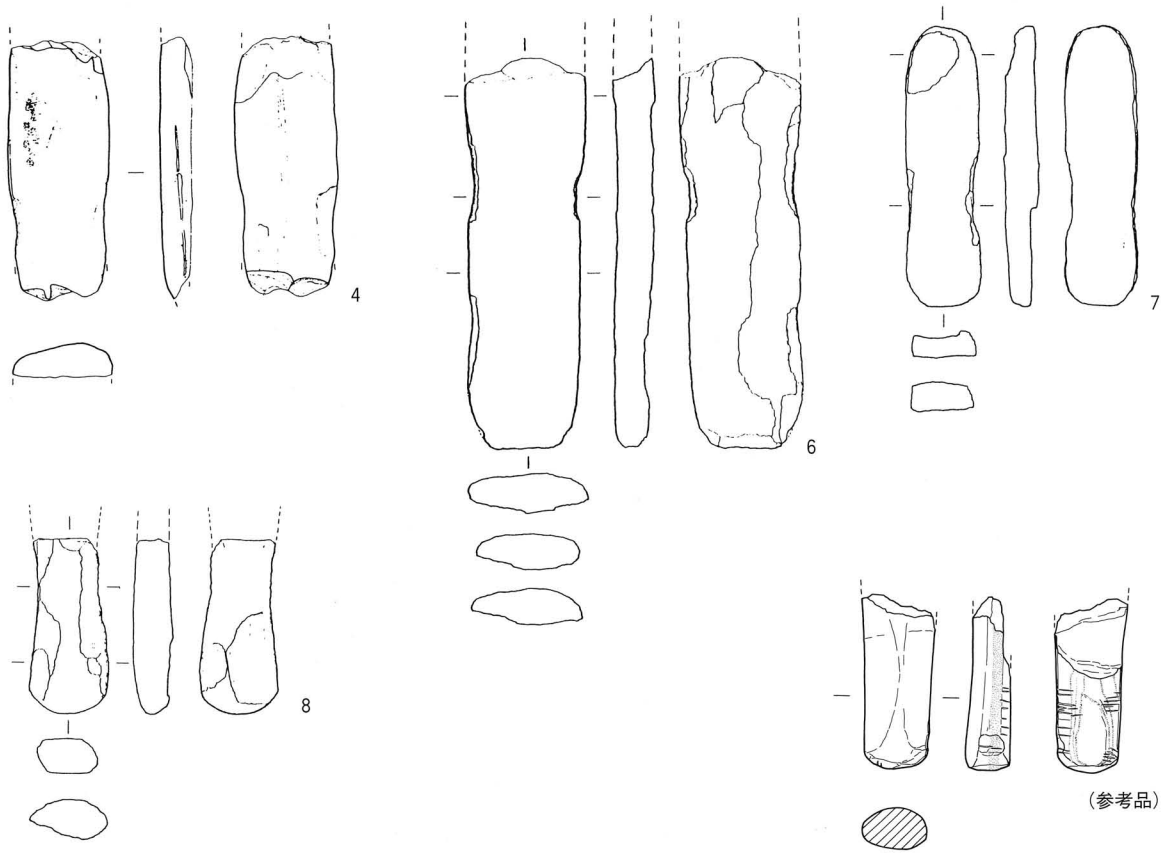



図２　石剣実測図（２）

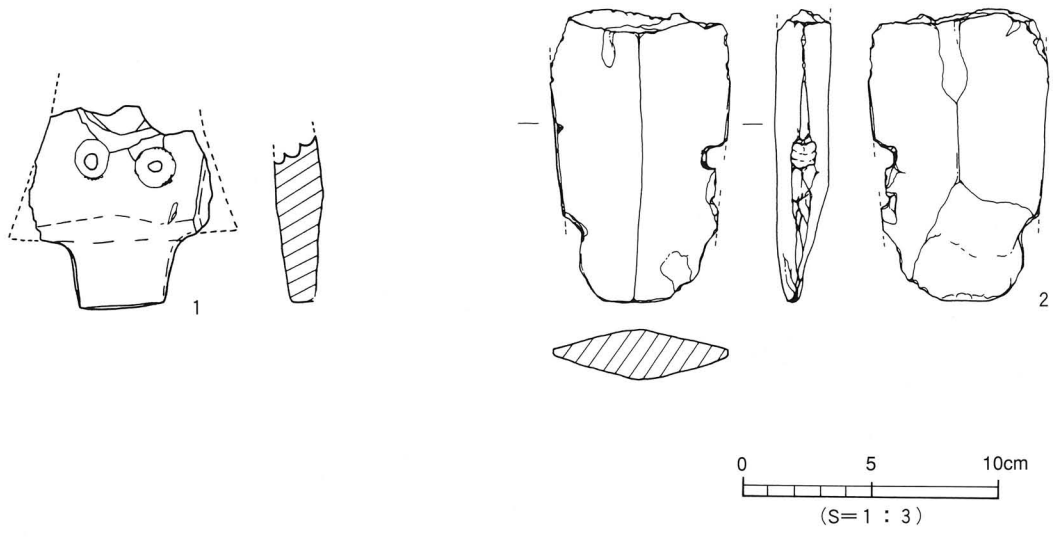



図３　武器形石製品実測図

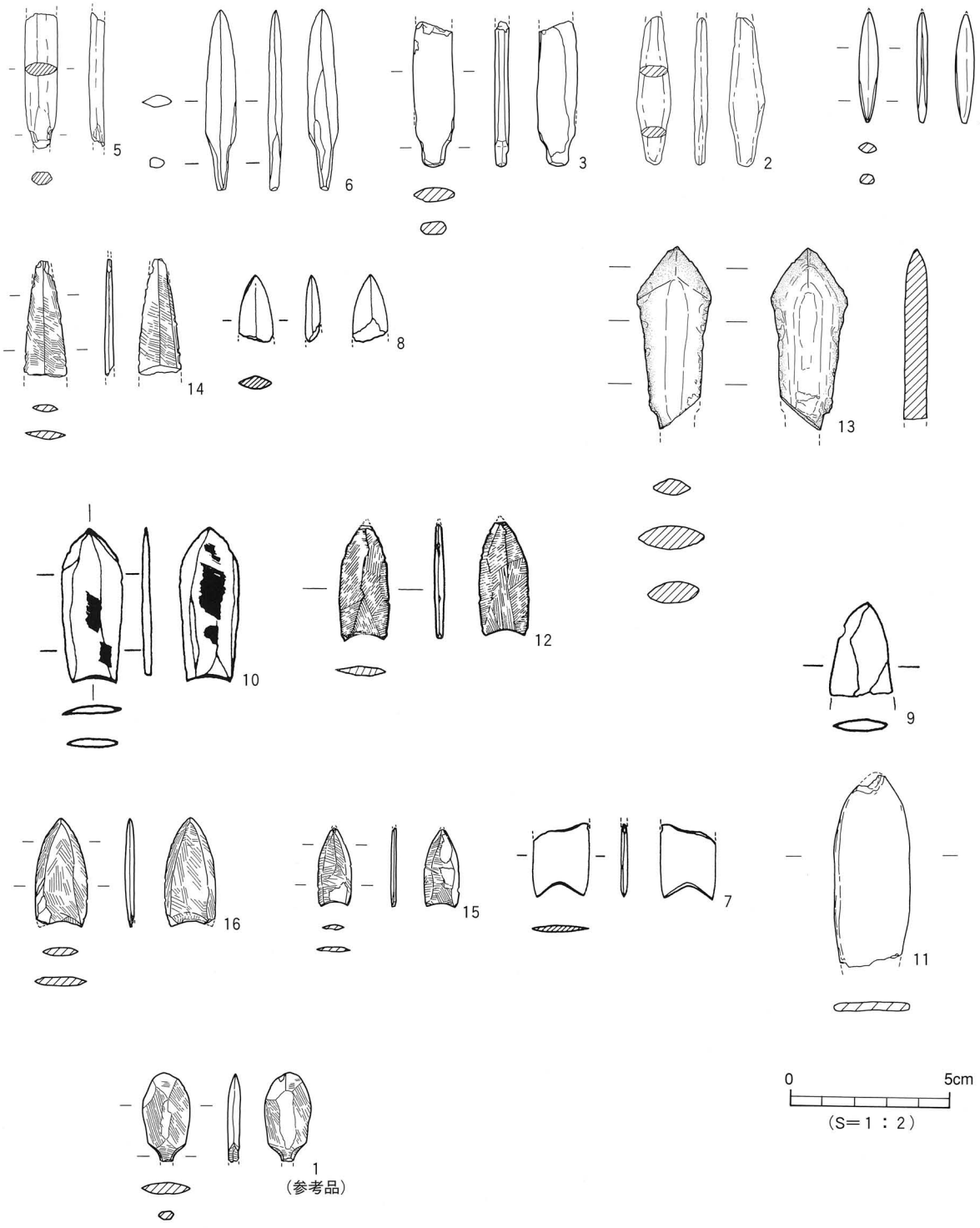



図４　磨製石鏃実測図

## 表1　石剣一覧

| 番号 | 遺跡名 | 出土地 | 石材 | 全長(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 時期 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 上野 | 4区 | 緑色片岩 | 10.9 | 3.3 | 0.9 | 49.0 | 不明 | 報第39集 図32−56 | |
| 2 | 畑寺6号墳 | 試掘トレンチ | 緑色片岩 | 14.5 | 3.6 | 0.9 | 61.9 | 不明 | 報第58集 第82図−19 | |
| 3 | 岩崎 | SDV202中層 | 頁岩 | (3.6) | 4.5 | 1.0 | (20.8) | 弥生前期末〜中期初頭 | 報第71集 第91図−V102 | |
| 4 | 岩崎 | SDVI105中層 | 緑色片岩 | (10.2) | 3.9 | (1.2) | (84.5) | 弥生前期末〜中期初頭 | 報第71集 第221図−VI232 | |
| 5 | 古市2次（1区） | C地区SK1 | 緑色片岩 | 24.0 | 3.8 | 1.7 | 324.0 | 弥生前期末〜中期初頭 | 報第103集 第36図−77 | |
| 6 | 船ヶ谷4次 | SR1−②層 | 緑色片岩 | (15.5) | 4.6 | 1.5 | (167.4) | 不明 | 報第88･95集 第98図−1060 | |
| 7 | 船ヶ谷4次 | SR1−②層 | 緑色片岩 | 11.2 | 2.8 | 1.3 | 73.1 | 不明 | 報第88･95集 第98図−1061 | |
| 8 | 船ヶ谷4次 | SR1−②層 | 緑色片岩 | (7.0) | 3.0 | 1.5 | (49.7) | 不明 | 報第88･95集 第98図−1062 | |
| 9 | 久米高畑2次 | S2W1 | 頁岩 | (5.7) | 4.7 | 1.2 | (31.8) | —— | 年報II(整理中) | |
| 10 | 久米高畑11次 | 2区 | 頁岩 | (5.6) | 3.5 | 0.9 | (28.3) | —— | 整理中 | |
| 11 | 久米高畑13次 | A41　耕作土 | 安山岩 | (6.4) | 5.2 | 1.9 | (87.6) | —— | 年報III(整理中) | |
| 12 | 久米高畑27次 | SD5 | 緑色片岩 | 14.0 | 4.9 | 2.3 | 295.3 | 不明 | 報第101集 第67図−157 | |
| 13 | 竹本氏寄贈品 | 不明 | 頁岩 | (12.10) | 3.6 | 1.2 | (52.6) | 不明 | | 竹コレ5-218 |
| 参考品 | 溝辺古墳 | 1号墳 | 3E墳丘 | (7.0) | 2.6 | 1.8 | (40.6) | 不明 | 愛媛県報1979　図8−8 | |

## 表2　武器形石製品一覧

| 番号 | 遺跡名 | 出土地 | 種類 | 石材 | 全長(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 時期 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 祝谷六丁場 | 一区第6層 | 戈 | 緑色片岩 | (8.0) | (6.5) | 1.8 | | 弥生中期中葉 | 報第24集 図108−910 | |
| 2 | 久米高畑37次 | 堀立005−SP2 | 矛形 | 頁岩 | (11.3) | 7.0 | 2.1 | (173.5) | 古墳時代終末 | 年報X P86 図1−3 | |

## 表3　磨製石鏃一覧

| 番号 | 遺跡名 | 出土地 | 型式 | 石材 | 全長(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 時期 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1参考 | 福音寺竹ノ下地区 | 包含層 | 有茎式 | 緑泥片岩 | 4.3 | 2.1 | 0.6 | 7.4 | (古墳時代か) | 報第17集 第21図−16 | 時期要判断 |
| 2 | 祝谷六丁場 | 第2調査区包含層 | 有茎式 | 緑色片岩 | (4.6) | 1.1 | 0.3 | (2.8) | 弥生中期中葉 | 報第24集 図108−911 | |
| 3 | 祝谷六丁場 | 1区N6E7 | 有茎式 | 緑色片岩 | (6.9) | 1.9 | 0.6 | (16.7) | 弥生中期中葉 | 報第24集 未掲載 | |
| 4 | 西稲葉2次 | N3W4　第5層 | 有茎式 | 緑色片岩 | 5.3 | 0.9 | 0.5 | 3.8 | 不明 | 報第26集 未掲載 | |
| 5 | 山越2次 | SD2 | 有茎式 | 緑色片岩 | (4.3) | 1.0 | 0.4 | (3.4) | 弥生前期前半 | 報第32集 第19図−29 | |
| 6 | 樽味高木2次 | B区　SB2 | 有茎式 | 緑色片岩 | 5.7 | 0.9 | 0.4 | 2.9 | (弥生中期後葉〜後期初頭) | 報第46集 第33図−77 | 時期要判断 |
| 7 | 大峰ヶ台4次 | SB16(掘立柱) | 凹基無茎式 | 緑色片岩 | (2.4) | 1.7 | 0.2 | (1.3) | 弥生中期中葉 | 報第48集 図39−117 | |
| 8 | 大峰ヶ台4次 | 包含層 | 有茎式 | 緑色片岩 | (2.1) | 1.0 | 0.4 | (1.1) | 弥生中期 | 報第48集 図71−207 | |
| 9 | 松山大学構内3次 | SB3 | —— | 結晶片岩 | (3.1) | 1.9 | 0.3 | (2.6) | (古墳初頭) | 報第49集 第266図−2057 | 時期要判断 |
| 10 | 松山大学構内3次 | SX5 | 凹基無茎式 | 緑色チャート | 5.0 | 1.9 | 0.2 | 3.9 | (弥生後期末) | 報第49集 第277図−2128 | 時期要判断 |
| 11 | 筋違F | SB5 | —— | 緑色片岩 | (6.1) | 2.4 | 0.3 | (10.1) | 弥生後期後葉 | 報第52集 第99図−232 | |
| 12 | 東野お茶屋台2次 | 14号墳 | 凹基無茎式 | 黒色チャート | (3.4) | 1.5 | 0.2 | (1.9) | (6C中葉) | 報第86集 第33図−50 | 混入品 |
| 13 | 西石井2次 | SD401 | 有茎式 | 頁岩 | (5.8) | (2.4) | 0.7 | (10.9) | (弥生後期後半) | 報第112集 第222図−270 | 時期要判断 |
| 14 | 来住廃寺7次？ | 6AKA−1−G−32 | 有茎式 | 緑色チャート | (5.6) | 2.0 | 0.4 | (3.8) | —— | 整理中 | |
| 15 | 小坂3丁目 | D5 | 凹基無茎式 | 黒色チャート | 3.7 | 1.4 | 0.2 | 2.0 | —— | 整理中 | |
| 16 | 平松氏寄贈品 | 表採 | 凹基無茎式 | 茶色チャート | 5.2 | 2.5 | 0.4 | 7.6 | 不明 | —— | |

# 4．東方町採集品

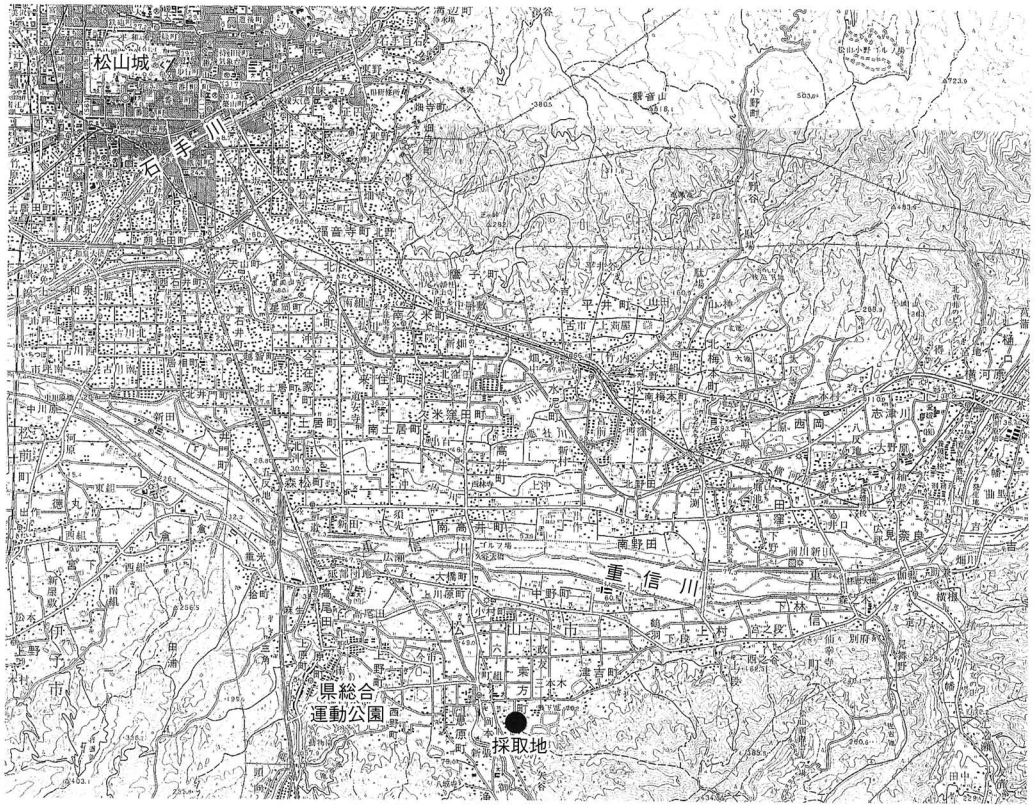
平成18年４月、松山市埋蔵文化財センターに市民より、工事中に採取した土器２点の持ち込みがあった。提供者からは、所在地と出土の様子を聞き取りした。ほぼ完形な土器２点は、以前に東方町での工事中に地表下約40cmの地点から出土し、１の碗の上に、２の坏が被さって出土したことを聞いた。出土状況と土器の遺存からは、墓に供献されたことが推定できた。

そこで、整理と類例調査を進めたところ、松山市の古代墓制や土器研究の数少ない基礎資料と評価出来るため、ここで資料紹介をすることにした。

１の内黒碗は、高台部を欠損する。坏部は深く、丸い形状を呈し、口径15.2cm、坏部高5.0cmである。北久米浄蓮寺遺跡の墓資料（河野1997）に類似形態がある。２の坏は、円盤高台で、回転ヘラ切り手法が見られる。口径は12.0cm、器高は4.2cmである。石井幼稚園遺跡（栗田1994）に類似品がある。１・２の特徴からは、10世紀に時期比定ができる。（梅木）


栗田茂敏　1994　「石井幼稚園遺跡」『石井幼稚園遺跡・南中学校構内遺跡』

河野史知　1997　「北久米浄蓮寺遺跡６次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅸ』


（S＝１：100,000）

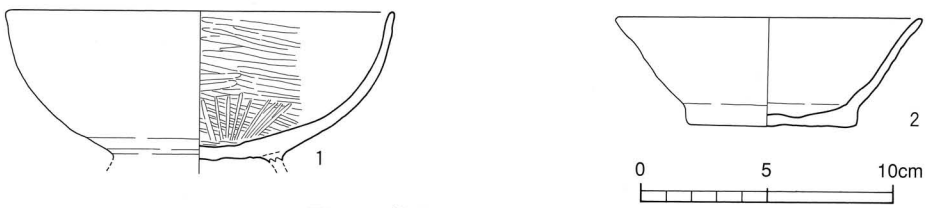



図１　位置図・遺物実測図　（S＝１：３）

# Ⅳ　平成17年度
# 普　及　啓　発　事　業

# 平成17年度の普及啓発事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における遺跡の発掘調査を行うとともに、出土遺物や記録資料などを整理・保管している。発掘調査終了後は、随時現地説明会を開催するとともに発掘調査報告書を刊行することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は、地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や遺跡めぐり、講演会、体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を支援しながら、埋蔵文化財保護思想の普及啓発に努めている。平成17年度は下記の各種事業を実施した。

1．展示活動　　2．教育普及活動　　3．収集・保管活動　　4．広報・出版活動
5．施設の利用　　6．資料の貸出・調査　　7．職員研修・会議

一方、埋蔵文化財センターに隣接して設置されている文化財情報館は、松山市内で出土した文化財資料を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場としての充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

## 1．展示活動

常設展示室は、「海を媒介とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「触れる」「考える」を展示の基本コンセプトとした立体的な展示を心がけている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,000点である。

また、常設展示室に隣接した特別展示室では、期間を限定し開催する展示会として（1）発掘へんろ展（3）発掘調査速報展（4）特別展（5）企画展を開催するとともに、（2）発掘調査写真展を松山城二之丸史跡庭園・松山市役所・いよてつ高島屋・西郵便局の4か所で開催した。

### （1）第2回 四国・埋蔵文化財センター巡回展「発掘へんろ－遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波－」（写真1・表1－①）

この展示会は、四国内の埋蔵文化財センター5団体が合同で開催する巡回展である。5団体が近年、発掘調査して出土した遺物を持ち寄り、今までに蓄積された情報を提供・交換することによって、観覧者の方々に埋蔵文化財の重要性を認識していただこうというものである。

写真1　巡回展「発掘へんろ」風景

### （2）発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを撮る」（表1－②）

この展示会は、後述する（3）発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」の予告を兼ねて前年度に発掘調査された遺跡や遺物の写真パネルを速報的に紹介するものである。当年度は松山城二之丸史跡庭園・松山市役所本館1階ロビー・いよてつ高島屋ふれあいギャラリー・西郵便局の4か所において26遺跡の写真パネルと解説パネル計10枚を設置し、ＰＲに努めた。

（3）発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」（写真2・表1－③）

この展示会は、前年度に松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介し、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。当年度は、前年度に発掘調査された樽味立添遺跡3次調査地や東野お茶屋台遺跡6次調査地、道後湯月町遺跡を含む26遺跡を取り上げ、その出土遺物約100点を展示した。

（4）特別展「祈り～卑弥呼といのり～」（写真3・表1－④）

この展示会は、考古館最大の事業であり、県内外の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に展示を展開するものである。当年度は、伊予や西日本地方で出土した縄文時代～現代の代表的な身近な祈りの小道具を展示した。展示点数は約200点である。

（5）企画展「食と器のものがたり～縄文土器から砥部焼まで～」（表1－⑤）

この展示会は、「食と器」をテーマとし、愛媛県内の遺跡で出土した縄文時代から江戸時代までの食べ物、調理器具、食器などを時代ごとに展示した。展示点数は約100点である。

表1　展示会一覧

| No. | 展示会名 | 会期 | 会場 | 観覧者数 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 第2回四国・埋蔵文化財センター巡回展<br>「発掘へんろ－遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波－」 | 平成17年4月23日（土）～7月3日(日) | 特別展示室 | 4県の展示会を合わせて7,078人内、考古館2,370人 |
| ② | 発掘調査写真展<br>「むかし・昔のまつやまを撮る」 | ①平成17年5月18日(水)～30日(月)<br>②平成17年6月1日(水)～10日(金)<br>③平成17年6月15日(水)～20日(月)<br>④平成17年6月27日(月)～7月1日(金) | ①二之丸史跡庭園<br>②松山市役所本館<br>③いよてつ高島屋<br>④松山市西郵便局 | 一般市民対象<br>①724人<br>③358人 |
| ③ | 発掘調査速報展<br>「むかし・昔のまつやまを掘る」 | 平成17年7月16日（土）～8月31日(水) | 特別展示室 | 1,103人 |
| ④ | 特別展<br>「祈り～卑弥呼といのり～」 | 平成17年10月22日（土）～12月11日(日) | 特別展示室 | 1,713人 |
| ⑤ | 企画展<br>「食と器のものがたり～縄文土器から砥部焼まで～」 | 平成18年1月21日（土）～3月21日(祝・火) | 特別展示室 | 1,597人 |

写真2　速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」風景

写真3　特別展「祈り」風景

## 2．教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象に埋蔵文化財保護思想の普及啓発を目的とした講演会・体験学習セミナー・考古学講座などがある。

### （1）調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のために各分野での第一人者を招聘し、助言をいただき、職員の資質向上をめざしている。

### （2）講演会・展示解説会

当年度は「発掘へんろ」展示報告会、発掘調査報告会、特別展記念講演会、特別展基礎講座Ⅰ・Ⅱ、企画展記念講演会、企画展基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを行った。

①「発掘へんろ」展示報告会は、「発掘へんろ」展の開催を記念して当館講堂にて、当埋蔵文化財センター調査員が調査概要と遺物の解説を行い、他の埋蔵文化財センター(愛媛県、高知県、香川県、徳島県）分はビデオ上映で解説を行った（表２－①）。

②「発掘へんろ」展示解説会は、展示品の解説を当館学芸員が行った。３回実施し、うち１回は親子解説会とし、火おこしを同時に行った（表２－②）。

③発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘調査速報展の開催初日に統括報告及び調査報告を行った（表２－③）。

④特別展記念講演会は、特別展開催を記念して当館講堂にてフリーアナウンサー木藤たかお先生には考古学の魅力、民族藝術学会員河野正文先生には日本と外国の祈りの比較について実例を挙げながらご講演いただいた。また、講師２名と当館主任学芸員梅木謙一とで卑弥呼や祈りについて対談を行った（写真４・表２－④）。

⑤特別展基礎講座は、個別の展示資料を深く知るために２回実施した。講座Ⅰでは、当センター調査員山之内志郎が『祈り～分銅形土製品～』と題して、分銅形土製品の形態的特徴等を語った。講座Ⅱでは、愛媛県歴史文化博物館学芸員大本敬久先生に『祈りの歴史』について講演していただいた（表２－⑤）。

⑥企画展記念講演会は、企画展を記念して当館講堂にて愛媛大学法文学部教授（考古学）田崎博之先生に『食と器の移り変わり』について講演いただいた（表２－⑥）。

⑦企画展基礎講座は、展示資料をより深く理解していただくために３回実施した。１回目は当館学芸員による展示解説『古代松山の食と器』を行い、２回目は（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター調査員柴田圭子先生に『中世武士団と庶民の食と器』、３回目は砥部焼春秋窯窯元工藤省治先生に『砥部焼の器を知る』と題して講演していただいた（写真５・表２－⑦）。

写真４　特別展記念講演会風景

写真５　企画展基礎講座第２回風景

表２　講演会等一覧　（敬称略）

| No. | 事業名 | 日時 | 会場 | 講師・報告者 | 聴講者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 第２回四国・埋蔵文化財センター巡回展<br>「発掘へんろ」<br>展示報告会 | 平成17年4月24日(日) | 講堂 | 当センター調査員　相原浩二<br>〃　河野史知<br>他各センターはビデオで解説 | 75人 |
| ② | 第２回四国・埋蔵文化財センター巡回展<br>「発掘へんろ」<br>展示解説会 | ①平成17年5月1日(日)<br>②平成17年6月12日(日)<br>③平成17年7月3日(日) | 特別展示室 | ①当考古館学芸員　小玉亜紀子<br>②当考古館学芸員　〃<br>③当考古館主任学芸員　梅木謙一 | 13人<br>15人<br>6人 |
| ③ | 発掘調査報告会<br>「むかし・昔のまつやまを語る」 | ①平成17年7月17日(日)<br>②平成17年8月7日(日) | 講堂 | ①当センター主任調査員　栗田茂敏<br>当センター調査員　高尾和長<br>〃　調査員　相原秀仁<br>②　〃　調査員　吉岡和哉<br>〃　調査員　橋本雄一 | 51人<br>45人 |
| ④ | 特別展記念講演会<br>「考古学の魅力～卑弥呼と祈り～」 | 平成17年11月5日(土) | 講堂 | フリーアナウンサー　木藤たかお<br>民族藝術学会員　河野正文<br>当考古館主任学芸員　梅木謙一 | 53人 |
| ⑤ | 特別展基礎講座<br>Ⅰ「祈り～分銅形土製品～」<br>Ⅱ「祈りの歴史」 | 平成17年10月30日(日)<br>平成17年12月3日(土) | 講堂 | 当センター調査員　山之内志郎<br>愛媛県歴史文化博物館主任学芸員　大本敬久 | 49人<br>58人 |
| ⑥ | 企画展記念講演会<br>「食と器の移り変わり」 | 平成18年1月29日(日) | 講堂 | 愛媛大学法文学部教授（考古学）　田崎博之 | 78人 |
| ⑦ | 企画展基礎講座<br>第1回「古代松山の食と器－展示解説会－」<br>第2回「中世武士団と庶民の食と器－湯築城家臣団の研究から－」<br>第3回「砥部焼の器を知る」 | ①平成18年1月21日(土)<br>②平成18年2月18日(土)<br>③平成18年3月4日(土) | 講堂 | ①当考古館主任学芸員　梅木謙一<br>当考古館学芸員　小玉亜紀子<br>②(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター<br>調査員　柴田圭子<br>③砥部焼春秋窯窯元　工藤省治 | 52人<br>56人<br>54人 |
| ⑧ | 初心者のための考古学講座<br>「とことん考古学Ⅴ」<br>第1回 書物にみる古代の食事<br>第2回 弥生人の食事－遺跡調査から－<br>第3回 発掘現場見学 松山大学構内遺跡<br>第4回 食の地域性<br>第5回 日本の食文化 | ①平成17年5月22日(日)<br>②平成17年6月5日(日)<br>③平成17年6月19日(日)<br>④平成17年6月26日(日)<br>⑤平成17年7月10日(日) | 講堂<br>〃<br>現場<br>講堂<br>〃 | ①当センター調査員　山之内志郎<br>②(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター<br>調査係長　真鍋昭文<br>③当センター調査員　相原浩二<br>〃　山之内志郎<br>④愛媛県生涯学習センター研究員　亀岡佳章<br>⑤愛媛県調理製菓専門学校副校長　渡邊雅子 | 48人<br>46人<br>46人<br>42人<br>35人 |

### (3) 初心者のための考古学講座「とことん考古学Ⅴ」（写真６・表２－⑧）

当年度は『食べ物の歴史から食文化を考える』をテーマに計５回で弥生時代から現代までを取り扱い、出土品に加え民俗事例を取り入れ、日本の食文化の変遷について理解が深められるように内容を工夫した。また、第３回は発掘調査の現場見学（松山大学構内遺跡）とし、親しみやすい内容を目指している。

（4）クラフト教室「石を磨いて勾玉を作ろう！」（写真７・表３－①）

当教室は、市内の小学生以上の方を対象に勾玉作りをした。特に子供たちには、自由な発想で滑石製勾玉を製作することにより古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的としている。また、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

写真６　「とことん考古学Ⅴ」第１回風景

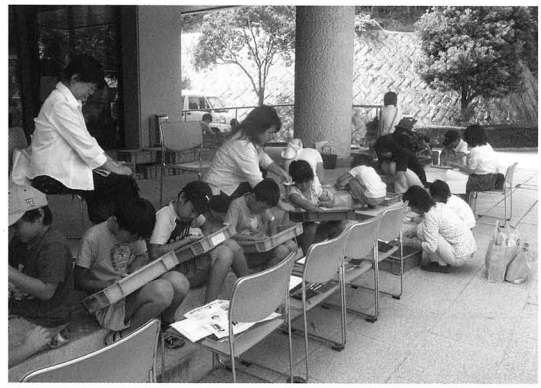


写真７　「石を磨いて勾玉を作ろう!」風景

（5）大人のための体験学習セミナー
「ガラス勾玉を作ろうⅤ」（写真8・表3―②）

当セミナーは、18歳以上の市民を対象にしたもので、古代風ガラス勾玉を製作することにより、古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的に実施したものである。

写真８　「ガラス勾玉を作ろうⅤ」風景

表３　体験講座一覧

| No. | 事業名 | 日時 | 会場 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| ① | クラフト教室<br>「石を磨いて勾玉を作ろう！」 | ①平成17年４月17日（日）<br>②平成17年５月15日（日）<br>③平成17年７月24日（日）<br>④平成17年８月21日（日）<br>⑤平成17年９月18日（日）<br>⑥平成17年10月22日（土）<br>⑦平成18年３月18日（土） | 松山市考古館　屋外 | ①　20人<br>②　28人<br>③　51人<br>④　36人<br>⑤　43人<br>⑥　26人<br>⑦　21人 |
| ② | 大人のための体験学習セミナー<br>「ガラス勾玉を作ろうⅤ」 | ①平成17年11月19日（土）<br>②平成17年12月10日（土） | 講　　堂<br>松山市考古館屋外 | 29人<br>29人 |
| ③ | 遺跡めぐり<br>「伊豫のまほろば探訪～PartⅤ～」 | 平成17年11月12日（土） | 北条平野 | 32人 |

（6）遺跡めぐり「伊豫のまほろば探訪～Part Ⅴ～」（写真９・表３－③）

当事業は、地域に所在する史跡や埋蔵文化財を参加者が身近に感じていただくことを目的として開催するものである。当年度は、平成17年11月12日（土）に32名の参加者とともに北条平野の奥の谷古墳、国津比古命神社古墳、櫛玉姫命神社、北条ふるさと館、茶臼権現、善応寺、風和里を見学した。

（7）現地説明会（写真10・表４）

遺跡の見学を通して、市民が埋蔵文化財に対する興味や関心をより一層持ってもらうために開催するものである。当年度は、５ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。

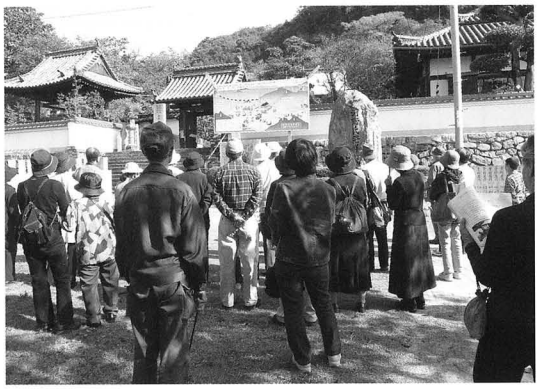


写真９　「伊豫のまほろば探訪Ⅴ」風景

写真10　「樽味四反地遺跡12次・13次調査地」見学風景

表４　現地説明会一覧

| No. | 遺跡名 | 日時 | 遺跡の主な概要 | 見学者数 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 道後湯月町遺跡 | 平成17年４月９日（土）<br>10:30～11:30 | 河川跡、包含層 | 80人 |
| ② | 樽味高木遺跡12次調査地 | 平成17年８月23日（火）<br>10:00～11:30 | 弥生時代後期後葉、古墳時代中・後期の竪穴住居<br>古代の鍛冶関連遺構 | 150人 |
| ③ | 久米高畑遺跡65次調査地 | 平成17年９月23日（金）<br>10:00～11:30 | 弥生時代～古墳時代の竪穴住居、<br>掘立柱建物など集落関連遺構、<br>古代正倉院南辺の濠 | 130人 |
| ④ | 久米高畑遺跡66次調査地 | 平成17年12月17日（土）<br>10:00～12:00 | 弥生時代、古墳時代の竪穴住居、土坑<br>古代の掘立柱建物、溝 | 200人 |
| ⑤ | 樽味四反地遺跡12次・13次調査地 | 平成18年２月18日（土）<br>10:00～12:00 | （樽味四反地12次）<br>弥生時代中期の土坑、古墳時代の竪穴住居<br>（樽味四反地13次）<br>弥生時代後期～古墳時代の竪穴住居、溝<br>古墳時代初頭の超大型掘立柱建物 | 130人 |

## （8）体験学習（表5）

年間に60件を超える団体が来館され、常設展示や収蔵庫等の施設見学に合わせ、火おこし体験などを実施した。

表5　体験学習一覧（1）

| No. | 学校名及び団体名 | 学年 | 期間 | 内容 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 朝見辻町女性部 | － | 平成17年4月19日（火） | 展示見学・火おこし体験 | 32人 |
| 2 | 松山市立　味生第二小学校 | 6年生 | 平成17年4月22日（金） | 展示見学・火おこし体験 | 118人 |
| 3 | ピーターパン | － | 平成17年4月23日（土） | 展示見学 | 14人 |
| 4 | 松山東雲高校 | 1年生 | 平成17年4月28日（木） | 展示見学・火おこし体験 | 35人 |
| 5 | 松山市立　宮前小学校 | 6年生 | 平成17年5月10日（火） | 「社会科の学習」として<br>（展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介） | 120人 |
| 6 | 松山市立　小野小学校 | 6年生 | 平成17年5月17日（火） | 展示見学・火おこし体験 | 186人 |
| 7 | 松山市立　福音小学校 | 6年生 | 平成17年5月25日（水） | 「社会科の学習」として<br>（展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介） | 121人 |
| 8 | 平成済美中学校 | － | 平成17年5月26日（木） | 展示見学 | 91人 |
| 9 | 松山市立　味酒小学校 | 6年生 | 平成17年5月27日（金） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介） | 80人 |
| 10 | 松山市立　味酒小学校 | 6年生 | 平成17年5月31日（火） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介） | 82人 |
| 11 | デイケアーセンター<br>天山竹林館 | － | 平成17年6月2日（木） | 展示見学 | 34人 |
| 12 | 松山市立　味生小学校 | 6年生 | 平成17年6月3日（金） | 展示見学・火おこし体験 | 115人 |
| 13 | デイケアセンター星岡 | － | 平成17年6月7日（火） | 展示見学 | 11人 |
| 14 | デイケアセンター和泉 | － | 平成17年6月7日（火） | 展示見学 | 28人 |
| 15 | 松山市立　味酒小学校 | 6年生 | 平成17年6月16日（木） | 展示見学・火おこし体験 | 23人 |
| 16 | 朝鮮学校 | － | 平成17年6月21日（火） | 展示見学 | 3人 |
| 17 | 松山市立　新玉小学校 | 3年生 | 平成17年6月23日（木） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介） | 12人 |
| 18 | 松山市立　味生第二小学校 | 3年生 | 平成17年6月28日（火） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介） | 22人 |
| 19 | デイケアセンター安寿荘 | － | 平成17年7月2日（土） | 展示見学 | 22人 |
| 20 | デイケアセンター桃の里 | － | 平成17年8月5日（金） | 展示見学 | 27人 |

## 体験学習一覧（２）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 味酒心療内科 | － | 平成17年８月10日（水） | 展示見学 | 21人 |
| 22 | 宇和島立間公民館 | － | 平成17年８月18日（木） | 展示見学 | 25人 |
| 23 | デイケアセンター白寿 | － | 平成17年８月18日（木） | 展示見学 | 26人 |
| 24 | デイサービス八倉医院 | － | 平成17年８月23日（火） | 展示見学 | 35人 |
| 25 | 北条ふるさと館　考古めぐり | － | 平成17年９月27日（火） | 展示見学 | 36人 |
| 26 | 松山市立　津田中学校 | １年生 | 平成17年９月29日（木） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介） | 42人 |
| 27 | 老人保健施設たかのこ館 | － | 平成17年10月５日（水） | 展示見学 | 15人 |
| 28 | 松山市立　浅海小学校 | 5･6年生 | 平成17年10月11日（火） | 展示見学・火おこし体験 | 30人 |
| 29 | 今治市立　別宮小学校 | ５年生 | 平成17年10月12日（水） | 展示見学・火おこし体験 | 63人 |
| 30 | 東アジアの古代文化を考える会 | － | 平成17年10月14日（金） | 展示見学 | 15人 |
| 31 | 久万高原町立　面河小学校 | － | 平成17年10月14日（金） | 展示見学・火おこし体験 | 26人 |
| 32 | 子供チャレンジ教室 | － | 平成17年10月15日（土） | 展示見学・火おこし体験 | 40人 |
| 33 | 松山市立　桑原中学校 | １年生 | 平成17年11月11日（金） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（展示見学・松山市の文化財について） | 7人 |
| 34 | 松山市立　雄新中学校 | ２年生 | 平成17年11月11日（金） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（展示見学・遺跡、発掘について） | 4人 |
| 35 | 放送大学 | － | 平成17年11月20日（日） | 展示見学 | 18人 |
| 36 | 環境フェスタ | － | 平成17年11月20日（日） | 展示見学・火おこし体験 | 35人 |
| 37 | デイケアセンターれんげ荘 | － | 平成17年12月１日（木） | 展示見学 | 33人 |
| 38 | 西条市　周布小学校 | ６年生 | 平成17年12月６日（火） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（展示見学・遺跡、発掘について） | 37人 |
| 39 | 愛媛大学留学生 | － | 平成17年12月７日（水） | 展示見学 | 15人 |
| 40 | ウェルケア重信 | － | 平成17年12月９日（金） | 展示見学 | 19人 |
| 41 | デイサービス八倉医院 | － | 平成17年12月13日（火） | 展示見学 | 28人 |
| 42 | 文化財めぐり | － | 平成17年12月18日（日） | 展示見学 | 34人 |
| 43 | 愛媛大学 | － | 平成17年12月20日（火） | 展示見学 | 24人 |
| 44 | 子供チャレンジ教室 | － | 平成17年12月23日（金） | 展示見学・火おこし体験 | 52人 |
| 45 | ふくずみデイサービス | － | 平成18年１月19日（木） | 展示見学 | 7人 |

## 体験学習一覧（３）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 46 | 文化財めぐり | － | 平成18年１月20日（金） | 展示見学 | 36人 |
| 47 | ささゆり句会 | － | 平成18年１月26日（木） | 展示見学 | 10人 |
| 48 | 朝鮮学校 | 小1～中3 | 平成18年２月４日（土） | 課外授業のため（展示見学・火おこし体験） | 17人 |
| 49 | 松山市立 城西中学校 | ２年生 | 平成18年２月７日（火） | 授業「総合的な学習の時間」の一環として<br>（車イスの利用について） | 8人 |
| 50 | 第一高等学院 | － | 平成18年２月７日（火） | 高等学校の教育課程の一環として<br>（展示見学・火おこし体験・勾玉作り） | 8人 |
| 51 | デイケアセンター桃の里 | － | 平成18年２月14日（火） | 展示見学 | 24人 |
| 52 | 第一高等学院 | － | 平成18年２月22日（水） | 高等学校の教育課程の一環として<br>（展示見学・火おこし体験・勾玉作り） | 2人 |
| 53 | 都市環境センター | － | 平成18年２月26日（日） | | 44人 |
| 54 | 伊予市立 郡中小学校 | ６年生 | 平成18年３月２日（木） | 展示見学 | 157人 |
| 55 | 観月山句会 | － | 平成18年３月５日（日） | 展示見学 | 6人 |
| 56 | 松山市立　清水小学校 | ５年生 | 平成18年３月８日（水） | 展示見学・火おこし体験 | 82人 |
| 57 | 松山市立　姫山小学校 | ５年生 | 平成18年３月９日（木） | 展示見学・火おこし体験 | 114人 |
| 58 | 松山市立　砥部小学校 | 5･6年生 | 平成18年３月９日（木） | 展示見学・火おこし体験 | 123人 |
| 59 | 子供チャレンジ教室 | － | 平成18年３月11日（土） | 展示見学 | 49人 |
| 60 | 都市環境センター | － | 平成18年３月12日（日） | 展示見学 | 31人 |
| 61 | 寿楽会 | － | 平成18年３月17日（金） | 展示見学 | 40人 |
| 62 | 子供チャレンジ教室 | － | 平成18年３月21日（火） | 展示見学 | 44人 |

（9）博物館学芸員実習（写真11）

平成６年度から博物館学芸員資格の取得を希望する学生に対し、実習を実施している。当年度は、９月３～10日（屋外実習）と９月13～17日（屋内実習）の日程で、愛媛大学生８名、神戸女子大学生１名を受け入れた。展示実習（展示解説や来館者案内）、写真実習（機材の取り扱いや撮影技術）、保存処理（技術や工程）などのカリキュラムを実施した。

（10）職場体験（表６）

当センターでは、中・高校生教育の一環として実施されている「職場体験学習」を受託している。当年度は３校の生徒を受け入れ、埋蔵文化財の発掘調査業務や屋内整理業務等を体験していただいた。

表６　職場体験一覧

| No. | 学校名・学年 | 日時 | 内容 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 松山市立南第二中学校（２年生） | 平成17年10月20日(木)・21日(金)<br>９：00～15：00 | 発掘調査（来住町遺跡14次調査地）<br>特別展示準備 | １人 |
| ② | 松山市立勝山中学校（２年生） | 平成17年11月１日(火)<br>９：00～15：00 | 発掘調査（樽味四反地遺跡12次調査地） | ２人 |
| ③ | 松山北高等学校（１年生） | 平成17年11月10日(木)・17日(木)<br>13：30～15：00 | 総合的な学習の時間 | ３人<br>６人 |

（11）出前考古学教室（写真12・表７）

「総合的な学習の時間」、「選択教科社会科の授業」、「文化祭」等の利用では、各学校からの要請を受けて、学校や公民館に赴き出前考古学教室を実施した。当年度は30回実施した。

写真11　博物館学芸員実習「展示」風景

写真12　「出前考古学教室」風景

表７　出前考古学教室一覧

| No. | 学校名及び団体名 | 期間 | 内容 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 松山市立　味酒小学校 | ①平成17年５月12日（木）<br>②平成17年６月９日（木）<br>③平成17年６月16日（木）<br>④平成17年７月７日（木）<br>⑤平成17年８月２日（火）<br>⑥平成17年10月26日（水）<br>⑦平成17年11月17日（木）<br>⑧平成17年11月18日（金）<br>⑨平成17年12月12日（月） | 講義<br>講義<br>講義<br>講義<br>土器焼き<br>講義<br>講義<br>講義<br>講義 | 154人<br>154人<br>154人<br>154人<br>30人<br>154人<br>39人<br>39人<br>154人 |
| ② | 松山市立　みどり小学校 | ①平成17年５月24日（火）<br>②平成17年５月26日（木）<br>③平成18年１月12日（木）<br>④平成18年１月27日（金） | 考古学教室・火おこし体験<br>考古学教室・火おこし体験<br>土器作り<br>野焼き体験 | 74人<br>38人<br>114人<br>114人 |
| ③ | 石井公民館 | ①平成17年７月29日（金）<br>②平成17年８月19日（金）<br>③平成17年８月26日（金） | 火おこし<br>勾玉作り<br>土器作り | 34人<br>39人<br>46人 |
| ④ | 松山市立　城西中学校 | ①平成17年８月23日（火）<br>②平成17年10月26日（水）<br>③平成17年11月９日（水）<br>④平成17年12月７日（水）<br>⑤平成18年３月２日（木）<br>⑥平成18年３月８日（水） | 勾玉の鋳型と土製勾玉の焼成<br>ガラス勾玉の焼成<br>講義（勾玉の種類や歴史について）<br>滑石製勾玉・管玉・小玉の製作①<br>ガラス勾玉の焼成<br>講義 | 49人<br>49人<br>49人<br>49人<br>49人<br>49人 |
| ⑤ | 松山市立　北中学校 | 平成17年９月30日（金） | 総合的学習「ふるさと地域調べ」 | 190人 |
| ⑥ | 松山市立　桑原中学校 | 平成17年11月３日（木） | 「桑中　文化の日」参加体験活動・勾玉づくり | 31人 |
| ⑦ | 松山市立　鴨川中学校 | 平成17年11月３日（木） | 文化祭「講座別学習会」・勾玉づくり | 21人 |
| ⑧ | 松山市立　北中学校 | 平成17年11月３日（木） | 北中文化教室・勾玉づくり | 30人 |
| ⑨ | 松山市立　雄新中学校 | 平成17年11月６日（日） | 文化祭「文化教室」・勾玉づくり | 30人 |
| ⑩ | 松山市立　津田中学校 | 平成17年11月９日（水） | 文化祭「ふれあい活動」・勾玉づくり | 29人 |
| ⑪ | 松山市立　新玉小学校 | 平成17年11月15日（火） | 総合的学習・火おこし体験 | 50人 |
| ⑫ | 石井公民館 | 平成17年11月16日（水）<br>～11月21日（月） | 展示 | 一般市民対象 |

## ３．収集・保管活動

### （１）埋蔵文化財関連

当年度は、松山市教育委員会に対し１名の篤志家から考古資料の寄贈願いを受けた。現在は資料調査を進めている。

（２）大連古代ハス（写真13）

平成10年４月に松山市農業指導センターから古代ハスの株を分けていただいた。この古代ハスは、平成８年１月に中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際に、大連市観光局局長の張宏安氏から大連市で出土した１千年前のハスの種子を松山市に寄贈していただいたもので、農業指導センターが育成していたものである。当年度は、昨年度より多い40輪以上が開花した。

写真13　「大連古代ハス」開花風景

## ４．広報・出版活動（表８・９）

当センターでは、考古館主催の展示会・講演会などを開催するに先立ち、多くの観覧者を募るためにポスターやリーフレットを発刊している。また、発掘調査の成果を公開する発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより市民の方々においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで埋蔵文化財保護の普及啓発に役立つものと思われる。

表８　考古館出版物一覧

| No. | 出版物名 | 発行日 | 対象 | 版型・頁 | 部数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 発掘へんろ展　ポスター<br>〃　チラシ<br>〃　パンフレット | 平成17年４月 | 一般 | Ｂ２<br>Ａ４　２頁<br>Ａ４　８頁 | 1,300枚<br>5,000枚<br>2,000部 |
| ② | 考古学講座（１）レジュメ<br>〃　（２）　〃<br>〃　（３）　〃<br>〃　（４）　〃<br>〃　（５）　〃 | 平成17年５～７月 | 聴講者 | Ａ３　３頁<br>Ａ３　２頁<br>Ａ３　３頁<br>Ａ４　１頁<br>Ａ４・Ａ３　３頁 | 70部<br>70部<br>70部<br>70部<br>70部 |
| ③ | 発掘調査速報展　ポスター<br>〃　はがき | 平成17年７月 | 一般 | Ｂ２<br>はがき | 200枚<br>1,000枚 |
| ④ | 発掘調査報告会　レジュメ | 平成17年７月<br>〃　８月 | 聴講者 | Ａ３　７頁<br>Ａ３　12項 | 100部<br>100部 |
| ⑤ | 特別展　ポスター<br>〃　パンフレット<br>〃　チラシ | 平成17年10月 | 一般 | Ｂ２<br>Ａ４　20頁<br>Ａ４　２頁 | 500枚<br>3,000部<br>5,000枚 |
| ⑥ | 特別展　記念講演会　レジュメ<br>〃　基礎講座①　レジュメ<br>〃　〃　②　〃 | 平成17年10月<br>〃　11月<br>〃　12月 | 聴講者 | Ａ３　５頁<br>Ａ３　４頁<br>Ａ３　４頁 | 150部<br>150部<br>150部 |
| ⑦ | 遺跡めぐり　旅のしおり | 平成17年11月 | 参加者 | Ａ４　７頁 | 50部 |
| ⑧ | 大人のための体験学習セミナー<br>パンフレット | 平成17年11月<br>〃　12月 | 参加者 | Ａ４　４頁 | 40部 |
| ⑨ | 企画展　ポスター<br>〃　チラシ | 平成18年１月 | 一般 | Ｂ２<br>Ａ４　２頁 | 500枚<br>6,000枚 |
| ⑩ | 企画展　記念講演会　レジュメ<br>〃　基礎講座①　レジュメ<br>〃　〃　②　〃<br>〃　〃　③　〃 | 平成18年１月<br>〃　１月<br>〃　２月<br>〃　３月 | 聴講者 | Ａ４　10頁<br>Ａ３　２頁<br>Ａ３　１頁<br>Ａ３　２頁 | 150部<br>100部<br>100部<br>100部 |

表９　調査報告書一覧

| No. | 報告書名 | 発行日 | 対象 | 版型・頁 | 冊数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 松山市文化財調査報告書　第109集<br>『番町遺跡』 | 平成18年３月31日 | 一般 | Ａ４　206頁 | 800冊 |
| ② | 松山市文化財調査報告書　第110集<br>『大峰ヶ台遺跡Ⅲ－大峰ヶ台遺跡３次調査地<br>・南江戸客谷遺跡－』 | 平成18年３月31日 | 一般 | Ａ４　206頁 | 800冊 |
| ③ | 松山市文化財調査報告書　第112集<br>『東石井遺跡・西石井遺跡<br>－１・２・３次調査－』 | 平成18年３月31日 | 一般 | Ａ４　500頁 | 800冊 |
| ④ | 松山市文化財調査報告書　第113集<br>『東野お茶屋台遺跡６次調査地』 | 平成18年３月31日 | 一般 | Ａ４　104頁 | 800冊 |
| ⑤ | 松山市埋蔵文化財調査年報17<br>（平成16年度） | 平成17年12月28日 | 一般 | Ａ４　160頁 | 800冊 |

５．施設の利用（表10）

当センターは、考古館主催事業だけではなく、考古学関連団体主催の研究会会場としても利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。

表10　施設利用一覧

（敬称略）

| No. | 団体名・テーマ | 日時 | 会場 | 代表・発表者 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 瀬戸内海考古学研究会　第88回<br>（10周年記念講演会）<br>「愛媛県における中世海城研究の諸問題」 | 平成17年６月４日(土) | 講堂 | 代表　下條信行<br>中川和・田中謙 |
| ② | 瀬戸内海考古学研究会　第89回<br>「最近の古代山城の調査成果」 | 平成17年７月30日(土) | 講堂 | 西条市教育委員会<br>渡邊芳貴 |
| ③ | 瀬戸内海考古学研究会　第91回<br>「終末期古墳の学術調査成果～愛媛県四国中央市所在の<br>向山古墳を素材として～」 | 平成18年１月28日(土) | 講堂 | 四国中央市教育委員会<br>中　勇樹 |
| ④ | 瀬戸内海考古学研究会　第92回<br>「来住廃寺32次調査の成果と課題」 | 平成18年３月25日(土) | 講堂 | 松山市教育委員会文化財課<br>岸見泰宏 |

## 6．資料の貸出・調査（表11・12）

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業への出展や、研究者からの資料調査の要望などに応えるべく、可能な限りの資料の貸出や調査協力を行っている。

### 表11　資料貸出一覧

（敬称略）

| No. | 貸出資料名 | 点数 | 貸出・利用目的 | 貸出・利用期間 | 貸出・利用者 |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 筋違C遺跡出土 朱付着破片土器<br>松山大学構内遺跡３次調査地出土 棒状石杵<br>松山大学構内遺跡３次調査地出土 朱付着破片土器<br>宮前川遺跡出土 朱付着破片土器 | １点<br>１点<br>１点<br>１点 | 文化交流展示「海の道、アジアの路」に展示のため | 平成17年６月１日<br>～平成20年３月31日 | 九州国立博物館 |
| ② | 樽味四反地遺跡３次出土　分銅形土製品（写真） | １点 | 香川県県立文化施設共同展示「夏休み子供ミュージアム」に展示のため | 平成17年６月20日<br>～６月30日 | 香川県埋蔵文化財センター |
| ③ | 朝日谷２号墳出土　二禽二獣鏡（写真） | １点 | 「三角縁神獣鏡の研究」に掲載のため | 平成17年６月17日以降 | 研究者 |
| ④ | 宝剣日遺跡出土　有柄式磨製石剣（写真）<br>祝谷６丁目遺跡出土　イモガイ製腕輪（写真）<br>安寺裏山墓出土　大型器台（写真） | １点<br>１点<br>１点 | 「季刊考古学」に掲載のため | 平成17年６月20日<br>～７月19日 | 株式会社　雄山閣 |
| ⑤ | 文京遺跡３次調査完掘状況全景（写真） | １点 | 平成17年度愛媛大学公開講座「文京遺跡から学ぶ弥生時代のムラ」ポスター・案内に掲載のため | 平成17年７月11日以降 | 愛媛大学埋蔵文化財調査室 |
| ⑥ | 来住廃寺出土　複弁八葉蓮華文軒丸瓦<br>来住廃寺出土　素弁十弁蓮華文軒丸瓦<br>来住廃寺出土　三重孤文軒平瓦 | １点<br>１点<br>１点 | 特別展「聖徳太子と国宝法隆寺」展に展示・図録等掲載のため | 平成17年７月20日<br>～12月28日 | 愛媛県美術館他 |
| ⑦ | 釜ノ口遺跡６次調査地SB１出土 碧玉製勾玉<br>釜ノ口遺跡８次調査地SB２出土 ガラス製小玉<br>釜ノ口遺跡８次調査地SB３出土 ガラス製小玉<br>樽味高木遺跡２次調査地出土 翡翠製勾玉 ほか<br>釜ノ口遺跡６次調査地SB１出土 碧玉製勾玉(写真)<br>釜ノ口遺跡８次調査地SB２出土 ガラス製小玉(写真)<br>ほか | １点<br>16点<br>12点<br>計187点<br>１点<br>計62点 | 特別企画展「玉作と玉文化～弥生から古代へ～」に展示・図録掲載のため | 展示<br>平成17年10月５日<br>～12月６日<br>写真<br>平成17年９月20日<br>～10月21日 | 徳島市教育委員会 |
| ⑧ | 船ヶ谷遺跡２次出土　壺<br>船ヶ谷遺跡４次出土　小型器台<br>船ヶ谷遺跡４次出土　坏身<br>船ヶ谷遺跡４次出土　壺ほか | １点<br>２点<br>２点<br>計50点 | 埋蔵文化財総合活用事業「あるでないで阿波！－吉野川ソラとウミの考古学」に展示・図録掲載のため | 平成17年10月18日<br>～12月13日 | 財団法人<br>徳島県埋蔵文化財センター |
| ⑨ | 祝谷六丁場遺跡　平形銅剣出土状況（写真） | １点 | 「青銅器埋納地調査報告書Ⅱ」に掲載のため | 平成18年２月23日<br>～３月31日 | 島根県教育庁<br>古代文化センター |
| ⑩ | 市内遺跡出土　絵画土器<br>市内遺跡出土　絵画土器（写真） | 11点<br>10点 | 平成18年春季特別展「弥生画帖－弥生人が描いた世界－」に展示・刊行物・HPに掲載のため | 写真<br>平成18年３月２日<br>～４月28日<br>遺物<br>平成18年４月10日<br>～７月12日 | 大阪府<br>弥生文化博物館 |

## 表12　資料調査一覧

| No. | 調査資料名 | 点数 | 調査・利用目的 | 調査・利用期間 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 発掘へんろ展示品 | 100点 | 写真撮影 | 平成17年 4月24日 |
| ② | 来住廃寺出土　土器<br>久米高畑遺跡出土　土器 | 30点<br>20点 | 修士論文のための実測及び写真撮影 | 平成17年 5月19日<br>～5月25日 |
| ③ | 徳島県三好郡中庄東遺跡出土　『鏡像』 | 1点 | 写真撮影 | 平成17年 5月25日 |
| ④ | 松山平野の遺跡 | 1点 | 歴史研究のため写真撮影 | 平成17年 5月25日 |
| ⑤ | 考古館常設展展示品 | 30点 | 研究のため写真撮影 | 平成17年 7月16日 |
| ⑥ | 考古館常設展展示品 | 30点 | 研究のため写真撮影 | 平成17年 7月16日 |
| ⑦ | むかし・昔のまつやまを掘る展示品 | 100点 | 写真撮影 | 平成17年 7月20日 |
| ⑧ | 祝谷六丁場遺跡出土　分銅形土製品<br>祝谷アイリ遺跡出土　分銅形土製品<br>松山大学構内遺跡3次調査地出土　分銅形土製品<br>文京遺跡3次調査地出土　分銅形土製品<br>文京遺跡4次調査地出土　分銅形土製品<br>道後鷺谷遺跡出土　分銅形土製品<br>久米高畑遺跡22次調査地出土　分銅形土製品<br>福音小学校構内遺跡出土　分銅形土製品<br>来住廃寺遺跡23次調査地出土　分銅形土製品<br>来住廃寺遺跡22次調査地出土　分銅形土製品<br>樽味四反地遺跡3次調査地出土　分銅形土製品<br>久米遺跡出土　分銅形土製品 | 2点<br>1点<br>1点<br>1点<br>1点<br>1点<br>1点<br>2点<br>1点<br>1点<br>1点<br>1点 | 松山市「グラフ松山 ワクワク」掲載のため写真撮影 | 平成17年 7月22日 |
| ⑨ | 埴輪<br>古照遺跡<br>速報展　土器 | 1点<br>1点<br>2点 | 学校の宿題に活用するため写真撮影 | 平成17年 7月26日 |
| ⑩ | 古照遺跡<br>伊予のあけぼの<br>道後城北の弥生社会<br>ボックス展示<br>さまざまな農工具<br>埴輪の世界 | 1点<br>1点<br>3点<br>2点<br>2点<br>3点 | 学校の文化祭に出すため写真撮影 | 平成17年 7月27日 |
| ⑪ | 「久米評」刻書土器<br>来住廃寺出土　瓦 | 1点<br>8点 | 研究のため実測 | 平成17年 8月12日 |
| ⑫ | 大渕遺跡出土　土器 | 38点 | 調査報告書作成のため実測 | 平成17年 8月25日 |
| ⑬ | 古照遺跡<br>大陸文化の伝播<br>松山平野の弥生時代<br>箱式石棺<br>古墳の出現 | 2点<br>1点<br>2点<br>2点<br>2点 | 大学の課題・実習先の博物館 のパンフレット作成のため写真撮影 | 平成17年 9月17日 |
| ⑭ | 特別展「祈り」展示品 | 100点 | 写真撮影 | 平成17年10月30日 |
| ⑮ | 特別展「祈り」展示品<br>分銅形土製品等 | 31点 | 研究のため写真撮影 | 平成17年12月10日 |
| ⑯ | 特別展「祈り」展示品<br>分銅形土製品等 | 2点 | 学習・研究のため写真撮影 | 平成17年12月11日 |
| ⑰ | 企画展「食と器のものがたり」展示品 | 100点 | 写真撮影 | 平成18年 1月29日 |

## 7．職員研修・会議（表13）

当センターでは、独立行政法人奈良文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修や会議に参加している。こうした研修や会議には、積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

**表13　職員研修・会議一覧**

| No. | 研修・会議名 | 日時 | 開催地 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 第26回全国埋蔵文化財法人連絡協議会 | 平成17年６月８日(水)～10日(金) | 富山県 | １名 |
| ② | 平成17年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会<br>コンピュータ等研究委員会<br>中国・四国・九州ブロック地区委員会 | 平成17年９月１日(木)～２日(金) | 徳島県 | １名 |
| ③ | 平成17年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会<br>中国・四国・九州ブロック会議 | 平成17年９月29日(木)～30日(金) | 徳島県 | ３名 |
| ④ | 平成17年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会<br>研修会 | 平成17年10月20日(木)～21日(金) | 北九州市 | ２名 |
| ⑤ | 平成17年度第２回埋蔵文化財担当者等<br>講習会 | 平成18年１月12日(木)～13日(金) | 滋賀県 | １名 |

## 8．その他（表14）

**表14　平成17年度　考古館月別入館者数調（平成17年４月１日～18年３月31日）**　　（単位：人）

| 月 | 開館日数 | 常設展示室 | | | | | | | | 特別展示室 | 展示室延入場者数 | 入館者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 有料入館者 | | | | 無料入館者 | | | | | | |
| | | 一般 | 高齢者 | 団体各種割引 | 小計 | 高校生以下 | 身障者 | その他 | 小計 | | | |
| 4 | 25　日 | 162 | 49 | 22 | 233 | 209 | 17 | 24 | 250 | 178 | 661 | 607 |
| 5 | 25　日 | 226 | 15 | 0 | 241 | 761 | 10 | 21 | 792 | 1,183 | 2,216 | 867 |
| 6 | 26　日 | 200 | 90 | 22 | 312 | 258 | 5 | 165 | 428 | 929 | 1,669 | 1,415 |
| 7 | 27　日 | 167 | 36 | 132 | 335 | 114 | 4 | 41 | 159 | 551 | 1,045 | 839 |
| 8 | 27　日 | 203 | 78 | 50 | 331 | 125 | 8 | 0 | 133 | 632 | 1,096 | 487 |
| 9 | 25　日 | 84 | 24 | 15 | 123 | 70 | 4 | 0 | 74 | － | 197 | 368 |
| 10 | 27　日 | 145 | 24 | 8 | 177 | 193 | 2 | 654 | 849 | － | 1,026 | 763 |
| | 特　8　日 | 116 | 11 | 0 | 127 | 27 | 0 | 647 | 674 | － | 801 | － |
| 11 | 24　日 | 175 | 51 | 0 | 226 | 128 | 6 | 1 | 135 | － | 361 | 720 |
| | 特　24　日 | 301 | 61 | 0 | 362 | 125 | 6 | 120 | 251 | － | 613 | － |
| 12 | 23　日 | 107 | 62 | 66 | 235 | 75 | 3 | 2 | 80 | － | 315 | 621 |
| | 特　10　日 | 117 | 34 | 0 | 151 | 46 | 3 | 99 | 148 | － | 299 | － |
| 1 | 23　日 | 91 | 49 | 1 | 141 | 23 | 3 | 0 | 26 | 261 | 428 | 454 |
| 2 | 24　日 | 109 | 24 | 11 | 144 | 76 | 4 | 7 | 87 | 412 | 643 | 505 |
| 3 | 26　日 | 161 | 23 | 0 | 184 | 555 | 2 | 19 | 576 | 924 | 1,684 | 1,261 |
| 計 | 302 | 2,364 | 631 | 327 | 3,322 | 2,785 | 77 | 1,800 | 4,662 | 5,070 | 13,054 | 8,907 |

＊「特」は特別展のこと

# 松山市埋蔵文化財調査年報　18

平成18年10月31日　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790-0003　愛媛県松山市三番町６丁目６-１
TEL(089)９４８-６６０５

財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032　愛媛県松山市南斎院町乙67番地6
TEL(089)９２３-６３６３
FAX(089)９２５-０２６０

印刷　明星印刷工業株式会社
〒790-0056　愛媛県松山市土居田町500番地
TEL(089)９７１-７１１１